

SQL Anywhere
文書バージョン: 17 – 2016-05-11

SQL Anywhere - コンテキスト別ヘルプ

目次

1	SQL Anywhere - コンテキスト別ヘルプ	11
1.1	接続ウィンドウのヘルプ.....	12
	接続ウィンドウ: ODBC データソースを使用した接続.....	13
	接続ウィンドウ: このコンピュータで稼動しているデータベースに接続.....	14
	接続ウィンドウ: 別のコンピュータで稼動しているデータベースに接続.....	16
	接続ウィンドウ: クラウドで稼動しているデータベースに接続.....	17
	接続ウィンドウ: このコンピュータのデータベースを起動して接続.....	19
	接続ウィンドウ: 別のコンピュータのデータベースを起動して接続.....	21
	接続ウィンドウ: 接続文字列を使用して接続.....	23
	接続ウィンドウ: SQL Anywhere データベースに接続: ネットワークタブ.....	24
	接続ウィンドウ: SQL Anywhere データベース接続ウィンドウ: セキュリティタブ.....	24
	接続ウィンドウ: SQL Anywhere データベースに接続: 詳細オプションタブ.....	25
	接続ウィンドウ: 汎用 ODBC データベースに接続.....	25
	接続ウィンドウ: 汎用 ODBC データベースに接続: 詳細オプションタブ.....	26
	接続ウィンドウ: Ultra Light データベースに接続.....	26
	接続ウィンドウ: Ultra Light データベースに接続詳細オプションタブ.....	27
	接続ウィンドウ: 実行中の SAP HANA サーバに接続.....	28
	接続ウィンドウ: ODBC データソースを使用して SAP HANA データベースに接続.....	29
	接続ウィンドウ: SAP HANA データベースへの接続: 詳細オプションタブ.....	30
1.2	SQL Anywhere の ODBC 設定ウィンドウ: ODBC タブ.....	30
1.3	SQL Anywhere の ODBC 設定ウィンドウ: ログインタブ.....	32
1.4	SQL Anywhere の ODBC 設定/DBMLSync 設定ウィンドウ: ネットワークタブ.....	36
1.5	SQL Anywhere の ODBC 設定/DBMLSync 設定ウィンドウ: 詳細タブ.....	36
1.6	SQL Anywhere の DBMLSync 設定ウィンドウ: DBMLSync タブ.....	36
1.7	Oracle 用 SQL Anywhere ドライバの設定ウィンドウ.....	37
1.8	SQL Central コンテキスト別ヘルプ.....	38
	接続プロファイルウィンドウ.....	39
	切断ウィンドウ.....	40
	フィルタウィンドウ.....	40
	検索ウィンドウ.....	41
	Import Connection Profile File ウィンドウ.....	42
	ログビューアウィンドウ.....	42
	新しい接続プロファイルウィンドウ.....	42
	オプションウィンドウ.....	43

	プラグインのプロパティウィンドウ	43
	プラグインの登録ウィザード	44
	検索ウィンドウ枠	45
	SQL Central プラグインウィンドウ	46
1.9	SQL Anywhere プラグインのヘルプ	47
	サービスの依存の追加ウィンドウ	58
	サービスグループの依存の追加ウィンドウ	58
	トレーシングレベルの追加ウィンドウ	58
	アートのプロパティウィンドウ: 一般タブ	59
	アートのプロパティウィンドウ: カラムタブ	59
	アートのプロパティウィンドウ: WHERE 句タブ	59
	アートのプロパティウィンドウ: SUBSCRIBE BY 制限タブ	60
	証明書のプロパティウィンドウ: 一般タブ	60
	証明書のプロパティウィンドウ: 属性タブ	60
	証明書の更新ウィンドウ	60
	設定の変更ウィンドウ	60
	トレーシングレベルの変更ウィンドウ	62
	ユーザを統合ユーザに変更ウィンドウ	62
	リモートユーザに変更ウィンドウ	63
	検査制約のプロパティウィンドウ: 一般タブ	63
	検査制約のプロパティウィンドウ: 定義タブ	64
	カラムのプロパティウィンドウ: 一般タブ	64
	カラムのプロパティウィンドウ: データ型タブ	64
	カラムのプロパティウィンドウ: 値タブ	65
	カラムのプロパティウィンドウ: 制約タブ	66
	カラムのプロパティウィンドウ (ビュー): 一般タブ	66
	互換ロールのプロパティウィンドウ	67
	タイプフィルタの設定ウィンドウ	67
	所有者フィルタの設定ウィンドウ	67
	(ブロックされた) 接続の詳細ウィンドウ	67
	接続プロパティウィンドウ: 一般タブ	68
	接続プロパティウィンドウ: 詳細情報タブ	69
	統合ユーザのオプションウィンドウ	69
	統合ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ	70
	統合ユーザのプロパティウィンドウ: 権限タブ	71
	統合ユーザのプロパティウィンドウ: SQL Remote タブ	71
	トリガ条件の作成ウィンドウ	72
	データベースオプションウィンドウ	72
	データベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ	73

データベースのプロパティウィンドウ: 設定タブ	74
データベースのプロパティウィンドウ: 詳細情報タブ	76
データベースのプロパティウィンドウ: SQL Remote タブ	76
データベースのプロパティウィンドウ: プロファイリング設定タブ	77
DB 領域のプロパティウィンドウ: 一般タブ	78
ディレクトリアクセスサーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ	78
ドメインのプロパティウィンドウ: 一般タブ	79
ドメインのプロパティウィンドウ: 検査制約タブ	79
トリガ条件の編集ウィンドウ	79
イベントのプロパティウィンドウ: 一般タブ	80
イベントのプロパティウィンドウ: 条件タブ	81
外部環境のプロパティウィンドウ: 一般タブ	81
外部環境オブジェクトのプロパティウィンドウ: 一般タブ	82
外部ログインのプロパティウィンドウ: 一般タブ	82
外部キーのプロパティウィンドウ: 一般タブ	82
外部キーのプロパティウィンドウ: カラムタブ	84
ファンクションのプロパティウィンドウ: 一般タブ	84
ファンクションのプロパティウィンドウ: パラメータタブ	85
グラフィカルなプランウィンドウ	85
グループのオプションウィンドウ	85
グループのプロパティウィンドウ: 一般タブ	86
グループのプロパティウィンドウ: 権限タブ	87
インデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ	88
インデックスのプロパティウィンドウ: カラムタブ	89
JAR ファイルのプロパティウィンドウ: 一般タブ	89
Java クラスのプロパティウィンドウ: 一般タブ	90
LDAP サーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ	90
LDAP サーバのプロパティウィンドウ: 設定タブ	90
LDAP サーバへの接続テストウィンドウ	91
Listener Properties ウィンドウ: 一般タブ	92
ログインマッピングのプロパティウィンドウ: 一般タブ	92
ログインポリシーのプロパティウィンドウ: 一般タブ	92
ログインポリシーのプロパティウィンドウ: オプションタブ	92
ログインポリシーのプロパティウィンドウ: ユーザタブ	92
マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: 一般タブ	92
マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: カラムタブ	94
マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: オプションタブ	94
マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: その他タブ	95
メンテナンスプランレポートのプロパティウィンドウ: 一般タブ	95

メッセージタイプのプロパティウィンドウ: 一般タブ	96
メッセージタイプのプロパティウィンドウ: SQL Remote ユーザタブ	96
互換ロールの移行ウィンドウ	97
Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ	97
Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウ: 接続タブ	97
Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウ: 拡張オプションタブ	99
ミュージックおよびセマフォのプロパティウィンドウ: 一般タブ	99
ミュージックおよびセマフォのプロパティ: 接続タブ	101
新しいメンバーウィンドウ	101
新しいメンバーシップウィンドウ	101
ODATA プロデューサのプロパティウィンドウ: 一般タブ	101
ODATA プロデューサのプロパティウィンドウ: [オプション] タブ	101
ODATA プロデューサのプロパティウィンドウ: Service Model タブ	101
ODATA プロデューサのサービスモデルの更新ウィンドウ	101
オプションウィンドウ	102
compatibility-role-name のオプション	102
system-privilege のオプション	102
パラメータのプロパティウィンドウ: 一般タブ	103
プラグインの環境設定ウィンドウ: 一般タブ	104
プラグインの環境設定ウィンドウ: ユーティリティタブ	106
プラグインの環境設定ウィンドウ: テーブルデータタブ	108
プラグインの環境設定ウィンドウ: 自動更新タブ	108
DB 領域の事前割り付けウィンドウ	108
プライマリーのプロパティウィンドウ: 一般タブ	109
プライマリーのプロパティウィンドウ: カラムタブ	109
プロシージャのプロパティウィンドウ: 一般タブ	109
プロシージャのプロパティウィンドウ: パラメータタブ	109
プロキシテーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ	109
プロキシテーブルのプロパティウィンドウ: カラムタブ	110
プロキシテーブルのプロパティウィンドウ: その他タブ	110
パブリケーションのプロパティウィンドウ: 一般タブ	110
パブリケーションのプロパティウィンドウ: テーブルタブ	111
パブリケーションのプロパティウィンドウ: カラムタブ	111
パブリケーションのプロパティウィンドウ: WHERE 句タブ	111
パブリケーションのプロパティウィンドウ: SUBSCRIBE BY 制限タブ	112
パブリケーションのプロパティウィンドウ: アップロードプロシージャタブ	112
パブリケーションのプロパティウィンドウ: 接続タブ	113
パブリケーションのプロパティウィンドウ: 拡張オプションタブ	115
パブリッシャのオプションウィンドウ	116

パブリッシャのプロパティウィンドウ: 一般タブ	116
パブリッシャのプロパティウィンドウ: 権限タブ	117
クエリ書き換え最適化履歴ウィンドウ	118
データの再表示ウィンドウ	118
リモートプロシージャのプロパティウィンドウ: 一般タブ	119
リモートプロシージャのプロパティウィンドウ: パラメータタブ	120
リモートサーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ	120
リモートユーザのオプションウィンドウ	121
リモートユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ	122
リモートユーザのプロパティウィンドウ: 権限タブ	123
リモートユーザのプロパティウィンドウ: <i>SQL Remote</i> タブ	123
ロールのオプションウィンドウ	124
ロールのプロパティウィンドウ	125
スケジュールのプロパティウィンドウ: 一般タブ	125
スケジュールのプロパティウィンドウ: 再帰タブ	126
シーケンスジェネレータのプロパティウィンドウ: 一般タブ	126
サーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ	127
サーバのプロパティウィンドウ: 詳細情報タブ	127
サーバのプロパティウィンドウ: オプションタブ	127
サーバのプロパティウィンドウ: 要求ロギングタブ	128
サービスのプロパティウィンドウ: 一般タブ	129
サービスのプロパティウィンドウ: 設定タブ	131
サービスのプロパティウィンドウ: アカウントタブ	131
サービスのプロパティウィンドウ: 依存性タブ	132
統合ユーザの設定ウィンドウ	133
クラスターインデックスの設定ウィンドウ	133
パブリッシャの設定ウィンドウ	133
サービスグループの設定ウィンドウ	133
空間参照系のプロパティウィンドウ: 一般タブ	134
空間参照系のプロパティウィンドウ: 設定タブ	134
空間参照系のプロパティウィンドウ: 座標系タブ	135
空間参照系のプロパティウィンドウ: 変換定義タブ	137
<i>SQL Remote</i> サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 一般タブ	137
<i>SQL Remote</i> サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 詳細タブ	138
<i>SQL</i> 文の詳細ウィンドウ	138
データベースの開始ウィンドウ	140
同期プロファイルを使用して同期ウィンドウ	140
同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 一般	141
同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 基本 <i>Dbmlsync</i> タブ	141

同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 詳細 <i>Dbmlsync</i>	142
同期プロファイルのプロパティウィンドウ: その他の <i>Dbmlsync</i>	144
同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 接続	145
同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 拡張オプション	146
同期サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 一般タブ	148
同期サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 接続タブ	148
同期サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 拡張オプションタブ	151
システム権限のプロパティウィンドウ: 一般タブ	151
システムロールのプロパティウィンドウ: 一般タブ	151
システムロールのオプションウィンドウ	152
システムトリガのプロパティウィンドウ: 一般タブ	153
テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ	153
テーブルのプロパティウィンドウ: カラムタブ	154
テーブルのプロパティウィンドウ: その他タブ	154
所有者を変更ウィンドウ	155
テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: 一般タブ	155
テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: 設定タブ	155
テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: ストップリストタブ	156
テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: オプション	156
テキストインデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ	157
テキストインデックスのプロパティウィンドウ: カラムタブ	158
データの再表示 (テキストインデックス)ウィンドウ	158
<i>Time Zone Properties</i> ウィンドウ: 一般タブ	159
<i>Time Zone Properties</i> ウィンドウ: <i>Daylight Savings Time</i> タブ	159
イベントのトリガウィンドウ	159
トリガのプロパティウィンドウ: 一般タブ	159
一意性制約のプロパティウィンドウ: 一般タブ	160
一意性制約のプロパティウィンドウ: カラムタブ	160
測定単位プロパティウィンドウ一般タブ	161
データのアンロードウィンドウ	161
外部環境オブジェクトの更新ウィンドウ	162
JAR ファイルの更新ウィンドウ	162
Java クラスの更新ウィンドウ	162
ユーザのオプションウィンドウ	163
ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ	163
ユーザのプロパティウィンドウ: 権限タブ	164
ユーザ拡張ロールのプロパティウィンドウ: 一般タブ	165
ユーザ拡張ロールのオプションウィンドウ	166
ビューのプロパティウィンドウ: 一般タブ	167

	ビューのプロパティウィンドウ: カラムタブ	168
	変数のプロパティウィンドウ: 一般タブ	168
	変数のプロパティウィンドウ: データ型タブ	168
	変数のプロパティウィンドウ: 値タブ	168
	Web サービスのプロパティウィンドウ: 一般タブ	168
	Web サービスのプロパティウィンドウ: SQL 文タブ	170
	Windows Mobile の SQL Remote 用メッセージタイプウィンドウ	171
	デバッグのヘルプ	173
	インデックスコンサルタント	176
	Ultra Light プロジェクト	176
	Ultra Light 文	176
	パブリケーション	177
	アーティクル	177
	サブスクリプション	177
	インデックスフォルダ	177
	テーブルの編集の取り消し	178
	QAnywhere	179
1.10	Mobile Link プラグインのヘルプ	179
	<i>MobiLink properties</i> ウィンドウ	180
	<i>Mobile Link</i> サーバログファイルビューアウィンドウ	204
	<i>Mobile Link</i> 同期モデルウィザード	208
	新しいテーブルマッピングの作成ウィンドウ	220
	マッピングタブ	221
	イベントタブ	229
	通知タブ	230
1.11	Ultra Light プラグインのプロパティウィンドウ	232
	アーティクルのプロパティウィンドウ: 一般タブ	234
	アーティクルのプロパティウィンドウ: <i>WHERE</i> 句タブ	234
	カラムのプロパティウィンドウ: 一般タブ	234
	カラムのプロパティウィンドウ: データ型タブ	234
	カラムのプロパティウィンドウ: 値タブ	235
	データベースオプションウィンドウ	235
	データベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ	236
	データベースのプロパティウィンドウ: 同期情報タブ (Ultra Light)	236
	外部キーのプロパティウィンドウ: 一般タブ	237
	外部キーのプロパティウィンドウ: カラムタブ	238
	インデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ	238
	インデックスのプロパティウィンドウ: カラムタブ	238
	プラグインの環境設定ウィンドウ: 一般タブ	238

	プラグインの環境設定ウィンドウ: ユーティリティタブ	239
	プラグインの環境設定ウィンドウ: テーブルデータタブ	240
	プライマリキーのプロパティウィンドウまたは一意性制約のプロパティウィンドウ: 一般タブ	240
	プライマリキーのプロパティウィンドウ: カラムタブまたは一意性制約のプロパティウィンドウ: カラムタブ	241
	パブリケーションのプロパティウィンドウ: 一般タブ	241
	パブリケーションのプロパティウィンドウ: アーティクルタブ	241
	同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 一般タブ	242
	同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 接続タブ	243
	テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ	246
	テーブルのプロパティウィンドウ: カラムタブ	247
	ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ	247
1.12	Mobile Link プロファイラのヘルプ	247
	Mobile Link サーバへの接続ウィンドウ	249
	ウォッチの編集ウィンドウ	251
	移動ウィンドウ	252
	新しいウォッチウィンドウ	252
	Mobile Link プロファイラセッションを開くウィンドウ	253
	オプションウィンドウ: 一般タブ	253
	オプションウィンドウ: テーブルタブ	254
	オプションウィンドウ: グラフタブ	254
	オプションウィンドウ: チャートのレイアウトタブ	255
	オプションウィンドウ: チャートの色タブ	256
	オプションウィンドウ: 概要タブ	257
	サンプルのプロパティウィンドウ: 一般タブ	258
	サンプルのプロパティウィンドウ: フェーズタブ	259
	サンプルのプロパティウィンドウ: イベントタブ	259
	サンプル範囲のプロパティウィンドウ: 一般タブ	260
	サンプル範囲のプロパティウィンドウ: フェーズタブ	261
	サンプル範囲のプロパティウィンドウ: イベントタブ	261
	セッションのプロパティウィンドウ: 一般タブ	262
	同期のプロパティウィンドウ: 一般タブ	263
	同期のプロパティウィンドウ: アップロードタブ	264
	同期のプロパティウィンドウ: ダウンロードタブ	265
	同期のプロパティウィンドウ: 同期タブ	265
	同期のプロパティウィンドウ: イベントタブ	266
	同期のプロパティウィンドウ: ブロックタブ	266
	ウォッチマネージャウィンドウ	267
1.13	Interactive SQL のヘルプ	268

	プロシージャ名のルックアップウィンドウ	269
	テーブル名のルックアップウィンドウ	270
	オプションウィンドウ: 一般タブ	271
	オプションウィンドウ: 履歴タブ	272
	オプションウィンドウ: インポート/エクスポートタブ	273
	オプションウィンドウ: メッセージタブ	274
	オプションウィンドウ: ソース制御タブ	274
	オプションウィンドウ: ツールバータブ	275
	オプションウィンドウ: 互換性タブ	275
	オプションウィンドウ: エディタタブ	275
	オプションウィンドウ: データベースタブ	279
	オプションウィンドウ: サポートタブ	282
	お気に入りに追加ウィンドウ	283
	お気に入りの整理ウィンドウ	283
	SQL 文の編集ウィンドウ	284
	お気に入りの移動ウィンドウ	284
	Folder 'foldername' がすでに存在します/お気に入り 'favoritename' がすでに存在しますウィンドウ	284
	プランビューアウィンドウ	285
	空間ビューアウィンドウ	285
1.14	クエリエディタのヘルプ	286
	テーブルタブ	287
	ジョインタブ	288
	カラムタブ	289
	INTO タブ	290
	WHERE タブ	291
	GROUP BY タブ	292
	HAVING タブ	293
	ORDER BY タブ	293
1.15	このマニュアルの印刷、再生、および再配布	294

1 SQL Anywhere - コンテキスト別ヘルプ

このマニュアルには、接続ウィンドウ、クエリエディタ、Mobile Link プロファイラ、SQL Anywhere コンソールユーティリティ、インデックスコンサルタント、Interactive SQL のコンテキスト別ヘルプが収録されています。また、SQL Central の SQL Anywhere、Mobile Link、Ultra Light の各プラグインで使用できるすべてのプロパティウィンドウのコンテキスト別ヘルプも含まれます。

このセクションの内容:

[接続ウィンドウのヘルプ \[12 ページ\]](#)

接続ウィンドウは SQL Central と Interactive SQL によって使用されます。

[SQL Anywhere の ODBC 設定ウィンドウ: ODBC タブ \[30 ページ\]](#)

このタブは、ODBC データソースを作成または変更するときのみ表示されます。

[SQL Anywhere の ODBC 設定ウィンドウ: ログインタブ \[32 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[SQL Anywhere の ODBC 設定/DBMSync 設定ウィンドウ: ネットワークタブ \[36 ページ\]](#)

次のトランスポートレイヤセキュリティオプションのいずれかを選択します。*NONE*、*SIMPLE*、または *TLS*

[SQL Anywhere の ODBC 設定/DBMSync 設定ウィンドウ: 詳細タブ \[36 ページ\]](#)

接続パラメータの値を指定します。

[SQL Anywhere の DBMSync 設定ウィンドウ: DBMSync タブ \[36 ページ\]](#)

このタブでは、dbmsync SQL Anywhere クライアント同期ユーティリティに関するオプションを指定します。

[Oracle 用 SQL Anywhere ドライバの設定ウィンドウ \[37 ページ\]](#)

このウィンドウでは、*SQL Anywhere 17 - Oracle* と呼ばれる Oracle 用の ODBC ドライバの設定を行うことができます。

[SQL Central コンテキスト別ヘルプ \[38 ページ\]](#)

SQL Central では、データベースを管理できます。

[SQL Anywhere プラグインのヘルプ \[47 ページ\]](#)

SQL Anywhere プラグインのヘルプを受け取るには複数の方法があります。

[Mobile Link プラグインのヘルプ \[179 ページ\]](#)

SQL Central の Mobile Link 17 プラグインを使用すると、通常は、プログラムで、またはシステムプロシージャや SQL 文を使用して行う作業をグラフィカルインターフェースで行うことができます。SQL Central には、オブジェクトのプロパティを設定するためのプロパティウィンドウ、また段階を踏んで一般的な管理タスクを実行できるウィザードがあります。

[Ultra Light プラグインのプロパティウィンドウ \[232 ページ\]](#)

Ultra Light プラグインには、オブジェクトのプロパティを設定するためのウィンドウが各種用意されています。

[Mobile Link プロファイラのヘルプ \[247 ページ\]](#)

Mobile Link プロファイラは、同期のパフォーマンスに関する詳細情報を提供する Mobile Link 管理ツールです。このツールを使用することにより、ボトルネックを分析し、パフォーマンスを最大限に高めることができます。

[Interactive SQL のヘルプ \[268 ページ\]](#)

Interactive SQL は、SQL 文の実行、SQL スクリプトファイルの実行のためのツールです。

[クエリエディタのヘルプ \[286 ページ\]](#)

クエリエディタは、SELECT 文の構築を支援する Interactive SQL のツールです。クエリエディタで SQL クエリを作成したり、それらの SQL クエリをインポートして編集したりできます。

[このマニュアルの印刷、再生、および再配布 \[294 ページ\]](#)

次の条件に従うかぎり、このマニュアルの全部または一部を使用、印刷、再生、配布することができます。

1.1 接続ウィンドウのヘルプ

接続ウィンドウは SQL Central と Interactive SQL によって使用されます。

このウィンドウでの設定は、SQL Central または Interactive SQL の現在のセッションの間だけ保持されます。SQL Central の接続設定は接続プロファイルを使用して保存できます。

このセクションの内容:

[接続ウィンドウ: ODBC データソースを使用した接続 \[13 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: このコンピュータで稼働しているデータベースに接続 \[14 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: 別のコンピュータで稼働しているデータベースに接続 \[16 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: クラウドで稼働しているデータベースに接続 \[17 ページ\]](#)

SQL Anywhere on-demand edition を使用して作成されたクラウド環境で稼働しているデータベースに接続するには、このウィンドウを使用します。

[接続ウィンドウ: このコンピュータのデータベースを起動して接続 \[19 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: 別のコンピュータのデータベースを起動して接続 \[21 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: 接続文字列を使用して接続 \[23 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: SQL Anywhere データベースに接続: ネットワークタブ \[24 ページ\]](#)

TCP/IP プロトコルオプションを指定するには、このタブを使用します。

[接続ウィンドウ: SQL Anywhere データベース接続ウィンドウ: セキュリティタブ \[24 ページ\]](#)

デフォルトでは、データベースサーバとそのクライアント間で送信される通信パケットは暗号化されないため、潜在的なセキュリティリスクが生じます。ネットワークパケットのセキュリティに懸念がある場合は、このタブを使用して、クライアント通信の暗号化を設定します。

[接続ウィンドウ: SQL Anywhere データベースに接続: 詳細オプションタブ \[25 ページ\]](#)

高度な接続パラメータを設定するには、このタブを使用します。

[接続ウィンドウ: 汎用 ODBC データベースに接続 \[25 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: 汎用 ODBC データベースに接続: 詳細オプションタブ \[26 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: Ultra Light データベースに接続 \[26 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: Ultra Light データベースに接続詳細オプションタブ \[27 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: 実行中の SAP HANA サーバに接続 \[28 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: ODBC データソースを使用して SAP HANA データベースに接続 \[29 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[接続ウィンドウ: SAP HANA データベースへの接続: 詳細オプションタブ \[30 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

1.1.1 接続ウィンドウ: ODBC データソースを使用した接続

このウィンドウには次の項目があります。

データベースタイプを変更

別の接続先のデータベースタイプが存在する場合は、クリックして選択します。

認証

データベースを選択し、接続に必要なユーザ ID とパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

または、[Windows 統合化ログイン](#)を選択し、Microsoft Windows 上の統合化ログインを使用してデータベースに接続します。このオプションを選択すると、Windows のユーザ ID とパスワードが統合化ログインのメカニズムに渡されます。

アクション

ODBC データソースを使用してデータベースに接続する場合は、アクション [ODBC データソースを使用した接続](#)を使用します。

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

ODBC データソース名

このオプションを選択し、ODBC データソース名を入力して、データベースに接続します。Windows の場合、データソースのリストを表示するには、[参照](#)をクリックします。

このフィールドは DSN 接続パラメータに相当し、レジストリ内のデータソースを参照しています。

ODBC データソースアドミニストレータを開くボタン

ODBC データソースアドミニストレータを開く ボタンをクリックして、*ODBC データソースアドミニストレータ* ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、利用できるデータソースのリストからの ODBC データソースの選択、新しいデータソースの作成、または接続に使用する既存のデータソースの設定を行うことができます。

ODBC データソースファイル

このオプションを選択し、接続するための ODBC データソースファイル名を入力します。

ODBC データソースファイルは、UNIX システムでよく使用されます。ファイルデータソースは、レジストリに保管される ODBC データソースと同じ情報を持ちます。

➔ ヒント

ユーザ ID またはパスワードなど、**接続** ウィンドウに入力するすべての情報は、ODBC データソースまたは ODBC データソースファイルに格納されているパラメータの代わりに使用されます。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。このツールは SQL Anywhere、SAP IQ、または SAP HANA データベースに接続する場合にのみ使用できます。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

詳細

必要に応じて詳細をクリックし、TCP/IP や暗号化、その他の詳細な接続オプションを指定できます。

1.1.2 接続ウィンドウ: このコンピュータで稼働しているデータベースに接続

このウィンドウには次の項目があります。

データベースタイプを変更

別の接続先のデータベースタイプが存在する場合は、クリックして選択します。

認証

データベースを選択し、接続に必要なユーザ ID とパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

または、[Windows 統合化ログイン](#)を選択し、Microsoft Windows 上の統合化ログインを使用してデータベースに接続します。このオプションを選択すると、Windows のユーザ ID とパスワードが統合化ログインのメカニズムに渡されます。

アクション

コンピュータ上ですでに実行されているデータベースに接続するには、アクション [このコンピュータで稼働しているデータベースに接続](#)を使用します。

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

サーバ名

パーソナルデータベースサーバまたはネットワークデータベースサーバの名前を入力します。たとえば、[demo17](#) のように記述します。また、最近使用したデータベースサーバ名をドロップダウンリストから選択することもできます。

ネットワークサーバに接続する場合は、データベースサーバ名を指定してください。デフォルトのパーソナルサーバに接続している場合は、データベースサーバ名を省略できます。

データベース名

接続するデータベースの名前を入力します。たとえば、[demo.db](#) のように指定します。データベースサーバで実行している各データベースは、データベース名によって識別されます。また、最近使用したデータベース名をドロップダウンリストから選択することもできます。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。このツールは SQL Anywhere、SAP IQ、または SAP HANA データベースに接続する場合にのみ使用できます。

[詳細の表示](#)をクリックすると、接続パラメータを使用してデータベースサーバを検索する方法についてのデバッグ情報が表示されます。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

詳細

必要に応じて詳細をクリックし、TCP/IP や暗号化、その他の詳細な接続オプションを指定できます。

1.1.3 接続ウィンドウ: 別のコンピュータで稼働しているデータベースに接続

このウィンドウには次の項目があります。

データベースタイプを変更

別の接続先のデータベースタイプが存在する場合は、クリックして選択します。

認証

データベースを選択し、接続に必要なユーザ ID とパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

または、[Windows 統合化ログイン](#)を選択し、Microsoft Windows 上の統合化ログインを使用してデータベースに接続します。このオプションを選択すると、Windows のユーザ ID とパスワードが統合化ログインのメカニズムに渡されます。

アクション

別のコンピュータ上ですでに実行されているデータベースに接続するには、アクション [別のコンピュータで稼働しているデータベースに接続](#)を使用します。

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

ホスト

データベースサーバが実行されているコンピュータ名を指定します。また、[最近](#)をクリックして、最近使用されたホストとポートの組み合わせを選択することもできます。

Ping

クリックすると、指定されたホスト名のコンピュータがネットワーク内で見つかるかどうかをテストします。

ポート

データベースサーバがデフォルトポート 2638 を使用していない場合、使用しているポートを指定します。また、[最近](#)をクリックして、最近使用されたホストとポートの組み合わせをドロップダウンリストから選択することもできます。

サーバ名

ネットワークデータベースサーバの名前を入力します。たとえば、[demo17](#) のように記述します。ネットワークサーバに接続する場合は、データベースサーバ名を指定してください。

最近使用したデータベースサーバ名をドロップダウンリストから選択するか、[検索](#)をクリックしてサーバを検索できます。

検索

[検索](#)をクリックすると、実行中のローカルパーソナルサーバとネットワークサーバのリストが表示されます。このウィンドウからデータベースサーバを選択するには、リストからデータベースサーバを選択して [OK](#) をクリックします。データベースサーバ名が [サーバ名](#) フィールドに表示されます。

データベース名

接続するデータベースの名前を入力するか、または最近使用したデータベース名をドロップダウンリストから選択します。

データベース名が必要になるのは、データベースサーバで複数のデータベースを実行している場合のみです。データベースサーバで実行している各データベースは、データベース名によって識別されます。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。このツールは SQL Anywhere、SAP IQ、または SAP HANA データベースに接続する場合にのみ使用できます。

[詳細の表示](#)をクリックすると、接続パラメータを使用してデータベースサーバを検索する方法についてのデバッグ情報が表示されます。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

詳細

必要に応じて詳細をクリックし、TCP/IP や暗号化、その他の詳細な接続オプションを指定できます。

1.1.4 接続ウィンドウ: クラウドで稼動しているデータベースに接続

SQL Anywhere on-demand edition を使用して作成されたクラウド環境で稼動しているデータベースに接続するには、このウィンドウを使用します。

データベースタイプを変更

存在する場合は、クリックして SQL Anywhere データベースへの接続を選択します。

認証

[データベース](#)を選択し、接続に必要なユーザ ID とパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

または、[Windows 統合化ログイン](#)を選択し、Microsoft Windows 上の統合化ログインを使用してデータベースに接続します。このオプションを選択すると、Windows のユーザ ID とパスワードが統合化ログインのメカニズムに渡されます。

アクション

すでにクラウド設定で稼働しているデータベースに接続する場合は、[クラウドで稼働しているデータベースに接続](#)というアクションを使用します。

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

ホスト

クラウド内の任意のデータベースに対するコンピュータ名を指定します。

Ping

クリックすると、指定されたホスト名のコンピュータがネットワーク内で見つかるかどうかをテストします。

ポート

指定したホストに対応するポート番号を指定します。

データベース名

接続先のデータベースの名前を入力します。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。

[詳細の表示](#)をクリックすると、接続パラメータを使用してデータベースサーバを検索する方法についてのデバッグ情報が表示されます。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

詳細

必要に応じて[詳細](#)をクリックし、TCP/IP や暗号化、その他の詳細な接続オプションを指定できます。[詳細](#)をクリックすると、クラウドのテナントデータベースのミラーまたはコピーノードに接続できるオプションを指定することもできます。

1.1.5 接続ウィンドウ: このコンピュータのデータベースを起動して接続

このウィンドウには次の項目があります。

データベースタイプを変更

別の接続先のデータベースタイプが存在する場合は、クリックして選択します。

認証

データベースを選択し、接続に必要なユーザ ID とパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

または、[Windows 統合化ログイン](#)を選択し、Microsoft Windows 上の統合化ログインを使用してデータベースに接続します。このオプションを選択すると、Windows のユーザ ID とパスワードが統合化ログインのメカニズムに渡されます。

アクション

現在のコンピュータ上のデータベースを起動して接続する場合は、アクション [このコンピュータのデータベースを起動して接続](#) を使用します。

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

データベースファイル

C:\¥sample.db のように、データベースファイルのフルパスと名前を指定します。このように指定しない場合、ファイルのパスは、データベースサーバの作業ディレクトリの相対パスになります。

暗号化キー

データベースファイルが暗号化されている場合は、データベースサーバでデータベースが起動されるたびにデータベースサーバへのキーを入力する必要があります。

データベース名

接続するデータベースの名前を入力するか、または最近使用したデータベース名をドロップダウンリストから選択します。それ以外の場合は、デフォルトの名前がデータベースに割り当てられます。このデフォルト名は、データベースファイルのルートです。たとえば、ファイル名が C:\¥Database Files¥demo.db であるデータベースは、デフォルト名が demo となります。

データベースサーバで実行している各データベースは、データベース名によって識別されます。

サーバ名

起動するパーソナルサーバの名前を入力します。たとえば、**demo** のように記述します。デフォルトのパーソナルサーバに接続する場合は、サーバ名を省略できます。

最近使用したパーソナルサーバ名をドロップダウンリストから選択できます。

i 注記

ネットワークサーバを起動するには、**開始行**フィールドを使用します。

開始行

コマンドを入力して、パーソナルデータベースサーバまたはネットワークデータベースサーバをユーザのコンピュータから起動します。また、最近使用した開始行をドロップダウンリストから選択することもできます。

パーソナルデータベースサーバ

現在実行されていないローカルデータベースサーバに接続し、しかも独自の起動パラメータを設定する場合のみ、開始行を入力します。

たとえば、パーソナルデータベースサーバを起動するには、`C:¥Program Files¥SQL Anywhere 17¥Bin32¥dbeng17.exe -c 8M`と入力します。

ネットワークデータベースサーバ

開始行を入力して、このコンピュータ上のネットワークデータベースサーバを起動します。

たとえば、ネットワークデータベースサーバを起動するには、`C:¥Program Files¥SQL Anywhere 17¥Bin32¥dbsrv17.exe -x none`と入力します。

開始行フィールドには、データベースサーバオプションも同時に入力できます。以下の操作を行う場合は、**開始行**とオプションを使用します。

- 高度なサーバ機能を配備する場合。
- プロトコルのオプションを制御する場合。
- 診断メッセージまたはトラブルシューティングメッセージを生成する場合。
- パーミッションを設定する場合。
- データベースパラメータを設定する場合（暗号化を含む）。

最終切断後にデータベースを停止

このオプションを選択すると、最後のユーザが切断した後で自動的にデータベースをシャットダウンします。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。このツールは SQL Anywhere、SAP IQ、または SAP HANA データベースに接続する場合にのみ使用できます。

詳細の表示をクリックすると、接続パラメータを使用してデータベースサーバを検索する方法についてのデバッグ情報が表示されます。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

詳細

必要に応じて詳細をクリックし、TCP/IP や暗号化、その他の詳細な接続オプションを指定できます。

1.1.6 接続ウィンドウ: 別のコンピュータのデータベースを起動して接続

このウィンドウには次の項目があります。

データベースタイプを変更

別の接続先のデータベースタイプが存在する場合は、クリックして選択します。

認証

データベースを選択し、接続に必要なユーザ ID とパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

または、*Windows 統合化ログイン*を選択し、Microsoft Windows 上の統合化ログインを使用してデータベースに接続します。このオプションを選択すると、Windows のユーザ ID とパスワードが統合化ログインのメカニズムに渡されます。

アクション

別のコンピュータ上のデータベースを起動して接続する場合は、アクション *別のコンピュータのデータベースを起動して接続*を使用します。

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

データベースファイル

C:\¥sample.db のように、データベースファイルのフルパスと名前を入力します。このように指定しない場合、ファイルのパスは、データベースサーバの作業ディレクトリの相対パスになります。

また、最近使用したデータベースファイルをドロップダウンリストから選択することもできます。

暗号化キー

データベースファイルが暗号化されている場合は、データベースサーバでデータベースが起動されるたびにデータベースサーバへのキーを入力する必要があります。

データベース名

起動するデータベースの名前を入力するか、最近使用したデータベース名をドロップダウンリストから選択します。

データベース名が必要になるのは、データベースサーバで複数のデータベースを実行している場合のみです。

サーバ名

ネットワークデータベースサーバの名前を入力するか、最近使用したデータベースサーバ名をドロップダウンリストから選択します。たとえば、**demo** のように記述します。ネットワークサーバに接続する場合は、データベースサーバ名を指定してください。

ホスト

データベースサーバが実行されているコンピュータ名を指定します。

Ping

クリックすると、指定されたホスト名のコンピュータがネットワーク内で見つかるかどうかをテストします。

ポート

データベースサーバがデフォルトポート 2638 を使用していない場合、使用しているポートを指定します。

最近

最近をクリックして、最近使用されたホストとポートの組み合わせをドロップダウンリストから選択します。

最終切断後にデータベースを停止

このオプションを選択すると、最後のユーザが切断した後で自動的にデータベースをシャットダウンします。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。このツールは SQL Anywhere、SAP IQ、または SAP HANA データベースに接続する場合にのみ使用できます。

詳細の表示をクリックすると、接続パラメータを使用してデータベースサーバを検索する方法についてのデバッグ情報が表示されます。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

詳細

必要に応じて詳細をクリックし、TCP/IP や暗号化、その他の詳細な接続オプションを指定できます。

1.1.7 接続ウィンドウ: 接続文字列を使用して接続

このウィンドウには次の項目があります。

データベースタイプを変更

別の接続先のデータベースタイプが存在する場合は、クリックして選択します。

認証

データベースを選択し、接続に必要なユーザ ID とパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

または、*Windows 統合化ログイン*を選択し、Microsoft Windows 上の統合化ログインを使用してデータベースに接続します。このオプションを選択すると、Windows のユーザ ID とパスワードが統合化ログインのメカニズムに渡されます。

アクション

接続文字列を使用してデータベースに接続する場合は、アクション *接続文字列を使用して接続*を使用します。

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

パラメータ

接続文字列において、他の接続パラメータとともに ODBC データソースまたは ODBC データソースファイルが使用されている場合は、このアクションを選択します。

"パラメータ=値" のペアをセミコロンで区切ったリストの形式で、接続パラメータを入力します。

```
parameter1=value1;parameter2=value2;...
```

次に例を示します。

```
DSN="SQL Anywhere 17 Demo;PWD=sql;Server=SampleServer;"
```

➔ ヒント

ユーザ ID またはデータベース名など、*パラメータ*フィールドに入力したすべての情報は、ODBC データソースまたは ODBC データソースファイルに格納されているパラメータよりも優先されます。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。

詳細の表示をクリックすると、接続パラメータを使用してデータベースサーバを検索する方法についてのデバッグ情報が表示されます。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

詳細

必要に応じて詳細をクリックし、TCP/IP や暗号化、その他の詳細な接続オプションを指定できます。

1.1.8 接続ウィンドウ: *SQL Anywhere* データベースに接続: ネットワーク タブ

TCP/IP プロトコルオプションを指定するには、このタブを使用します。

1.1.9 接続ウィンドウ: *SQL Anywhere* データベース接続ウィンドウ: セキュ リティタブ

デフォルトでは、データベースサーバとそのクライアント間で送信される通信パケットは暗号化されないため、潜在的なセキュリティリスクが生じます。ネットワークパケットのセキュリティに懸念がある場合は、このタブを使用して、クライアント通信の暗号化を設定します。

暗号化タイプ:

単純な難読化を使用してエンコードされた通信パケットをリモートデータベースサーバから受け入れる場合は、**単純**を選択します。このオプションでは、安全なエンコーディングは実現されません。

トランスポートレイヤセキュリティ (TLS) を使用して暗号化された通信パケットをリモートデータベースサーバから受け入れる場合は、**TLS** を選択します。

証明書ソース

オペレーティングシステムの証明書ストアを使用するか、または証明書ファイルを使用するかを選択します。

次の属性を持つ場合に限り証明書を使用する:

この接続で正しい証明書が確実に使用されるように、以下のフィールドに値を指定します。

これらの属性に値を指定しなかった場合、デフォルトでは、接続時に、リモートデータベースサーバのホスト名と、証明書で指定されたホスト名とが照合されます。

証明書に記載される会社

このオプションを指定した場合、証明書に記載されている組織フィールドがこの値と一致する場合にのみ、アプリケーションはサーバ証明書を受け入れます。

証明書に記載される部署

このオプションを指定した場合、証明書に記載されている組織単位フィールドがこの値と一致する場合にのみ、アプリケーションはサーバ証明書を受け入れます。

証明書に記載される名前

このオプションを指定した場合、証明書に記載されている通称フィールドがこの値と一致する場合にのみ、アプリケーションはサーバ証明書を受け入れます。

FIPS 認定 RSA 暗号化を使用

FIPS 認定 TLS を使用するには、このオプションを選択します。FIPS 認定 RSA 暗号化には別途ライセンスが必要です。その他のプロトコルオプション ネットワークプロトコルオプションの値のペア (option=value) をセミコロンで区切ったリストを指定します。

1.1.10 接続ウィンドウ: SQL Anywhere データベースに接続: 詳細オプションタブ

高度な接続パラメータを設定するには、このタブを使用します。

接続パラメータとネットワークプロトコルオプションのペア (option=value) をセミコロンで区切ったリストを指定するには、(その他) フィールドを使用します。

1.1.11 接続ウィンドウ: 汎用 ODBC データベースに接続

このウィンドウには次の項目があります。

データベースタイプを変更

別の接続先のデータベースタイプが存在する場合は、クリックして選択します。

データベースに対してユーザ自身を識別するために次の値を使用

ユーザ ID とパスワードを使用してデータベースに接続します。

ユーザ ID

接続時のユーザ ID を入力します。データベースに接続するためのパーミッションを持つユーザ ID を指定してください。

パスワード

接続用のパスワードを入力します。

➔ ヒント

ユーザ ID またはデータベース名など、**接続**ウィンドウで入力したすべての情報は、ODBC データソースまたは ODBC データソースファイルに格納されているパラメータよりも優先されます。

ODBC データソース名

このオプションを選択して、データベースに接続するためのデータソース (格納されている一連の接続パラメータ) を選択します。このフィールドは DSN 接続パラメータに相当し、レジストリ内のデータソースを参照しています。データソースのリストを表示するには、[参照](#)をクリックします。

ODBC データソースアドミニストレータを開くボタン

[ODBC データソースアドミニストレータを開くボタン](#)をクリックすると、[ODBC データソースアドミニストレータ](#)ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、利用できるデータソースのリストから特定の ODBC データソースを選択できます。データソースを選択するには、そのデータソースをリストから選択してから [OK](#) をクリックします。

また、新しいデータソースを作成したり、既存のデータソースをこの接続用に設定したりすることもできます。

ODBC データソースファイル

このオプションを選択して、接続で使用するデータソースファイルを選択します。ファイルを検索するには、[参照](#)をクリックします。ODBC データソースファイルは、UNIX システムでよく使用されます。ファイルデータソースは、レジストリに保管される ODBC データソースと同じ情報を持ちます。

ツール

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

1.1.12 接続ウィンドウ: 汎用 ODBC データベースに接続: 詳細オプション タブ

このタブには次の項目があります。

"name=value" の形式で、1 行に 1 つの接続パラメータを入力

このフィールドにはその他の接続パラメータを入力します。1 行に 1 つの接続パラメータを指定します。次の接続パラメータを指定すると、接続に関するデバッグ情報がログに記録されます。

```
LOG=connection.log
```

1 行に 1 つの接続パラメータを入力するとき、パラメータ間にセミコロンを入力する必要はありません。

1.1.13 接続ウィンドウ: *Ultra Light* データベースに接続

このウィンドウには次の項目があります。

ユーザ ID

データベース接続用のユーザ ID を入力します。

パスワード

接続用のパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

データベースファイル

データベースファイルを指定します。C:\myuldb.udb のように、データベースファイルのフルパスと名前を入力します。このように指定しない場合、ファイルのパスは、データベースサーバの作業ディレクトリの相対パスになります。

暗号化キー

データベースファイルが暗号化されている場合は、Ultra Light によってデータベースが起動されるたびにキーを指定する必要があります。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

1.1.14 接続ウィンドウ: *Ultra Light* データベースに接続詳細オプションタブ

このタブには次の項目があります。

"name=value" の形式で、1 行に 1 つの接続パラメータを入力

このフィールドにはその他の接続パラメータを入力します。1 行に 1 つの接続パラメータを指定します。1 行に 1 つの接続パラメータを入力するとき、パラメータ間にセミコロンを入力する必要はありません。次の例では、データベース名を設定しています。

```
DBN="the test version"
```

このフィールドに設定した接続パラメータは、このウィンドウの他の部分で設定したパラメータよりも優先されます。たとえば、*ID* タブでユーザ ID として **DBA** と入力し、このフィールドで接続パラメータ "UID=bsmith" を設定すると、ユーザ ID **bsmith** を使用した接続が試行されます。

1.1.15 接続ウィンドウ: 実行中の SAP HANA サーバに接続

このウィンドウには次の項目があります。

データベースタイプを変更

別の接続先のデータベースタイプまたはサーバタイプが存在する場合は、クリックして選択します。

認証

接続時のユーザ ID とパスワードを入力します。

アクション

すでに実行中の SAP HANA サーバに接続するときに、**実行中のサーバに接続**アクションを使用します。

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

ホスト

サーバが実行されているコンピュータ名を指定します。また、**最近**をクリックして、最近使用されたホストとポートの組み合わせを選択することもできます。

Ping

クリックすると、指定されたホスト名のコンピュータがネットワーク内で見つかるかどうかをテストします。

ポート

サーバがデフォルトポート 2638 を使用していない場合、使用しているポートを指定します。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

詳細

必要に応じて[詳細](#)をクリックし、TCP/IP や暗号化、その他の詳細な接続オプションを指定できます。

1.1.16 接続ウィンドウ: ODBC データソースを使用して SAP HANA データベースに接続

このウィンドウには次の項目があります。

データベースタイプを変更

別の接続先のデータベースタイプまたはサーバタイプが存在する場合は、クリックして選択します。

認証

サーバのユーザ ID とパスワードを入力します。

アクション

ODBC データソースを使用してデータベースに接続する場合は、[ODBC データソースを使用した接続アクション](#)を使用します。

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

ODBC データソース名

このオプションを選択し、ODBC データソース名を入力して、データベースに接続します。

ODBC データソース アドミニストレータを開くボタン

Windows で、[ODBC データソースアドミニストレータを開くボタン](#)をクリックして、[ODBC データソースアドミニストレータ](#)ウィンドウを開きます。このウィンドウでは、利用できるデータソースのリストからの ODBC データソースの選択、新しいデータソースの作成、または接続に使用する既存のデータソースの設定を行うことができます。

ODBC データソースファイル

このオプションを選択し、接続するための ODBC データソースファイル名を入力します。

i 注記

ユーザ ID またはパスワードなど、[接続ウィンドウ](#)に入力するすべての情報は、ODBC データソースまたは ODBC データソースファイルに格納されているパラメータの代わりに使用されます。

ツール

次のツールを使用できます。

接続テスト

このツールは、指定された情報で正しく接続できるかどうかをテストします。

接続文字列をクリップボードにコピー

このツールは、指定された情報に基づく接続文字列をクリップボードにコピーします。

詳細

必要に応じて[詳細](#)をクリックし、TCP/IP や暗号化、その他の詳細な接続オプションを指定できます。

1.1.17 接続ウィンドウ: SAP HANA データベースへの接続: 詳細オプションタブ

このタブには次の項目があります。

接続パラメータの表

このテーブルには、SAP HANA 接続パラメータが含まれます。

1.2 SQL Anywhere の ODBC 設定ウィンドウ: ODBC タブ

このタブは、ODBC データソースを作成または変更するときのみ表示されます。

データソース名

この ODBC データソースを識別する名前を入力します。データソースに対して任意の記述名を使用できますが (スペースも可)、接続文字列に入力される場合があるため、短い名前をお奨めします。

説明

データソースの説明を入力できます。この説明は、ユーザ本人またはエンドユーザが、使用可能なデータソースリストからこのデータソースを識別するのに便利です。このフィールドはオプションです。

独立性レベル

数値を入力して、このデータソースの初期独立性レベルを指定します。

0

これはコミットされない読み出し独立性レベルとも呼ばれます。これは最大レベルの同時実行性を提供しますが、結果セットにダーティリード、繰り返し不可能読み出し、幻ローが発生する場合があります。これはデフォルトの独立性レベルです。

1

これはコミットされた読み出しレベルとも呼ばれます。レベル 0 よりも低い同時実行性になりますが、レベル 0 の結果セットに見られる不整合性が一部解消されます。繰り返し不可能ローや幻ローが発生することはありますが、ダーティリードは発生しません。

2

これは繰り返し可能読み出しレベルとも呼ばれます。幻ローが発生することがあります。ダーティリードと繰り返し不可能ローは発生しません。

3

これは、直列化可能レベルとも呼ばれます。これは最低レベルの同時実行性を提供する、最も厳しい独立性レベルです。ダーティリード、繰り返し不可能読み出し、幻ローは発生しません。

snapshot

この独立性レベルは、トランザクションが最初のローの読み込み、挿入、更新、または削除を行った時点から、コミットされたデータのスナップショットを使用します。

statement-snapshot

この独立性レベルは、文で最初のローが読み込まれた時点から、コミットされたデータのスナップショットを使用します。トランザクション内の各文で参照されるデータのスナップショットはそれぞれ異なる時点のものになります。

readonly-statement-snapshot

読み込み専用の文についてのみ、この独立性レベルは、最初のローが読み込まれた時点から、コミットされたデータのスナップショットを使用します。トランザクション内の各文で参照されるデータのスナップショットはそれぞれ異なる時点のものになります。INSERT 文、UPDATE 文、DELETE 文については、`updatable_statement_isolation` オプションに指定された独立性レベル (0 (デフォルト)、1、2、3 のいずれか) を使用します。

Microsoft アプリケーション (SQLStatistics のキー)

SQLStatistics 関数によって外部キーが戻されるようにするには、このオプションを選択します。ODBC 仕様では、SQLStatistics によってプライマリキーと外部キーが戻されないように指定しています。しかし、一部のアプリケーション (Microsoft Visual Basic や Microsoft Access など) では、SQLStatistics によってプライマリキーと外部キーが戻されることを前提にしています。

Delphi アプリケーション

Embarcadero Delphi アプリケーション開発ツールを使用して、データソースを生成するアプリケーションを作成する場合、このオプションを選択します。

このオプションが選択されると、ブックマーク値が各ローに 1 つずつ割り当てられます。オフのときは、2 つずつ割り当てられます。この場合、1 つは前方をフェッチし、もう 1 つは後方をフェッチします。

Delphi では、1 ローにつき複数のブックマーク値を処理できません。このオプションがクリアされると、スクロール可能なカーソルのパフォーマンスに影響を及ぼします。これは、正しいブックマーク値を得るために、必ずカーソルの先頭から要求したローまでスクロールが行われる必要があるためです。

フェッチ警告を表示しない

このパラメータを選択すると、フェッチ時にデータベースサーバから返される警告メッセージが表示されなくなります。

バージョン 8.0 以降のデータベースサーバでは、それよりも前のバージョンのソフトウェアに比べて多様なフェッチ警告が返されます。以前のバージョンの SQL Anywhere ソフトウェアを使用して配備されたアプリケーションに対して、フェッチの警告を適切に処理するためにこのオプションを選択できます。

ドライバに起因するエラーを回避

SQL Anywhere ODBC ドライバは、修飾子をサポートしていないため、エラー `Driver not capable` を返します。ODBC アプリケーションの中には、このエラーを適切に処理しないものもあります。このようなアプリケーションでも作業できるように、このエラーコードが返されないようにするには、このオプションを選択します。

文が完結するまでオートコミットしない

文が完了するまでコミットオペレーションを遅延させるには、このオプションを選択します。

カーソル動作の記述

プロシージャが実行されたときにカーソルを再記述する頻度を選択します。デフォルト設定は、任意です。

しない

カーソルの再記述が不要であることがわかっている場合は、このオプションを選択します。カーソルの再記述は負荷が高く、パフォーマンスを低下させる可能性があります。

任意

このオプションを選択すると、カーソルを再記述する必要があるかどうかを ODBC ドライバが決定します。プロシージャに `RESULT` 句があると、ODBC アプリケーションは、カーソルを開いた後結果セットを再記述できません。これはデフォルトです。

常時

カーソルを開くたびに再記述します。Transact-SQL プロシージャや、複数の結果セットを返すプロシージャを使用する場合は、カーソルを開くたびに再記述する必要があります。

接続テスト

指定した情報で正しく接続できるかどうかをテストします。テストを実行するには、ユーザ ID とパスワードを **ログインタブ** で指定しておく必要があります。

1.3 SQL Anywhere の ODBC 設定ウィンドウ: ログインタブ

このタブには次の項目があります。

認証

次のオプションのいずれかを選択して、SQL Anywhere データベースに接続します。

データベース

ユーザ ID とパスワードを使用してデータベースに接続します。

ユーザ ID

接続時のユーザ ID を入力します。データベースに接続するためのパーミッションを持つユーザ ID を指定してください。

パスワード

接続用のパスワードを入力します。指定する ID です。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

i 注記

重大なセキュリティリスクがあるため、データソースにパスワードを含めないようにしてください。

パスワードをエンコード

パスワードをエンコード形式でデータソースに保存するには、このオプションを選択します。既存のエンコード方式を変更するには、パスワードを再入力する必要があります。

このオプションは、ODBC データソースを作成するときだけに表示されます。dbmlsync ユーティリティを使ってこのウィンドウにアクセスするときには表示されません。

Windows 統合ログイン

Microsoft Windows で統合化ログインを使用してデータベースに接続するには、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、Windows のユーザ ID とパスワードが SQL Anywhere の統合化ログインのメカニズムに渡されます。

統合化ログインを使用するには、データベースで統合化ログイン権限が付与されていて、データベースサーバが統合化ログインを受け入れるように設定されている必要があります。

アクション

アクションドロップダウンリストから、接続タイプを選択します。

このコンピュータで稼働しているデータベースに接続

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

サーバ名

SQL Anywhere のパーソナルデータベースサーバまたはネットワークデータベースサーバの名前を入力します。たとえば、**demo17** と入力します。

ネットワークサーバに接続する場合は、データベースサーバ名を指定してください。デフォルトのパーソナルサーバに接続する場合は、データベースサーバ名を省略できます。

データベース名

接続するデータベースの名前を入力します。たとえば、**demo** と入力します。データベースサーバで実行している各データベースは、データベース名によって識別されます。

別のコンピュータで稼働しているデータベースに接続

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

ホスト

データベースサーバが実行されているコンピュータ名を指定します。

ポート

データベースサーバがデフォルトポート 2638 を使用していない場合、使用しているポートを指定します。

サーバ名

SQL Anywhere ネットワークデータベースサーバの名前を入力します。たとえば、**demo17** と入力します。ネットワークサーバに接続する場合は、データベースサーバ名を指定してください。

データベース名

接続するデータベースの名前を入力します。

データベース名が必要になるのは、データベースサーバで複数のデータベースを実行している場合のみです。データベースサーバで実行している各データベースは、データベース名によって識別されます。

クラウドで稼働しているデータベースに接続

このアクションを選択すると、次のオプションを利用できるようになります。

ホスト

データベースサーバが実行されているコンピュータ名を指定します。

ポート

データベースサーバがデフォルトポート 2638 を使用していない場合、使用しているポートを指定します。

データベース名

接続するデータベースの名前を入力します。

データベース名が必要になるのは、データベースサーバで複数のデータベースを実行している場合のみです。データベースサーバで実行している各データベースは、データベース名によって識別されます。

このコンピュータのデータベースを起動して接続

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

データベースファイル

データベースファイルのフルパスと名前を入力します。たとえば、`C:\¥sample.db` と入力します。このように指定しない場合、ファイルのパスは、データベースサーバの作業ディレクトリの相対パスになります。

暗号化キー

データベースファイルが暗号化されている場合は、データベースサーバでデータベースが起動されるたびにデータベースサーバへのキーを入力する必要があります。

データベース名

接続するデータベースの名前を入力します。それ以外の場合は、デフォルトの名前がデータベースに割り当てられます。このデフォルト名は、データベースファイルのルートです。たとえば、ファイル名が `C:\¥Database Files¥demo.db` であるデータベースは、デフォルト名が `demo` となります。

データベースサーバで実行している各データベースは、データベース名によって識別されます。

サーバ名

起動する SQL Anywhere パーソナルサーバの名前を入力します。たとえば、`demo` と入力します。デフォルトのパーソナルサーバに接続する場合は、データベースサーバ名を省略できます。

i 注記

ネットワークサーバを起動するには、**開始行**フィールドを使用します。

開始行

コマンドを入力して、パーソナルデータベースサーバまたはネットワークデータベースサーバをユーザのコンピュータから起動します。

パーソナルデータベースサーバ

現在実行していないローカルデータベースサーバに接続するか、独自の起動パラメータを設定する場合にのみ、開始行を入力します。

たとえば、パーソナルデータベースサーバを起動するには、`C:\¥Program Files¥SQL Anywhere 17¥Bin32¥dbeng17.exe -c 8M` と入力します。

ネットワークデータベースサーバ

開始行に入力して、このコンピュータ上のネットワークデータベースサーバを起動します。

たとえば、ネットワークデータベースサーバを起動するには、`C:\¥Program Files¥SQL Anywhere 17¥Bin32¥dbsrv17.exe -x none` と入力します。

開始行フィールドには、データベースサーバオプションも同時に入力できます。次の操作を行う場合は、開始行とオプションを使用します。

- 高度なサーバ機能を配備する場合。
- プロトコルのオプションを制御する場合。
- 診断メッセージまたはトラブルシューティングメッセージを生成する場合。
- パーミッションを設定する場合。
- データベースパラメータを設定する場合 (暗号化を含む)。

最終切断後にデータベースを停止

このオプションを選択すると、最後のユーザが切断した後で自動的にデータベースをシャットダウンします。

別のコンピュータのデータベースを起動して接続

このアクションを選択すると、以下のオプションを利用できるようになります。

データベースファイル

C:\¥sample.db のように、データベースファイルのフルパスと名前を入力します。このように指定しない場合、ファイルのパスは、データベースサーバの作業ディレクトリの相対パスになります。

暗号化キー

データベースファイルが暗号化されている場合は、データベースサーバでデータベースが起動されるたびにデータベースサーバへのキーを入力する必要があります。

データベース名

開始するデータベースの名前を入力します。

データベース名が必要になるのは、データベースサーバで複数のデータベースを実行している場合のみです。

サーバ名

SQL Anywhere ネットワークデータベースサーバの名前を入力します。たとえば、**demo** と入力します。ネットワークサーバに接続する場合は、データベースサーバ名を指定してください。

ホスト

データベースサーバが実行されているコンピュータ名を指定します。

ポート

データベースサーバがデフォルトポート 2638 を使用していない場合、使用しているポートを指定します。

1.4 SQL Anywhere の ODBC 設定/DBMLSync 設定ウィンドウ: ネットワークタブ

次のトランスポートレイヤセキュリティオプションのいずれかを選択します。*NONE*、*SIMPLE*、または *TLS*

1.5 SQL Anywhere の ODBC 設定/DBMLSync 設定ウィンドウ: 詳細タブ

接続パラメータの値を指定します。

1.6 SQL Anywhere の DBMLSync 設定ウィンドウ: DBMLSync タブ

このタブでは、dbmlsync SQL Anywhere クライアント同期ユーティリティに関するオプションを指定します。

サブスクリプション

同期対象のサブスクリプションの名前を入力します。

データベースにサブスクリプションが1つしかない場合は、このフィールドに何も入力する必要はありません。

ML パスワード

ユーザ認証用の Mobile Link パスワードを入力します。まだパスワードを入力していない場合は、ここで入力する必要があります。パスワードの入力を要求されている場合は、他のフィールドの入力が不要な場合がほとんどです。パスワードでは大文字と小文字が区別されます。

Mobile Link パスワードの変更

同期時の Mobile Link パスワードを変更するには、このオプションを選択します。Mobile Link パスワードを変更しない場合は、チェックボックスを空白のままにします。

新規

Mobile Link パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを入力します。Mobile Link パスワードを変更しない場合は、このフィールドを空白のままにします。

検証

Mobile Link パスワードを変更する場合は、確認のために新しいパスワードをもう一度入力します。Mobile Link パスワードを変更しない場合は、このフィールドを空白のままにします。

拡張オプション

拡張オプションを入力して、同期をカスタマイズできます。スケジュール指定などの拡張オプションを入力できます。利用できる拡張オプションのリストを確認するには、[拡張オプションのヘルプボタン](#)をクリックしてください。このフィールドはオプションです。

完全冗長

デバッグやその他の診断情報を dbmlsync ログファイルに記録するには、このオプションを選択します。このフィールドはオプションです。

拡張オプションのヘルプ

クリックすると、使用可能な拡張オプションの名前、デフォルト値、説明のリストが表示されます。これらのオプションを拡張オプションフィールドに入力して同期をカスタマイズすることもできます。

1.7 Oracle 用 SQL Anywhere ドライバの設定ウィンドウ

このウィンドウでは、*SQL Anywhere 17 - Oracle* と呼ばれる Oracle 用の ODBC ドライバの設定を行うことができます。

データソース名

データソースを識別するための名前を入力します。

ユーザ ID

アプリケーションが Oracle データベースへの接続に使用するデフォルトのログイン ID を入力します。ログイン ID が必要なのは、データベースでセキュリティが有効の場合のみです。この場合、システム管理者からログイン ID を取得してください。

パスワード

アプリケーションが Oracle データベースへの接続に使用するパスワードを入力します。

TNS サービス名

TNS サービス名を入力します。Oracle インストールディレクトリの `network/admin/tnsnames.ora` に保存されている TNS サービス名。

パスワードをエンコード

パスワードを暗号化形式でデータソースに保存するには、このオプションを選択します。既存のエンコード方式を変更するには、パスワードを再入力する必要があります。

パフォーマンス

プロシージャから結果が返される、または VARRAY パラメータを使用する

ストアードプロシージャで結果を返すことができる場合、またはストアードプロシージャで Oracle VARRAY を使用している場合は、このオプションを選択します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。download_cursor スクリプトまたは download_delete_cursor スクリプトがストアードプロシージャ呼び出しの場合は、このチェックボックスをオンにしてください。ストアードプロシージャで VARRAY を使用しておらず、結果セットも返されない場合は、パフォーマンス向上のためにこのチェックボックスをクリアします。

警告

ODBC データソースでプロシージャから結果が返される、または VARRAY パラメータを使用するオプションが有効になっている場合、ドライバはこのオプションを必要とするプロシージャをキャッシュします。プロシージャのこれらの要件を変更する場合は、すべての Mobile Link サーバをシャットダウンして再起動する必要があります。

配列サイズ

ローのプリフェッチに使用するバイト配列のサイズ (バイト単位) を文ごとに入力します。この値を大きくすると、使用するメモリが増えますが、フェッチのパフォーマンス (Mobile Link サーバのダウンロードなど) は大幅に向上します。デフォルトは 60000 です。

配列フェッチサイズ (行数)

Oracle データベースからフェッチされる行数を入力します。デフォルト値は 20 です。この値を大きくすると、ネットワークのラウンドトリップ回数が減ってパフォーマンスが向上しますが、ODBC ドライバのメモリ使用量が増加します。

トランザクション

Microsoft 分散トランザクションを有効にする

トランザクションを Microsoft 分散トランザクションコーディネータ (MSDTC) にエンリストする場合は、このオプションを選択します。選択すると、Oracle ODBC ドライバに Oracle バイナリファイル `oramts10.dll` (Oracle 10g クライアントの場合) または `oramts11.dll` (Oracle データベース 11g クライアントの場合) が必要になります。

接続テスト

クリックすると、指定された情報で正しく接続できるかどうかテストされます。テストを実行するには、ユーザ ID とパスワードを指定する必要があります。

1.8 SQL Central コンテキスト別ヘルプ

SQL Central では、データベースを管理できます。

このセクションの内容:

[接続プロファイルウィンドウ \[39 ページ\]](#)

接続プロファイルウィンドウでは、接続プロファイル (ユーザ名、パスワード、サーバ名など、名前付きの接続パラメータセット) を表示および編集できます。

[切断ウィンドウ \[40 ページ\]](#)

切断ウィンドウには、次の項目があります。

[フィルタウィンドウ \[40 ページ\]](#)

フィルタウィンドウ (ログビューアで **ビュー** > **イベントをフィルタする** を選択してアクセス) では、ログビューアでメッセージをフィルタする方法を設定できます。

[検索ウィンドウ \[41 ページ\]](#)

検索ウィンドウでは、特定のメッセージを検索できます。検索ウィンドウには、次の項目があります。

[Import Connection Profile File ウィンドウ \[42 ページ\]](#)

接続プロファイルをインポートおよびエクスポートして、複数のコンピュータで使用できます。

[ログビューアウィンドウ \[42 ページ\]](#)

ログビューアは、製品のメッセージ (エラー、警告、情報) のリストが表示されるウィンドウです。

新しい接続プロファイルウィンドウ [42 ページ]

新しい接続プロファイルウィンドウには、次の項目があります。

オプションウィンドウ [43 ページ]

SQL Central のオプションウィンドウでは、基本的な表示オプションを設定できます。

プラグインのプロパティウィンドウ [43 ページ]

プラグインのプロパティウィンドウでは、選択したプラグインのプロパティを設定できます。

プラグインの登録ウィザード [44 ページ]

このウィザードを使用してプラグインを登録します。

検索ウィンドウ枠 [45 ページ]

このウィンドウ枠では、指定したオブジェクトのデータベースを検索します。

SQL Central プラグインウィンドウ [46 ページ]

SQL Central プラグインウィンドウでは、プラグインの設定を変更したり、新しいプラグインを登録したりできます。

1.8.1 接続プロファイルウィンドウ

接続プロファイルウィンドウでは、接続プロファイル (ユーザ名、パスワード、サーバ名など、名前付きの接続パラメータセット) を表示および編集できます。

接続プロファイルウィンドウには、次の項目があります。

接続プロファイル

すべての接続プロファイルをリストし、その説明を表示します。接続するには、プロファイルを選択して **接続** をクリックするか、接続プロファイルをダブルクリックします。

接続

選択した接続プロファイルを使用して接続します。

新規

新しい接続プロファイルウィンドウが開き、新しい接続プロファイルを作成できます。

名前を変更

接続プロファイルの名前を変更ウィンドウが開き、選択した接続プロファイルの名前を変更できます。

編集

接続プロファイルの編集ウィンドウが開き、選択した接続プロファイルを編集できます。

説明の変更

接続プロファイルの説明の変更ウィンドウが開き、選択した接続プロファイルの説明を変更できます。

削除

選択した接続プロファイルを削除します。このボタンをクリックすると、続行するかどうかを確認するプロンプトが SQL Central によって表示されます。

エクスポート

既存の接続プロファイルをファイルに保存できます。

インポート

接続プロファイルファイルのインポートウィンドウが開き、コンピュータ上のファイルから接続プロファイルをインポートできます。

スタートアップの設定

選択した接続プロファイルの自動スタートアップオプション (接続プロファイルリストの**起動時に使用カラムの値**) を切り替えます。このオプションをオンにすると、SQL Central を起動するたびに、その接続プロファイルが自動的に使用されます。

1.8.2 切断ウィンドウ

切断ウィンドウには、次の項目があります。

接続リスト

SQL Central へのすべての接続の情報 (接続名、説明、プラグイン名など) が表示されます。リストから接続を選択し、**切断**をクリックして接続を切断します。Shift キーを押したままでクリックすると、複数の接続を選択できます。OK をクリックして、選択した接続を切断します。

1.8.3 フィルタウィンドウ

フィルタウィンドウ (ログビューアで **▶ ビュー ▶ イベントをフィルタする** を選択してアクセス) では、ログビューアでメッセージをフィルタする方法を設定できます。

フィルタウィンドウには、次の項目があります。

タイプ

表示するメッセージのタイプを設定できます。1つのタイプだけを表示することも、いくつかのタイプを組み合わせで表示することもできます。タイプを選択するには、名前をクリックします。タイプが選択されていると、ボタンが押し込まれた状態で表示されます。デフォルトでは、すべてのメッセージタイプが選択されています。

情報

ログビューアで、情報メッセージを表示するか、非表示にするかを設定します。

警告

ログビューアで、警告メッセージを表示するか、非表示にするかを設定します。

エラー

ログビューアで、エラーメッセージを表示するか、非表示にするかを設定します。

ソース

1つのプラグインからのメッセージのみを表示できます。**すべて** (デフォルト) を選択すると、すべてのプラグインからのメッセージが表示されます。1つのプラグインのみを選択するには、ログビューアの**ソース**カラムにプラグイン名を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

ショートメッセージ

ログビューアに、指定した値を含むショートメッセージを持つログエントリが表示されるように設定します。

説明

ログビューアに、指定した値が説明に含まれているログエントリが表示されるように設定します。

開始

ログビューアに表示される最も古いメッセージの日付と時間を設定できます。

終了

ログビューアに表示される最新のメッセージの日付と時間を設定できます。

デフォルトに戻す

ウィンドウのすべての設定をクリアし、オプションをデフォルト設定にリセットします。ソースフィールドはすべてに戻され、タイプではすべてのタイプが選択されます。

1.8.4 検索ウィンドウ

検索ウィンドウでは、特定のメッセージを検索できます。検索ウィンドウには、次の項目があります。

タイプ

検索パラメータに含めるメッセージのタイプを設定できます。1つのタイプのメッセージを含めることも、複数のタイプのメッセージを含めることもできます。タイプを選択するには、名前をクリックします。タイプが選択されているときは、ボタンが押し込まれた状態で表示されます。

情報

検索パラメータに情報メッセージを含めるか、除外するかを設定します。

警告

検索パラメータに警告メッセージを含めるか、除外するかを設定します。

エラー

検索パラメータにエラーメッセージを含めるか、除外するかを設定します。

ソース

特定のプラグインまたはすべてのプラグインからのメッセージを検索できます。すべて (デフォルト) を選択すると、ログビューアに、すべてのプラグインからのメッセージが表示されます。1つのプラグインのみを選択するには、ログビューアのソースカラムにプラグイン名を入力します。このフィールドでは、大文字と小文字が区別されます。

ショートメッセージ

指定した値を含むショートメッセージを持つログエントリを検索できます。

説明

説明に指定した値が含まれているログエントリを検索できます。

検索方向

検索する方向を指定できます。上へオプションを指定すると、指定したタイプのメッセージを、カーソル位置から上方向へと検索します。下へオプションを指定すると、カーソル位置から下方向へと検索します。

デフォルトに戻す

ウィンドウ内の設定をクリアします。タイプのコマンドは、すべて有効になっている状態に戻ります。

1.8.5 Import Connection Profile File ウィンドウ

接続プロファイルをインポートおよびエクスポートして、複数のコンピュータで使用できます。

接続プロファイルをファイルに保存して SQL Central に追加するには、[接続プロファイルファイルのインポートウィンドウ](#)を使用します。[接続プロファイルファイルのインポートウィンドウ](#)には、次の項目があります。

ファイル名

接続プロファイルを含むファイルの名前を入力します。接続プロファイルのファイル名の末尾は、拡張子 `.cpr` です。
この接続プロファイルを他のユーザと共有する

他のユーザが接続プロファイルにアクセスできるようにするには、このオプションを選択します。

他のユーザのために起動時にこの接続プロファイルを接続する

他のユーザが SQL Central を起動したときにこの接続プロファイルによって接続するには、このオプションを選択します。

1.8.6 ログビューアウィンドウ

ログビューアは、製品のメッセージ (エラー、警告、情報) のリストが表示されるウィンドウです。

1.8.7 新しい接続プロファイルウィンドウ

[新しい接続プロファイルウィンドウ](#)には、次の項目があります。

名前

新しく作成する接続プロファイルの名前を入力します。

説明

接続プロファイルの説明を入力します。

この接続プロファイルを他のユーザと共有する

他のユーザが接続プロファイルにアクセスできるようにするには、このオプションを選択します。

他のユーザのために起動時にこの接続プロファイルを接続する

他のユーザが SQL Central を起動したときにこの接続プロファイルによって接続するには、このオプションを選択します。

新しい接続プロファイル

既存のプロファイルを使用せずに新しい接続プロファイルを作成する場合は、このオプションを選択します。

プラグイン

新しい接続のプラグインを選択します。

接続プロファイルをコピー

このオプションを選択すると、既存の接続プロファイルがコピーされます。

既存の接続プロファイル

既存のすべての接続プロファイルの、名前およびプラグインタイプ順のリストを表示します。

1.8.8 オプションウィンドウ

SQL Central のオプションウィンドウでは、基本的な表示オプションを設定できます。

オプションウィンドウの一般タブには、次の項目があります。

タブの位置

SQL Central の右ウィンドウ枠のタブの配置方法を設定します。プラグインには、タブが 1 つしかないものがあります。それ以外のプラグインには、複数のタブがあります。タブの配置オプションとして次のいずれかを選択できます。上、下、左、または右。デフォルトでは、右ウィンドウ枠の一番上にタブが表示されます。

起動時にヒントを表示する

SQL Central の起動時に今日のヒントウィンドウを表示します。

起動時に初期ウィンドウを表示する

SQL Central の起動時にようこそウィンドウを表示します。

デフォルトにリセット

このタブのすべての設定値をデフォルト値に戻します。

1.8.9 プラグインのプロパティウィンドウ

プラグインのプロパティウィンドウでは、選択したプラグインのプロパティを設定できます。

このウィンドウは、一般タブおよび詳細タブの 2 つのタブで構成されています。

プラグインのプロパティを変更したら、変更を有効にするために、そのプラグインを一度アンロードしてから再ロードしなければならない場合があります。そのような場合は、SQL Central から通知が表示されます。

プラグインのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このウィンドウには次の項目があります。

名前

選択されているプラグインの名前が表示されます。

タイプ

選択されているオブジェクトのタイプを示します。

プラグインのクラスパス

現在のプラグインのクラスパスを示します。クラスパスはプラグインに必要なクラスの場所のセットです。`.screpository610_32` ファイルまたは `.screpository610_64` ファイルが読み込み専用の場合、このフィー

ルドは読み込み専用です。マルチユーザオペレーティングシステムでは、システム管理者がプラグインの変更を担当するため、ユーザには、このファイルへの書き込みパーミッションがない場合があります。

起動時にロード

SQL Central の起動時にプラグインを自動的にロードするかどうかを指定します。このオプションを選択しない場合は、SQL Central を起動するたびにプラグインを手動でロードする必要があります。

プラグインのプロパティウィンドウ: 詳細タブ

このウィンドウには次の項目があります。

追加するクラスパスフィールド

現在のクラスパスに追加するパスを入力します。パスを入力するか、[参照](#)をクリックしてパスを検索できます。2 つ以上のパスを入力する場合は、それぞれ別の行に入力してください。

.screpository610_32 ファイルまたは .screpository610_64 ファイルが読み込み専用の場合、追加するクラスパスフィールドは読み込み専用です。マルチユーザオペレーティングシステムでは、システム管理者がプラグインの変更を担当するため、ユーザには、このファイルへの書き込みパーミッションがない場合があります。

1.8.10 プラグインの登録ウィザード

このウィザードを使用してプラグインを登録します。

プラグインの登録ウィザード: 登録ファイル名ページ

このページには次の項目があります。

プラグイン登録ファイルの指定によって、プラグインを登録します

プラグイン登録 (.jpr) ファイルの名前がわかっている場合は、このオプションを選択して、パスとファイル名を入力します。.jpr ファイルには、`plug-in.jar` ファイルの名前とロケーション、クラスパス情報が入っています。

JAR ファイルの指定によって、プラグインを登録します

.jpr ファイル名を指定できない場合は、このオプションを選択して、パスとファイル名を入力します。この方法では、後でクラスパスの入力が必要になる場合があります。

➔ ヒント

プラグインの登録ウィザードで、SQL Central の起動時に自動的にプラグインをロードするように設定することもできます。

プラグインを登録した後も、プラグインプロパティウィンドウからプラグインのクラスパスに、Java クラスファイルまたは JAR ファイルを追加できます。

プラグインの登録ウィザード: プラグインロードオプションページ

このページには次の項目があります。

起動時に自動的にロード

このプラグインを SQL Central の起動時に自動的にロードする場合は、このオプションを選択します。

プラグインの登録ウィザード: 追加の JAR またはクラスページ

このページには次の項目があります。

ディレクトリパス

このプラグインをロードするときに、クラスパスに追加する必要がある追加のディレクトリパスを指定します。

1.8.11 検索ウィンドウ枠

このウィンドウ枠では、指定したオブジェクトのデータベースを検索します。

検索文字列

検索するデータベースオブジェクトを指定するか、ドロップダウンリストから項目を選択します。

場所

リストから項目を選択して、検索対象を絞り込みます。SQL Central を選択すると、すべての場所で検索されます。

大文字と小文字を区別

このオプションを選択すると、大文字と小文字の区別も含めて、**検索文字列**フィールド内のテキストと完全に一致するテキストだけが検索されます。

完全に一致する単語を検索

このオプションを選択すると、完全に一致する 1 つ以上の単語のみが検索されます。たとえば、このオプションを選択し、"serve" という単語を検索した場合、"server" という単語内の "serve" は、一致すると見なされません。

SQL を検索

このオプションを選択すると、プロシージャ、イベント、関数、トリガの SQL 内も検索されます。

動的プロパティ (接続、統計、ロック) の検索

このオプションを選択すると、接続しているユーザ、SQL Remote 統計情報、テーブルロック、テーブルページの使用状況などの動的プロパティ内も検索されます。

スクリプトを検索

このオプションを選択すると、同期スクリプト内も検索されます。

検索

検索をクリックして、**検索文字列**フィールドで指定したオブジェクトを検索します。

結果リスト

見つかった各項目の名前、オブジェクトタイプ、コンテキストを示します。

1.8.12 SQL Central プラグインウィンドウ

SQL Central プラグインウィンドウでは、プラグインの設定を変更したり、新しいプラグインを登録したりできます。

このウィンドウには、ロードされたプラグインとアンロードされたプラグインのリストが表示されます。ロードされたプラグインはアクティブになり、SQL Central で使用できるようになります。アンロードされたプラグインは、再ロードされるまで使用できません。SQL Central プラグインウィンドウにはリストされますが、SQL Central のメインウィンドウには表示されません。

このウィンドウには次の項目があります。

プラグインリスト

SQL Central に現在登録されているプラグインのリストとその説明が表示されます。SQL Central には、プラグインに表示されるバージョン番号とは異なる可能性がある独自のバージョン番号があります。

登録

プラグインの登録ウィザードが表示されます。このウィザードで、プラグイン登録ファイルまたは JAR ファイルを指定して、新しいプラグインを登録できます。このウィザードでは、ディレクトリパスを入力して、プラグインのクラスパス (そのプラグインに必要なクラスのロケーションのセット) に追加できます。`.screpository610_32` ファイルまたは `.screpository610_64` ファイルが読み込み専用の場合、登録ボタンは無効になります。マルチユーザオペレーティングシステムでは、システム管理者が新規プラグインの登録を担当するため、ユーザには、このファイルへの書き込みパーミッションがない場合があります。

登録の解除

SQL Central のプラグインの登録を解除します。プラグインの登録を解除すると、再登録するまで使用できません。`.screpository610_32` ファイルまたは `.screpository610_64` ファイルが読み込み専用の場合、登録の解除ボタンは無効になります。マルチユーザオペレーティングシステムでは、システム管理者がプラグインの登録解除を担当するため、ユーザには、このファイルへの書き込みパーミッションがない場合があります。

ロード

選択したプラグインを使用するためにロードします。ロードされたプラグインはアクティブになり、SQL Central で使用できるようになります。

アンロード

選択したプラグインをアンロードします。アンロードされたプラグインは、再ロードするまで使用できません。ウィンドウにはリストされますが、SQL Central のメインウィンドウには表示されません。通常使用するプラグインが 1 つのみの場合は、他のプラグインをすべてアンロードすることをお奨めします。

プロパティ

プラグインのプロパティウィンドウが表示されます。起動オプションを設定したり、現在のクラスパスにパスを追加したりできます。

関連情報

[プラグインの登録ウィザード \[44 ページ\]](#)

[プラグインのプロパティウィンドウ \[43 ページ\]](#)

1.9 SQL Anywhere プラグインのヘルプ

SQL Anywhere プラグインのヘルプを受け取るには複数の方法があります。

このセクションの内容:

[サービスの依存の追加ウィンドウ \[58 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[サービスグループの依存の追加ウィンドウ \[58 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[トレーシングレベルの追加ウィンドウ \[58 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[アートのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[59 ページ\]](#)

Mobile Link または SQL Remote において、アートとは、テーブル全体もしくはテーブル内のカラムとローのサブセットを表すデータベースオブジェクトを指します。アートの集合がパブリケーションです。

[アートのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[59 ページ\]](#)

このタブを使用すると、テーブルからすべてのカラムまたは一部のカラムを選択できます。

[アートのプロパティウィンドウ: WHERE 句タブ \[59 ページ\]](#)

WHERE 句タブは、アートが含まれるパブリケーションのタイプがログスキャンの場合にのみ表示されます。

[アートのプロパティウィンドウ: SUBSCRIBE BY 制限タブ \[60 ページ\]](#)

このタブは、Mobile Link と SQL Remote だけに適用されます。

[証明書のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[60 ページ\]](#)

このタブには証明書のプロパティが表示されます。更新された証明書ファイルで証明書を置き換えるには、**すぐに更新**をクリックします。証明書ファイルはクライアントコンピュータ上にある必要があります。

[証明書のプロパティウィンドウ: 属性タブ \[60 ページ\]](#)

このタブには、証明書の属性とその値の一覧が表示されます。

[証明書の更新ウィンドウ \[60 ページ\]](#)

指定したファイルのデータベースにある証明書を置き換えます。

[設定の変更ウィンドウ \[60 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[トレーシングレベルの変更ウィンドウ \[62 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[ユーザを統合ユーザに変更ウィンドウ \[62 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[リモートユーザに変更ウィンドウ \[63 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[検査制約のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[63 ページ\]](#)

このタブには検査制約のプロパティが表示されます。

[検査制約のプロパティウィンドウ: 定義タブ \[64 ページ\]](#)

検査制約を指定します。カラム検査制約では、指定された型を持つすべてのカラムの入力値が適切であることが保証されるのに対し、テーブル検査制約では、特定のテーブル内のローが制約に違反していないことが保証されます。

[カラムのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[64 ページ\]](#)

このタブにはカラムのプロパティが表示されます。

[カラムのプロパティウィンドウ: データ型タブ \[64 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[カラムのプロパティウィンドウ: 値タブ \[65 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[カラムのプロパティウィンドウ: 制約タブ \[66 ページ\]](#)

カラムの制約を設定します。

[カラムのプロパティウィンドウ \(ビュー\): 一般タブ \[66 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[互換ロールのプロパティウィンドウ \[67 ページ\]](#)

このタブには互換ロールのプロパティが表示されます。

[タイプフィルタの設定ウィンドウ \[67 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[所有者フィルタの設定ウィンドウ \[67 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[\(ブロックされた\) 接続の詳細ウィンドウ \[67 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[接続プロパティウィンドウ: 一般タブ \[68 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[接続プロパティウィンドウ: 詳細情報タブ \[69 ページ\]](#)

このタブには接続しているユーザのプロパティが表示されます。

[統合ユーザのオプションウィンドウ \[69 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[統合ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[70 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[統合ユーザのプロパティウィンドウ: 権限タブ \[71 ページ\]](#)

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

[統合ユーザのプロパティウィンドウ: SQL Remote タブ \[71 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[トリガ条件の作成ウィンドウ \[72 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[データベースオプションウィンドウ \[72 ページ\]](#)

このウィンドウで設定するすべてのオプションは、PUBLIC ロールに対して設定されます。

[データベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[73 ページ\]](#)

このタブにリストされるデータベースのプロパティは、データベースを再構築しないかぎり変更できません。

[データベースのプロパティウィンドウ: 設定タブ \[74 ページ\]](#)

このタブにリストされるデータベースのプロパティは、データベースを再構築しないかぎり変更できません。

[データベースのプロパティウィンドウ: 詳細情報タブ \[76 ページ\]](#)

このタブには、データベースのプロパティの名前と値がリストされます。値を更新するには、**再表示**をクリックします。F5 キーを押しても、値を再表示できます。

データベースのプロパティウィンドウ: SQL Remote タブ [76 ページ]

このタブには複数の項目があります。

データベースのプロパティウィンドウ: プロファイリング設定タブ [77 ページ]

このタブには複数の項目があります。

DB 領域のプロパティウィンドウ: 一般タブ [78 ページ]

このタブには複数の項目があります。

ディレクトリアクセスサーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ [78 ページ]

ディレクトリアクセスサーバは、データベースサーバを実行しているコンピュータのローカルファイル構造へのアクセスを可能にするリモートサーバです。

ドメインのプロパティウィンドウ: 一般タブ [79 ページ]

このタブには複数の項目があります。

ドメインのプロパティウィンドウ: 検査制約タブ [79 ページ]

ドメインに適用される検査制約が表示されます。検査制約はドメインの作成時に定義されます。

トリガ条件の編集ウィンドウ [79 ページ]

このウィンドウには複数の項目があります。

イベントのプロパティウィンドウ: 一般タブ [80 ページ]

このタブには複数の項目があります。

イベントのプロパティウィンドウ: 条件タブ [81 ページ]

イベントがトリガされる条件を指定します。

外部環境のプロパティウィンドウ: 一般タブ [81 ページ]

このタブには複数の項目があります。

外部環境オブジェクトのプロパティウィンドウ: 一般タブ [82 ページ]

このタブには外部環境オブジェクトのプロパティが表示されます。外部オブジェクトを更新するには、**すぐに更新**をクリックします。

外部ログインのプロパティウィンドウ: 一般タブ [82 ページ]

このタブには外部ログインのプロパティが表示されます。

外部キーのプロパティウィンドウ: 一般タブ [82 ページ]

このタブには外部キーのプロパティが表示されます。

外部キーのプロパティウィンドウ: カラムタブ [84 ページ]

このタブには、外部キーのプライマリカラムと外部カラムが表示されます。

ファンクションのプロパティウィンドウ: 一般タブ [84 ページ]

このタブには複数の項目があります。

ファンクションのプロパティウィンドウ: パラメータタブ [85 ページ]

このタブには複数の項目があります。

グラフィカルなプランウィンドウ [85 ページ]

このウィンドウには複数の項目があります。

グループのオプションウィンドウ [85 ページ]

このウィンドウはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

グループのプロパティウィンドウ: 一般タブ [86 ページ]

このタブには複数の項目があります。

[グループのプロパティウィンドウ: 権限タブ \[87 ページ\]](#)

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

[インデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[88 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[インデックスのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[89 ページ\]](#)

インデックスのすべてのカラムと、その順序 (昇順または降順) が表示されます。新しいインデックスを作成するときにカラムの順序を設定します。カラムは、0 から始まるユニークな数値の順にソートされます。数値の順序によってインデックス内のカラムの相対的な位置が決まります。

[JAR ファイルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[89 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[Java クラスのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[90 ページ\]](#)

このタブには Java クラスのプロパティが表示されます。JAR ファイルの更新をクリックすると、JAR ファイルが更新されます。

[LDAP サーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[90 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[LDAP サーバのプロパティウィンドウ: 設定タブ \[90 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[LDAP サーバへの接続テストウィンドウ \[91 ページ\]](#)

LDAP サーバへの接続をテストします。LDAP サーバの検索 URL、アクセス識別名とパスワード、および認証 URL を検証します。

[Listener Properties ウィンドウ: 一般タブ \[92 ページ\]](#)

このウィンドウには接続リスナーのプロパティが表示されます。

[ログインマッピングのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[92 ページ\]](#)

このタブにはログインマッピングのプロパティが表示されます。

[ログインポリシーのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[92 ページ\]](#)

このタブにはログインポリシーのプロパティが表示されます。

[ログインポリシーのプロパティウィンドウ: オプションタブ \[92 ページ\]](#)

このタブにはログインポリシーのオプションのリストが表示され、オプション値を確認して編集できます。

[ログインポリシーのプロパティウィンドウ: ユーザタブ \[92 ページ\]](#)

このタブには、ログインポリシーに割り当てられたユーザの一覧が表示されます。

[マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[92 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[94 ページ\]](#)

このタブには、マテリアライズドビューに含まれるカラムが表示されます。

[マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: オプションタブ \[94 ページ\]](#)

このタブには、マテリアライズドビューの作成時に設定されたオプションがリストされます。

[マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: その他タブ \[95 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[メンテナンスプランレポートのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[95 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

メッセージタイプのプロパティウィンドウ: 一般タブ [96 ページ]

このタブには複数の項目があります。

メッセージタイプのプロパティウィンドウ: SQL Remote ユーザタブ [96 ページ]

このタブには複数の項目があります。

互換ロールの移行ウィンドウ [97 ページ]

このウィンドウで、互換ロールを、名前を変更したユーザ定義ロールに移行します。互換ロールは削除されます。

Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ [97 ページ]

このタブには Mobile Link ユーザの名前が表示されます。

Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウ: 接続タブ [97 ページ]

このタブには複数の項目があります。

Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウ: 拡張オプションタブ [99 ページ]

このタブには、Mobile Link ユーザに対して設定されている Mobile Link クライアント拡張オプションとその値がリストされます。Mobile Link ユーザの値を設定するには、オプション名の横にある値フィールドをクリックします。

ミューテックスおよびセマフォのプロパティウィンドウ: 一般タブ [99 ページ]

このタブには、ミューテックスまたはセマフォの一般的なプロパティの一覧が表示されます。

ミューテックスおよびセマフォのプロパティ: 接続タブ [101 ページ]

ミューテックスについて、このタブには、ミューテックスをロックした接続の一覧と、ミューテックスを待機している接続の一覧が表示されます。セマフォについて、このタブには、セマフォを待機している接続の一覧が表示されます。

新しいメンバーウィンドウ [101 ページ]

このタブには、データベースのすべてのユーザおよびロールの名前とコメントが表示されます。これらのユーザとロールを、選択したロールに追加できます。

新しいメンバーシップウィンドウ [101 ページ]

このタブには、データベースのすべてのロールの名前とコメントが表示されます。これらのロールに、選択したユーザまたはロールを追加できます。

ODATA プロデューサのプロパティウィンドウ: 一般タブ [101 ページ]

ODATA プロデューサの有効化または無効化、および認証とデータベース管理者の設定の確認を行うには、このタブを使用します。

ODATA プロデューサのプロパティウィンドウ: [オプション] タブ [101 ページ]

このウィンドウには、ODATA プロデューサのオプションとその値の一覧が表示されます。

ODATA プロデューサのプロパティウィンドウ: Service Model タブ [101 ページ]

ODATA プロデューサのサービスモデルの確認および更新を行うには、このタブを使用します。

ODATA プロデューサのサービスモデルの更新ウィンドウ [101 ページ]

ODATA プロデューサの更新済みサービスモデルへのファイルパスを指定するには、このタブを使用します。

オプションウィンドウ [102 ページ]

このタブには複数の項目があります。

compatibility-role-name のオプション [102 ページ]

このウィンドウは、ログインをサポートするシステムロール (PUBLIC、dbo、diagnostics、rs_systabgroup、SA_DEBUG など) またはユーザ拡張ロールに、複数の互換ロールの 1 つが付与された場合にのみ使用されます。

system-privilege のオプション [102 ページ]

このウィンドウを使用して、システム権限が適用されるユーザを制限します。

パラメータのプロパティウィンドウ: 一般タブ [103 ページ]

このタブには複数の項目があります。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: 一般タブ \[104 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: ユーティリティタブ \[106 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: テーブルデータタブ \[108 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: 自動更新タブ \[108 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[DB 領域の事前割り付けウィンドウ \[108 ページ\]](#)

DB 領域に事前割り付けする領域のサイズを指定します。DB 領域にディスク領域を事前割り付けすると、対応するデータベースファイルのサイズがその分だけ大きくなります。

[プライマリキーのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[109 ページ\]](#)

このタブには、プライマリキーのプロパティ (プライマリキーが適用されるテーブル、プライマリキーを適用するために使用されるインデックスなど) が表示されます。

[プライマリキーのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[109 ページ\]](#)

このタブには、プライマリキーに含まれるカラムが表示されます。

[プロシージャのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[109 ページ\]](#)

このタブにはプロシージャのプロパティ (コードが最後に保存された構文など) が表示されます。

[プロシージャのプロパティウィンドウ: パラメータタブ \[109 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[プロキシテーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[109 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[プロキシテーブルのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[110 ページ\]](#)

プロキシテーブルのすべてのカラムと、その型の一覧が表示されます。

[プロキシテーブルのプロパティウィンドウ: その他タブ \[110 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[110 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: テーブルタブ \[111 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[111 ページ\]](#)

カラムタブを使用すると、テーブルからカラムを選択して、クライアントデータベースに入るアーティクルのリストにカラムを追加できます。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: WHERE 句タブ \[111 ページ\]](#)

Mobile Link と SQL Remote のパブリケーション用に定義されたアーティクルでは、WHERE 句を使用して、アーティクル内にテーブルのローのサブセットが含まれるように定義します。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: SUBSCRIBE BY 制限タブ \[112 ページ\]](#)

SUBSCRIBE BY 制限タブでは、アーティクルに入れるテーブルのローのサブセットを定義できます。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: アップロードプロシージャタブ \[112 ページ\]](#)

このタブは、スクリプト化されたアップロードパブリケーションだけに適用されます。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: 接続タブ \[113 ページ\]](#)

接続タブで指定できる設定は、使用する通信プロトコルによって決まります。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: 拡張オプションタブ \[115 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[パブリッシャのオプションウィンドウ \[116 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[パブリッシャのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[116 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[パブリッシャのプロパティウィンドウ: 権限タブ \[117 ページ\]](#)

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

[クエリ書き換え最適化履歴ウィンドウ \[118 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[データの再表示ウィンドウ \[118 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[リモートプロシージャのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[119 ページ\]](#)

このタブにはリモートプロシージャのプロパティ (構文など) が表示されます。

[リモートプロシージャのプロパティウィンドウ: パラメータタブ \[120 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[リモートサーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[120 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[リモートユーザのオプションウィンドウ \[121 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[リモートユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[122 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[リモートユーザのプロパティウィンドウ: 権限タブ \[123 ページ\]](#)

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

[リモートユーザのプロパティウィンドウ: SQL Remote タブ \[123 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[ロールのオプションウィンドウ \[124 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[ロールのプロパティウィンドウ \[125 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[スケジュールのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[125 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[スケジュールのプロパティウィンドウ: 再帰タブ \[126 ページ\]](#)

このタブの設定はすべてオプションです。

[シーケンスジェネレータのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[126 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[サーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[127 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

サーバのプロパティウィンドウ: 詳細情報タブ [127 ページ]

このウィンドウには、データベースサーバのプロパティとその値の詳細情報が表示されます。値を更新するには、**再表示**をクリックするか、F5を押します。

サーバのプロパティウィンドウ: オプションタブ [127 ページ]

このタブにあるデータベースサーバオプションは、データベースサーバの実行中にリセットできるオプションに対応しています。

サーバのプロパティウィンドウ: 要求ロギングタブ [128 ページ]

このタブには複数の項目があります。

サービスのプロパティウィンドウ: 一般タブ [129 ページ]

このタブには複数の項目があります。

サービスのプロパティウィンドウ: 設定タブ [131 ページ]

このタブには複数の項目があります。

サービスのプロパティウィンドウ: アカウントタブ [131 ページ]

このタブには複数の項目があります。

サービスのプロパティウィンドウ: 依存性タブ [132 ページ]

このタブには複数の項目があります。

統合ユーザの設定ウィンドウ [133 ページ]

1つのデータベースで選択できる統合ユーザは1名のみです。

クラスターインデックスの設定ウィンドウ [133 ページ]

インデックスをクラスター化するには、このウィンドウを使用します。

パブリッシャの設定ウィンドウ [133 ページ]

1つのデータベースで選択できるパブリッシャは1つのみです。

サービスグループの設定ウィンドウ [133 ページ]

このウィンドウには複数の項目があります。

空間参照系のプロパティウィンドウ: 一般タブ [134 ページ]

このタブには複数の項目があります。

空間参照系のプロパティウィンドウ: 設定タブ [134 ページ]

このタブには複数の項目があります。

空間参照系のプロパティウィンドウ: 座標系タブ [135 ページ]

このタブには複数の項目があります。

空間参照系のプロパティウィンドウ: 変換定義タブ [137 ページ]

このタブでは、空間参照系で使用される変換定義を指定します。

SQL Remote サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 一般タブ [137 ページ]

このタブには複数の項目があります。

SQL Remote サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 詳細タブ [138 ページ]

このタブには複数の項目があります。

SQL 文の詳細ウィンドウ [138 ページ]

SQL 文の詳細ウィンドウには、SQL 文情報ウィンドウ枠とクエリ情報ウィンドウ枠があります。

データベースの開始ウィンドウ [140 ページ]

このウィンドウには複数の項目があります。

[同期プロファイルを使用して同期ウィンドウ \[140 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 一般 \[141 ページ\]](#)

このタブには同期プロファイルのプロパティが表示されます。

[同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 基本 Dbmsync タブ \[141 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 詳細 Dbmsync \[142 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[同期プロファイルのプロパティウィンドウ: その他の Dbmsync \[144 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 接続 \[145 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 拡張オプション \[146 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[同期サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[148 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[同期サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 接続タブ \[148 ページ\]](#)

接続タブで指定できる設定は、使用する通信プロトコルによって決まります。

[同期サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 拡張オプションタブ \[151 ページ\]](#)

このタブには、Mobile Link ユーザに対して設定されている拡張オプションとその値がリストされます。Mobile Link ユーザの値を設定するには、オプション名の横にある値フィールドをクリックします。

[システム権限のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[151 ページ\]](#)

このタブにはシステム権限のプロパティが表示されます。

[システムロールのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[151 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[システムロールのオプションウィンドウ \[152 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[システムトリガのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[153 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[153 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[テーブルのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[154 ページ\]](#)

テーブルのすべてのカラムと、その ID、データ型、コメントがリストされます。

[テーブルのプロパティウィンドウ: その他タブ \[154 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[所有者を変更ウィンドウ \[155 ページ\]](#)

テーブルの所有者を変更するには、このウィンドウを使用します。

[テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[155 ページ\]](#)

このタブにはテキスト設定オブジェクトのプロパティ (使用される照合など) が表示されます。

[テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: 設定タブ \[155 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: ストップリストタブ \[156 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: オプション \[156 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[テキストインデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[157 ページ\]](#)

このタブで、選択したテキストインデックスに関する情報を指定します。

[テキストインデックスのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[158 ページ\]](#)

テーブルのすべてのカラムと、その ID、データ型、コメントがリストされます。

[データの再表示 \(テキストインデックス\)ウィンドウ \[158 ページ\]](#)

次のいずれかの独立性レベルを選択し、基本となるベーステーブルで再表示中に使用するロックの種類を指定します。

[Time Zone Properties ウィンドウ: 一般タブ \[159 ページ\]](#)

タイムゾーンの設定を調整するには、このタブを使用します。

[Time Zone Properties ウィンドウ: Daylight Savings Time タブ \[159 ページ\]](#)

夏時間の設定を調整するには、このタブを使用します。

[イベントのトリガウィンドウ \[159 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[トリガのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[159 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[一意性制約のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[160 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[一意性制約のプロパティウィンドウ: カラムタブ \[160 ページ\]](#)

一意性制約のすべてのカラムと、その型およびコメントがリストされます。

[測定単位プロパティウィンドウ一般タブ \[161 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[データのアンロードウィンドウ \[161 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[外部環境オブジェクトの更新ウィンドウ \[162 ページ\]](#)

更新された外部オブジェクトのロケーションを指定します。

[JAR ファイルの更新ウィンドウ \[162 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[Java クラスの更新ウィンドウ \[162 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[ユーザのオプションウィンドウ \[163 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[163 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[ユーザのプロパティウィンドウ: 権限タブ \[164 ページ\]](#)

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

[ユーザ拡張ロールのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[165 ページ\]](#)

ユーザ拡張ロールはロールに拡張されたユーザであり、ユーザ定義ロールの 1 つのタイプです。ユーザ拡張ロールのプロパティを表示し、そのパスワードをリセットするには、このタブを使用します。

[ユーザ拡張ロールのオプションウィンドウ \[166 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[ビューのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[167 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[ビューのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[168 ページ\]](#)

このタブには、ビューに含まれるカラムが表示されます。

[変数のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[168 ページ\]](#)

このタブには変数のプロパティが表示されます。

[変数のプロパティウィンドウ: データ型タブ \[168 ページ\]](#)

このタブには、変数のデータ型の一覧が表示されます。

[変数のプロパティウィンドウ: 値タブ \[168 ページ\]](#)

変数の初期値の表示と編集を行うには、このタブを使用します。

[Web サービスのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[168 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[Web サービスのプロパティウィンドウ: SQL 文タブ \[170 ページ\]](#)

Web サービスの SQL 文が表示されます (特定の SQL 文が指定されている場合)。または、Web サービスの SQL 文を指定できます。

[Windows Mobile の SQL Remote 用メッセージタイプウィンドウ \[171 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[デバッグのヘルプ \[173 ページ\]](#)

デバッグのヘルプを受け取るには複数の方法があります。

[インデックスコンサルタント \[176 ページ\]](#)

インデックスコンサルタントは、ユーザがデータベースのインデックスを適切に選択できるように支援します。

[Ultra Light プロジェクト \[176 ページ\]](#)

9.0.2 以前のバージョンでは、リファレンスデータベース内の SQL 文を Ultra Light プロジェクトに割り当てることができます。

[Ultra Light 文 \[176 ページ\]](#)

9.0.2 以前のバージョンでは、Ultra Light アプリケーションで使用できるデータアクセス要求を定義するには、リファレンスデータベースで、そのアプリケーションの Ultra Light プロジェクトに SQL 文のセットを追加します。

[パブリケーション \[177 ページ\]](#)

パブリケーションとは、同期されるデータを識別するデータベースオブジェクトです。

[アーティクル \[177 ページ\]](#)

Mobile Link または SQL Remote では、アーティクルは、テーブル全体もしくはテーブル内のカラムとローのサブセットを表します。

[サブスクリプション \[177 ページ\]](#)

Mobile Link では、同期サブスクリプションは、特定の Mobile Link ユーザをパブリケーションとリンクします。

[インデックスフォルダ \[177 ページ\]](#)

インデックスフォルダを使用して、データベース内のすべてのインデックスを表示できます。

テーブルの編集の取り消し [178 ページ]

SQL Central でテーブルを編集するときに、ローごとに変更を取り消すことができます。

QAnywhere [179 ページ]

QAnywhere のサポートは、廃止され、削除されました。QAnywhere を管理するには、SQL Central の以前のバージョンに含まれる QAnywhere プラグインを使用する必要があります。

1.9.1 サービスの依存の追加ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

候補リストからサービスを 1 つ以上選択します

システムのサービスがすべてリストされます。表示されたリストからサービスを選択して **OK** をクリックすると、そのサービスが、**サービスのプロパティ**ウィンドウの**依存性**タブにあるサービスとサービスグループのリストに追加されます。

Ctrl キーを押したままをクリックすると複数のサービスを選択できます。サービスをダブルクリックすると、選択したサービスが**依存性**タブのリストに追加され、ウィンドウが閉じます。

1.9.2 サービスグループの依存の追加ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

候補リストからサービスグループを 1 つ以上選択します

システムのサービスグループがすべてリストされます。表示されたリストからサービスグループを選択して **OK** をクリックすると、そのサービスグループが、**サービスのプロパティ**ウィンドウの**依存性**タブにあるサービスとサービスグループのリストに追加されます。

Ctrl キーを押したままをクリックすると複数のサービスグループを選択できます。ダブルクリックすると、選択したサービスグループが**依存性**タブのリストに追加され、ウィンドウが閉じます。

1.9.3 トレーシングレベルの追加ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

スコープ

ドロップダウンリストからオプションを選択すると、トレーシングのスコープを指定できます。選択するスコープによっては、別のドロップダウンリストが表示される場合があります。たとえば、**Origin** を選択すると、**Origin** ドロップダウンリストが表示されます。

トレーシングタイプ

ドロップダウンリストからオプションを選択すると、トレーシングのタイプを指定できます。使用できるトレーシングタイプは、選択したスコープによって異なります。

条件

ドロップダウンリストからオプションを選択すると、条件を指定できます。使用できる条件は、選択したトレーシングタイプによって異なります。

値 (ミリ秒)

選択した条件の値をミリ秒単位で入力します。このオプションは、条件を選択した場合にのみ使用できます。

1.9.4 アーティクルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

Mobile Link または SQL Remote において、アーティクルとは、テーブル全体もしくはテーブル内のカラムとローのサブセットを表すデータベースオブジェクトを指します。アーティクルの集合がパブリケーションです。

1.9.5 アーティクルのプロパティウィンドウ: カラムタブ

このタブを使用すると、テーブルからすべてのカラムまたは一部のカラムを選択できます。

このアーティクルには次のカラムが含まれています

すべてのカラム

このオプションを選択すると、テーブルのすべてのカラムがアーティクルに入ります。

選択したカラム

このオプションを選択すると、テーブルの一部のカラムのみがアーティクルに入ります。このオプションを選択すると、選択したカラムリストのカラム名の横にあるチェックボックスが使用可能になります。このリストには、アーティクルの基になるテーブルのすべてのカラムが含まれています。

このオプションを選択するときは、少なくとも 1 つのカラムをアーティクルに入れてください。カラムをアーティクルに含めるには、カラム名の横にあるチェックボックスを選択します。すると、チェックマークが表示されます。

1.9.6 アーティクルのプロパティウィンドウ: WHERE 句タブ

WHERE 句タブは、アーティクルが含まれるパブリケーションのタイプがログスキャンの場合にのみ表示されます。

Mobile Link と SQL Remote のパブリケーション用に定義されたアーティクルでは、WHERE 句を使うことによって、アーティクル内にテーブルのローのサブセットが含まれるように定義できます。

このアーティクルには次の **WHERE** 句があります

ウィンドウで WHERE 句を編集して、アーティクルに含まれるテーブルローを制限できます。

たとえば、次のように入力すると、給与が \$50000 を上回るローのみが含まれます。

```
WHERE Salary > 50000
```

1.9.7 アーティクルのプロパティウィンドウ: *SUBSCRIBE BY* 制限タブ

このタブは、Mobile Link と SQL Remote だけに適用されます。

なし

SUBSCRIBE BY カラムまたは *SUBSCRIBE BY* 句を使用してローを分割することのないように、アーティクルを設定します。

カラム

カラム (*SUBSCRIBE BY* カラム) に基づいてテーブルのローを分割するように、アーティクルを設定します。このオプションを選択した場合は、ドロップダウンリストからカラムを選択してください。

式

下のフィールドに指定した式に基づいてテーブルのローを分割するように、アーティクルを設定します。

1.9.8 証明書のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには証明書のプロパティが表示されます。更新された証明書ファイルで証明書を置き換えるには、[すぐに更新](#)をクリックします。証明書ファイルはクライアントコンピュータ上にある必要があります。

1.9.9 証明書のプロパティウィンドウ: 属性タブ

このタブには、証明書の属性とその値の一覧が表示されます。

1.9.10 証明書の更新ウィンドウ

指定したファイルのデータベースにある証明書を置き換えます。

1.9.11 設定の変更ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

NULL 値の入力可

外部キーカラムに NULL 値を入力できるかどうかを決定します。このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムの NULL 入力可を、はいに設定してください。

一致タイプ

単純

このオプションを選択すると、参照元テーブルでキー内の 1 つ以上のカラムが NULL であるか、すべてのカラム値が、参照先テーブルのローにある対応するカラム値と一致する場合に一致すると見なされます。このオプションは、**NULL 値の入力可**を選択した場合にのみ使用できます。

完全

このオプションを選択すると、キーのすべてのカラム値が NULL の場合、またはすべてのカラム値が参照先テーブルのローにある値と一致する場合に、参照テーブルのローに一致が発生するとみなされます。このオプションは、**NULL 値の入力可**を選択した場合にのみ使用できます。

更新アクション

次のいずれかの設定を使用して、ユーザがデータを更新しようとしたときのテーブルの動作を定義します。

使用不可

対応する外部キーがない場合は、関連するプライマリテーブルのプライマリキーの値を更新できないようにします。
値をカスケード

関連するプライマリキーの新しい値と一致するように、外部キーを更新します。

値を NULL に設定

関連するプライマリテーブルの更新されたプライマリキーに対応する外部キー値を、すべて NULL に設定します。

値をデフォルトに設定

更新または削除されたプライマリキー値に一致する外部キーの値を、それぞれの外部キーカラムの DEFAULT 句で指定した値に設定します。このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムにデフォルト値を設定してください。

削除アクション

次のいずれかの設定を使用して、ユーザがデータを削除しようとしたときのテーブルの動作を定義します。

使用不可

テーブルに対応する外部キーがない場合は、関連するプライマリテーブルのプライマリキーの値を削除できないようにします。

値をカスケード

関連するプライマリテーブルで削除されたプライマリキーと一致するローをこのテーブルから削除します。

値を NULL に設定

関連するプライマリテーブルで削除されたプライマリキーに対応するこのテーブルの外部キー値をすべて NULL に設定します。このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムの NULL 入力可を、はいに設定してください。

値をデフォルトに設定

更新または削除されたプライマリキー値に一致する外部キーの値を、それぞれの外部キーカラムの DEFAULT 句で指定した値に設定します。このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムにデフォルト値を設定してください。

コミット時のみにチェック

データベースの COMMIT が完了するまで待機してからこの外部キーの整合性をチェックし、wait_for_commit データベースオプションの設定を上書きするようにします。

1.9.12 トレーシングレベルの変更ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

データベースについて次のレベルが現在格納されています

データベースのトレーシングレベルのリストが表示されます。各レベルのスコープ、名前、レベル、条件、値が表示されます。

有効カラムで、レベルの横にあるチェックボックスをオンにすると、そのレベルが有効になります。チェックボックスをオフにすると、レベルは有効になりません。

新規

トレーシングレベルの追加ウィンドウが表示され、新しいトレーシングレベルを作成できます。

削除

選択されているトレーシングレベルが削除されます。これは、レベルを選択した場合にのみ使用できます。

再表示

トレーシングレベルのリストが再表示されます。これは、1つ以上のレベルの有効化オプションを変更した場合にのみ使用できます。

1.9.13 ユーザを統合ユーザに変更ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

ユーザ

選択されているユーザの名前が表示されます。

メッセージタイプ

パブリッシャと通信するためのメッセージタイプを選択します。

アドレス

レプリケーションメッセージの送信先を入力します。パブリッシャと統合ユーザは個別のアドレスを持っています。選択したメッセージタイプに対して有効なアドレスを入力してください。

送信頻度

次のいずれかの値を選択することで、Message Agent (dbremote) の実行頻度を指定します。

送信して閉じる

このオプションを選択すると、Message Agent (dbremote) が 1 回の実行で保留中のすべてのメッセージをこの統合ユーザへ送信してから停止するように、レプリケーションの頻度が設定されます。パブリッシャがメッセージを送信する前に毎回 Message Agent を再起動する必要があります。このオプションはリモートサイトで Message Agent を実行する場合にのみ有用です。

次の間隔で送信

このオプションを選択すると、Message Agent (dbremote) の実行を継続し、この統合ユーザに指定の間隔でメッセージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定されます。このオプションは統合サイトでもリモートサイトでも有用です。

毎日次の時刻に送信

このオプションを選択すると、Message Agent (dbremote) の実行を継続し、この統合ユーザに毎日指定時刻にメッセージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定されます。このオプションは特にリモートサイトで有用です。

1.9.14 リモートユーザに変更ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

ユーザ

選択されているユーザの名前が表示されます。

メッセージタイプ

パブリッシャと通信するためのメッセージタイプを選択します。

アドレス

レプリケーションメッセージの送信先を入力します。パブリッシャとリモートユーザは個別のアドレスを持っています。選択したメッセージタイプに対して有効なアドレスを入力してください。

送信頻度

次のいずれかの値を選択することで、Message Agent (dbremote) の実行頻度を指定します。

送信して閉じる

このオプションを選択すると、パブリッシャのエージェントが 1 回の実行で保留中のすべてのメッセージをこのリモートユーザへ送信し、終了後シャットダウンするように、レプリケーションの頻度が設定されます。エージェントは、パブリッシャがメッセージを送信する前に毎回再起動する必要があります。このオプションはリモートサイトで Message Agent (dbremote) を実行する場合にのみ有用です。

次の間隔で送信

このオプションを選択すると、パブリッシャのエージェントの実行を継続し、このリモートユーザに指定の間隔でメッセージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定されます。このオプションは統合サイトでもリモートサイトでも有用です。

毎日次の時刻に送信

このオプションを選択すると、パブリッシャのエージェントの実行を継続し、このリモートユーザに毎日指定時刻にメッセージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定されます。このオプションは特にリモートサイトで有用です。

1.9.15 検査制約のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには検査制約のプロパティが表示されます。

名前

選択されている検査制約の名前が表示されます。このフィールドは編集できます。

テーブル

検査制約が属するテーブルを表示します。

カラム

検査制約が適用されるカラムを表示します。この情報が表示されるのはカラム検査制約の場合だけです。テーブル検査制約の場合は表示されません。

1.9.16 検査制約のプロパティウィンドウ: 定義タブ

検査制約を指定します。カラム検査制約では、指定された型を持つすべてのカラムの入力値が適切であることが保証されるのに対し、テーブル検査制約では、特定のテーブル内のローが制約に違反していないことが保証されます。

1.9.17 カラムのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブにはカラムのプロパティが表示されます。

1.9.18 カラムのプロパティウィンドウ: データ型タブ

このタブには複数の項目があります。

組み込みタイプ

このオプションを選択すると、カラムの組み込みデータ型をドロップダウンリストから選択できます。組み込みデータ型の例には、整数、文字列、日付などがあります。これらのデータ型の中には、サイズか位取りまたはその両方を指定できるものもあります。

サイズ	文字列カラムの場合は長さ、または数値カラムの場合は 10 進法計算の結果における小数点の左右の合計桁数を指定します。数値カラムのサイズは precision 値とも呼ばれます。
単位	データ型のサイズに対応する単位が表示されます。考えられる単位には、 ビット 、 バイト 、 文字 、または 桁 があります。 CHAR と VARCHAR の各データ型には、 bytes または characters の単位を指定できます。
位取り	計算結果が最大 precision 値にトランケートされる場合の、小数点以下の最小桁数を指定します。

空間参照系を設定

このオプションを選択して、空間参照系を指定します。このオプションは、**組み込みタイプ**フィールドで空間データ型 (ST_Point、ST_Polygon など) を指定した場合に使用できます。使用可能な空間参照系には、**0: デフォルト**、**4326: WGS 84**、**1000004326: WGS 84 (平面)**、**2147483646: sa_planar_unbounded**、および **2147483647: sa_octahedral_gnomonic** があります。

ドメイン

このオプションを選択すると、ドロップダウンリストからドメインを選択できます。ドメインとは、組み込みデータ型、デフォルト値、CHECK 条件、NULL 値の許容を組み合わせで名前を付けたものです。

Java クラス

このオプションは、バージョン 8.0.x のデータベースにのみ表示されます。このオプションを選択すると、カラムの Java クラスをドロップダウンリストから選択できます。

値を圧縮

このオプションを選択すると、カラムの値が圧縮されます。カラムを圧縮すると、インデックス、データの比較、統計の生成などのデータベースサーバのアクティビティの処理速度が、圧縮したカラムを対象とする場合に、遅くなる可能性があります。これは、値を書き込むときに圧縮し、読み込むときに解凍する必要があるためです。

大きな値の BLOB インデックスを維持

このオプションを選択すると、大きな値の BLOB インデックスを維持できます。このオプションは、文字型、バイナリ型、ビット型だけに使用できます。

1.9.19 カラムのプロパティウィンドウ: 値タブ

このタブには複数の項目があります。

デフォルト値または計算値なし

カラムにデフォルト値または計算値を設定しない場合は、このオプションを選択します。

デフォルト値

カラムにデフォルト値を設定する場合は、このオプションを選択します。カラムがドメインに基づいている場合、この設定はドメインのデフォルト値 (存在する場合) を継承しますが、カラム用の値を優先させることもできます。デフォルト値オプションを選択すると、ユーザ定義 オプションとシステム定義オプションが有効になります。

ユーザ定義

デフォルト値にユーザ定義の値 (文字列、数字、またはその他の式) を入力します。カラムがドメインに基づいている場合、ドメインのデフォルト値 (存在する場合) を維持するか、またはカラムの値を優先させることができます。

リテラル文字列

カラムのデフォルト値をリテラル文字列として扱うかどうかを指定します。このオプションは、文字カラムと文字ベースタイプのドメインの場合はデフォルトで選択されています。このオプションを選択すると、デフォルトのテキストを一重引用符で囲んだり、文字列に埋め込んだ引用符や円記号をエスケープする必要はありません。

このオプションをクリアすると、引用符やエスケープの自動処理がオフになり、指定したデフォルト値のテキストがそのままデータベースサーバに渡されます。

システム定義

デフォルト値に定義済みの値 (現在の日付など) を選択します。値はドロップダウンリストから選択します。カラムがドメインに基づいている場合、ドメインのデフォルト値 (存在する場合) を維持するか、またはカラムの値を優先させることができます。

分割サイズ

システム定義値としてグローバルオートインクリメントを選択した場合は、分割サイズも指定できます。

計算値

このオプションは、カラムの計算値を定義するときに選択します。計算カラムの値は、他のカラムの値から計算して得ることができます。テキストボックスに式を入力し、その式で他のカラムとの関係と計算カラムに表示される値を記述してください。

1.9.20 カラムのプロパティウィンドウ: 制約タブ

カラムの制約を設定します。

NULL 値を許可

カラムの値に NULL 値を許可する場合は、このオプションを選択します。カラムがドメインに基づいている場合は、ドメインの NULL 値の許容を維持するか、またはカラムの値を優先させることができます。

NULL 値を禁止

このカラムで重複値を許容し、NULL 値を許容しないときは、このオプションを選択します。

NULL 値を禁止し、ユニークな値であること

NULL 値を許容せず、カラムの値を必ずユニークにする場合は、このオプションを選択します。カラムの組み込みデータ型に空間データ型を指定した場合、またはベースタイプが空間データ型のドメインを指定した場合、このオプションは無効になります。

関連情報

[カラムのプロパティウィンドウ: データ型タブ \[234 ページ\]](#)

1.9.21 カラムのプロパティウィンドウ (ビュー): 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

選択されているカラムの名前が表示されます。

ビュー

カラムが属するビューの名前と所有者が表示されます。

データ型

選択されているカラムのデータ型が表示されます。

NULL 入力可

選択されたカラムで NULL 値を許可するかどうかが表示されます。

1.9.22 互換ロールのプロパティウィンドウ

このタブには互換ロールのプロパティが表示されます。

1.9.23 タイプフィルタの設定ウィンドウ

このタブには複数の項目があります。

データベース

このデータベースの名前が表示されます。

表示するオブジェクトタイプを選択してください

データベースに接続しているすべてのオブジェクトの名前が表示されます。SQL Central の左ウィンドウ枠にオブジェクトを表示するには、オブジェクトの横のチェックボックスをオンにします。

これを新しいデータベースのデフォルトのタイプフィルタにする

このオプションを選択すると、指定したフィルタがデフォルトのタイプフィルタとして設定されます。このフィルタは、タイプフィルタが関連付けられていないデータベースにおいてオブジェクトをフィルタするために使用されます。たとえば、新しいデータベースに接続すると、このフィルタが SQL Central の左ウィンドウ枠内のオブジェクトに適用されます。

このオプションをクリアすると、デフォルトのタイプフィルタがリセットされます。

1.9.24 所有者フィルタの設定ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

データベース

選択されているデータベースの名前が表示されます。

表示するオブジェクトを持つユーザとグループを選択してください

データベースに接続しているすべてのユーザとグループの名前とコメントがリストされます。SQL Central の左ウィンドウ枠にオブジェクトを表示するには、ユーザまたはオブジェクトの横のチェックボックスをオンにします。

システムテーブルはユーザ SYS が所有します。

1.9.25 (ブロックされた) 接続の詳細ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

接続 ID

選択されているブロックされた接続の接続 ID が表示されます。

接続名

接続の名前が表示されます。

ユーザ

接続時のユーザ ID が表示されます。

通信リンク

通信リンクのタイプが表示されます。

ノードアドレス

クライアント/サーバ接続のクライアント側に対応するノードアドレスが表示されます。

アプリケーション情報

アプリケーション情報が表示されます。

接続時刻

接続の開始時刻が表示されます。

切断時刻

接続が切断された時刻が表示されます。

1.9.26 接続プロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

接続 ID

ユーザの接続 ID が表示されます。ユーザがデータベースに接続すると、データベースサーバはその接続にユニークな接続 ID を割り当てます。データベースサーバに対して新しく接続するたびに、サーバは接続 ID 値を 1 ずつ増やします。

ユーザ

データベースユーザ ID が表示されます。

接続名

ユーザが接続しているデータベースの接続名が表示されます。接続に名前を付けると、同じデータベースへの複数の接続や、同じまたは異なるデータベースサーバへの複数の接続を簡単に識別できるようになります。

通信リンク

ユーザの接続に使用する通信リンクのタイプが表示されます。SQL Anywhere クライアントとネットワークデータベースサーバを接続する場合、リンクタイプは、使用するネットワークプロトコルを表します。

ノードアドレス

クライアント/サーバ接続のクライアント側に対応するノードが表示されます。クライアントとサーバの両方が同じコンピュータにある場合は、空の文字列を返します。

最終要求タイプ

最終要求のタイプが表示されます。

最終要求時刻

この接続に対する最終要求の開始時刻が表示されます。

接続のブロック

接続をブロックするかどうかが表示されます。現在の接続がブロックされていない場合は、このフィールドは空白です。ブロックされている場合は、接続がブロックされている接続番号がこのフィールドに表示されます。

1.9.27 接続プロパティウィンドウ: 詳細情報タブ

このタブには接続しているユーザのプロパティが表示されます。

接続ユーザのプロパティリスト

接続しているユーザのプロパティの名前と値がリストされます。値を更新するには、**再表示**をクリックします。F5 キーを押しても、値を再表示できます。

再表示

このボタンをクリックすると、**接続ユーザのプロパティリスト**の値が更新されます。

説明

選択されているプロパティに関する説明です。

1.9.28 統合ユーザのオプションウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

i 注記

オプション設定を変更した場合、直ちに有効になる設定もあれば、データベースを再起動しなければ有効にならない設定もあります。

統合ユーザ

選択した統合ユーザの名前が表示されます。

表示

オプションタイプのリストが表示されます。たとえば、データベースオプションを選択すると、データベースに関連するオプションのみがオプションリストに表示されます。

オプションリスト

表示リストで選択したオプションのタイプに基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。

値

オプションリストからオプションを選択して、**値**フィールドに設定を入力または選択します。**恒久的な設定を行う**をクリックすると、恒久的な設定にできます。ただし、オプションに PUBLIC ロールの設定をしていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値を設定することはできません。

オプションの選択を終えたら、ウィンドウの横にあるボタンを使用できます。

新規

統合ユーザのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。新しいオプションを追加するには、**データベースオプションウィンドウ**を開いてください。

すぐに削除

統合ユーザのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。オプションを削除するには、**データベースオプションウィンドウ**を開いてください。

恒久的な設定を行う

統合ユーザのオプション設定を恒久的に変更するには、[オプションリスト](#)からオプションを選択して、設定を値フィールドに入力し、[恒久的な設定を行う](#)をクリックします。

恒久的な値は、次に明示的に変更されるまでは、セッションが変わっても有効です。

1.9.29 統合ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

統合ユーザの名前が表示されます。

この統合ユーザにパスワードを設定

このオプションを選択して、ユーザにパスワードを割り当てます。パスワードが割り当てられていないユーザは接続できません。ただし、パスワードがあってもユーザが接続できない場合もあります。たとえば、ユーザアカウントがロックされている場合があります。このオプションをクリアすると、ユーザのパスワードが削除され、[パスワードフィールド](#)と[パスワードの確認フィールド](#)が無効になります。

パスワード

ユーザのパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワードの確認

[パスワードフィールド](#)に入力したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィールドの内容は、完全に一致している必要があります。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワード作成時刻

現在のパスワードが作成された日付と時刻を示します。

次回ログイン時にパスワードの変更を要求する

このオプションを選択すると、ユーザは次回ログインするときに新しいパスワードを作成する必要があります。

ログインポリシー

ユーザのログインポリシーを指定します。

最終ログイン時刻

ユーザが最後にログインした日付と時刻を示します。

失敗ログインの試行回数

ユーザがログインしようとして失敗した回数を示します。

ロック

ユーザのアカウントがロックされているかどうかを示します。ユーザがデータベースからロックされていない場合は、[いいえ](#)と表示されます。

すぐにロック解除

このボタンをクリックすると、ユーザのアカウントのロックがデータベースから解除されます。ユーザのログインポリシーで次のオプションが1つ以上設定されている場合、[すぐにロック解除](#)は無効になります。

- [ロック](#)= オン
- [max_connections](#)=0
- [max_failed_login_attempts](#)=0

識別名

ユーザが LDAP によって認証された場合、ユーザの識別名 (DN) を示します。

すぐにクリア

キャッシュされている DN をこのユーザのデータベースからクリアし、次回ユーザが LDAP サーバに認証されるときにデータベースサーバによって DN が再フェッチされます。

1.9.30 統合ユーザのプロパティウィンドウ: 権限タブ

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

DBA

このオプションを選択すると、ユーザに DBA 権限が付与されます。DBA 権限を持つユーザは、データベースを完全に管理できます。

リソース

このオプションを選択すると、ユーザにリソース権限が付与されます。リソース権限を持つユーザは、データベースオブジェクトを作成できます。

リモート DBA

このオプションを選択すると、ユーザに REMOTE DBA 権限が付与されます。SQL Remote Message Agent (dbremote) を実行する際も、セキュリティホールを作らずにアクションを確実に実行できるように、REMOTE DBA 権限を持つユーザ ID を使用する必要があります。

バックアップ

このオプションを選択すると、ユーザにバックアップ権限が付与されます。

VALIDATE

このオプションを選択すると、ユーザに VALIDATE 権限が付与されます。VALIDATE 権限を持つユーザは、さまざまな VALIDATE 文による操作 (データベース、テーブル、インデックス、チェックサムなどの検証) を実行できます。

プロファイル

ユーザによるプロファイリングとデータベーストレーシングを許可します。

ファイル読み込み

SELECT 文の OPENSTRING 句を使用したクエリファイルの使用を許可します。

クライアントファイル読み込み

クライアントコンピュータにあるファイルの読み込みを許可します。

クライアントファイル書き込み

クライアントコンピュータにあるファイルへの書き込みを許可します。

1.9.31 統合ユーザのプロパティウィンドウ: SQL Remote タブ

このタブには複数の項目があります。

メッセージタイプ

パブリッシャと通信するためのメッセージタイプを選択できます。

アドレス

統合ユーザのリモートアドレスを入力できます。このアドレスは、ユーザに対してレプリケーションメッセージを送信するときの宛先です。指定したメッセージタイプに応じた文字列を入力します。

送信頻度

次のいずれかのオプションを選択して、メッセージを送信する頻度を設定します。

送信して閉じる

パブリッシャのエージェントが1回の実行で保留中のすべてのメッセージを統合ユーザに送信した後で停止するように、レプリケーションの頻度が設定されます。エージェントは、パブリッシャがメッセージを送信する前に毎回再起動する必要があります。

ほとんどのレプリケーション設定では、統合パブリッシャから統合ユーザにパブリケーションを送信する場合、このオプションは使用されません。

次の間隔で送信

パブリッシャのエージェントの実行を継続し、統合ユーザに指定の間隔でメッセージが送信されるようにレプリケーションの頻度が設定されます。

毎日次の時刻に送信

パブリッシャのエージェントの実行を継続し、統合ユーザに毎日指定時刻にメッセージが送信されるようにレプリケーションの頻度が設定されます。

1.9.32 トリガ条件の作成ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

条件

事前設定されたトリガ条件をリストから選択します。この条件と値（以下で指定）が満たされると、選択したイベントがトリガされます。

演算子

リストから演算子を選択します。比較演算子によって、トリガ条件の条件と値が比較されます。

値

条件の値を入力します。この値と条件（上記で指定）が満たされると、選択したイベントがトリガされます。

1.9.33 データベースオプションウィンドウ

このウィンドウで設定するすべてのオプションは、PUBLIC ロールに対して設定されます。

PUBLIC ロールのオプションの値を変更すると、まだ自分の値を設定していないすべてのユーザについて、オプションの値が設定されます。ただし、オプションに PUBLIC ロールの設定をしていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値を設定することはできません。

i 注記

オプションを変更した場合、すぐに有効になる設定もありますが、それ以外の設定を有効にするためにはデータベースを再起動してください。

このウィンドウには次の項目があります。

データベース

選択されているデータベースの名前が表示されます。

表示

オプションタイプのリストが表示されます。たとえば、**データベースオプション**を選択すると、データベースに関連するオプションのみが**オプションリスト**に表示されます。

オプションリスト

表示リストで選択したオプションのタイプに基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。オプションを選択すると、**値**フィールドが有効になります。

値

オプションリストからオプションを選択して、**値**フィールドで設定を入力または選択します。**恒久的な設定を行う**をクリックすると、恒久的な設定にできます。

新規

パブリックオプションの作成ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、新しいオプションを定義して値を設定できます。

オプションの選択を終えたら、ウィンドウの横にあるボタンを使用できます。

すぐに削除

選択されているオプションをリストから削除します。

恒久的な設定を行う

データベースのオプション設定を恒久的に変更するには、**オプション**リストからオプションを選択して、設定を**値**フィールドに入力し、**恒久的な設定を行う**をクリックします。

1.9.34 データベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブにリストされるデータベースのプロパティは、データベースを再構築しないかぎり変更できません。

名前

このデータベースの名前が表示されます。

ID

データベースサーバで起動されたデータベースごとに割り当てられているユニークな番号が表示されます。この番号により、同じデータベースサーバ上で実行している複数のデータベースを識別できます。

機能 ID

データベースに対して有効な機能ビットが表示されます。

Java のロケーション

データベースで使用される外部 Java VM の `java.exe` ファイルのロケーションが表示されます。

ページサイズ

データベースのページサイズがバイト単位で表示されます。

データベースファイル

データベースのルートデータベースファイルの名前とロケーションが表示されます。

ログファイル

データベースのトランザクションログファイルの名前とロケーションが表示されます。

ログミラーファイル

データベースのトランザクションログミラーファイルの名前とロケーションが表示されます。

テンポラリファイル

データベースのテンポラリファイルの名前とロケーションが表示されます。

ユーザ

このデータベースに接続しているユーザのユーザ ID が表示されます。

接続 ID

SQL Central からのデータベース接続の接続 ID が表示されます。

接続名

このデータベースに接続しているユーザの接続名が表示されます。接続に名前を付けると、同じデータベースへの複数の接続や、同じまたは異なるデータベースサーバへの複数の接続を簡単に識別できるようになります。

通信リンク

ユーザの接続に使用する通信リンクのタイプが表示されます。SQL Anywhere クライアントとネットワークデータベースサーバを接続する場合、リンクタイプは、使用するネットワークプロトコルを表します。

総接続数

SQL Central の接続も含め、すべてのユーザからの、データベースに対する現在の接続合計数が表示されます。

1.9.35 データベースのプロパティウィンドウ: 設定タブ

このタブにリストされるデータベースのプロパティは、データベースを再構築しないかぎり変更できません。

このタブには次の項目があります。

暗号化タイプ

暗号化スコープの設定に合わせて使用される暗号化アルゴリズムを示します。暗号化スコープがデータベースまたはテーブルの場合 (つまり、データベースが暗号化されるか、テーブルの暗号化が有効である場合)、暗号化タイプは簡易、AES、AES256、AES_FIPS、または AES256_FIPS のいずれかです。暗号化スコープがなしの場合、暗号化タイプは、なしになります。

暗号化スコープ

データベースが暗号化されるか、データベースのテーブルの暗号化が有効になっているかを示します。値は、テーブル、データベース、なしのいずれかです。設定がテーブルの場合、テーブルの暗号化が有効で、データベースは暗号化されません。設定がデータベースの場合、データベースが暗号化され、テーブルの暗号化は有効になりません。設定がなしの場合、データベースは暗号化されず、テーブルの暗号化は有効になりません。

大文字と小文字を区別

このプロパティは、バージョン 10 以前のデータベースに適用されます。大文字と小文字の区別のステータスが表示されます。データベースで大文字と小文字が区別される場合は、いいえを返します。それ以外の場合は、はいを返します。大

文字と小文字が区別されるデータベースでは、データの比較において大文字と小文字が異なるものとして扱われます。この設定は識別子における大文字と小文字の区別には影響しません。パスワードについては、常に大文字と小文字が区別されます。

後続ブランクを無視する

データベースで比較を行うとき、文字データの後続ブランクを無視するかどうかを示します。たとえば、このオプションが、いいえに設定されている場合、'`Dirk`' と '`Dirk` ' は同じになりません。

照合順

このプロパティは、バージョン 10 以前のデータベースに適用されます。データベースの照合アルゴリズムを示します。サポートされている照合アルゴリズムは、SQL Anywhere 照合アルゴリズム (SACA) と Unicode 照合アルゴリズム (UCA) の 2 つです。SACA を使用すると、ソートが高速、簡潔、実用的になりますが、言語的な正確さは若干低下します。UCA を使用すると、言語的な処理は正確になりますが、記憶領域の要件と実行時間が多少増加します。

文字セットエンコード

データベースに使用される文字セットです。このプロパティは、バージョン 10 以前のデータベースに適用されます。

CHAR 照合順

CHAR データに使用される照合です。

CHAR 文字セットエンコード

CHAR データに使用される文字セットです。

CHAR の大文字と小文字の区別

CHAR 照合の大文字と小文字の区別に関する設定を表示します。考えられる値は、次のとおりです。[Ignore](#)、[Respect](#)、[UpperFirst](#)、[LowerFirst](#) このプロパティは、バージョン 10 以降のデータベースに適用されます。

NCHAR 照合順

NCHAR データに使用される照合です。この値は [UCA](#) または [UTF8BIN](#) のいずれかです。

NCHAR 文字セットエンコード

NCHAR データに使用される文字セットです。常に [UTF-8](#) です。

NCHAR の大文字と小文字の区別

NCHAR 照合の大文字と小文字の区別に関する設定を表示します。考えられる値は、次のとおりです。[Ignore](#)、[Respect](#)、[UpperFirst](#)、[LowerFirst](#) このプロパティは、バージョン 10 以降のデータベースに適用されます。

チェックポイントの緊急度

最後に行ったチェックポイントから経過した時間が、データベースのチェックポイント時間の設定に対するパーセンテージで表されます。再表示をクリックするか、F5 キーを押すと、[チェックポイントの緊急度](#)と[リカバリの緊急度](#)の値が更新されます。

リカバリの緊急度

データベースのリカバリに要する推定時間が表示されます。この値は、データベースのリカバリ緊急度設定に対する割合で表されます。再表示をクリックするか、F5 キーを押すと、[チェックポイントの緊急度](#)と[リカバリの緊急度](#)の値が更新されます。

再表示

このボタンをクリックすると、[チェックポイントの緊急度](#)と[リカバリの緊急度](#)の値が更新されます。

1.9.36 データベースのプロパティウィンドウ: 詳細情報タブ

このタブには、データベースのプロパティの名前と値がリストされます。値を更新するには、**再表示**をクリックします。F5 キーを押しても、値を再表示できます。

1.9.37 データベースのプロパティウィンドウ: *SQL Remote* タブ

このタブには複数の項目があります。

このデータベースにパブリッシャが存在する

データベースのパブリッシャの名前を指定するときは、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、パブリッシャフィールドが有効になります。

パブリッシャ

データベースのパブリッシャの名前が表示されます。**変更**をクリックすると、**パブリッシャの設定**ウィンドウでパブリッシャを選択できます。

このリモートデータベースに対応する統合データベースが存在する

データベースがリモートデータベースとして動作している場合は、このオプションを選択します。

統合ユーザ

変更をクリックすると、**統合ユーザの設定**ウィンドウの使用可能な候補リストから統合ユーザを選択できます。

メッセージタイプ

統合データベースのパブリッシャと通信するためのメッセージタイプをドロップダウンリストから選択します。

アドレス

統合ユーザのリモートアドレスを入力できます。このアドレスは、ユーザに対してレプリケーションメッセージを送信するときの宛先です。指定したメッセージタイプに応じた文字列を入力します。

送信頻度

送信頻度として、次のいずれかのオプションを選択します。

送信して閉じる

Message Agent (dbremote) が 1 回の実行で保留中のすべてのメッセージを送信した後で停止するように、レプリケーションの頻度が設定されます。パブリッシャがメッセージを送信する前に毎回 Message Agent (dbremote) を再起動する必要があります。このオプションはリモートサイトで Message Agent (dbremote) を実行する場合にのみ有効です。

ほとんどのレプリケーション設定では、統合パブリッシャからリモートグループにパブリケーションを送信する場合、このオプションは使用されません。

次の間隔で送信

このオプションを選択すると、Message Agent (dbremote) の実行を継続し、この統合ユーザに指定の間隔でメッセージが送信されるようにレプリケーション頻度が設定されます。このオプションは統合サイトでもリモートサイトでも有効です。

毎日次の時刻に送信

このオプションを選択すると、Message Agent (dbremote) の実行を継続し、毎日指定時刻にメッセージが送信されるようにレプリケーションの頻度が設定されます。

サブスクライバ

このデータベースのパブリケーションに対してサブスクリプションを作成するリモートユーザの数が表示されます。

サブスクリプション

データベースのパブリケーションに対するサブスクリプション数が表示されます。

開始されたサブスクリプション

このデータベースで開始されたサブスクリプションの数が表示されます。

関連情報

[パブリッシャの設定ウィンドウ \[133 ページ\]](#)

[統合ユーザの設定ウィンドウ \[133 ページ\]](#)

1.9.38 データベースのプロパティウィンドウ: プロファイリング設定タブ

このタブには複数の項目があります。

このデータベースで次のプロファイリング情報を取得し表示する

データベースサーバで、ストアードプロシージャ、ファンクション、イベント、トリガの実行回数をモニタリングする場合は、このオプションを選択します。データベースのプロファイリング情報を使用すると、データベース内でのパフォーマンスを向上させるために微調整できる手順を決定できます。プロファイリング情報は SQL Central の **プロファイリング** タブに表示されません。

このオプションを選択すると、次のオプションが使用可能になります。

すべての接続

このオプションを選択すると、すべての接続のプロファイリングが有効になります。

次のユーザ ID を持つ接続

このオプションを選択し、ドロップダウンリストからユーザ ID を選択すると、プロファイリング情報を取得する特定のユーザ ID を指定できます。

すぐにクリア

このオプションを選択すると、データベースについて収集したすべてのプロファイリングデータが削除され、プロファイリングが終了します。このボタンは、プロファイリングが開始されている場合にだけ有効になります。

次のプロファイリングログファイルからのプロファイリング情報を表示する

このオプションを選択すると、プロファイリングログファイルからプロファイリング情報を表示できます。プロファイリングログファイル (拡張子が .plg であるファイル) の名前とロケーションを指定します。このオプションは、データベースのプロファイリングが無効になっている場合にだけ有効になります。

次のプロファイリングログファイルのプロファイリング情報を比較のベースラインとして使用する

このオプションを選択すると、収集されるプロファイリング情報、または前のオプションで選択したプロファイリングログファイルとの比較の基準として使用する別のプロファイリングログファイルを指定できます。このオプションは、このデータベースで次のプロファイリング情報を取得し表示する、または次のプロファイリングログファイルからのプロファイリング情報を表示するが選択されている場合にだけ有効になります。

データベース内に現在あるプロファイリング情報を次のプロファイリングログファイルに保存する

このオプションを選択すると、データベース内の現在のプロファイリング情報がプロファイリングログファイルに保存されます。拡張子を `.plg` にしてファイルの名前とロケーションを指定します。

すぐにリセット

データベースについて収集したすべてのプロファイリングデータを削除します。プロファイリングが有効になっている場合、データベースでは、プロシージャ、ファンクション、イベント、トリガに関する新しいプロファイリング情報の収集が即座に開始されます。

1.9.39 DB 領域のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

DB 領域の名前が表示されます。

ファイル

DB 領域が指すデータベースファイルの名前が表示されます。

このフィールドに新しいファイル名またはファイルのロケーションを指定しても、カタログが更新されるだけです。ファイルが作成されたり、ファイルの名前やロケーションが変更されたりすることはありません。DB 領域ファイルがデータベースサーバによって検出できることを確認する必要があります。このフィールドでファイル名を変更することは、RENAME 句を指定して ALTER DBSPACE 文を実行することと同じです。system DB 領域または temporary DB 領域のファイル名は変更できません。

領域を事前に割り付ける

DB 領域の事前割り付けウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、DB 領域にページを追加することで、DB 領域に記憶領域を事前に割り付けできます。ページを追加すると、バルクロードのパフォーマンスが向上します。

1.9.40 ディレクトリアクセスサーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ

ディレクトリアクセスサーバは、データベースサーバを実行しているコンピュータのローカルファイル構造へのアクセスを可能にするリモートサーバです。

コンピュータのサブフォルダにアクセスするには、プロキシテーブルを使用します。

このタブには次の項目があります。

ディレクトリ情報

ルートディレクトリに関する情報が表示されます。

ルートディレクトリ

このディレクトリアクセスサーバのルートディレクトリのパスが表示されます。このディレクトリアクセスサーバのプロキシテーブルを作成するときに、このルートディレクトリが基準になります。

サブディレクトリ

このディレクトリアクセスサーバからアクセス可能なサブフォルダのレベル数が表示されます。この値は 0 ~ 10 でなければなりません。値が 0 である場合は、ディレクトリアクセスサーバ経由でルートディレクトリのファイルのみにアクセスでき

ます。ディレクトリアクセスサーバ経由で使用できるディレクトリまたはサブフォルダのいずれかにプロキシテーブルを作成できます。

ディレクトリ作成

ディレクトリアクセスサーバを使用してディレクトリを作成できるかどうかが表示されます。

読み込み専用

ルートディレクトリが読み込み専用かどうかが表示されます。

ファイル名デリミタ

このディレクトリアクセスサーバで選択されているファイル名デリミタのタイプが表示されます。

1.9.41 ドメインのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

ドメインの名前が表示されます。

作成者

ドメインを作成して所有するデータベースユーザが表示されます。

基本データ型

ドメインの定義済みデータ型が表示されます。定義済みデータ型にフォーマットがある場合は、組み込みタイプ名の後に示されます。

NULL 入力可

ドメインに基づくカラムで NULL が許可されるかどうかが表示されます。ドメインがデータベースのデフォルト NULL 設定を使用する場合、データベースのデフォルトが表示されます。

デフォルト値

ドメインのデフォルト値が表示されます。ドメインにデフォルト値がない場合は、何も表示されません。このドメインに基づくカラムはデフォルト値を継承しますが、後で上書きすることもできます。

1.9.42 ドメインのプロパティウィンドウ: 検査制約タブ

ドメインに適用される検査制約が表示されます。検査制約はドメインの作成時に定義されます。

1.9.43 トリガ条件の編集ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

条件

事前設定されたトリガ条件をリストから選択します。この条件と値 (以下で指定) が満たされると、選択したイベントがトリガされます。

演算子

リストから演算子を選択します。比較演算子によって、トリガ条件の条件と値が比較されます。

値

条件の値を入力します。この値と条件（上記で指定）が満たされると、選択したイベントがトリガされます。

1.9.44 イベントのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

イベントの名前が表示されます。

所有者

イベントを作成して所有しているデータベースユーザが表示されます。

実行中

イベントが実行中の場合は**はい**、イベントが実行中でない場合は**いいえ**と表示されます。

有効

このオプションを選択すると、スケジュールされた時刻またはトリガ条件が発生したときにイベントが実行されます。SQL Central から手動でイベントをトリガするには、イベントを有効にしてください。

ロケーション

次のどのロケーションでイベントが実行されるかが表示されます。

すべてのデータベース

SQL Remote レプリケーションに関連するデータベースでは、すべてのリモートロケーションでイベントが実行されません。

統合データベース

SQL Remote レプリケーションに関連するデータベースでは、統合データベースのみでイベントを実行し、リモートロケーションでは実行しません。

リモートデータベース

SQL Remote レプリケーションに関連するデータベースでは、リモートデータベースのみでイベントを実行し、統合データベースでは実行しません。

ミラーリングロケーション: プライマリ

ミラーリングまたは読み込み専用スケールアウトシステムに関連するデータベースでは、プライマリサーバのみでイベントが実行されます。

ミラーリングロケーション: すべて

ミラーリングまたは読み込み専用スケールアウトシステムに関連するデータベースでは、プライマリサーバ、ミラーサーバ、すべての読み込み専用スケールアウトコピーノードでイベントが実行されます。

次のスケジュール時刻

イベントがスケジュールされている場合、スケジュールされている次のイベントの日時が表示されます。

コメント

イベントの説明を入力します。たとえば、システムにおけるそのイベントの目的を、この領域に記述できます。後で、データベースドキュメントウィザードを使用してデータベースをドキュメント化する場合、これらのコメントを出力に含めることができます。

関連情報

[イベントのトリガウィンドウ \[159 ページ\]](#)

1.9.45 イベントのプロパティウィンドウ: 条件タブ

イベントがトリガされる条件を指定します。

次のシステムイベントが発生した場合、イベントをトリガ

環境または条件が一致した場合にイベントを実行します。

システムイベント

イベントをトリガするために発生する必要があるシステムイベントを選択します。

および次のトリガ条件が true の場合

イベントをトリガするシステムイベントの他に、満たす必要があるトリガ条件を設定します。

1.9.46 外部環境のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

外部環境または言語の名前が表示されます。

スコープ

外部環境が接続として起動されるか (接続あたり 1 つ)、データベースとして起動されるか (データベースあたり 1 つ) を示します。

サポート結果セット

外部環境からユーザに結果セットを返せるかどうかを指定します。このオプションは、Perl、PHP、および JavaScript だけに適用されます。

ロケーション

外部環境の実行ファイル/バイナリファイルがあるデータベースサーバコンピュータ上のディレクトリを指定します。パスに実行ファイル/バイナリファイルの名前を含めます。このパスは、完全に修飾されたパスまたは相対パスのどちらでもかまいません。相対パスの場合、実行ファイル/バイナリファイルはデータベースサーバによって検索できるロケーションに置く必要があります。

設定のテスト

このボタンをクリックすると、外部環境が正しく設定されているかどうかを確認できます。このボタンは、Java、JavaScript、Perl、および PHP に使用できます。

1.9.47 外部環境オブジェクトのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには外部環境オブジェクトのプロパティが表示されます。外部オブジェクトを更新するには、[すぐに更新](#)をクリックします。

1.9.48 外部ログインのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには外部ログインのプロパティが表示されます。

名前

リモートサーバの外部ログインの場合は、リモートサーバとデータベースユーザの名前が表示されます。ディレクトリアクセスサーバの外部ログインの場合は、ディレクトリアクセスサーバとデータベースユーザの名前が表示されます。

リモートサーバ

このフィールドは、外部ログインがリモートサーバを対象とする場合にのみ表示されます。外部ログインの対象となるリモートサーバの名前が表示されます。

ディレクトリアクセスサーバ

このフィールドは、外部ログインがディレクトリアクセスサーバを対象とする場合にのみ表示されます。外部ログインを使って通信するディレクトリアクセスサーバの名前が表示されます。

ユーザ

外部ログインの対象データベースユーザの名前が表示されます。

ログイン名

リモートサーバ上のログイン名が表示されます。[ログイン名](#)の値は 128 バイトまでに制限されます。これはリモートサーバへの外部ログインだけに適用されます。

1.9.49 外部キーのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには外部キーのプロパティが表示されます。

名前

外部キーの名前が表示されます。このフィールドは編集できます。

ユニーク

外部キーがユニークであるかどうかが表示されます。

外部テーブル

外部キーが適用されるテーブルの名前と所有者が表示されます。

外部インデックス

外部キーの適用に使用されるインデックスの名前が表示されます。

プライマリ制約

外部キーが参照するプライマリキーまたは一意性制約の名前が表示されます。

プライマリ制約タイプ

外部キーが参照する制約のタイプが表示されます。タイプは、**主キー制約**または**一意性制約**だけにできます。

プライマリテーブル

この外部キーに関連付けられたプライマリキーまたは一意性制約を含むテーブルが表示されます。

プライマリインデックス

プライマリキーまたは一意性制約の管理に使用されるインデックスの名前が表示されます。

NULL 入力可

外部キーカラムに NULL 値を入力できるかどうかが表示されます。このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムの **NULL 入力可**をはいに設定してください。

一致タイプ

外部キーに選択された一致タイプが表示されます。一致タイプによって、NULL 値が許可されている複数のカラムの外部キーを使用しているときに何を一致とみなすかが決まります。これは外部キーに NULL が許可されている場合にのみ有効です。

次に可能な一致タイプを示します。

単純

参照テーブルのローに一致が発生するのは、キーの 1 つ以上のカラムが NULL の場合、またはすべてのカラム値が参照先テーブルのローにある対応するカラム値と一致する場合です。

完全

参照テーブルのローに一致が発生するのは、キーのすべてのカラム値が NULL の場合、またはすべてのカラム値が参照先テーブルのローにある値と一致する場合です。

該当なし

不適用。外部キーに NULL は許可されません。

更新アクション

次のいずれかの設定を使用して、ユーザが外部キーの値を更新しようとしたときのテーブルの動作を定義します。

使用不可

対応する外部キーがない場合は、関連するプライマリテーブルのプライマリキーの値を更新できないようにします。

値をカスケード

関連するプライマリキーの新しい値と一致するように、外部キーを更新します。

値を NULL に設定

関連するプライマリテーブルの更新されたプライマリキーに対応する外部キー値を、すべて NULL に設定します。

このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムの **NULL 入力可**をはいに設定してください。

値をデフォルトに設定

更新または削除されたプライマリキー値に一致する外部キーの値を、それぞれの外部キーカラムの DEFAULT 句で指定した値に設定します。このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムにデフォルト値を設定してください。

削除アクション

次のいずれかの設定を使用して、ユーザがデータを削除しようとしたときのテーブルの動作を定義します。

使用不可

テーブルに対応する外部キーがない場合は、関連するプライマリテーブルのプライマリキーの値を削除できないようにします。

値をカスケード

関連するプライマリテーブルで削除されたプライマリキーと一致するローをこのテーブルから削除します。値を **NULL** に設定

関連するプライマリテーブルで削除されたプライマリキーに対応するこのテーブルの外部キー値をすべて **NULL** に設定します。

このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムの **NULL 入力可** を **はい** に設定してください。

値をデフォルトに設定

更新または削除されたプライマリキー値に一致する外部キーの値を、それぞれの外部キーカラムの **DEFAULT** 句で指定した値に設定します。このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムにデフォルト値を設定してください。

コミット時にチェック

データベースの **COMMIT** が完了するまで待機してからこの外部キーの整合性をチェックし、**wait_for_commit** データベースオプションの設定を上書きするようにします。この設定を変更するには、**変更** をクリックします。

変更

設定の変更 ウィンドウが表示されます。ここで、このプライマリキーの設定を変更できます。

関連情報

[クラス外インデックスの設定ウィンドウ \[133 ページ\]](#)

[設定の変更ウィンドウ \[60 ページ\]](#)

1.9.50 外部キーのプロパティウィンドウ: カラムタブ

このタブには、外部キーのプライマリカラムと外部カラムが表示されます。

1.9.51 ファンクションのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

ファンクションの名前が表示されます。

所有者

ファンクションを所有するデータベースユーザの名前が表示されます。

構文

最後に保存されたコードの SQL 構文が表示されます。構文は *Watcom SQL* または *Transact-SQL* のどちらかです。

値 (不明) は、オブジェクト定義が大きすぎる (64 KB よりも大きい) 場合に表示されます。

1.9.52 ファンクションのプロパティウィンドウ: パラメータタブ

このタブには複数の項目があります。

パラメータリスト

ファンクションのパラメータの名前、ID、データ型、パラメータタイプ、モードが表示されます。モードの値は次のいずれかです。

入力

このパラメータは、ファンクションに値を与える式です。

出力

このパラメータは、プロシージャから値を受け取ることがある変数です。

入力/出力

このパラメータはプロシージャに値を与え、プロシージャから新しい値を受け取ることがある変数です。

1.9.53 グラフィカルなプランウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

記録されたグラフィカルなプラン

オプティマイザによって検討された、選択されている実行プランがグラフィカルに表示されます。グラフィカルなプラン内のオブジェクトをクリックすると、詳細が表示されます。

詳細

選択されているオブジェクトの詳細が表示されます。

1.9.54 グループのオプションウィンドウ

このウィンドウはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

i 注記

オプション設定を変更した場合、直ちに有効になる設定もあれば、データベースを再起動しなければ有効にならない設定もあります。

グループ

選択されているグループの名前が表示されます。

表示

オプションタイプのリストが表示されます。たとえば、**データベースオプション**を選択すると、データベースに関連するオプションのみがオプションリストに表示されます。

オプションリスト

表示リストで選択したオプションのタイプに基づいて、オプションの設定とそのデフォルト値が表示されます。
値

オプションリストからオプションを選択して、**値フィールド**で設定を入力または選択します。**恒久的な設定を行う**をクリックすると、恒久的な設定にできます。ただし、そのオプションに PUBLIC ロールの設定が存在していないと、グループにオプション値を設定することはできません。

オプションの選択を終えたら、ウィンドウの横にあるボタンを使用できます。

新規

グループのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。**オプションリスト**に新しいオプションを追加するには、**データベースオプション**ウィンドウを開いてください。

すぐに削除

グループのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。**オプションリスト**からオプションを削除するには、**データベースオプション**ウィンドウを開いてください。

恒久的な設定を行う

グループのオプション設定を恒久的に変更するには、**オプションリスト**からオプションを選択して、設定を**値フィールド**に入力し、**恒久的な設定を行う**をクリックします。

1.9.55 グループのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

グループの名前が表示されます。
このグループにパスワードを設定

このオプションを選択して、グループにパスワードを割り当てます。パスワードが割り当てられていないグループは接続できません。ただし、パスワードがあってもグループが接続できない場合もあります。たとえば、グループのアカウントがロックされている可能性があります。このオプションをクリアすると、グループのパスワードが削除され、**パスワードオプション**と**パスワードの確認**オプションが無効になります。

ユーザは、ほとんどの場合、接続を許可されます。グループの場合は、このオプションをオフにすると、グループアカウントを使用してデータベースに接続することができなくなります。

パスワード

グループのパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワードの確認

パスワードテキストボックスに入力したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィールドの内容は、完全に一致している必要があります。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワード作成時刻

現在のパスワードが作成された日付と時刻を示します。

次回ログイン時にパスワードの変更を要求する

このオプションを選択すると、グループは次回ログインするときに新しいパスワードを作成する必要があります。

ログインポリシー

グループのログインポリシーを選択します。

最終ログイン時刻

グループが最後にログインした日付と時刻を示します。

失敗ログインの試行回数

グループがログインしようとして失敗した回数を示します。

ロック

グループのアカウントがロックされているかどうかを示します。グループがデータベースからロックされていない場合は、**いいえ**と表示されます。

すぐにロック解除

このボタンをクリックすると、グループのアカウントのロックがデータベースから解除されます。ユーザのログインポリシーで次のいずれかのオプションが次のように設定されている場合、**すぐにロック解除**は無効になります。

- `locked=On`
- `password_expiry_at_next_login=On`
- `max_connections=0`
- `max_failed_login_attempts=0`

1.9.56 グループのプロパティウィンドウ: 権限タブ

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

DBA

グループに DBA 権限を付与します。DBA 権限を持つグループは、データベースを完全に管理できます。

リソース

グループにリソース権限を付与します。リソース権限を持つグループは、データベースオブジェクトを作成できます。

リモート DBA

グループに REMOTE DBA 権限を付与します。Mobile Link クライアントユーティリティ (dbmlsync) には REMOTE DBA 権限が必要です。SQL Remote Message Agent (dbremote) を実行する際は、セキュリティホールを作らずにアクションを確実に実行できるように、REMOTE DBA 権限を持つユーザ ID を使用する必要があります。

バックアップ

このオプションを選択すると、グループにバックアップ権限が付与されます。

VALIDATE

このオプションを選択すると、グループに VALIDATE 権限が付与されます。VALIDATE 権限を持つグループは、データベース、テーブル、インデックス、チェックサムの検証など、さまざまな VALIDATE 文を使用した操作を実行できます。

プロファイル

グループによるプロファイリングとデータベーストレーシングを許可します。

ファイル読み込み

SELECT 文の OPENSTRING 句を使用したクエリファイルの使用を許可します。

クライアントファイル読み込み

クライアントコンピュータにあるファイルの読み込みを許可します。

クライアントファイル書き込み

クライアントコンピュータにあるファイルへの書き込みを許可します。

1.9.57 インデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

インデックスの名前が表示されます。このフィールドは編集できます。

タイプ

オブジェクトのタイプを示します。オブジェクトのタイプは、外部キーインデックス、プライマリキーインデックス、一意性制約インデックス、またはインデックスのいずれかです。

ユニーク

インデックスの値がユニークである必要があるかどうかを示されます。

NULL 排除

インデックスカラムにおいて NULL を排除と見なすかどうかを示されます。このオプションは、タイプがインデックスで、インデックスがユニークである場合のみ表示されます。

はいに設定すると、NULL は排除と見なされます。各ローについて、インデックス付けされたカラムのセットは、ユニークであるか、または、少なくとも 1 つのカラムに NULL が含まれている必要があります。たとえば、2 つの文字カラムに対するユニークインデックスの場合、インデックスエントリ ('a', NULL) と ('a', NULL) はそれぞれ排除と見なされます。

いいえに設定すると、NULL は排除ではないと見なされます。各ローについて、インデックス付けされたカラムのセットは、NULL 値に関係なくユニークである必要があります。たとえば、2 つの文字カラムに対するユニークインデックスの場合、インデックスエントリ ('a', NULL) と ('a', NULL) は排除ではないと見なされます。したがって、インデックスはこれらの 2 つのエントリを許容しません。

テーブル

インデックスが関連付けられているテーブルの名前と所有者が表示されます。これはテーブルにインデックスがある場合にのみ表示されます。

マテリアライズドビュー

インデックスが関連付けられているマテリアライズドビューの名前と所有者が表示されます。これはマテリアライズドビューにインデックスがある場合にのみ表示されます。

DB 領域

インデックスが格納されているデータベースファイルまたは DB 領域が表示されます。これはベーステーブルとマテリアライズドビューのインデックスだけに適用されます。

クラスタド

このインデックスがクラスタドインデックスであるかどうかが表示されます。クラスタドインデックスは、バージョン 8.0.2 以降の SQL Anywhere データベースでサポートされます。

クラスタドインデックスには、対応するインデックス内とほぼ同じ順番でテーブルローが格納されます。クラスタドインデックスを使用するとパフォーマンスが向上する可能性があります。これは、各ページをメモリに読み込む回数が少なくて済むためです。特定のテーブル上のインデックスのうち、クラスタドインデックスにできるのは1つだけです。

すぐにクラスタドインデックスを設定

クラスタドインデックスの設定ウィンドウが開きます。このウィンドウでは、そのインデックスをクラスタドインデックスとして指定できます。

フォーマット

テーブルにあるインデックスのストアタイプが圧縮 B ツリーであることを示します。

1.9.58 インデックスのプロパティウィンドウ: カラムタブ

インデックスのすべてのカラムと、その順序 (昇順または降順) が表示されます。新しいインデックスを作成するときにカラムの順序を設定します。カラムは、0 から始まるユニークな数値の順にソートされます。数値の順序によってインデックス内のカラムの相対的な位置が決まります。

1.9.59 JAR ファイルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

JAR ファイルの名前が表示されます。

作成者

JAR ファイルを作成して所有しているデータベースユーザが表示されます。

作成日

JAR ファイルが作成された日付が表示されます。

コメント

JAR ファイルの説明を入力します。たとえば、システムにおけるその JAR ファイルの目的を、この領域に記述できます。

すぐに更新

JAR ファイルの更新ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、JAR ファイルを更新できます。

1.9.60 Java クラスのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには Java クラスのプロパティが表示されます。*JAR ファイルの更新*をクリックすると、JAR ファイルが更新されます。

1.9.61 LDAP サーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

LDAP サーバの名前が表示されます。

ステータス

LDAP サーバの現在のステータスが表示されます。

最終ステータス変更時間

LDAP サーバの状態が最後に変更された日時が表示されます。

状態を変更するには、タブにある以下のボタンのいずれかをクリックします。

今すぐアクティブ化

このボタンをクリックすると、LDAP サーバがアクティブになり、すぐに使用できます。この設定で、LDAP サーバの通信状態が READY に変わります。

今すぐ中断

このボタンをクリックすると、LDAP サーバが中断され、LDAP サーバの通信状態が SUSPENDED (メンテナンスモード) に設定されます。LDAP サーバへの接続がすべて閉じられ、LDAP サーバによる認証が実行されなくなります。

すぐに再表示

このボタンをクリックすると、LDAP ユーザ認証が最初期化されます。LDAP サーバの状態が SUSPENDED の場合、その状態は変わりません。LDAP サーバの状態が READY または ACTIVE の場合は、LDAP サーバへの接続が閉じられます。

1.9.62 LDAP サーバのプロパティウィンドウ: 設定タブ

このタブには複数の項目があります。

検索 URL

ホスト (名前または IP アドレスで指定)、ポート番号、および特定のユーザ ID の検索を指定します。この文字列の最大サイズは 1024 バイトです。

`url-string` のフォーマットは、LDAP URL 標準に準拠している必要があります。

アクセス識別名

LDAP サーバに接続するためにデータベースサーバが使用する識別名 (DN) を指定します。これは SQL Anywhere ユーザではなく、LDAP サーバへのログイン専用で LDAP サーバで作成されたユーザです。このユーザは、**検索 URL** で指

定された場所でユーザ ID を使用して識別名を検索するために、LDAP サーバ内でパーミッションを持つ必要があります。この文字列の最大サイズは 1024 バイトです。

アクセスパスワード

アクセス識別名 フィールドで指定されたユーザに関連付けられるパスワードを指定します。最大サイズは 255 バイトで、NULL に設定することはできません。

認証 URL

名前または IP アドレスでホストを識別する URL と、ユーザを認証するための LDAP サーバのポート番号を指定します。以前の DN 検索およびユーザパスワードから取得したユーザの DN は、新しい接続を認証 URL にバインドするために使用されます。LDAP サーバへの正常な接続は、接続ユーザの ID の証明とみなされます。このパラメータにはデフォルト値はありません。

TLS の使用

選択すると、DN 検索と認証の両方の場合に、LDAP サーバへの接続に TLS プロトコルが使用されます。セキュア LDAP を使用している場合は、このオプションを選択しないでください。

接続タイムアウト

DN の検索と認証を行う場合の LDAP サーバへの接続タイムアウトをミリ秒単位で指定します。デフォルト値は 10 秒です。

接続リトライ

DN の検索と認証の両方の場合の、LDAP サーバへの接続再試行回数をミリ秒単位で指定します。値の有効範囲は 1 ~ 60 です。デフォルト値は 3 です。

キャッシュされているユーザ識別名を今すぐクリア

LDAP ユーザ認証を再初期化します。

接続テスト

LDAP サーバへの接続テスト ウィンドウを開きます。

関連情報

[LDAP サーバへの接続テストウィンドウ \[91 ページ\]](#)

1.9.63 LDAP サーバへの接続テストウィンドウ

LDAP サーバへの接続をテストします。LDAP サーバの検索 URL、アクセス識別名とパスワード、および認証 URL を検証します。

LDAP サーバ

接続をテストする LDAP サーバ。

LDAP ユーザ

接続をテストするユーザ。

予期された識別名

ユーザの識別名。

1.9.64 *Listener Properties* ウィンドウ:一般タブ

このウィンドウには接続リスナのプロパティが表示されます。

1.9.65 ログインマッピングのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブにはログインマッピングのプロパティが表示されます。

1.9.66 ログインポリシーのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブにはログインポリシーのプロパティが表示されます。

1.9.67 ログインポリシーのプロパティウィンドウ: オプションタブ

このタブにはログインポリシーのオプションのリストが表示され、オプション値を確認して編集できます。

ログインポリシーのオプションを選択すると、下に説明が表示されます。ログインポリシーオプションを変更するには、**上書きされた値**カラム内をダブルクリックし、値を編集して、**適用**をクリックします。

1.9.68 ログインポリシーのプロパティウィンドウ: ユーザタブ

このタブには、ログインポリシーに割り当てられたユーザの一覧が表示されます。

1.9.69 マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

マテリアライズドビューの名前が表示されます。

所有者

ビューを所有するデータベースユーザが表示されます。

DB 領域

ビューが格納されているデータベースファイル (または DB 領域) が表示されます。

ステータス

ビューのステータスが表示されます。ステータスが有効の場合は、データベースサーバでビューを使用できます。このステータスは、ALTER MATERIALIZED VIEW 文の ENABLED 句と同義です。ステータスが無効の場合は、ユーザが明示的にビューを無効にしています。

再コンパイルして有効にする

このボタンをクリックすると、ビューが再コンパイルされて有効になり、使用できるようになります。その後、**すぐに再表示**をクリックしてビューを再表示してから、インデックスを再構築します。必要な場合は、ビューを即時ビューに戻します。

すぐに無効にする

このボタンをクリックするとビューが無効になります。マテリアライズドビューを無効にすると、そのビューのデータとインデックスは削除されます。また、即時ビューを無効にすると、手動ビューに変わります。マテリアライズドビューの定義はデータベースサーバによってデータベース内に保持されます。

マテリアライズドビューに依存する通常のビューは、ビューが無効になると、データベースサーバによって自動的に無効になります。

最適化に使用

このオプションを選択すると、オプティマイザによってマテリアライズドビューを使用できるようにするかどうかを指定できます。無効になっているビューはオプティマイザで無視されます。ビューを無効にしても、**最適化に使用**オプションは選択されたままなので、ビューを再び有効にすると設定が考慮されます。

初期化済み

ビューが初期化済みかどうかを示します。データベースサーバが利用できるように、マテリアライズドビューを初期化する必要があります。ビューを初期化するには、**すぐに再表示**をクリックします。

すぐに再表示

このボタンをクリックすると、ビューが再表示されます。実行する再表示のタイプを指定するプロンプトが表示されます。

すぐにトランケート

このボタンをクリックすると、ビュー内のすべてのローが削除され、初期化されていない状態になります。

再表示タイプ

ビューが手動ビューであるか、即時ビューであるかを指定します。デフォルトは手動です。

手動

このビューは手動で再表示する必要があります。手動ビューは、再表示を明示的に要求するまで再表示されないの
で、データが古くなる可能性があります。

このオプションを選択すると、即時ビューが手動ビューに変わります。

即時

このビューは、ビュー内のデータに影響する、基本となるデータの変更直後にデータベースサーバによって自動的に再表示されます。即時ビューを無効にすると、手動ビューに変わります。再度有効にすると、即時ビューに戻す必要
があります。

即時互換

ビューに、即時ビューとの互換性があるかどうかを指定します。即時ビューに互換性がない場合は、**詳細**をクリックすると、理由の説明が表示されます。

最終再表示時刻

ビューが最後に再表示された日時が表示されます。

既知の失効時刻

ビューが失効したと認識された時刻が表示されます。このプロパティは手動ビューだけが対象で、基本となるベーステーブルが変更された時刻に対応します。

コメント

ビューの説明を入力します。たとえば、システムにおけるそのビューの目的を、この領域に記述できます。データベースドキュメントウィザードを使用してデータベースをドキュメント化する場合、これらのコメントを出力に含めることができます。

1.9.70 マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: カラムタブ

このタブには、マテリアライズドビューに含まれるカラムが表示されます。

1.9.71 マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: オプションタブ

このタブには、マテリアライズドビューの作成時に設定されたオプションがリストされます。

このマテリアライズドビューは次のオプション設定で作成されています

オプション	説明
<i>date_format</i>	データベースから取り出した日付の形式を設定します。デフォルトは YYYY-MM-DD です。
<i>date_order</i>	日付形式の解釈を制御します。デフォルト値は YMD です。SAP Open Client 接続と jConnect 接続の場合、デフォルトは MDY に設定されます。
<i>default_timestamp_increment</i>	カラム中の値をユニークにするために TIMESTAMP データ型のカラムに追加する時間 (マイクロ秒単位) を指定します。デフォルトは 1 です。
<i>first_day_of_week</i>	何曜日を週の最初にするかを設定します。デフォルトは 7 (1 週間は日曜日からは始まる) です。
<i>nearest_century</i>	文字列から日付への変換で、2 桁の年の解釈を制御します。デフォルトは 50 です。
<i>precision</i>	10 進法計算での結果の最大桁数を指定します。デフォルトは 30 です。
<i>scale</i>	計算結果が最大精度でトランケートされる場合の、小数点以下の最小桁数を指定します。デフォルトは 6 です。

オプション	説明
<code>time_format</code>	データベースから取り出した時刻の表示形式を設定します。デフォルトは HH:NN:SS.SSS です。
<code>timestamp_format</code>	データベースから取り出したタイムスタンプの形式を設定します。デフォルトは YYYY-MM-DD HH:NN:SS.SSS です。
<code>timestamp_with_time_zone_format</code>	データベースから取り出した TIMESTAMP WITH TIME ZONE 値の形式を返します。
<code>uuid_has_hyphens</code>	ユニークな識別子の値が文字列に変換するときのフォーマットを設定します。

1.9.72 マテリアライズドビューのプロパティウィンドウ: その他タブ

このタブには複数の項目があります。

ローの数

ビューのローの概数を示します。この値を更新するには、[計算](#)をクリックします。

計算

ビューのローの数を計算します。

空き領域

マテリアライズドビューに使用する各データベースページに確保する空き領域のサイズを指定します。空き領域は、たとえば更新によってローのサイズが拡大したときに使用されます。

デフォルト

このオプションを選択すると、ページごとに 200 バイトが予約されます。

パーセンテージ

このオプションを選択して、0 ~ 100 の整数を指定します。パーセンテージを 0 に指定すると、各ページに空き領域が残らず、各ページが完全にパックされます。大きい値を指定すると、各ローが単独でページに挿入されます。

マテリアライズドビューのデータは暗号化済み

暗号化スコープとしてテーブルを指定してデータベースを作成するときに、このオプションを選択すると、このマテリアライズドビューのデータが暗号化されます。

1.9.73 メンテナンスプランレポートのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

メンテナンスプランの名前が表示されます。

開始時刻

メンテナンスプランの実行が開始した日時が表示されます。

完了時刻

メンテナンスプランの実行が完了した日時が表示されます。

期間

メンテナンスプランの実行に要した時間が表示されます。

成功

メンテナンスプランが正常に実行されたかどうかが表示されます。

詳細

メンテナンスプラン全体のテキストが表示されます。

1.9.74 メッセージタイプのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

メッセージタイプの名前が表示されます。

パブリッシャアドレス

パブリッシャのアドレスを入力します。各リモートデータベースは、このアドレスの統合データベースにレプリケーションメッセージを送り返します。

コメント

メッセージタイプの説明を入力します。たとえば、システムにおけるそのメッセージタイプの目的を、この領域に記述できます。

1.9.75 メッセージタイプのプロパティウィンドウ: SQL Remote ユーザタブ

このタブには複数の項目があります。

リモートユーザリスト

このメッセージタイプを現在使用しているすべてのリモートユーザの名前、アドレス、コメントをリストします。

プロパティ

[リモートユーザリスト](#)で選択したリモートユーザのプロパティウィンドウが表示されます。

1.9.76 互換ロールの移行ウィンドウ

このウィンドウで、互換ロールを、名前を変更したユーザ定義ロールに移行します。互換ロールは削除されます。

1.9.77 Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには Mobile Link ユーザの名前が表示されます。

1.9.78 Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウ: 接続タブ

このタブには複数の項目があります。

プロトコル

同期に使用する通信プロトコルを選択します。デフォルトでは TCP/IP が使用されます。

TCP/IP

このオプションを選択すると、同期に TCP/IP プロトコルが使用されます。

TLS

このオプションを選択すると、同期に TLS (トランスポートレイヤセキュリティ) が使用されます。

HTTP

このオプションを選択すると、同期に HTTP プロトコルが使用されます。

HTTPS

このオプションを選択すると、同期に HTTPS プロトコルが使用されます。

ホスト

Mobile Link サーバを実行するコンピュータの IP アドレスまたはホスト名です。デフォルト値は `localhost` です。`localhost` は、Mobile Link サーバがクライアントと同じコンピュータで実行されている場合に指定できます。

Windows Mobile では、デフォルト値はレジストリフォルダ `Comm¥Tcpip¥Hosts¥ppp_peer` の `ipaddr` の値です。これによって、Windows Mobile デバイスのクレードルが接続されているデスクトップコンピュータで実行されている Mobile Link サーバに、Windows Mobile デバイスから接続できます。

ポート

Mobile Link サーバは特定のポートを介して通信します。デフォルトのポート番号は、TCP/IP の場合は 2439、HTTP の場合は 80、HTTPS の場合は 443 です。異なる値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link サーバを設定してください。

プロキシホスト

プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。デフォルト値は `localhost` です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシポート

プロキシサーバのポート番号を入力します。デフォルト値は、HTTP の場合は 80、HTTPS の場合は 443 です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

URL サフィックス

各 HTTP 要求の 1 行目の URL に追加するサフィックスを入力します。デフォルト値は、*MobiLink* です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシサーバを介して同期する場合、Mobile Link サーバを見つけるためにサフィックスが必要な場合があります。

HTTP バージョン

同期に使用する HTTP のバージョンを指定する値を入力します。1.0 または 1.1 を選択できます。デフォルト値は 1.1 です。

自動接続

以下のオプションを使用すると、Windows または Windows Mobile で実行されている Mobile Link クライアントがダイヤルアップネットワーク接続を介して接続できるようになります。

スケジュールを使用している場合は、リモートデバイスを自動的に同期できます。スケジュールを使用していない場合は、接続を手動でダイヤルすることなく dbmlsync を実行できます。

ネットワーク名

ネットワーク名を指定して、Mobile Link の自動ダイヤル機能を使用できるようにします。これによって、手動でダイヤルすることなく Windows または Windows Mobile から接続できます。この名前は、**設定 > 接続 > 接続** (Windows Mobile) または **設定 > 接続 > ネットワーク接続** (Windows) のドロップダウンリストで指定したネットワーク名にしてください。

開いたままにする

ネットワーク名を指定するときに、同期の完了後に接続を開いたままにする (1) か、接続を閉じる (0) かをオプションで指定できます。デフォルトでは、接続は閉じられます (0)。

セキュリティ

これらのオプションでは、アルゴリズムパッケージプログラムを使用して、この接続を介するすべての通信を暗号化できます。楕円曲線暗号化と RSA アルゴリズムの両方に対して、データベースサーバの認証に使用する証明書についての情報を以下のフィールドに指定できます。

暗号

楕円曲線暗号

このオプションは、バージョン 12 以前のデータベースにのみ使用できます。楕円曲線アルゴリズムを使用して、接続を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。

RSA

RSA アルゴリズムを使用して、通信を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。

FIPS 認定

FIPS 認定 RSA アルゴリズムを使用して、通信を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。FIPS 認定の暗号化には別途ライセンスが必要です。

信頼できる証明書

- **ファイル**を選択し、クライアントがデータベースサーバを認証するために使用する証明書ファイルの名前を入力します。

- **名前**を選択し、リモートデータベースに保存されている証明書のドロップダウンリストから証明書を選択します。

証明書に記載される会社

証明書を発行した認証局の名前を入力します。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

証明書に記載される部署

証明書に記載される部署を入力します。これは組織単位とも呼ばれます。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

証明書に記載される名前

証明書の通称を入力します。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

詳細

このフィールドには、`parameter=value` の形式で追加の接続パラメータを入力します。複数のパラメータを入力する場合はセミコロンで区切ります。たとえば、内容が固定長であるメッセージの本文の最大サイズを設定し、同期のすべての HTTP 要求に同じ TCP/IP 接続を使用するようクライアントに指示するには、[詳細](#)フィールドに次のように入力します。

```
buffer_size=58000;persistent=TRUE
```

i 注記

Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウの接続タブの 1 つのフィールドが空白の場合、Mobile Link ユーザは同期サブスクリプションから接続パラメータ設定を継承できます。パブリケーションの設定を上書きする場合にのみ、[Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウの接続タブ](#)で接続パラメータを指定してください。

1.9.79 Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウ: 拡張オプションタブ

このタブには、Mobile Link ユーザに対して設定されている Mobile Link クライアント拡張オプションとその値がリストされます。Mobile Link ユーザの値を設定するには、オプション名の横にある値フィールドをクリックします。

1.9.80 ミューテックスおよびセマフォのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには、ミューテックスまたはセマフォの一般的なプロパティの一覧が表示されます。

ミューテックス

スコープ

ミューテックスをロックしたトランザクションの最後までロックを保持するには、[トランザクション](#)を選択します。

RELEASE MUTEX 文が接続によって実行されるまで、または接続が終了するまで、ロックを保持するには、[接続](#)を選択します。

セマフォ

開始値

セマフォカウンタの初期値を指定します。デフォルト値は 0 です。

1.9.81 ミューテックスおよびセマフォのプロパティ: 接続タブ

ミューテックスについて、このタブには、ミューテックスをロックした接続の一覧と、ミューテックスを待機している接続の一覧が表示されます。セマフォについて、このタブには、セマフォを待機している接続の一覧が表示されます。

1.9.82 新しいメンバーウィンドウ

このタブには、データベースのすべてのユーザおよびロールの名前とコメントが表示されます。これらのユーザとロールを、選択したロールに追加できます。

1.9.83 新しいメンバーシップウィンドウ

このタブには、データベースのすべてのロールの名前とコメントが表示されます。これらのロールに、選択したユーザまたはロールを追加できます。

1.9.84 ODATA プロデューサのプロパティウィンドウ:一般タブ

ODATA プロデューサの有効化または無効化、および認証とデータベース管理者の設定の確認を行うには、このタブを使用します。

1.9.85 ODATA プロデューサのプロパティウィンドウ: [オプション] タブ

このウィンドウには、ODATA プロデューサのオプションとその値の一覧が表示されます。

1.9.86 ODATA プロデューサのプロパティウィンドウ:Service Model タブ

ODATA プロデューサのサービスモデルの確認および更新を行うには、このタブを使用します。

1.9.87 ODATA プロデューサのサービスモデルの更新ウィンドウ

ODATA プロデューサの更新済みサービスモデルへのファイルパスを指定するには、このタブを使用します。

1.9.88 オプションウィンドウ

このタブには複数の項目があります。

ロギングを可能にする

このオプションを選択すると、データベースのロギングが有効になります。

日付と時刻を出力に追加

このオプションを選択すると、**サーバメッセージと実行された SQL** ウィンドウ枠またはログファイルに各 SQL 文を発行した日付と時刻が付加されます。

クエリのログを取る

このオプションを選択すると、**サーバメッセージと実行された SQL** ウィンドウ枠またはログファイルにログクエリが付加されます。

テキストをラップ

サーバメッセージと実行された SQL ウィンドウ枠またはログファイルにおける各行の長さを指定します。1 行の長さが設定された文字数になると自動的に次の行に折り返されます。デフォルトで、1 行は 80 文字です。

保存

このボタンをクリックすると、ロギング情報がファイルに保存されます。

クリア

サーバメッセージと実行された SQL ウィンドウ枠で選択したタブの内容がクリアされます。

1.9.89 compatibility-role-name のオプション

このウィンドウは、ログインをサポートするシステムロール (PUBLIC、dbo、diagnostics、rs_systabgroup、SA_DEBUG など) またはユーザ拡張ロールに、複数の互換ロールの 1 つが付与された場合にのみ使用されます。

- SYS_AUTH_DBA_ROLE
- SYS_AUTH_RESOURCE_ROLE
- SYS_AUTH_BACKUP_ROLE
- SYS_AUTH_VALIDATE_ROLE
- SYS_RUN_REPLICATION_ROLE

これらのロールのシステム権限継承を無効にしている場合は、SYS_AUTH_DBA_ROLE 以外の管理権限は付与できません。また、管理のみの権限も付与できません。

1.9.90 system-privilege のオプション

このウィンドウを使用して、システム権限が適用されるユーザを制限します。

CHANGE PASSWORD システム権限または SET USER システム権限を付与すると、ユーザが、どのユーザのパスワードを変更できるか、または、どのユーザを同一化できるかを制限できます。

すべてのユーザ

SET USER システム権限の場合は、あらゆるユーザを同一化できます。このオプションはデフォルトです。CHANGE PASSWORD システム権限の場合は、あらゆるユーザのパスワードを変更できます。このオプションはデフォルトです。次に示すユーザ

CHANGE PASSWORD システム権限の場合は、リストにあるユーザのパスワードのみを変更できます。

SET USER システム権限の場合は、リストにあるユーザのみを同一化できます。

次に示すロールを1つ以上持つユーザ

CHANGE PASSWORD システム権限の場合は、リストにあるロールのいずれかを持つユーザのパスワードのみを変更できます。

SET USER システム権限の場合は、リストにあるロールのいずれかを持つユーザのみを同一化できます。

1.9.91 パラメータのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

選択されているパラメータの名前が表示されます。

プロシージャ

パラメータが属するプロシージャの名前と所有者を表示します。

データ型

パラメータのデータ型が表示されます。

パラメータタイプ

パラメータのタイプが表示されます。パラメータのタイプは次のいずれかです。

変数

通常のプロシージャパラメータ。

結果

プロシージャによって返された結果セット内の特定の列。

戻り値

戻り値。このパラメータタイプが使えるのは、ファンクションの場合だけです。

SQLSTATE

特殊な SQLSTATE 出力パラメータ。このパラメータは、プロシージャ終了時に SQLSTATE 値を出力する OUT パラメータです。

SQLCODE

特殊な SQLCODE 出力パラメータ。このパラメータは、プロシージャ終了時に SQLCODE 値を出力する OUT パラメータです。

モード

パラメータのモードが表示されます。モードの値は次のいずれかです。

入力

このパラメータは、ファンクションに値を与える式です。

出力

このパラメータは、ファンクションから値を受け取ることがある変数です。

入力/出力

このパラメータは、ファンクションに値を与え、ファンクションから新しい値を受け取ることがある変数です。

1.9.92 プラグインの環境設定ウィンドウ: 一般タブ

このウィンドウには複数の項目があります。

設定

一般タブでのユーザ設定によって、SQL Central 内でユーザが特定のタスクを実行したときの SQL Anywhere の応答方法が決定されます。

読み込み専用データベースに接続するときに警告する

この設定を選択すると、読み込み専用データベースに接続しようとしたときに警告が表示されます。

システムロール PUBLIC を持たないユーザとして接続するときに警告する (バージョン 16 のデータベースのみ)

この設定を選択すると、PUBLIC システムロールを持たないユーザ ID で接続しようとしたときに警告が表示されます。SQL Central を使用するには、PUBLIC システムロールを持つユーザとしてログインする必要があります。

DBA 権限を持たないユーザとして接続するときに警告する (バージョン 12 以前のデータベースのみ)

この設定を選択すると、DBA 権限のないユーザ ID で接続しようとしたときに警告が表示されます。すべてのプラグイン機能を有効にするには、DBA 権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

接続先サーバのバージョンがプラグインのバージョンよりも新しい場合に警告する

この設定を選択すると、接続先サーバのバージョンが、プラグインのバージョンよりも新しい場合に警告が表示されます。

インデックスまたはテキストインデックスに概数値データ型のカラムがある場合に警告する

この設定を選択すると、概数値データ型を含むカラムがインデックスに含まれる場合に警告が表示されます。プライマリキーや、一意性制約があるカラムには FLOAT や DOUBLE などの概数値データ型を使用しないことをお奨めします。概数値データ型は、算術演算後の丸め誤差がでます。

テキストインデックスに空間データ型のカラムがある場合に警告する

この設定を選択すると、空間データ型を含むカラムが、インデックスまたはテキストインデックスに含まれる場合に警告が表示されます。

SQL 予約語がオブジェクト名として使用されている場合、オブジェクトを作成または名前変更するときに警告する

この設定を選択すると、SQL キーワードが名前に含まれるオブジェクトを作成しているか、その名前を変更している場合に警告が表示されます。

マテリアライズドビューの SQL を変更するときに警告する

この設定を選択すると、マテリアライズドビューを変更するときに警告が表示されます。

アクティブな LDAP サーバを変更するときに警告する

この設定を選択すると、アクティブな LDAP サーバを変更しようとしたときに警告が表示されます。

サポートがデータベースサーバによって推奨されていないにもかかわらずリモートサーバの JDBC 接続タイプが選択されている場合に警告する

JDBC 接続タイプを使用するリモートサーバのサポートは、SQL Anywhere バージョン 12 以降のデータベースサーバでは推奨されていません。この設定を選択すると、リモートサーバに対して JDBC 接続タイプを選択したときに警告が表示されます。

SQL エディタによって SQL 文の先頭が自動的に再フォーマットされたときに通知する

この設定を選択すると、SQL エディタによって SQL 文の先頭が自動的に再フォーマットされたときに警告が表示されます。

デバッグ中にブレークポイントが検出されたときに通知する

この設定を選択すると、**デバッグモード**での作業中にブレークポイントが検出されたときに通知されます。

デバッグ中に文がキャンセルされたときに通知する

このオプションを選択すると、**デバッグモード**での作業中に文が取り消されたときに通知されます。

クリップボードとドラッグアンドドロップ操作でグループへのユーザの追加を確認する

SQL Central では、ドラッグアンドドロップ操作とコピーアンドペースト操作を使用して、ユーザとグループを追加できます。

この設定を選択すると、ユーザまたはロールがドラッグアンドドロップまたはコピーアンドペーストによって追加される前に、SQL Central から確認プロンプトが表示されます。

クリップボードとドラッグアンドドロップ操作でオブジェクト権限の付与を確認する

SQL Central では、ドラッグアンドドロップ操作とコピーアンドペースト操作を使用して、テーブル、ビュー、プロシージャ、ファンクションのオブジェクト権限をユーザまたはロールに付与できます。

この設定を選択すると、テーブル、ビュー、プロシージャ、またはファンクションにユーザまたはロールをドラッグまたはコピーアンドペーストした場合に、権限が付与される前に SQL Central から確認プロンプトが表示されます。

クリップボードとドラッグアンドドロップ操作で SQL Remote サブスクリプションの作成を確認する

SQL Central では、ドラッグアンドドロップ操作とコピーアンドペースト操作を使用して、リモートユーザと統合ユーザ用の SQL Remote サブスクリプションを作成できます。

この設定を選択すると、リモートユーザまたは統合ユーザをパブリケーションにドラッグする操作やコピーアンドペーストする操作をした場合、ユーザをパブリケーションにサブスクライブする前に、SQL Central から確認プロンプトが表示されます。

クリップボードとドラッグアンドドロップ操作で SQL Remote 同期サブスクリプションの作成を確認する

SQL Central では、ドラッグアンドドロップ操作とコピーアンドペースト操作を使用して、Mobile Link ユーザ用の同期サブスクリプションを作成できます。

この設定を選択すると、Mobile Link ユーザをパブリケーションにドラッグする操作やコピーアンドペーストする操作をした場合、Mobile Link ユーザをパブリケーションにサブスクライブする前に、SQL Central から確認プロンプトが表示されます。

テーブルデータ編集時に削除を確認する

この設定を選択すると、SQL Central の**データタブ**でデータを削除する前に SQL Anywhere から確認プロンプトが表示されます。

テーブルデータ編集時に更新を確認する

この設定を選択すると、SQL Central の**データタブ**でデータを更新する前に SQL Anywhere から確認プロンプトが表示されます。

テーブルデータ追加時に挿入を確認する

この設定を選択すると、SQL Central の **データタブ** でデータを挿入する前に SQL Anywhere から確認プロンプトが表示されます。

テーブルデータ編集時に暗黙的更新を確認する

この設定を選択すると、SQL Central で暗黙的な更新が実行される前に SQL Anywhere から確認プロンプトが表示されます。暗黙的な更新が実行されるのは、**データタブ** で特定のローを編集しているときに、SQL Central 内のそのロー以外の場所をクリックした場合です。

テーブルデータ編集時にキャンセルを確認する

この設定を選択すると、SQL Central の **データタブ** でテーブルデータの変更をキャンセルする前に SQL Central から確認プロンプトが表示されます。

データベースの現在のタイムスタンプが変更されるときに、現在のタイムスタンプを表示する この設定を選択すると、データベースのタイムスタンプを変更するときに、SQL Central によって現在のタイムスタンプが表示されます。

メンテナンスプランの開始時に通知する

この設定を選択すると、メンテナンスプランを選択し、メニューから **ただちに実行** を選択することでプランを開始したときに、SQL Central から情報メッセージが表示されます。

メンテナンスプランに関連するイベントを変更または削除するときに警告する

この設定を選択すると、メンテナンスプランに関連付けられているイベントを変更または削除したときに、SQL Central から警告メッセージが表示されます。

編集できないオブジェクト権限を変更しようとしたときに通知する

この設定を選択すると、別のデータベースユーザによって付与されたオブジェクト権限を変更しようとしたときに、SQL Central からメッセージが表示されます。

あるユーザのオブジェクト権限を取り消すと他のユーザについてもそのオブジェクト権限が自動的に取り消される場合に通知する

この設定を選択すると、他のどのユーザが、取り消している権限に WITH GRANT OPTION を設定しており、その権限を他のユーザに付与しているかを伝えるメッセージが SQL Central によって表示されます。そのユーザのオブジェクト権限を取り消すと、そのユーザがその権限を付与していたすべてのユーザの権限も取り消されます。

デフォルトに戻す

このボタンをクリックすると、このタブのユーザ設定がデフォルト値（選択または選択解除）に戻ります。デフォルトでは、このタブのすべてのユーザ設定が選択されています。

1.9.93 プラグインの環境設定ウィンドウ: ユーティリティタブ

このウィンドウには複数の項目があります。

設定

ユーティリティタブ でのユーザ設定によって、ウィザードの概要ページを表示するかどうかと、ウィザード完了後にウィザードのメッセージウィンドウを閉じるかどうかが制御されます。

データベース作成ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、**データベース作成ウィザード** を開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

データベースアップグレードウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、**データベースアップグレードウィザード** を開いたときにウィザードの概要ページが表示されま

す。

データベースバックアップウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、データベースバックアップウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

データベースリストアウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、データベースリストアウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
バックアップイメージ作成ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、バックアップイメージ作成ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

データベースアンロードウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、データベースアンロードウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
データベース抽出ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、データベース抽出ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
データベース検証ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、データベース検証ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
ログファイル変換ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、ログファイル変換ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
ログファイル設定の変更ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、ログファイル設定の変更ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
データベース消去ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、データベース消去ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
データベース移行ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、データベース移行ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
データベースドキュメントウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、データベースドキュメントウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。
同期スキーマの変更の開始ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、同期スキーマの変更の開始ウィザードを開いたときにウィザードの概要ページが表示されま
す。

完了後にウィザードのメッセージウィンドウを閉じる

この設定を選択すると、ウィザードを完了した後にメッセージウィンドウを閉じます。デフォルトでは、この設定は選択
されていません。

推奨されないページサイズが指定されている場合、データベースの作成時に警告する

この設定を選択すると、推奨されないページサイズでデータベースを作成しようとしたときに警告が表示されます。
データベースのアンロード時に実行中のデータベースファイル名が指定されたときに警告する

この設定は、データベースアンロードウィザードにのみ適用されます。アンロードするデータベースがすでに実行中の
ときにデータベースアンロードウィザードを起動すると、アンロードの前にデータベースサーバによってデータベース
が自動的に停止されます。この設定を選択すると、データベースが停止する前に警告が表示されます。

デフォルトに戻す

このボタンをクリックすると、このタブのユーザ設定がデフォルト値 (選択または選択解除)に戻ります。デフォルトでは、
完了後にウィザードのメッセージウィンドウを閉じるを除いてこのタブのすべてのユーザ設定が選択されています。

1.9.94 プラグインの環境設定ウィンドウ: テーブルデータタブ

このウィンドウには複数の項目があります。

このテーブルデータの表示に使用するフォントを指定してください

次のオプションのいずれかを選択することにより、SQL Central でテーブルデータを表示するときにデータタブのテーブルデータに使用するフォントを指定します。

システム

コンピュータの標準のテキストフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。これはデフォルト設定です。

エディタ

コードエディタと同じフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。

カスタム

使用するフォント、フォントスタイル、ポイントサイズを指定する場合は、このオプションを選択します。

1.9.95 プラグインの環境設定ウィンドウ: 自動更新タブ

このウィンドウには複数の項目があります。

自動再表示を有効にする

このオプションを選択すると、SQL Central によって動的オブジェクトと動的プロパティが自動的に再表示されます。

自動再表示を有効にするを選択すると、次のオプションが有効になります。

再表示間隔 X 秒

動的オブジェクトを再表示する間隔を指定します。設定した再表示時間は、変更するまでそのまま使われます。デフォルトの間隔は 10 秒です。

1.9.96 DB 領域の事前割り付けウィンドウ

DB 領域に事前割り付けする領域のサイズを指定します。DB 領域にディスク領域を事前割り付けすると、対応するデータベースファイルのサイズがその分だけ大きくなります。

データベースのページサイズは、データベース作成時に固定化されるので、変更できません。

1.9.97 プライマリキーのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには、プライマリキーのプロパティ (プライマリキーが適用されるテーブル、プライマリキーを適用するために使用されるインデックスなど) が表示されます。

1.9.98 プライマリキーのプロパティウィンドウ: カラムタブ

このタブには、プライマリキーに含まれるカラムが表示されます。

1.9.99 プロシージャのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブにはプロシージャのプロパティ (コードが最後に保存された構文など) が表示されます。

構文

構文は *Watcom SQL* または *Transact-SQL* のどちらかです。

値 (不明) は、オブジェクト定義が大きすぎる (64 KB よりも大きい) 場合に表示されます。

1.9.100 プロシージャのプロパティウィンドウ: パラメータタブ

このタブには複数の項目があります。

このプロシージャには次のパラメータがあります

プロシージャのパラメータの名前、ID、データ型、パラメータタイプ、モードが表示されます。モードの値は次のいずれかです。

入力

このパラメータは、プロシージャに値を与える式です。

出力

このパラメータは、プロシージャから値を受け取ることがある変数です。

入力/出力

このパラメータはプロシージャに値を与え、プロシージャから新しい値を受け取ることがある変数です。

1.9.101 プロキシテーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

プロキシテーブルの名前が表示されます。プロキシテーブルの名前は変更できません。

所有者

プロキシテーブルを所有するデータベースユーザの名前が表示されます。

リモートロケーション

リモートテーブルがあるリモートサーバの名前、リモートデータベース、リモートテーブルを所有するリモートデータベースユーザ、プロキシテーブルの基になっているリモートテーブルの名前が表示されます。これは、リモートサーバ用のプロキシテーブルだけに適用されます。

ディレクトリアクセスサーバ

プロキシテーブルの基になっているディレクトリアクセスサーバの名前が表示されます。これは、ディレクトリアクセスサーバ用のプロキシテーブルだけに適用されます。

サブディレクトリ

ディレクトリアクセスサーバのルートフォルダのサブフォルダが表示されます。プロキシテーブルに対してクエリを実行すると、このサブフォルダ内のファイルとディレクトリだけが表示されます。

1.9.102 プロキシテーブルのプロパティウィンドウ: カラムタブ

プロキシテーブルのすべてのカラムと、その型の一覧が表示されます。

1.9.103 プロキシテーブルのプロパティウィンドウ: その他タブ

このタブには複数の項目があります。

ローの数

テーブルのローの概数を示します。

計算

テーブルの正確なロー数が計算されます。

1.9.104 パブリケーションのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

パブリケーションの名前が表示されます。このフィールドでパブリケーションの名前を変更できます。

所有者

パブリケーションを所有するデータベースユーザの名前が表示されます。

同期タイプ

パブリケーションのタイプが表示されます。タイプは次のいずれかです。

ログスキャン

Mobile Link と SQL Remote と互換性がある標準のパブリケーションです。

スクリプト化されたアップロード

ストアドプロシージャを使用してアップロードを定義するパブリケーションです。このタイプのパブリケーションは Mobile Link だけと互換性があります。

ダウンロード専用

リモートデータベースにデータをダウンロードし、データのアップロードは行わないパブリケーションです。ダウンロード専用のパブリケーションでは、クライアントのトランザクションログを使用しません。このタイプのパブリケーションは Mobile Link だけと互換性があります。

1.9.105 パブリケーションのプロパティウィンドウ: テーブルタブ

このタブには複数の項目があります。

使用可能なテーブルリスト

現在、接続しているデータベースのベーステーブルのリストです。選択したテーブルリストにテーブルを追加するには、**使用可能なテーブルリスト**でテーブルを選択してから、**追加**をクリックします。

選択したテーブルリスト

クライアントデータベースのパブリケーションに入れるすべてのテーブルがリストされます。選択したテーブルリストからテーブルを削除するには、テーブルを選択してから**削除**をクリックします。

1.9.106 パブリケーションのプロパティウィンドウ: カラムタブ

カラムタブを使用すると、テーブルからカラムを選択して、クライアントデータベースに入るアーティクルのリストにカラムを追加できます。

このタブには次の項目があります。

使用可能なカラムリスト

テーブルタブで選択したテーブルとそのカラムがリストされます。リストのテーブルを展開すると、そのカラムが表示されます。選択したカラムリストにカラムを追加するには、**使用可能なカラム**リストでカラムを選択してから、**追加**をクリックします。

選択したカラムリスト

パブリケーションに入れるすべてのカラムがリストされます。選択したカラムリストからカラムを削除するには、カラムを選択してから**削除**をクリックします。

1.9.107 パブリケーションのプロパティウィンドウ: WHERE 句タブ

Mobile Link と SQL Remote のパブリケーション用に定義されたアーティクルでは、WHERE 句を使用して、アーティクル内にテーブルのローのサブセットが含まれるように定義します。

このタブは、パブリケーションの同期タイプがログスキャンのときにのみ適用され、表示されます。

WHERE タブを使用すると、WHERE 句を指定して、クライアントデータベースに入れるローを制限できます。

このタブには次の項目があります。

アークルリスト

パブリケーションに入っているアークル (テーブル) のリストからアークルを選択します。

選択したアークルには次の **WHERE** 句があります

アークルに入れるローを制限するために、そのテーブルの **WHERE** 句をテキストボックスに入力します。

次の例は、単一のアークルで構成され、営業担当者 ID 番号 856 のすべての受注情報が含まれるパブリケーションを作成します。

```
CREATE PUBLICATION pub_orders_samuel_singer
( TABLE SalesOrders
  WHERE SalesRepresentative = 856 );
```

1.9.108 パブリケーションのプロパティウィンドウ: **SUBSCRIBE BY** 制限タブ

SUBSCRIBE BY 制限タブでは、アークルに入れるテーブルのローのサブセットを定義できます。

このタブは SQL Remote のパブリケーションだけに使用でき、パブリケーションの同期タイプがログスキャンの場合にのみ表示されます。

このタブには次の項目があります。

アークルリスト

パブリケーションに入っているアークルのリストからアークルを選択します。

選択したアークルには次の **SUBSCRIBE BY** 制限があります

アークルの **SUBSCRIBE BY** 制限オプションとして、次のいずれかを選択できます。

なし

アークルに **SUBSCRIBE BY** 制限を含めない場合に、このオプションを選択します。

カラム

カラム (**SUBSCRIBE BY** カラム) に基づいてテーブルのローを分割するように、アークルを設定します。このオプションを選択した場合は、ドロップダウンリストからカラムを選択してください。

式

下のフィールドに指定した式に基づいてテーブルのローを分割するように、アークルを設定します。

1.9.109 パブリケーションのプロパティウィンドウ: アップロードプロシージャタブ

このタブは、スクリプト化されたアップロードパブリケーションだけに適用されます。

このタブには次の項目があります。

アーティクルリスト

パブリケーションに入っているアーティクルのリストからアーティクルを選択します。

アップロードプロシージャリスト

最大 3 個のプロシージャ (挿入用、更新用、削除用に 1 個ずつ) を 1 つのアーティクルに関連付けることができます。
[INSERT](#)、[UPDATE](#)、[DELETE](#) の各タブをクリックすると、選択したアーティクルにこれらのプロシージャを指定できます。

次のプロシージャを使用したローのアップロード

このオプションを選択してからドロップダウンリストからプロシージャを選択すると、選択したローのアップロードに使用するプロシージャを指定できます。選択したプロシージャは下のテキストボックスに表示され、そこで編集できます。プロシージャを定義しない場合は、このオプションをクリアします。

ただちに新しいプロシージャを作成

このアイコンをクリックして、アップロードスクリプト用の新しいプロシージャを[プロシージャ作成ウィザード](#)で作成します。

ただちにプロシージャを保存

このアイコンをクリックして、選択したプロシージャに加えた変更を保存します。

ただちにプロシージャを戻す

このアイコンをクリックすると、選択したプロシージャの最後の保存後に行われた変更が破棄されます。

1.9.110 パブリケーションのプロパティウィンドウ: 接続タブ

接続タブで指定できる設定は、使用する通信プロトコルによって決まります。

i 注記

このタブは、Mobile Link パブリケーションだけに適用されます。

buffer_size などの追加パラメータは、[詳細フィールド](#)で設定できます。

このタブには次の項目があります。

プロトコル

同期に使用する通信プロトコルを選択します。デフォルトでは TCP/IP が使用されます。

TCP/IP

このオプションを選択すると、同期に TCP/IP プロトコルが使用されます。

TLS

このオプションを選択すると、同期に TLS (トランスポートレイヤセキュリティ) が使用されます。

HTTP

このオプションを選択すると、同期に HTTP プロトコルが使用されます。

HTTPS

このオプションを選択すると、同期に HTTPS プロトコルが使用されます。

ホスト

Mobile Link サーバを実行するコンピュータの IP アドレスまたはホスト名です。デフォルト値は localhost です。

[localhost](#) は、Mobile Link サーバがクライアントと同じコンピュータで実行されている場合に指定できます。

Windows Mobile では、デフォルト値はレジストリフォルダ `Comm¥Tcpip¥Hosts¥ppp_peer` の `ipaddr` の値です。これによって、Windows Mobile デバイスのクレードルが接続されているデスクトップコンピュータで実行されている Mobile Link サーバに、Windows Mobile デバイスから接続できます。

ポート

Mobile Link サーバは特定のポートを介して通信します。デフォルトのポート番号は、TCP/IP の場合は 2439、HTTP の場合は 80、HTTPS の場合は 443 です。異なる値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link サーバを設定してください。

プロキシホスト

プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。デフォルト値は localhost です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシポート

プロキシサーバのポート番号を入力します。デフォルト値は、HTTP の場合は 80、HTTPS の場合は 443 です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

URL サフィックス

各 HTTP 要求の 1 行目の URL に追加するサフィックスを入力します。デフォルト値は、MobiLink です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシサーバを介して同期する場合、Mobile Link サーバを見つけるためにサフィックスが必要な場合があります。

HTTP バージョン

同期に使用する HTTP のバージョンを指定する値を入力します。1.0 または 1.1 を選択できます。デフォルト値は 1.1 です。

自動接続

以下のオプションを使用すると、Windows または Windows Mobile で実行されている Mobile Link クライアントがダイヤルアップネットワーク接続を介して接続できるようになります。

スケジュールを使用している場合は、リモートデバイスを自動的に同期できます。スケジュールを使用していない場合は、接続を手動でダイヤルすることなく `dbmlsync` を実行できます。

ネットワーク名

ネットワーク名を指定して、Mobile Link の自動ダイヤル機能を使用できるようにします。これによって、手動でダイヤルすることなく Windows または Windows Mobile から接続できます。この名前は、**設定 > 接続 > 接続** (Windows Mobile) または **設定 > 接続 > ネットワーク接続** (Windows) のドロップダウンリストで指定したネットワーク名にしてください。

開いたままにする

ネットワーク名を指定するときに、同期の完了後に接続を開いたままにする (1) か、接続を閉じる (0) かをオプションで指定できます。デフォルトでは、接続は閉じられます (0)。

セキュリティ

これらのオプションでは、アルゴリズムパッケージプログラムを使用して、この接続を介するすべての通信を暗号化できます。以下のフィールドに、サーバの認証に使用される証明書に関する情報を入力できます。

暗号

楕円曲線暗号

このオプションは、バージョン 12 以前のデータベースにのみ使用できます。楕円曲線アルゴリズムを使用して、接続を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。

RSA

RSA アルゴリズムを使用して、通信を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。

FIPS 認定

FIPS 認定 RSA アルゴリズムを使用して、通信を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。FIPS 認定の暗号化には別途ライセンスが必要です。

信頼できる証明書

クライアントがサーバを認証するために使用する証明書ファイルの名前を入力します。

証明書に記載される会社

証明書を発行した認証局の名前を入力します。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

証明書に記載される部署

証明書に記載される部署を入力します。これは組織単位とも呼ばれます。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

証明書に記載される名前

証明書の通称を入力します。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

詳細

このフィールドには、`parameter=value` の形式で追加の接続パラメータを入力します。複数のパラメータを入力する場合はセミコロンで区切ります。たとえば、内容が固定長であるメッセージの本文の最大サイズを設定し、同期のすべての HTTP 要求と同じ TCP/IP 接続を使用するようクライアントに指示するには、[詳細](#) フィールドに次のように指定します。

```
buffer_size=58000;persistent=TRUE
```

i 注記

*Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウの接続タブ*の 1 つのフィールドが空白の場合、Mobile Link ユーザは同期サブスクリプションから接続パラメータ設定を継承できます。パブリケーションの設定を上書きする場合にのみ、*Mobile Link ユーザのプロパティウィンドウの接続タブ*で接続パラメータを指定してください。

1.9.111 パブリケーションのプロパティウィンドウ: 拡張オプションタブ

このタブには複数の項目があります。

i 注記

このタブは、Mobile Link パブリケーションだけに適用されます。

このパブリケーションには次の Mobile Link 拡張オプションがあります

パブリケーションに対して設定されている拡張オプションとその値がリストされます。パブリケーションの値を設定するには、オプション名の横にある値フィールドをクリックします。

1.9.112 パブリッシャのオプションウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

i 注記

オプション設定を変更した場合、直ちに有効になる設定もあれば、データベースを再起動しなければ有効にならない設定もあります。

パブリッシャ

パブリッシャの名前が表示されます。

表示

オプションタイプのリストが表示されます。たとえば、**データベースオプション**を選択すると、データベースに関連するオプションのみが**オプションリスト**に表示されます。

オプションリスト

表示リストで選択したオプションのタイプに基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。

値

オプションリストからオプションを選択して、**値フィールド**で設定を入力または選択します。**恒久的な設定を行う**をクリックすると、恒久的な設定にできます。ただし、オプションに PUBLIC ロールの設定をしていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値を設定することはできません。

オプションの選択を終えたら、ウィンドウの横にあるボタンを使用できます。

新規

パブリッシャのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。新しいオプションを追加するには、**データベースオプションウィンドウ**を開いてください。

すぐに削除

パブリッシャのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。オプションを削除するには、**データベースオプションウィンドウ**を開いてください。

恒久的な設定を行う

パブリッシャのオプション設定を恒久的に変更するには、**オプションリスト**からオプションを選択して、設定を**値フィールド**に入力し、**恒久的な設定を行う**をクリックします。

恒久的な値は、次に明示的に変更されるまでは、セッションが変わっても有効です。

1.9.113 パブリッシャのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

パブリッシャの名前が表示されます。

このパブリッシャにパスワードを設定

このオプションを選択して、パブリッシャにパスワードを割り当てます。パスワードが割り当てられていないパブリッシャは接続できません。ただし、パスワードがあっても、パブリッシャが接続できない場合もあります。たとえば、パブリッシャアカ

アカウントがロックされている場合があります。このオプションをクリアすると、パブリッシャのパスワードが削除され、パスワードフィールドとパスワードの確認フィールドが無効になります。

ユーザは、ほとんどの場合、接続を許可されます。

パスワード

パブリッシャのパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワードの確認

パスワードフィールドに入力したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィールドの内容は、完全に一致している必要があります。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワード作成時刻

現在のパスワードが作成された日付と時刻を示します。

次回ログイン時にパスワードの変更を要求する

このオプションを選択すると、パブリッシャは、次回ログインするときに新しいパスワードの作成が必要になります。

ログインポリシー

パブリッシャのログインポリシーを指定します。

最終ログイン時刻

パブリッシャが最後にログインした日付と時刻を示します。

失敗ログインの試行回数

パブリッシャがログインしようとして失敗した回数を示します。

ロック

パブリッシャのアカウントがロックされているかどうかを示します。パブリッシャがデータベースからロックされていない場合は、**いいえ**と表示されます。

すぐにロック解除

このボタンをクリックすると、パブリッシャのアカウントのロックがデータベースから解除されます。パブリッシャのログインポリシーで次のオプションが1つ以上設定されている場合、**すぐにロック解除**は無効になります。

- `locked=On`
- `password=On`
- `max_connections=0`
- `max_failed_login_attempts=0`

識別名

パブリッシャがLDAPによって認証された場合に、ユーザの識別名 (DN) を示します。

すぐにクリア

キャッシュされているDNをこのユーザのデータベースからクリアし、パブリッシャが次回、LDAPサーバに認証されるたびにデータベースサーバによってDNが再フェッチされます。

1.9.114 パブリッシャのプロパティウィンドウ: 権限タブ

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

DBA

このオプションを選択すると、パブリッシャに DBA 権限が付与されます。DBA 権限を持つユーザは、データベースを完全に管理できます。

リソース

このオプションを選択すると、パブリッシャにリソース権限が付与されます。リソース権限を持つユーザは、データベースオブジェクトを作成できます。

リモート DBA

このオプションを選択すると、パブリッシャに REMOTE DBA 権限が付与されます。Mobile Link クライアントユーティリティ (dbmsync) には REMOTE DBA 権限が必要です。SQL Remote Message Agent (dbremote) を実行する際も、セキュリティホールを作らずにアクションを確実に実行できるように、REMOTE DBA 権限を持つユーザ ID を使用する必要があります。

バックアップ

このオプションを選択すると、パブリッシャにバックアップ権限が付与されます。

VALIDATE

このオプションを選択すると、パブリッシャに VALIDATE 権限が付与されます。VALIDATE 権限を持つユーザは、データベース、テーブル、インデックス、チェックサムの検証など、さまざまな VALIDATE 文を使用した操作を実行できます。

プロファイル

ユーザによるプロファイリングとデータベーストレーシングを許可します。

ファイル読み込み

SELECT 文の OPENSTRING 句を使用したクエリファイルの使用を許可します。

クライアントファイル読み込み

クライアントコンピュータにあるファイルの読み込みを許可します。

クライアントファイル書き込み

クライアントコンピュータにあるファイルへの書き込みを許可します。

1.9.115 クエリ書き換え最適化履歴ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

履歴

SQL 文に適用された各タイプの書き換え最適化に関する詳細と、SQL のテキストが変更された結果が表示されます。

1.9.116 データの再表示ウィンドウ

このタブには複数の項目があります。

再表示操作で使用する独立性レベルを選択してください

次のいずれかの独立性レベルを選択し、基本となるベーステーブルで再表示中に使用するロックの種類を指定します。ロックの種類によって、マテリアライズドビューの移植方法とトランザクションの同時実行性への影響が決まります。

コミットされない読み出し (レベル 0)

このオプションは最大レベルの同時実行性を提供しますが、結果セットにダーティリード、繰り返し不可能読み出し、幻ローが発生する場合があります。

コミットされた読み出し (レベル 1)

このオプションはレベル 0 よりも低い同時実行性になりますが、レベル 0 の結果セットに見られる不整合性が一部解消されます。繰り返し不可能ローや幻ローが発生することはありますが、ダーティリードは発生しません。

繰り返し可能読み出し (レベル 2)

このオプションでは幻ローの発生が許可されます。ダーティリードと繰り返し不可能ローは発生しません。

直列化可能 (レベル 3)

このオプションは最低レベルの同時実行性を提供する、もっとも厳しい独立性レベルです。ダーティリード、繰り返し不可能読み出し、幻ローは発生しません。

スナップショット

このオプションは、トランザクションが最初のローの読み込み、挿入、更新、または削除を行った時点から、コミットされたデータのスナップショットを使用します。ビューが手動ビューで、データベースでスナップショットアイソレーションを使用している場合は、スナップショットがデフォルトです。

共有モード

このオプションを選択すると、再表示操作中に、基本となるテーブルを他のトランザクションで読み込むことができます。この句を指定すると、再表示操作が実行される前から、再表示操作で REFRESH MATERIALIZED VIEW 文が完了するまで、基本となるすべてのベーステーブルの共有テーブルロックが取得されます。

ビューが手動ビューで、データベースでスナップショットアイソレーションを使用していない場合は、共有モードがデフォルトです。また、ビューが即時ビューの場合は、スナップショットアイソレーションが有効かどうかに関係なく、共有モードがデフォルトです。

排他モード

このオプションを選択すると、基本となるすべてのベーステーブルに排他ロックが適用されます。再表示操作が完了するまで、他のトランザクションで、基本となるテーブルに対してクエリ、更新、その他の操作を実行できません。排他テーブルロックを取得できない場合、再表示操作は失敗し、エラーが返されます。

このモードは、独立性レベルを変更しないが、基本となるテーブルにコミットされたデータと矛盾しないようにデータを確実に更新したい場合に選択します。

1.9.117 リモートプロシージャのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブにはリモートプロシージャのプロパティ (構文など) が表示されます。

構文

構文は *Watcom SQL* または *Transact-SQL* のどちらかです。

値 (不明) は、オブジェクト定義が大きすぎる (64 KB よりも大きい) 場合に表示されます。

1.9.118 リモートプロシージャのプロパティウィンドウ: パラメータタブ

このタブには複数の項目があります。

このリモートプロシージャには次のパラメータがあります。

リモートプロシージャのパラメータの名前、ID、データ型、パラメータタイプ、モードが表示されます。モードの値は次のいずれかです。

入力

このパラメータは、プロシージャに値を与える式です。

出力

このパラメータは、プロシージャから値を受け取ることがある変数です。

入力/出力

このパラメータは、リモートプロシージャに値を与え、リモートプロシージャから新しい値を受け取ることがある変数です。

1.9.119 リモートサーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

リモートサーバの名前が表示されます。

読み込み専用

リモートサーバが読み込み専用かどうかが表示されます。

サーバタイプ

データベースサーバのクラスまたはソフトウェアプラットフォームが表示されます。ドロップダウンリストから別のソフトウェアプラットフォームを選択できます。

選択するサーバタイプによって、選択できる接続のタイプが制限されます。たとえば、[サーバタイプ](#)ドロップダウンリストから**一般**を選択すると、接続に使用できるのは ODBC のみにになります。

接続タイプ

接続プロトコルとして、ODBC または JDBC を選択できます。

オープンデータベースコネクティビティ (ODBC)

このオプションを選択すると ODBC 接続プロトコルを使用できます。ODBC は、[サーバタイプ](#)ドロップダウンリストに表示されているすべてのデータベースサーバで使用できます。

Java データベースコネクティビティ (JDBC)

このオプションを選択すると JDBC 接続プロトコルを使用できます。JDBC は、データベースサーバタイプ [SQL Anywhere](#)、[SAP Adaptive Server Enterprise](#)、および [SAP IQ](#) とともに使用できます。

接続情報

データベースサーバの名前やアドレスなどの起動接続パラメータを指定できます。

データソースが ODBC の場合は、データソース名を入力します。JDBC アクセスの場合は、コンピュータ名または IP アドレスとポート番号を `hostname:portnumber` の形式で入力します。

接続テスト

リモートサーバの定義で指定した情報を使って正しく接続できるかどうかをテストします。

1.9.120 リモートユーザのオプションウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

i 注記

オプション設定を変更した場合、直ちに有効になる設定もあれば、データベースを再起動しなければ有効にならない設定もあります。

リモートユーザ

選択したリモートユーザの名前が表示されます。

表示

オプションタイプのリストが表示されます。たとえば、**データベースオプション**を選択すると、データベースに関連するオプションのみが**オプション**リストに表示されます。

オプションリスト

表示リストで選択したオプションのタイプに基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。

値

オプションリストからオプションを選択して、**値**フィールドで設定を入力または選択します。**恒久的な設定を行う**をクリックすると、恒久的な設定にできます。ただし、オプションに PUBLIC ロールの設定をしていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値を設定することはできません。

オプションの選択を終えたら、ウィンドウの横にあるボタンを使用できます。

新規

リモートユーザのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。新しいオプションを追加するには、**データベースオプション**ウィンドウを開いてください。

すぐに削除

リモートユーザのオプションを設定しているときは、このボタンは有効になりません。オプションを削除するには、**データベースオプション**ウィンドウを開いてください。

恒久的な設定を行う

リモートユーザのオプション設定を恒久的に変更するには、**オプション**リストからオプションを選択して、設定を**値**フィールドに入力し、**恒久的な設定を行う**をクリックします。

恒久的な値は、次に明示的に変更されるまでは、セッションが変わっても有効です。

1.9.121 リモートユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

リモートユーザの名前が表示されます。

このリモートユーザにパスワードを設定

このオプションを選択して、リモートユーザにパスワードを割り当てます。パスワードが割り当てられていないユーザは接続できません。ただし、パスワードがあってもユーザが接続できない場合もあります。たとえば、ユーザアカウントがロックされている場合があります。このオプションをクリアすると、ユーザのパスワードが削除され、**パスワードフィールド**と**パスワードの確認フィールド**が無効になります。

パスワード

ユーザのパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワードの確認

パスワードフィールドに入力したパスワードを、もう一度入力して確認します。2つのフィールドの内容は、完全に一致する必要があります。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワード作成時刻

現在のパスワードが作成された日付と時刻を示します。

次回ログイン時にパスワードの変更を要求する

このオプションを選択すると、ユーザは次回ログインするときに新しいパスワードを作成する必要があります。

ログインポリシー

ユーザのログインポリシーの名前を指定します。

最終ログイン時刻

ユーザが最後にログインした日付と時刻を示します。

失敗ログインの試行回数

ユーザがログインしようとして失敗した回数を示します。

ロック

ユーザのアカウントがロックされているかどうかを示します。ユーザがデータベースからロックされていない場合は、**いいえ**と表示されます。

すぐにロック解除

このボタンをクリックすると、ユーザのアカウントのロックがデータベースから解除されます。ユーザのログインポリシーで次のオプションが1つ以上設定されている場合、**すぐにロック解除**は無効になります。

- `locked=On`
- `password=On`
- `max_connections=0`
- `max_failed_login_attempts=0`

識別名

ユーザが LDAP によって認証された場合、ユーザの識別名 (DN) を示します。

すぐにクリア

キャッシュされている DN をこのユーザのデータベースからクリアし、次回ユーザが LDAP サーバに認証されるときにデータベースサーバによって DN が再フェッチされます。

1.9.122 リモートユーザのプロパティウィンドウ: 権限タブ

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

DBA

このオプションを選択すると、リモートユーザに DBA 権限が付与されます。DBA 権限を持つユーザは、データベースを完全に管理できます。

リソース

このオプションを選択すると、リモートユーザにリソース権限が付与されます。リソース権限を持つユーザは、データベースオブジェクトを作成できます。

リモート DBA

このオプションを選択すると、リモートユーザに REMOTE DBA 権限が付与されます。Mobile Link クライアントユーティリティ (dbmlsync) には REMOTE DBA 権限が必要です。SQL Remote Message Agent (dbremote) を実行する際も、セキュリティホールを作らずにアクションを確実に実行できるように、REMOTE DBA 権限を持つユーザ ID を使用する必要があります。

バックアップ

このオプションを選択すると、リモートユーザにバックアップ権限が付与されます。

VALIDATE

このオプションを選択すると、リモートユーザに VALIDATE 権限が付与されます。VALIDATE 権限を持つユーザは、データベース、テーブル、インデックス、チェックサムの検証など、さまざまな VALIDATE 文を使用した操作を実行できます。

プロファイル

ユーザによるプロファイリングとデータベーストレーシングを許可します。

ファイル読み込み

SELECT 文の OPENSTRING 句を使用したクエリファイルの使用を許可します。

クライアントファイル読み込み

クライアントコンピュータにあるファイルの読み込みを許可します。

クライアントファイル書き込み

クライアントコンピュータにあるファイルへの書き込みを許可します。

1.9.123 リモートユーザのプロパティウィンドウ: SQL Remote タブ

このタブには複数の項目があります。

メッセージタイプ

パブリッシャと通信するためのメッセージタイプを選択できます。

アドレス

リモートユーザのリモートアドレスを入力できます。このアドレスは、ユーザに対してレプリケーションメッセージを送信するときの宛先です。指定したメッセージタイプに応じた文字列を入力します。

送信頻度

メッセージをどの程度の頻度で送信すべきかを指定します。

送信して閉じる

パブリッシャの SQL Remote Message Agent ユーティリティ (dbremote) が 1 回の実行で保留中のすべてのメッセージをリモートグループに送信した後で停止するように、レプリケーションの頻度が設定されます。Remote Message Agent (dbremote) ユーティリティは、パブリッシャがメッセージを送信するたびに再起動する必要があります。

ほとんどのレプリケーション設定では、統合パブリッシャからリモートグループにパブリケーションを送信する場合、このオプションは使用されません。

次の間隔で送信

パブリッシャのエージェントの実行を継続し、リモートに指定の間隔でメッセージが送信されるようにレプリケーションの頻度が設定されます。

毎日次の時刻に送信

パブリッシャの dbremote の実行を継続し、リモートに毎日指定時刻にメッセージが送信されるようにレプリケーションの頻度が設定されます。

1.9.124 ロールのオプションウィンドウ

このタブには複数の項目があります。

i 注記

オプション設定を変更した場合、直ちに有効になる設定もあれば、データベースを再起動しなければ有効にならない設定もあります。

ユーザ拡張ロール

選択されているユーザ拡張ロールの名前が表示されます。

表示

オプションタイプのリストが表示されます。たとえば、**データベースオプション**を選択すると、データベースに関連するオプションのみが**オプション**リストに表示されます。

オプションリスト

表示リストで選択したオプションのタイプに基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。

値

オプションリストからオプションを選択して、**値**フィールドで設定を入力または選択します。**恒久的な設定を行う**をクリックすると、恒久的な設定にできます。ただし、オプションに PUBLIC ロールの設定がされていないと、ユーザ定義ロールにそのオプション値を設定することはできません。

オプションの選択を終えたら、ウィンドウの横にあるボタンを使用できます。

新規

このボタンは、PUBLIC ロールのオプションを設定している場合のみ有効になります。PUBLIC ロールの**オプション**ウィンドウを開いて、新しいオプションを追加する必要があります。

すぐに削除

このボタンは、オプションが選択されている場合に PUBLIC ロールに対して有効になります。このボタンは、[設定カラム](#)に値が存在する場合に限り、非 PUBLIC のロールとユーザに対して有効になります。

恒久的な設定を行う

ユーザ拡張ロールの設定を恒久的に変更するには、オプションを選択し、設定を値フィールドに入力してから、[恒久的な設定を行う](#)をクリックします。

1.9.125 ロールのプロパティウィンドウ

このタブには複数の項目があります。

名前

このロールの名前が表示されます。

説明

ロールに関する説明です。

コメント

ロールの説明を入力します。

1.9.126 スケジュールのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

選択されているイベントスケジュールの名前が表示されます。

イベント

スケジュールが適用されるイベントの名前が表示されます。

開始時刻

次のいずれかのオプションを選択して、イベントが発生する時刻を指定します。イベントが反復されないスケジュールされたイベントの場合、開始時刻は未来に設定する必要があります。反復されないスケジュールされたイベントを作成する場合に、そのイベントの開始時刻が過ぎているときは、エラーになります。

次の時刻に開始

このオプションを選択して、イベントをスケジュールする日の特定のスケジュール時刻を指定します。[開始日](#)を指定した場合、[開始時刻](#)は指定した日のその時刻を意味します。[開始日](#)を指定しない場合、[開始時刻](#)は、現在の日付（その時刻が経過していない場合）とそれ以降の毎日の時刻となります。

次の時間帯に開始

選択したイベントが発生する時間の範囲。たとえば、午前 11 時～午後 0 時の間に発生するようにイベントをスケジュールできます。[開始日](#)を指定した場合、指定の日まで開始されません。

開始日

イベントの実行開始をスケジュールする日付。デフォルトは現在の日付です。テキストボックスに日付を入力するか、リストから年、月、日を選択できます。

1.9.127 スケジュールのプロパティウィンドウ: 再帰タブ

このタブの設定はすべてオプションです。

このタブには次の項目があります。

次の間隔で繰り返し

連続してスケジュールするイベントの発生間隔を選択します。このオプションを選択すると、イベント定義に SCHEDULE EVERY 句が追加されます。

スケジュールされたイベントの時刻は、スケジュールの作成時に計算され、イベントハンドラの実行が完了したときに再計算されます。

次の条件でトリガ

このオプションを選択し、**曜日**または**日付**オプションのいずれかを選択します。このオプションを選択すると、イベント定義に SCHEDULE ON 句が追加されます。

曜日

曜日の横のチェックボックスをオンにして、選択したイベントが発生する曜日を選択します。

日付

日付の横のチェックボックスをオンにして、選択したイベントが発生する日を選択します。

1.9.128 シーケンスジェネレータのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

シーケンスジェネレータの名前を指定します。

所有者

シーケンスジェネレータを所有するデータベースユーザを指定します。

最小値

シーケンスの最小値を指定します。指定できる最小の値は $-(2^{63}-1)$ です。デフォルトは 1 です。

最大値

シーケンスの最大値を指定します。指定できる最大の値は $-(2^{63}-1)$ です。デフォルトは $(2^{63}-1)$ です。

開始値

最小値と**最大値**の間の値を開始値として指定します。開始値によって最初に生成される値が決定します。

すぐに再起動

このボタンをクリックすると、**開始値**フィールドに指定した値でシーケンスが再起動されます。

増分値

最後に生成された値と次に生成される値の差分を指定します。負の値を指定すると、降順の値を生成するシーケンスジェネレータが作成されます。

循環値

シーケンスジェネレータが、最大値または最小値まで値が増加または減少した場合に、循環して始めに戻り、再び開始するかどうかを指定します。このオプションをクリアすると、シーケンスが最小値または最大値を超えた場合に、エラーが返されます。

キャッシュサイズ

キャッシュサイズを指定します。キャッシュサイズによって、事前に割り付けられるシーケンス値の数が決定され、より速くアクセスできるようにメモリに保持されます。キャッシュが不足した場合は再移植され、対応するエントリがトランザクションログに書き込まれます。

このオプションをクリアすると、サーバがクラッシュしても値がスキップされることはありません。

1.9.129 サーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

データベースサーバの名前が表示されます。

製品名

データベースサーバの製品タイプが表示されます。たとえば、SQL Anywhere や Adaptive Server Anywhere などです。

バージョン

データベースサーバのバージョン番号が表示されます。

コンピュータ

データベースサーバを実行しているコンピュータの名前が表示されます。

オペレーティングシステム

データベースサーバを現在実行しているオペレーティングシステムが表示されます。

オペレーティングシステムのバージョン

データベースサーバを現在実行しているオペレーティングシステムのバージョンが表示されます。

1.9.130 サーバのプロパティウィンドウ: 詳細情報タブ

このウィンドウには、データベースサーバのプロパティとその値の詳細情報が表示されます。値を更新するには、**再表示**をクリックするか、F5を押します。

1.9.131 サーバのプロパティウィンドウ: オプションタブ

このタブにあるデータベースサーバオプションは、データベースサーバの実行中にリセットできるオプションに対応しています。

このタブには次の項目があります。

現在の時刻

現在の時刻が表示されます。

終了時刻

データベースサーバを停止する時刻を指定できます。次に示す現在の時刻と同じ形式を使用します。

YYYY-MM-DD HH:NN:SS

新しい接続を禁止

このオプションを選択すると、他のユーザがデータベースに接続できなくなります。このオプションは、保守作業を行う場合に便利です。

各接続で最後に実行された文を記憶

このオプションを選択すると、各接続で最後に実行された文が記憶されます。

SQL Anywhere コックピット

実行中のデータベースサーバで SQL Anywhere コックピットの起動と停止を行うには、このボタンを使用します。

データベースサーバが稼働しているコンピュータが、複数のサブネットワークからなるネットワーク上のアドレスを持つ場合、SQL Anywhere コックピットに複数の URL が表示される場合があります。別のコンピュータ上のブラウザからこれらのすべてのサブネットワークに到達できない場合、一部の URL は機能しません。

1.9.132 サーバのプロパティウィンドウ: 要求ロギングタブ

このタブには複数の項目があります。

要求のロギングを可能にする

このオプションを選択すると、データベースサーバが処理する要求が要求ログファイルに記録されます。このオプションは、主としてトラブルシューティングに使用されます。

i 注記

SQL Anywhere 10 以降のデータベースでは、新しいデータベーストレーシング機能でデータベース要求のより詳細なログが作成されます。

要求のロギングを可能にするを選択すると、次のオプションが有効になります。

このサーバへの全接続

現在のデータベースサーバへのすべての接続からの要求が要求ログファイルに記録されます。

次のデータベースへの全接続

指定するデータベースへのすべての接続からの要求が要求ログファイルに記録されます。

次の接続

指定する接続からの要求だけが要求ログファイルに記録されます。

すべての要求を記録

データベースサーバで処理されたすべての要求が要求ログファイルに記録されます。

次の要求のみを記録

このオプションを選択すると、ログを取る要求のタイプを指定できます。

SQL

SQL 文の要求のログを取ります。

プロシージャとファンクション

プロシージャとファンクションの呼び出しのログを取ります。

クエリプラン

クエリ実行プランのログを取ります。

ホスト変数を含む

ホスト変数をログに含めます。

トリガ

トリガの呼び出しのログを取ります。

処理をブロックされた接続

処理をブロックされた接続のログを取ります。

ログファイル名

要求のロギングを可能にするを選択した場合は、要求ログファイル名を指定する必要があります。

要求ログファイルがすでに存在する場合は上書きする

このオプションを選択すると、既存の要求ログファイルが上書きされます。

最大ログファイルサイズ

要求ログファイルのキロバイト単位の最大サイズ。

ログファイルの最大数

維持するログファイルの最大数。各ファイルは、拡張子に番号が追加されます。

1.9.133 サービスのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

サービスの名前が表示されます。サービスは、一連のオプションを使ってデータベースサーバやその他のアプリケーションを実行します。

サービスタイプ

サービスのタイプが表示されます。

サービスタイプ	説明
ネットワークデータベースサーバ	ネットワーク間でクライアント/サーバ通信をサポートするネットワークデータベースサーバです。
パーソナルデータベースサーバ	単一ユーザ、同一コンピュータ使用のパーソナルデータベースサーバです。

サービスタイプ	説明
SQL Remote Message Agent	<p>統合データベースとリモートデータベースの間でレプリケーションメッセージを送受信するアプリケーションです。</p> <p>通常、統合データベースのエージェントは常時実行されていて、レプリケーションメッセージを連続的に受信し、定期的送信します。一方、リモートデータベースのエージェントは、通常、必要に応じて実行され、保留中のすべてのメッセージを送受信します。</p>
Agent for Replication Server	<p>このサービスタイプは、バージョン 11 以前のデータベースにのみ使用できます。</p> <p>これは Log Transfer Manager (LTM) と呼ばれ、SAP Open Server Gateway を使用し、SQL Anywhere データベースを SAP Replication Server のインストールに追加できます。</p> <p>このエージェントは SQL Anywhere データベースがプライマリサイトとして動作するときに必要です。ただし、レプリケートサイトとして動作する場合は不要です。</p>
サンプルアプリケーション	<p>クライアントアプリケーションをサービスとしてプログラムする方法を示すサンプルアプリケーションです。</p> <p>このアプリケーション自体は、SQL Anywhere に含まれるサンプル C コードから作成できます。</p>
Mobile Link サーバ	<p>Mobile Link サーバを使用すると、リモートデータベースまたはアプリケーションを ODBC 互換の統合データベースと同期できます。</p>
SQL Anywhere Mobile Link クライアント	<p>Mobile Link サーバと SQL Anywhere データベースの間でデータのアップロードやダウンロードを行う SQL Anywhere Mobile Link クライアントです。</p>
Mobile Link Listener ユーティリティ	<p>Windows Mobile を含む Windows デバイス上で Mobile Link Listener を設定および起動するユーティリティです。</p>
Broadcast Repeater ユーティリティ	<p>他のサブネット上で実行されている SQL Anywhere データベースサーバや、ファイアウォールの外側において UDP ブロードキャストが通常は届かない SQL Anywhere データベースサーバを、SQL Anywhere クライアントが検索できるようにするユーティリティです。</p>
SQL Anywhere ボリュームシャドウコピーサービス	<p>SQL Anywhere は、Microsoft ボリュームシャドウコピーサービス (VSS) と互換性があります。VSS を使用すると、ディスクボリューム全体またはボリュームセットのポイントインタイムスナップショットを作成したり、SQL Anywhere データベースサーバなどのアプリケーションで排他的に使用するために開かれているファイルのコピーを作成することができます。</p>
Mobile Link Relay Server	<p>Afaria、Mobile Office、Mobile Link、SQL Anywhere、SAP Mobile Server、SAP Mobile Platform サーバと、モバイルデバイスとの間の、安全で負荷分散された Web サーバ経由の通信を実現する、Web 拡張機能セットです。</p>

サービスタイプ	説明
<i>Mobile Link Relay Server Outbound Enabler</i>	バックエンドサーバと Relay Server ファームとの間のあらゆる通信を管理するユーティリティです。

ステータス

サービスが開始しているか、停止しているかが表示されます。

起動タイプ

サービスの起動オプションとして次のいずれかを選択できます。起動オプションは、次回 Windows を起動するときに適用されます。

自動

このオプションを選択すると、オペレーティングシステムの起動時にサービスが自動的に起動します。

手動

サービスを手動で起動するときは、このオプションを選択します。Windows では、管理者でないとサービスを起動できません。

無効

サービスを無効にして起動しないようにするときは、このオプションを選択します。

1.9.134 サービスのプロパティウィンドウ: 設定タブ

このタブには複数の項目があります。

ファイル名

実行ファイルのパスを入力します。たとえば、C:\Program Files\SQL Anywhere 17\Bin32\dbremote.exe のように記述します。

パラメータ

実行ファイルの追加のパラメータ (ファイル名とオプション) をテキストボックスに入力します。実行ファイルで使用するのと同じオプションをサービスに対して使用できます。

たとえば、SQL Anywhere サンプルデータベースにユーザ DBA で接続して、SQL Remote Message Agent (dbremote) サービスを開始するには、次のように指定します。

```
-c "UID=DBA;PWD=sql;DBN=demo"
```

1.9.135 サービスのプロパティウィンドウ: アカウントタブ

このタブには複数の項目があります。

ローカルシステムアカウント

このオプションを選択すると、システムのローカルアカウントでサービスが実行されます。

デスクトップとの対話をサービスに許可

このオプションを使用できるのは、**ローカルシステムアカウント**を選択した場合だけです。デスクトップのアイコンをクリックしてデータベースサーバメッセージウィンドウを表示するには、このオプションを選択します。このオプションは Windows 7 以降では使用できません。

その他のアカウント

このオプションを選択すると、ローカルアカウント以外のアカウントでサービスが実行されます。ドロップダウンリストからユーザ ID を選択するか、ユーザ ID を入力することができます。このオプションを選択すると、**パスワードオプション**と**パスワードの確認オプション**が有効になります。

パスワード

その他のアカウントを選択した場合、ユーザ ID の適切なパスワードを指定する必要があります。**パスワードの確認**テキストボックスでパスワードを確認してください。

パスワードの確認

パスワードテキストボックスに入力したパスワードをもう一度入力して確認します。2 つのフィールドの内容は、完全に一致している必要があります。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

1.9.136 サービスのプロパティウィンドウ: 依存性タブ

このタブには複数の項目があります。

このサービスはサービスグループに所属

このオプションを選択すると、サービスがサービスグループのメンバーとして割り当てられます。

サービスグループ

サービスが属するサービスグループを指定するために使用します。サービスが属するサービスグループを変更するには、**変更**をクリックします。**サービスグループの設定**ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、サービスのサービスグループを指定できます。

Agent for Replication Server サービスグループは、バージョン 11 以前のデータベースでのみ使用できます。

サービスリスト

このサービスの前に起動するサービスとサービスグループすべてがリストされます。このリストには、サービスまたはサービスグループのタイプも表示されます。

このリストにサービスまたはサービスグループを追加するには、**サービスの追加**または**サービスグループの追加**をクリックします。サービスまたはサービスグループをサービスリストから削除するには、サービスまたはサービスグループを選択して、**削除**をクリックします。Shift キーを押したままでクリックすると複数のサービスまたはサービスグループを選択できます。

サービスの追加

サービスの依存の追加ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、すべてのサービスを表示して、**サービスリスト**に追加するサービスを選択できます。

サービスグループの追加

サービスグループの依存の追加ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、**サービスリスト**に追加するサービスグループを選択できます。

削除

サービスリストからサービスまたはサービスグループを削除します。削除したグループまたはサービスは、このサービスよりも前に起動する必要がなくなります。

1.9.137 統合ユーザの設定ウィンドウ

1つのデータベースで選択できる統合ユーザは1名のみです。

統合ユーザの名前は、データベースのプロパティウィンドウの *SQL Remote* タブに表示されます。

候補リストから新しい統合ユーザを選択してください

データベースの統合ユーザを選択できるユーザがリストされます。ユーザを選択して *OK* をクリックすると、選択したユーザに *CONSOLIDATED* パーミッションが付与されます。ユーザをダブルクリックすると、*CONSOLIDATE* 権限がそのユーザに付与され、ウィンドウが閉じます。

1.9.138 クラスタドインデックスの設定ウィンドウ

インデックスをクラスタ化するには、このウィンドウを使用します。

このウィンドウには次の項目があります。

このテーブルのクラスタ化するインデックスを指定する

このオプションを選択すると、以下のインデックスリストが有効になるので、そこからクラスタ化するインデックスを選択します。

インデックスリスト

このテーブルのすべてのインデックスが表示されます。クラスタドインデックスを指定するには、リストから特定のインデックスを選択し、*OK* をクリックします。特定のテーブル上のインデックスのうち、クラスタドインデックスにできるのは1つだけです。

1.9.139 パブリッシャの設定ウィンドウ

1つのデータベースで選択できるパブリッシャは1つのみです。

候補リストから新しいパブリッシャを選択してください

パブリッシャを選択できるユーザがリストされます。ユーザを選択して *OK* をクリックすると、選択したユーザに *PUBLISH* パーミッションが付与されます。ユーザをダブルクリックすると、*PUBLISH* パーミッションがそのユーザに付与され、ウィンドウが閉じます。

1.9.140 サービスグループの設定ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

新しいサービスグループ

このオプションを選択すると、選択したサービスの割当先となるサービスグループが新しく作成されます。

サービスグループ名

上記の**新しいサービスグループ**を選択した場合は、新しいサービスグループの名前を入力します。
既存のサービスグループ

このオプションを選択すると、選択したサービスが既存のサービスグループのメンバーとして割り当てられます。

サービスグループリスト

既存のサービスグループがすべてリストされます。このリストが有効になるのは、**既存のサービスグループ**オプションを選択した場合です。選択したサービスをサービスグループに割り当てるには、このリストから既存のサービスグループを選択して **OK** をクリックします。サービスグループをダブルクリックすると、そのサービスグループにサービスが割り当てられ、ウィンドウが閉じます。

1.9.141 空間参照系のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

空間参照系の名前を指定します。

空間参照系 ID

空間参照系 ID を指定します。これは、データベース内で空間参照系をユニークに識別する整数です。

組織

空間参照系を作成した組織、またはこの空間参照系が基づいている空間参照系を作成した組織の名前を指定します。

組織座標参照系 ID

組織が空間参照系を識別するために使用する数値識別子を指定します。

1.9.142 空間参照系のプロパティウィンドウ: 設定タブ

このタブには複数の項目があります。

空間参照系タイプ

SQL/MM 標準による定義に従って、空間参照系のタイプを指定します。値は、**地理**、**投影**、または**エンジニアリング** (内部使用) のいずれかとなります。

線の解釈

空間参照系が点と点を結ぶ線を解釈する方法を指定します。**空間参照系タイプ**が**地理**の場合は、**球面**または**平面**を選択できます。それ以外の場合には、**平面**のみを選択できます。

球面

地球は楕円形で表現され、地球の 3 次元モデルが 2 次元で表現されます。点と点を結ぶ線は大楕円弧として解釈されます。地表面の 2 点を指定し、この 2 点および地球の中心と交差するように平面を選択したとします。この平面は地球と交差し、2 点を結ぶ線はこの交差に沿った最短距離になります。この線の解釈は、地理的空間参照系に対してのみサポートされます。

平面

地球 (または地球の一部) は 2 次元平面上で表現されます。X と Y は直交直線座標として扱われ、点と点を結ぶ線は直線として解釈されます。地理的空間参照系の場合、地理的データはゆがめられます。オブジェクトの地球上での

位置によって、ゆがみはその面積、シェイプ、距離、方向に影響することがあります。この線の解釈は、すべての空間参照系に対してサポートされ、非地理的空間参照系の唯一の選択肢になります。

軸の順序

データベースサーバが緯度と経度に関連して点を解釈する方法を指定します。空間参照系タイプが地理の場合、デフォルトの軸の順序は経度/緯度/Z/Mであり、緯度/経度/Z/Mもサポートされます。空間参照系タイプが投影またはエンジニアリングの場合、軸の順序はX/Y/Z/Mです。

ポリゴンのフォーマット

データベースが多角形を解釈する方法を指定します。SQL Anywhere では、内部的に多角形が反時計回りにフォーマットされます。ただし、他の製品では異なる方法で多角形がフォーマットされる場合があります。

サポートされる多角形のフォーマットのリストを次に示します。

反時計回り

リングの方向に従って、多角形の内側が左側になります。

時計回り

リングの方向に従って、多角形の内側が右側になります。

奇偶

リングの方向は無視され、多角形の内部は代わりにリングのネストによって決定されます。外部のリングは最大のリングとなり、内部のリングはこのリングの内側の小さなリングとなります。レイはすべてのリング内の点から外側に向かってトレースされます。これがデフォルトフォーマットです。

記憶フォーマット

空間データの格納に使用されるフォーマットを指定します。

次のような値があります。

内部

正規化された表現のみが保存されます。線の解釈が平面の場合、これがデフォルトのオプションです。

オリジナル

オリジナルの表現のみが保存されます。オリジナルの入力特性を再現できますが、格納された値のすべての操作に対して正規化の手順を繰り返す必要があり、操作が遅くなる可能性があります。

混在

オリジナル表現と内部表現が異なる場合、その両方が保存されます。オリジナルの表現特性を再現でき、格納された値の操作に対して正規化の手順を繰り返す必要はありません。線の解釈が球面の場合、これがデフォルトのオプションです。

半長径

地球の中心から赤道までの距離を指定します。

逆扁平率

逆扁平率を指定します。

1.9.143 空間参照系のプロパティウィンドウ: 座標系タブ

このタブには複数の項目があります。

緯度

緯度次元の境界を指定します。このオプションは、[空間参照系タイプが地理](#)の場合に表示されます。

バインド済み: 北から南まで

北と南の境界を指定します。

未バインド

北と南に境界を指定しません。

経度

経度次元の境界を指定します。このオプションは、[空間参照系タイプが地理](#)の場合に表示されます。

バインド済み: 西から東まで

東と西の境界を指定します。

未バインド

西と東に境界を指定しません。

X

X 軸の境界を指定します。このオプションは、[空間参照系タイプが地理でない](#)場合に表示されます。

バインド済み: 最小から最大まで

X 軸の最小と最大の境界を指定します。

未バインド

X 値に境界を指定しません。

Y

Y 軸の境界を指定します。このオプションは、[空間参照系タイプが地理でない](#)場合に表示されます。

バインド済み: 最小から最大まで

Y 軸の最小と最大の境界を指定します。

未バインド

Y 値に境界を指定しません。

Z

Z 値の境界を指定します。

バインド済み: 最小から最大まで

Z 値の最小と最大の境界を指定します。

未バインド

Z 値に境界を指定しません。

M

M 値の境界を指定します。

バインド済み: 最小から最大まで

M 値の最小と最大の境界を指定します。

未バインド

M 値に境界を指定しません。

グリッドにスナップ

データベースサーバが計算を実行するときに使用するグリッドのサイズを定義します。線の解釈が球面の場合、このオプションは無効になります。

データベースサーバのデフォルトでは、X 境界と Y 境界内のすべての点に対して 12 有効桁数を格納できるようにグリッドサイズが自動的に設定されます。たとえば、X が -180 と 180 に設定され、Y が -90 と 90 に設定されている場合、データベースサーバによって、グリッドサイズが 0.000000001 (1E-9) に設定されます。

ただし、カスタムのグリッドにスナップを指定できます。カスタムのグリッドにスナップ値を指定した場合、データベースサーバは、X 境界と Y 境界への変更に関係なく、常にカスタム値を代わりに使用します。

許容度

データベースサーバで点を比較するときに使用する精度を指定します。線の解釈が球面の場合、このオプションは無効になります。

2 点間の距離が指定よりも小さい場合、その 2 点は同一と見なされます。距離を指定することにより、入力データまたは制限された内部精度の不正確さに対する許容度を制御できます。デフォルトでは、許容度はグリッドにスナップと等しくなるように設定されます。

線形測定単位

線形測定単位を指定します。デフォルトはメートルです。

非地理的空間参照系の場合、線形測定単位を変更すると、座標境界が新しい測定単位に変換されます。

角度測定単位

角度測定単位を指定します。このオプションは、地理的空間参照系にのみ適用されます。

デフォルトは、地理的空間参照系の場合は度、非地理的空間参照系の場合は NULL です。

地理的空間参照系の場合、角度測定単位を変更すると、設定タブの座標バウンドが新しい測定単位に変換されます。

1.9.144 空間参照系のプロパティウィンドウ: 変換定義タブ

このタブでは、空間参照系で使用される変換定義を指定します。

1.9.145 SQL Remote サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

パブリケーション名と所有者、このパブリケーションをサブスクライブする SQL Remote ユーザが表示されます。

パブリケーション

SQL Remote ユーザのサブスクリプションが作成されているパブリケーションが表示されます。

サブスクライバ

このパブリケーションをサブスクライブする SQL Remote ユーザが表示されます。

サブスクリプション値

SQL Remote サブスクリプションのサブスクリプション値が表示されます。サブスクリプション値は、パブリケーションのサブスクリプション式と比較される文字列です。サブスクリバは、サブスクリプション式がサブスクリプション値と一致するすべてのローを受信します。

1.9.146 SQL Remote サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 詳細タブ

このタブには複数の項目があります。

ステータス

サブスクリプションが開始しているか、停止しているかが表示されます。

サブスクリプションの開始

すぐに開始をクリックすると、サブスクリプションを手動で開始できます。ただし、抽出ユーティリティ (dbxtract) を使ってサブスクリプションを自動的に開始することをお奨めします。

サブスクリプションの停止

すぐに停止をクリックすると、開始されたサブスクリプションを停止できます。

サブスクリプションの同期化

すぐに同期化をクリックすると、SYNCHRONIZE SUBSCRIPTION 文を使用して、サブスクリプションを手動で同期できます。ただし、抽出ユーティリティ (dbxtract) を使ってサブスクリプションを自動的に同期することをお奨めします。

1.9.147 SQL 文の詳細ウィンドウ

SQL 文の詳細ウィンドウには、SQL 文情報ウィンドウ枠とクエリ情報ウィンドウ枠があります。

表示されるフィールドは、選択した SQL 文によって異なるため、以下に説明するフィールドの一部は表示されない場合があります。

SQL 文情報

SQL 文に関する次の情報が表示されます。

要求 ID

要求 ID が表示されます。

SQL 文

選択されている SQL 文の完全なテキストが表示されます。文について表示されるテキストは、元のテキストと一致しない場合があります。この文がデータベースサーバによって解析された後で取得された場合 (ストアプロシージャやトリガなど、コンパイル済みデータベースオブジェクトの一部であるか、サンプリングまたはコストの条件を満たしているためにトレースに含めるように選択されただけの場合) は、最初の記述と異なる場合があります。特に、ビューの定義は多くの場合、クエリに展開される (インラインで展開される) ので、ビュー以降のクエリは大きく異なる場合があります。

ホスト/内部変数

選択されている SQL 文のホスト変数、内部変数、その値が表示されます。

開始時刻

文の開始時刻が表示されます。

期間

文の継続時間が表示されます。継続時間は、データベースサーバで要求の処理に実際に要した時間です。

カーソルのクローズ時間

カーソルのクローズ時間が表示されます。

接続 ID

選択されている文の接続 ID が表示されます。

ユーザ

選択されている文のユーザ ID が表示されます。

SQL エラーコード

エラーに関連付けられている SQL エラーコードの数値が表示されます。

プロシージャ/トリガ

選択されている文に関連するストアードプロシージャまたはトリガが表示されます。

プロシージャ/トリガの行番号

該当するプロシージャまたはトリガの行番号が表示されます。

クエリ情報

SQL 文に関する次のクエリ情報が表示されます。

独立性レベル

選択されている文の独立性レベルが表示されます。

転送フェッチ

選択されている文の転送フェッチの数が表示されます。

リバースフェッチ

文のリバースフェッチの数が表示されます。

絶対フェッチ

文の絶対フェッチの数が表示されます。

最初のフェッチ時間

選択されているデータベースの最初のフェッチ時間が表示されます。

使用されたオプティマイザのバイパス

オプティマイザのバイパスが使用されたかどうかが表示されます。

実際のテキストプラン

実際のテキストプランが表示されます。

構築時のプラン

構築時のプランが表示されます。オブジェクトをクリックすると、そのオブジェクトの詳細が表示されます。[高度な詳細](#)をクリックすると、さらに詳細な情報が表示されます。

1.9.148 データベースの開始ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

サーバ

データベースが開始されると、選択したデータベースサーバの名前が表示されます。

データベースファイル

サーバコンピュータにあるデータベースファイルのフルパスと名前を入力します。例: C:\¥databases
¥mydatabase.db.

暗号化キー

データベースを開始するための暗号化キーを指定します。強力に暗号化されたデータベースを開始するには、暗号化キーを指定する必要があります。このフィールドは、強力に暗号化されたデータベースに対してのみ有効です。

データベース名

接続先にしているデータベースの名前を入力します。ファイル名の代わりに、クライアントアプリケーションのユーザにとつてさらにわかりやすい名前をデータベースに付けることができます。複数のデータベースが同時にデータベースサーバで実行できるため、データベース名を指定することによって、同一データベースサーバで実行しているデータベースを区別できます。データベースが停止するまでは、指定する名前によって識別されます。

データベース名はオプションですが、指定することをお奨めします。データベース名を指定しないと、データベースファイル名のルート (.db 拡張子を省いたファイル名) がデフォルトのデータベース名になります。たとえば、sample.db というデータベースがある場合、デフォルトのデータベース名は sample です。

i 注記

データベース名を utility_db にしないでください。この名前は、ユーティリティデータベースのために予約されています。

最終切断後にデータベースを停止

このオプションを選択すると、最後の接続が終了したときにデータベースが停止します。このオプションは、データベースサーバを自動的に停止する -ga サーバオプションとは異なります。

1.9.149 同期プロファイルを使用して同期ウィンドウ

このタブには複数の項目があります。

同期プロファイル

同期プロファイルの名前が表示されます。

ポート

Mobile Link が使用するポートを指定します。デフォルトは 4433 です。

冗長性

以下のレベルのいずれかを選択して、同期中に synchronize_results および synchronize_parameters 共有グローバルテンポラリテーブルに追加される情報量を指定します。

低 (イベントの開始と停止、警告、およびエラー)

選択すると、開始イベント、停止イベント、エラー、警告が synchronize_results および synchronize_parameters テーブルに追加されます。

通常 (低、および情報イベント)

選択すると、開始イベント、停止イベント、エラー、警告、情報イベントが synchronize_results および synchronize_parameters テーブルに追加されます。このオプションはデフォルトです。

高 (通常、および進行状況イベント)

選択すると、開始イベント、停止イベント、エラー、警告、情報イベント、進行状況イベントが synchronize_results および synchronize_parameters テーブルに追加されます。

メッセージのチェック間隔

新しいメッセージをチェックする間隔を指定します。

1.9.150 同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 一般

このタブには同期プロファイルのプロパティが表示されます。

1.9.151 同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 基本 Dbmlsync タブ

このタブには複数の項目があります。

サブスクリプション

SQL Anywhere バージョン 12.0.0 以降で作成されたデータベースの同期プロファイルに含めるサブスクリプションを指定します。

SQL Anywhere の以前のバージョンで作成されたデータベースの場合、個々のパブリケーションと Mobile Link ユーザを指定します。

同期タイプ

双方向

双方向の同期を行うには、このオプションを選択します。

アップロード専用

アップロード専用同期を行うには、このオプションを選択します。

ダウンロード専用

ダウンロード専用同期を行うには、このオプションを選択します。

ダウンロードを続行

以前に失敗したダウンロードを再開するには、このオプションを選択します。

ダウンロードファイルを作成

ダウンロードファイルを作成するには、このオプションを選択します。ダウンロードファイルの名前を指定します。ダウンロードファイルにはファイル拡張子 .df を使用してください。

任意でパスを指定できます。パスを指定しない場合、デフォルトロケーションは dbmlsync の現在の作業ディレクトリ (dbmlsync が起動されたディレクトリ) です。

ダウンロードファイルの追加文字列

必要に応じて、`-be filename` と指定して、リモートデータベースで検証可能な文字列を指定できます。

まだ同期していないリモートデータベースのダウンロードファイルを作成するには、`-bg filename` と指定します。

世代番号の更新

同期サブスクリプションの世代番号を指定します。

世代番号とは、リモートデータベースがデータをアップロードしてからダウンロードファイルを適用するようにするためのメカニズムです。データベース上の同期サブスクリプションごとに異なる世代番号が自動生成されます。

ダウンロードファイルを適用

指定したダウンロードファイルを適用するには、このオプションを選択します。

Ping

Mobile Link サーバに対して ping を実行するには、このオプションを選択します。このオプションでは、Ultra Light クライアントと Mobile Link サーバの間の通信が確認されるだけで、データは同期されません。

トランザクションのアップロード

リモートデータベースの各トランザクションを、1つの同期内で独立したトランザクションとしてアップロードするかどうかを選択します。

ダウンロード読み込みサイズ

再起動可能なダウンロードについて、通信障害の後に再送する必要があるデータの最大量を指定します。

部分的なダウンロードを維持 `OFF` または `ON` を選択します。このオプションが `ON` に設定されているときにダウンロードが失敗すると、後でダウンロードを再開するのに必要な情報が Mobile Link サーバによって保存されます。このオプションを使用できるのは、データベースがバージョン で稼動していて、次のいずれかのオプションを選択した場合に限られます。

- 双方向
- ダウンロード専用
- ダウンロードファイルを作成

1.9.152 同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 詳細 *Dbmlsync*

このタブには複数の項目があります。

Mobile Link パスワード

パスワード

ユーザのパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

新しいパスワード

ユーザの新しいパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

新しいパスワードの確認

新しいパスワードフィールドに入力したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィールドの内容は、完全に一致している必要があります。

冗長性

dbmlsync のメッセージログファイルにログを取り、dbmlsync のメッセージウィンドウに表示する情報を指定できます。冗長レベルが高すぎるとパフォーマンスに影響する可能性があるため、通常は、冗長レベルを高くするのは開発段階のみとしてください。

なし

ロギングを無効にするには、このオプションを選択します。これはデフォルトです。

基本 + 次の設定

少量の情報のログを取るよう指定するには、このオプションを選択します。次の 1 つまたは複数の設定を選択します。

アップロード

アップロードストリームに関する情報のログを取ります。

ダウンロード

ダウンロードストリームに関する情報のログを取ります。

ロー数

アップロードとダウンロードされたロー数のログを取ります。

ローデータ

アップロードとダウンロードされたローの値のログを取ります。

オプション

dbmlsync を起動するときに指定したコマンドラインオプション (拡張オプションを含む) に関する情報のログを取ります。

フック

フックスクリプトに関連するメッセージのログを取ります。

高

すべてのログオプションをオンにするには、このオプションを選択します。冗長レベルが高すぎるとパフォーマンスに影響する可能性があるため、通常は、冗長レベルを高くするのは開発段階のみとしてください。

接続文字列

dbmlsync のメッセージログに接続文字列を含めるには、このオプションを選択します。

Mobile Link パスワード

dbmlsync のメッセージログにパスワードを含めるには、このオプションを選択します。

バックグラウンド同期

データをアップロードおよびダウンロードするときに dbmlsync が使用するキャッシュのサイズを制御するオプションを指定できます。

バックグラウンド同期の有効化

このオプションを選択すると、バックグラウンド同期が有効になります。

中断された同期の再試行回数

- **最大**を選択して、整数値を指定します。dbmlsync は、同期が完了するまで、最大で指定した回数だけ試行します。指定された回数を試行しても同期が完了しない場合は、中断せずに完了できるよう、フォアグラウンドの同期として実行します。
0 を指定した場合、dbmlsync は中断された同期を再試行しません。

- 無制限を選択すると、dbmlsync は、成功または失敗にかかわらず、中断された同期が完了するまで、中断されることなく同期を再試行します。

1.9.153 同期プロファイルのプロパティウィンドウ: その他の Dbmlsync

このタブには複数の項目があります。

認証パラメータ

認証パラメータを指定します。カンマで区切って複数の値を指定できます。パラメータは Mobile Link サーバに送信され、authenticate_parameters スクリプトや統合データベース上のその他のイベントに渡されます。

アップロードのロー数

同期でアップロードされるロー数の推定値を指定します。

ログの名前変更のサイズ

トランザクションログに推定される最大サイズを指定します。同期後に、トランザクションログが、指定したサイズよりも大きかった場合、トランザクションログの名前が変更され、再作成されます。0 を指定した場合、同期後にデータベースによってトランザクションログの名前が変更され、再作成されます。

フックエラーの無視

フック関数で発生するエラーを無視するかどうかを指定します。

スケジュールの無視

スケジュールの指示を無視して、直ちに同期を行うかどうかを指定します。

接続の強制終了

リモートデータベースに対する競合ロックを削除するかどうかを指定します。

進行状況が一致しない場合、次の条件でリモートの進行状況を使用

リモートデータベースと統合データベースのオフセットが一致しない場合に使用するオフセットを選択します。

しない

リモートのオフセットを使用して統合データベースを更新しないことを指定します。反対に、統合データベースの値を使用して、リモートのオフセットが更新されます。

リモートデータベースのオフセットと統合データベースのオフセットが一致しない場合、デフォルトの動作はリモートデータベースのオフセットを統合データベースの値で更新し、そのオフセットに基づいて新しいアップロードを送信します。

統合データベースの進行状況よりも遅い場合

リモートオフセットが統合オフセットよりも小さい場合に (リモートデータベースがバックアップからリストアされたときなど) リモートオフセットが使用されるように指定します。これは、-rb オプションと同じです。

統合データベースの進行状況よりも進んでいる場合

リモートオフセットが統合オフセットよりも大きい場合にリモートオフセットが使用されるように指定します。このオプションは、非常にまれな環境だけのために提供されており、データ損失の原因となる可能性があります。これは、-ra オプションと同じです。

常時

常にリモートオフセットを使用することを指定します。

1.9.154 同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 接続

このタブには複数の項目があります。

プロトコル

同期に使用する通信プロトコルを選択します。デフォルトでは TCP/IP が使用されます。

TCP/IP

このオプションを選択すると、同期に TCP/IP プロトコルが使用されます。

TLS

このオプションを選択すると、同期に TLS (トランスポートレイヤセキュリティ) が使用されます。

HTTP

このオプションを選択すると、同期に HTTP プロトコルが使用されます。

HTTPS

このオプションを選択すると、同期に HTTPS プロトコルが使用されます。

ホスト

Mobile Link サーバを実行しているコンピュータの IP アドレスまたはホスト名を指定します。デフォルト値は localhost です。localhost は、Mobile Link サーバがクライアントと同じコンピュータで実行されている場合に使用できます。

Windows Mobile では、デフォルト値はレジストリフォルダ `Comm¥Tcpip¥Hosts¥ppp_peer` の `ipaddr` の値です。これによって、Windows Mobile デバイスのクレードルが接続されているデスクトップコンピュータで実行されている Mobile Link サーバに、Windows Mobile デバイスから接続できます。

ポート

Mobile Link サーバの通信に使用するポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は、TCP/IP の場合は 2439、HTTP の場合は 80、HTTPS の場合は 443 です。異なる値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link サーバを設定してください。

プロキシホスト

プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。デフォルト値は localhost です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシポート

プロキシサーバのポート番号を指定します。デフォルト値は、HTTP の場合は 80、HTTPS の場合は 443 です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

URL サフィックス

各 HTTP 要求の 1 行目の URL に追加するサフィックスを指定します。デフォルト値は、*MobiLink* です。プロキシサーバを介して同期する場合、Mobile Link サーバを見つけるためにサフィックスが必要な場合があります。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

HTTP バージョン

同期に使用する HTTP の値を指定します。1.0 または 1.1 を選択できます。デフォルト値は 1.1 です。

自動接続

以下のオプションを使用すると、Windows または Windows Mobile で実行されている Mobile Link クライアントがダイヤルアップネットワーク接続を介して接続できるようになります。

スケジュールを使用している場合は、リモートデバイスを自動的に同期できます。スケジュールを使用していない場合は、接続を手動でダイヤルすることなく dbmlsync を実行できます。

ネットワーク名

ネットワーク名を指定して、Mobile Link の自動ダイヤル機能を使用できるようにします。これによって、手動でダイヤルすることなく Windows または Windows Mobile から接続できます。この名前は、**設定 > 接続 > 接続** (Windows Mobile) または **設定 > 接続 > ネットワーク接続** (Windows) のドロップダウンリストで指定したネットワーク名にしてください。

開いたままにする

ネットワーク名を指定するときに、同期の完了後に接続を開いたままにする (1) か、接続を閉じる (0) かをオプションで指定できます。デフォルトでは、接続は閉じられます (0)。

セキュリティ

暗号

楕円曲線暗号

このオプションは、バージョン 12 以前のデータベースにのみ使用できます。楕円曲線アルゴリズムを使用して、接続を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。

RSA

RSA アルゴリズムを使用して、通信を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。

FIPS 認定

FIPS 認定 RSA アルゴリズムを使用して、通信を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。FIPS 認定の暗号化には別途ライセンスが必要です。

certificate_company

認証局、または証明書を発行した組織の名前を入力します。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

certificate_unit

証明書に記載される部署を入力します。これは組織単位とも呼ばれます。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

certificate_name

証明書の通称を入力します。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

trusted_certificates

クライアントがサーバを認証するために使用する証明書ファイルの名前を入力します。

詳細

`option=value` のペアをセミコロンで区切ったリストです。

1.9.155 同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 拡張オプション

このタブには複数の項目があります。

次のリストで設定する拡張オプションはデータベースに保存されます。dbmlsync は、データベースに格納されるオプションとコマンドラインで指定されるオプションを結合します。

オプション名	説明
<i>BufferDownload</i>	Mobile Link サーバからのダウンロードを、リモートデータベースに適用する前に、すべてキャッシュに読み込むかどうかを指定します。デフォルトは、 <i>True</i> です。
<i>ConflictRetries</i>	競合のためにダウンロードが失敗した場合に dbmsync で同期をリトライする回数を指定します。
<i>DisablePolling</i>	ログスキャンの自動ポーリングを無効にします。
<i>ErrorLogSendLimit</i>	同期エラーが発生した場合、dbmsync から Mobile Link サーバに送信するリモートメッセージログファイルのサイズを指定します。
<i>FireTriggers</i>	ダウンロードが適用されたときにリモートデータベースでトリガが起動されるように指定します。
<i>HoverRescanThreshold</i>	スケジュールを使用している場合、このオプションによって再スキャンの実行までに累積可能な廃棄メモリ量が制限されます。
<i>Increment</i>	インクリメンタルアップロードを有効にし、インクリメンタルアップロードのサイズを制御します。
<i>LockTables</i>	同期されるパブリケーション内のテーブルを同期する前にロックするよう指定します。
<i>MirrorLogDirectory</i>	古いトランザクションログのミラーファイルを削除できるようにその場所を指定します。
<i>NoSyncOnStartup</i>	dbmsync が起動時に同期するのを防ぎます。このオプションを指定しない場合は、スケジューリングオプションにより、dbmsync が起動時に同期されます。
<i>OfflineDirectory</i>	オフライントランザクションのログを含むパスを指定します。
<i>PollingPeriod</i>	ログスキャンのポーリング周期を指定します。
<i>Schedule</i>	同期のスケジュールを設定します。
<i>ScriptVersion</i>	スクリプトバージョンを指定します。
<i>SendDownloadAck</i>	クライアントから Mobile Link サーバにダウンロード確認が送信されるように指定します。
<i>SendTriggers</i>	アップロード時にトリガの動作が送信されるように指定します。
<i>TableOrder</i>	アップロードでのテーブルの順序を設定します。テーブルはカンマで区切ったリストで指定します。アップロードされるすべてのテーブルを指定する必要があります。同期に含まれていないテーブルを指定すると、そのテーブルは無視されます。

オプション名	説明
TableOrderChecking	このオプションを ON に設定すると、テーブルが、別のテーブルに対する外部キーを持つとき、別のテーブルよりも前にアップロードされないように、dbmsync でチェックされます。このオプションは、TableOrder 拡張オプションが指定された場合のみ役立ちます。

1.9.156 同期サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

SQL Anywhere バージョン 12 以降で作成されたデータベースの同期サブスクリプションの名前を指定します。SQL Anywhere の以前のバージョンで作成されたデータベースの場合、このフィールドは無効になり、(名前なし) が表示されます。

パブリケーション

Mobile Link ユーザのサブスクリプションが作成されているパブリケーションが表示されます。

スクリプトバージョン

同期中に使用するスクリプトバージョンを指定します。通常は、実装するスキーマを変更するたびに新しいスクリプトバージョンを指定してください。

サブスクリバ

このパブリケーションをサブスクリブする Mobile Link ユーザが表示されます。

最終ダウンロード時刻

最後にダウンロードされた時刻が表示されます。

最終アップロード時刻

最後にアップロードされた時刻が表示されます。

世代番号

同期サブスクリプションの世代番号が表示されます。

世代番号とは、リモートデータベースがデータをアップロードしてからダウンロードファイルを適用するためのメカニズムです。データベース上の同期サブスクリプションごとに異なる世代番号が自動生成されます。

1.9.157 同期サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 接続タブ

接続タブで指定できる設定は、使用する通信プロトコルによって決まります。

buffer_size などの追加パラメータは、[詳細フィールド](#)で設定できます。

このタブには次の項目があります。

プロトコル

同期に使用する通信プロトコルを選択します。デフォルトでは TCP/IP が使用されます。

TCP/IP

このオプションを選択すると、同期に TCP/IP プロトコルが使用されます。

TLS

このオプションを選択すると、同期に TLS (トランスポートレイヤセキュリティ) が使用されます。

HTTP

このオプションを選択すると、同期に HTTP プロトコルが使用されます。

HTTPS

このオプションを選択すると、同期に HTTPS プロトコルが使用されます。

ホスト

Mobile Link サーバを実行するコンピュータの IP アドレスまたはホスト名です。デフォルト値は localhost です。

localhost は、Mobile Link サーバがクライアントと同じコンピュータで実行されている場合に指定できます。

Windows Mobile では、デフォルト値はレジストリフォルダ `Comm¥Tcpip¥Hosts¥ppp_peer` の *ipaddr* の値です。**ipaddr** を指定すると、Windows Mobile デバイスのクレードルが接続されているデスクトップコンピュータで実行されている Mobile Link サーバに、Windows Mobile デバイスから接続できます。

ポート

Mobile Link サーバは特定のポートを介して通信します。デフォルトのポート番号は、TCP/IP の場合は 2439、HTTP の場合は 80、HTTPS の場合は 443 です。異なる値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link サーバを設定してください。

プロキシホスト

プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。デフォルト値は localhost です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシポート

プロキシサーバのポート番号を入力します。デフォルト値は、HTTP の場合は 80、HTTPS の場合は 443 です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

URL サフィックス

各 HTTP 要求の 1 行目の URL に追加するサフィックスを入力します。デフォルト値は、MobiLink です。このオプションは、HTTP 同期と HTTPS 同期でのみ使用できます。

プロキシサーバを介して同期する場合、Mobile Link サーバを見つけるためにサフィックスが必要な場合があります。

HTTP バージョン

同期に使用する HTTP のバージョンを指定する値を選択します。1.0 または 1.1 を選択できます。デフォルト値は 1.1 です。

自動接続

以下のオプションを使用すると、Windows または Windows Mobile で実行されている Mobile Link クライアントがダイヤルアップネットワーク接続を介して接続できるようになります。

スケジュールを使用している場合は、リモートデバイスを自動的に同期できます。スケジュールを使用していない場合は、接続を手動でダイヤルすることなく dbmlsync を実行できます。

ネットワーク名

ネットワーク名を指定して、Mobile Link の自動ダイヤル機能を使用できるようにします。これによって、手動でダイヤルすることなく接続できます。この名前は、▶ **設定 ▶ 接続 ▶ 接続** ▶ (Windows Mobile) または ▶ **設定 ▶ 接続 ▶ ネットワーク接続** ▶ (Windows) のドロップダウンリストで指定したネットワーク名にしてください。

開いたままにする

ネットワーク名を指定するときに、同期の完了後に接続を開いたままにする (1) か、接続を閉じる (0) かをオプションで指定できます。デフォルトでは、接続は閉じられます。

ネットワーク接続のタイムアウト

ネットワーク名を指定するときに、ダイヤルアップに失敗した後のタイムアウトをオプションで指定できます。この機能が適用されるのは、Windows Mobile だけです (Windows の場合は、接続プロファイルを構成することでこの機能を制御できます)。デフォルトは 120 秒です。

セキュリティ

これらのオプションでは、アルゴリズムパッケージプログラムを使用して、この接続を介するすべての通信を暗号化できます。楕円曲線暗号化と RSA アルゴリズムの両方に対して、データベースサーバの認証に使用する証明書についての情報を以下のフィールドに指定できます。

暗号

楕円曲線暗号

このオプションは、バージョン 12 以前のデータベースにのみ使用できます。楕円曲線アルゴリズムを使用して、接続を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。

RSA

RSA アルゴリズムを使用して、通信を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。

FIPS 認定

FIPS 認定 RSA アルゴリズムを使用して、通信を暗号化します。このアルゴリズムを使用して、TCP/IP 上の TLS 接続と HTTPS 接続を暗号化できます。FIPS 認定の暗号化には別途ライセンスが必要です。

信頼できる証明書

- **ファイル**を選択し、クライアントがデータベースサーバを認証するために使用する証明書ファイルの名前を入力します。
- **名前**を選択し、リモートデータベースに保存されている証明書のドロップダウンリストから証明書を選択します。

証明書に記載される会社

証明書を発行した認証局の名前を入力します。サーバの値とクライアントの値を一致させる必要があります。

証明書に記載される部署

証明書に記載される部署を入力します。これは組織単位とも呼ばれます。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

証明書に記載される名前

証明書の通称を入力します。サーバの値とクライアントの値を合わせる必要があります。

詳細

このフィールドには、`parameter=value` の形式で追加の接続パラメータを入力します。複数のパラメータを入力する場合はセミコロンで区切ります。たとえば、内容が固定長であるメッセージの本文の最大サイズを設定し、同期のすべての HTTP 要求に同じ TCP/IP 接続を使用するようクライアントに指示するには、詳細フィールドに次のように指定します。

```
buffer_size=58000;persistent=TRUE
```

1.9.158 同期サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 拡張オプションタブ

このタブには、Mobile Link ユーザに対して設定されている拡張オプションとその値がリストされます。Mobile Link ユーザの値を設定するには、オプション名の横にある値フィールドをクリックします。

1.9.159 システム権限のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブにはシステム権限のプロパティが表示されます。

1.9.160 システムロールのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

システムロールの名前が表示されます。

ログインポリシー

システムロールのログインポリシーの名前を指定します。

最終ログイン時刻

システムロールが最後にログインした日付と時刻を示します。

失敗ログインの試行回数

システムロールがログインしようとして失敗した回数を示します。

ロック

システムロールがロックされているかどうかを示します。システムロールがデータベースからロックされていない場合は、**いいえ**と表示されます。

すぐにロック解除

このボタンをクリックすると、システムロールのロックがデータベースから解除されます。システムロールのログインポリシーで次のオプションが 1 つ以上設定されている場合、**すぐにロック解除**は無効になります。

- `locked=On`
- `password=On`
- `max_connections=0`

- `max_failed_login_attempts=0`

識別名

ユーザが LDAP サーバによって認証された場合に、システムロールの識別名 (DN) を示します。

すぐにクリア

キャッシュされている DN をこのシステムロールのデータベースからクリアし、システムロールが次回、LDAP サーバに認証されるときにデータベースサーバによって DN が再フェッチされます。

1.9.161 システムロールのオプションウィンドウ

このタブには複数の項目があります。

i 注記

オプション設定を変更した場合、直ちに有効になる設定もあれば、データベースを再起動しなければ有効にならない設定もあります。

システムロール

選択したシステムロールの名前が表示されます。

表示

オプションタイプのリストが表示されます。たとえば、**データベースオプション**を選択すると、データベースに関連するオプションのみが**オプションリスト**に表示されます。

オプションリスト

表示リストで選択したオプションのタイプに基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。
値

オプションリストからオプションを選択して、**値フィールド**で設定を入力または選択します。**恒久的な設定を行う**をクリックすると、恒久的な設定にできます。ただし、そのオプションに PUBLIC ロールの設定が存在していないと、個々のロールにはオプション値を設定できません。

オプションの選択を終えたら、ウィンドウの横にあるボタンを使用できます。

新規

このボタンは、PUBLIC ロールのオプションを設定している場合のみ有効になります。

すぐに削除

このボタンは、オプションが選択されている場合に PUBLIC ロールに対して有効になります。このボタンは、**設定カラム**に値が存在する場合に限り、非 PUBLIC のロールとユーザに対して有効になります。

恒久的な設定を行う

ユーザの設定を恒久的に変更するには、オプションを選択し、設定を**値フィールド**に入力してから、**恒久的な設定を行う**をクリックします。

1.9.162 システムトリガのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

システムトリガが適用される外部キー制約の名前が表示されます。

外部テーブル

外部キーがあるテーブルが表示されます。

プライマリテーブル

外部キーに関連付けられたプライマリキーまたは一意性制約を含むテーブルが表示されます。

イベント

システムトリガを実行させるイベント ([カラムの更新](#)または[削除](#))が表示されます。

タイミング

トリガをイベントの前に実行するかイベントの後に実行するかが表示されます。

アクション

プライマリキーの更新または削除時に、利用できる参照整合性アクションのいずれを使用するかが表示されます。

値を NULL に設定

変更されたプライマリキーを参照しているすべての外部キーを NULL に設定します。

値をデフォルトに設定

変更されたプライマリキーを参照するすべての外部キーを、そのカラムの (テーブル定義で指定されている) デフォルト値に設定します。

値をカスケード

このアクションを ON UPDATE と併用した場合、更新されたプライマリキーを参照しているすべての外部キーが、新しい値に更新されます。このアクションを ON DELETE と併用した場合、削除されたプライマリキーを参照している外部キーがあるすべてのローが削除されます。

1.9.163 テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

テーブルの名前が表示されます。このフィールドでテーブルの名前を変更できます。

所有者

テーブルを所有するデータベースユーザが表示されます。

DB 領域

テーブルが格納されているデータベースファイル (または DB 領域) が表示されます。このフィールドはベーステーブルだけに適用されます。

コミットアクション

このフィールドは、テーブルがグローバルテンポラリテーブルとして作成された場合にのみ表示されます。COMMIT が実行されるときにテーブルのローが削除されるか保存されるかが示されます。コミットアクションがない場合は、なし (非トランザクション指向) と表示されます。

共有

このフィールドは、テーブルがグローバルテンポラリテーブルとして作成された場合にのみ表示されます。テーブルがすべての接続で共有されるかどうかを示します。

1.9.164 テーブルのプロパティウィンドウ: カラムタブ

テーブルのすべてのカラムと、その ID、データ型、コメントがリストされます。

リストからカラムを選択してクリックすると、[カラムの詳細](#)ウィンドウが表示され、カラムのプロパティの概要が示されます。

1.9.165 テーブルのプロパティウィンドウ: その他タブ

このタブには複数の項目があります。

ローの数

テーブルのローの概数を示します。この値を更新するには、[計算](#)をクリックします。

計算

テーブルのローの数を計算します。

空き領域

各テーブルページに確保する空き領域のサイズを指定します。空き領域は、データが更新されたときにローのサイズが増えた場合に使用されます。テーブルページに空き領域がない場合は、ページのローのサイズが増えるたびに、ローを複数のテーブルページに分割することが必要になり、ローの断片化が発生します。また、パフォーマンス低下の可能性があります。

デフォルト

このオプションを選択すると、各ページにデフォルトの空き領域が確保されます。デフォルトでは、各ページに 200 バイトが確保されます。このオプションはベーステーブルだけに適用されます。

パーセンテージ

このオプションを選択して、0 ~ 100 の整数を指定します。パーセンテージを 0 に指定すると、各ページに空き領域が残らず、各ページが完全にパックされます。大きい値を指定すると、各ローが単独でページに挿入されます。

テーブルデータは暗号化済み

このオプションを選択すると、暗号化スコープとしてテーブルを指定してデータベースを作成するときに、このテーブルのデータが暗号化されます。このオプションはベーステーブルだけに適用されます。

1.9.166 所有者を変更ウィンドウ

テーブルの所有者を変更するには、このウィンドウを使用します。

1.9.167 テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブにはテキスト設定オブジェクトのプロパティ (使用される照合など) が表示されます。

1.9.168 テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: 設定タブ

このタブには複数の項目があります。

単語の区切り

カラム値を単語に分割するときに使用するアルゴリズムを次の中から 1 つ選択します。

一般

一般アルゴリズムでは、英数字以外の文字で区切られた 1 つまたは複数の英数字の文字列を単語として扱います。

N-gram

N-gram アルゴリズムは文字列を N-gram に分割します。N-gram は、ある文字列中の n 文字分の部分文字列です。N-gram は近似一致または単語の区切りにホワイトスペースを使用しないドキュメントに便利です。

単語の最小長

テキストインデックスに使用できる単語の最小長を文字数で指定します。テキストインデックスの構築時または再表示時に、この設定より短い単語は無視されます。

単語の最大長

テキストインデックスに使用できる単語の最大長を文字数で指定します。テキストインデックスの構築時または再表示時に、この設定より長い単語は無視されます。

外部の単語区切りを使用

選択すると、テキストが、外部のライブラリファンクションによって単語に区切られることが指定されます。このオプションは、**単語の区切り**が一般に設定されている場合に表示されます。

ファンクションとライブラリ

外部の単語区切りのファンクションとライブラリを指定します。

ファンクションとライブラリは、`function-name@library-file-name` という形式で指定します。Windows と UNIX プラットフォームで異なるファンクション名とライブラリ名を使用する場合は、次の形式で指定できます。
`function-name@library-file-name.dll`;UNIX:`function-name@library-file-name.so`

たとえば、`TermBreakFunct1@myTBlib.dll`;UNIX:`TermBreakFunct2@myTBlib` と指定すると、Windows では `TermBreakFunct1` が、UNIX では `TermBreakFunct2` が呼び出されます。

外部事前フィルタを使用

選択すると、単語区切り処理の前に、外部のライブラリファンクションがドキュメントのフィルタリングを実行します。外部事前フィルタは、インデックス付けするテキストにフォーマット情報やイメージが含まれている場合に役立ちます。事前フィルタを使用すると、フォーマット情報とイメージを削除することによって、ドキュメントをプレーンテキストに変換できます。

ファンクションとライブラリ

外部の事前フィルタのファンクションとライブラリを指定します。

ファンクションとライブラリは、`function-name@library-file-name`という形式で指定します。Windows と UNIX プラットフォームで異なるファンクション名とライブラリ名を使用する場合は、次の形式で指定できます。

`function-name@library-file-name.dll`;UNIX:`function-name@library-file-name.so`.

たとえば、`PrefilterFunct1@myTBlib.dll`;UNIX:`PrefilterFunct2@myPreFilterlib` と指定すると、Windows では `PrefilterFunct1` が、UNIX では `PrefilterFunct2` が呼び出されます。

1.9.169 テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: ストップリストタブ

このタブには複数の項目があります。

このテキスト設定オブジェクトのストップリストには次の単語が含まれています

テキストインデックスの構築時に無視される単語の一覧を示します。単語がストップリストに含まれる場合は、その後にテキストインデックスを使用する検索を実行しないでください。これは、その単語がテキストインデックスでは見つからないためです。リスト内の任意またはすべての単語を作成または置換できます。

単語のソート

このボタンをクリックすると、リスト内の単語がアルファベット順でソートされます。

1.9.170 テキスト設定オブジェクトのプロパティウィンドウ: オプション

このタブには複数の項目があります。

このテキスト設定オブジェクトは次のオプション設定で作成されています

テキスト設定オブジェクトの作成時に設定されていたオプションをリストします。

date_format

データベースから取り出した日付の形式を設定します。デフォルトは YYYY-MM-DD です。

time_format

データベースから取り出した時刻の表示形式を設定します。デフォルトは HH:NN:SS.sss です

timestamp_format

データベースから取り出したタイムスタンプの形式を設定します。デフォルトは YYYY-MM-DD HH:NN:SS.SSS です。SAP Open Client および JDBC 接続の場合のデフォルトも、YYYY-MM-DD HH:NN:SS.SSS に設定されます。

timestamp_with_time_zone_format

データベースから取り出した TIMESTAMP WITH TIME ZONE 値の形式を設定します。

uuid_has_hyphens

ユニークな識別子の値が文字列に変換するときのフォーマットを設定します。

1.9.171 テキストインデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブで、選択したテキストインデックスに関する情報を指定します。

名前

テキストインデックスの名前が表示されます。

テーブルまたはマテリアライズドビュー

インデックス付きのテーブルまたはマテリアライズドビューの名前が、カッコで囲んだ所有者名とともに表示されます。

DB 領域

テキストインデックスが関連付けられているデータベースファイルまたは DB 領域が表示されます。

テキスト設定オブジェクト

テキストインデックスのテキスト設定オブジェクトの名前と所有者を示します。

初期化済み

テキストインデックスが初期化済みかどうかを示します。テキストインデックスは、データベースサーバが利用できるように初期化する必要があります。テキストインデックスを初期化するには、**すぐに再表示**をクリックします。

次のオプションは、テキストインデックスがテーブルに適用され、テキストインデックスの再表示タイプが手動または自動の場合に表示されます。

すぐに再表示

このボタンをクリックすると、テキストインデックスが再表示されます。テキストインデックス再表示の独立性レベルを選択するプロンプトが表示されます。テキストインデックスを再表示すると初期化も行われます。

すぐにトランケート

このボタンをクリックすると、テキストインデックス内のすべてのローが削除され、初期化されていない状態になります。

再表示タイプ

インデックスに指定されているレートの再表示のタイプが表示されます。

即時

このテキストインデックスは、テキストインデックス内のデータに影響する、基本となるデータの変更直後にデータベースサーバによって自動的に再表示されます。この再表示タイプはデフォルトであり、マテリアライズドビューでは、これがテキストインデックスの唯一の再表示タイプです。

テキストインデックスの作成後に設定を即時再表示に変更したり、即時再表示から別の設定に変更したりすることはできません。このいずれかの変更が必要な場合は、テキストインデックスを削除して再度作成する必要があります。

手動

このテキストインデックスは、**すぐに再表示**をクリックするなどして、手動で再表示する必要があります。手動テキストインデックスは、再表示を明示的に要求するまで再表示されないため、データが古くなる可能性があります。

自動

指定した間隔で、テキストインデックスが自動的に再表示されます。データがある程度古くなってもかまわない場合は、この再表示タイプを選択し、データベースサーバがテキストインデックスを再表示する間隔を指定できます。古い

インデックスのクエリは最後の再表示時点で一致するデータを返します。最後の再表示以降に挿入、削除、更新されたローはクエリで返されません。

最終再表示時刻

テキストインデックスが最後に再表示された日時が表示されます。

1.9.172 テキストインデックスのプロパティウィンドウ: カラムタブ

テーブルのすべてのカラムと、その ID、データ型、コメントがリストされます。

リストからカラムを選択してクリックすると、[カラムの詳細](#)ウィンドウが表示され、カラムのプロパティの概要が表示されます。

1.9.173 データの再表示 (テキストインデックス)ウィンドウ

次のいずれかの独立性レベルを選択し、基本となるベーステーブルで再表示中に使用するロックの種類を指定します。

ロックの種類によって、マテリアライズドビューの移植方法とトランザクションの同時実行性への影響が決まります。

コミットされない読み出し (レベル 0)

このオプションは最大レベルの同時実行性を提供しますが、結果セットにダーティリード、繰り返し不可能読み出し、幻ローが発生する場合があります。

コミットされた読み出し (レベル 1)

このオプションはレベル 0 よりも低い同時実行性になりますが、レベル 0 の結果セットに見られる不整合性が一部解消されます。繰り返し不可能ローや幻ローが発生することはありますが、ダーティリードは発生しません。

繰り返し可能読み出し (レベル 2)

このオプションは、ダーティリードと繰り返し不可能ローを防ぎます。幻ローが発生することがあります。

直列化可能 (レベル 3)

このオプションは最低レベルの同時実行性を提供する、もっとも厳しい独立性レベルです。ダーティリード、繰り返し不可能読み出し、幻ローは発生しません。

スナップショット

このオプションは、トランザクションが最初のローの読み込み、挿入、更新、または削除を行った時点から、コミットされたデータのスナップショットを使用します。ビューが手動ビューで、データベースでスナップショットアイソレーションを使用している場合は、スナップショットがデフォルトです。

共有モード

このオプションを選択すると、再表示操作中に、基本となるテーブルを他のトランザクションで読み込むことができます。この句を指定すると、再表示操作が実行される前から、再表示操作が完了するまで、基本となるすべてのベーステーブルの共有テーブルロックが取得されます。

ビューが手動ビューで、データベースでスナップショットアイソレーションを使用していない場合は、共有モードがデフォルトです。また、ビューが即時ビューの場合は、スナップショットアイソレーションが有効かどうかに関係なく、共有モードがデフォルトです。

排他モード

このオプションを選択すると、基本となるすべてのベーステーブルに排他ロックが適用されます。再表示操作が完了するまで、他のトランザクションで、基本となるテーブルに対してクエリ、更新、その他の操作を実行できません。排他テーブルロックを取得できない場合、再表示操作は失敗し、エラーが返されます。

このモードは、独立性レベルを変更しないが、基本となるテーブルにコミットされたデータと矛盾しないようにデータを確実に更新したい場合を選択します。

1.9.174 *Time Zone Properties* ウィンドウ: 一般タブ

タイムゾーンの設定を調整するには、このタブを使用します。

1.9.175 *Time Zone Properties* ウィンドウ: *Daylight Savings Time* タブ

夏時間の設定を調整するには、このタブを使用します。

1.9.176 イベントのトリガウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

イベント

イベントの名前が表示されます。

パラメータ

このフィールドには `name=value, name=value ...` の形式でイベントパラメータを入力します。

イベントでパラメータが不要な場合は、OK をクリックするとイベントがトリガされます。

このウィンドウでは、イベントハンドラのコンテキストをシミュレートするためにパラメータを明示的に指定できます。このウィンドウを使用すると、ディスク領域の制限 (ディスク領域の使用量が指定の割合を超えたとき) などのトリガ条件、またはイベントハンドラをトリガするために必要なその他のトリガ条件をテストできます。

たとえば、どのユーザ ID がデータベースに接続しているかに応じて動作の異なるイベントをトリガできます。その場合は、イベントパラメータ ('User') をイベントハンドラで呼び出します。ユーザ P_Chin についてこのイベントのトリガをシミュレートするには、パラメータテキストボックスに "User"='P_Chin' と入力します。

User という語は、SQL の予約語であるため二重引用符で囲んでください。

1.9.177 トリガのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このウィンドウには複数の項目があります。

名前

トリガの名前が表示されます。

テーブル

このトリガが関連付けられているテーブルが表示されます。

ビュー

このトリガが関連付けられているビューが表示されます。このフィールドは、トリガがビュー上に存在する場合にのみ表示されます。

構文

最後に保存されたコードの SQL 構文が表示されます。Watcom SQL または Transact-SQL です。

値 (不明) は、オブジェクト定義が大きすぎる (64 KB よりも大きい) 場合に表示されます。

イベント

トリガを実行させるイベント (挿入、削除、更新、カラムの更新) が表示されます。

タイミング

トリガをイベントの前に実行するか、イベントの後に実行するか、またはイベントの代わりに実行するかが表示されます。ローレベルトリガには、SQL Remote の競合タイミングも設定できます。トリガが実行されてから、UPDATE または UPDATE OF カラムリストイベントが実行されます。

レベル

トリガがローレベルのトリガと文レベルのトリガのどちらであるかが表示されます。

順序

テーブルのトリガで、同じ種類のイベントに対して同じタイミングで実行されるものの起動順序を表す番号が表示されます。この順序は、INSTEAD OF トリガには設定できません。タイミングが代わりに設定されている場合、このプロパティは表示されません。

1.9.178 一意性制約のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

一意性制約の名前が表示されます。このフィールドで一意性制約の名前を変更できます。

テーブル

一意性制約が適用されるテーブルの名前と所有者が表示されます。

インデックス

一意性制約の適用に使用されるインデックスの名前が表示されます。

1.9.179 一意性制約のプロパティウィンドウ: カラムタブ

一意性制約のすべてのカラムと、その型およびコメントがリストされます。

[詳細](#)をクリックすると[カラムの詳細](#)ウィンドウが表示され、選択したカラムのプロパティの概要が表示されます。

1.9.180 測定単位プロパティウィンドウ一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

測定単位の名前が表示されます。

単位のタイプ

角度または距離に測定単位が使用されるかどうかを指定します。

線形

距離に使用される測定単位を指定します。

角度

角度に使用される測定単位を指定します。

換算係数

ベース単位に関連する空間単位の換算係数を指定します。

コメント

測定単位の説明を記述します。

1.9.181 データのアンロードウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

データファイル

UNLOAD 文を使用してサーバコンピュータにデータファイルを保存

このオプションは、サーバコンピュータ上のファイルにデータをエクスポートする場合に選択します。このオプションを選択すると、アンロード中、テーブル全体に排他ロックが配置されます。UNLOAD 文の方が OUTPUT 文よりもパフォーマンスが向上します。ファイル内のデータは 1 行に 1 ローずつエクスポートされ、値はカンマで区切られ、文字列は一重引用符で囲まれます。このオプションを選択し、データベースがローカルコンピュータで実行されていない場合は、参照ボタンが無効になります。

OUTPUT 文を使用してローカルコンピュータにデータファイルを保存

このオプションは、ローカルコンピュータにデータファイルをエクスポートする場合に選択します。ファイル内のデータは 1 行に 1 ローずつエクスポートされ、値はカンマで区切られ、文字列は一重引用符で囲まれます。

次のディレクトリにデータファイルを保存

データを保存するディレクトリを入力します。データファイルをサーバコンピュータに保存する場合、相対ファイル名はデータベースサーバの開始ディレクトリを基準にファイルを指定します。

プライマリキーでデータを並べ替える

このオプションを選択すると、エクスポートされたデータがプライマリキー値の順に並ぶため、再ロードが速くなります。

ファイルの再ロード

ローカルコンピュータ上の次のファイルに再ロードファイルを保存

データの再ロードに使用する reload.sql ファイルの名前とロケーションを入力します。

LOAD 文を使用してサーバコンピュータからデータを再ロード

このオプションは、LOAD 文を使ってデータを再ロードする場合に使用します。LOAD 文の方が INPUT 文よりもパフォーマンスが向上します。reload.sql ファイルで参照されているファイル名がサーバコンピュータを基準としている場合に、このオプションを選択します。

INPUT 文を使用してローカルコンピュータからデータを再ロード

このオプションは、INPUT 文を使ってデータを再ロードする場合に使用します。reload.sql ファイルで参照されているファイル名がローカルコンピュータを基準としている場合に、このオプションを選択します。

1.9.182 外部環境オブジェクトの更新ウィンドウ

更新された外部オブジェクトのロケーションを指定します。

1.9.183 JAR ファイルの更新ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

更新する JAR ファイル filename の場所を指定してください

更新する JAR ファイルのパスをテキストボックスに入力します。たとえば、C:\my JAR files\Silver.jar のように記述します。

すべてのクラスをインストール

このオプションを選択すると、この JAR ファイルにあるクラスがすべてインストールされます。

選択したクラスをインストール

選択した JAR ファイルから特定のクラスを指定してインストールするときは、このオプションを選択します。クラスの名前はカンマで区切って入力してください。選択をクリックすると、選択した JAR ファイルのクラスのリストが表示されます。

1.9.184 Java クラスの更新ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

更新した Java クラスファイル filename の場所を指定してください

更新する Java クラスの完全なパスを入力します。次に例を示します。C:\my classes\Utility.class.

1.9.185 ユーザのオプションウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

i 注記

オプション設定を変更した場合、直ちに有効になる設定もあれば、データベースを再起動しなければ有効にならない設定もあります。

ユーザ

選択されているユーザの名前が表示されます。

表示

オプションタイプのリストが表示されます。たとえば、**データベースオプション**を選択すると、データベースに関連するオプションのみが**オプション**リストに表示されます。

オプションリスト

表示リストで選択したオプションのタイプに基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。

値

オプションリストからオプションを選択して、**値**フィールドで設定を入力または選択します。**恒久的な設定を行う**をクリックすると、恒久的な設定にできます。ただし、オプションに PUBLIC ロールの設定をしていないと、個々のユーザ ID にそのオプション値を設定することはできません。

オプションの選択を終えたら、ウィンドウの横にあるボタンを使用できます。

新規

このボタンは、PUBLIC ロールのオプションを設定している場合のみ有効になります。

すぐに削除

このボタンは、オプションが選択されている場合に PUBLIC ロールに対して有効になります。このボタンは、**設定**カラムに値が存在する場合に限り、非 PUBLIC のロールとユーザに対して有効になります。

恒久的な設定を行う

ユーザの設定を恒久的に変更するには、オプションを選択し、設定を**値**フィールドに入力してから、**恒久的な設定を行う**をクリックします。

1.9.186 ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

ユーザの名前が表示されます。

このユーザにパスワードを設定

ユーザにパスワードを割り当てる場合は、このオプションを選択します。ユーザのパスワードを削除する場合は、このオプションをクリアします。パスワードが割り当てられていないユーザは接続できません。ただし、パスワードがあってもユーザが接続できない場合もあります。たとえば、ユーザアカウントがロックされている場合があります。

i 注記

ユーザが自分のログインポリシーで `change_password_dual_control` オプションを有効にしている場合は、SQL Central を使用して自分のパスワードを変更することはできません。

パスワード

ユーザのパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワードの確認

パスワードフィールドに入力したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィールドの内容は、完全に一致している必要があります。

パスワード作成時刻

現在のパスワードが作成された日付と時刻を示します。

次回ログイン時にパスワードの変更を要求する

このオプションを選択すると、ユーザは次回ログインするときに新しいパスワードを作成する必要があります。

ログインポリシー

ユーザのログインポリシーの名前を指定します。

最終ログイン時刻

ユーザが最後にログインした日付と時刻を示します。

失敗ログインの試行回数

ユーザがログインしようとして失敗した回数を示します。

ロック

ユーザのアカウントがロックされているかどうかを示します。

すぐにロック解除

このボタンをクリックすると、ユーザのアカウントのロックがデータベースから解除されます。ユーザのログインポリシーで次のオプションが1つ以上設定されている場合、**すぐにロック解除**は無効になります。

- `locked=On`
- `max_connections=0`
- `max_failed_login_attempts=0`

識別名

ユーザが LDAP によって認証された場合、ユーザの識別名 (DN) を示します。

すぐにクリア

キャッシュされている DN をこのユーザのデータベースからクリアし、次回ユーザが LDAP サーバに認証されるときにデータベースサーバによって DN が再フェッチされます。

1.9.187 ユーザのプロパティウィンドウ: 権限タブ

このタブはバージョン 12.0.1 以前のデータベースに適用され、複数の項目があります。

DBA

このオプションを選択すると、ユーザに DBA 権限が付与されます。DBA 権限を持つユーザは、データベースを完全に管理できます。

リソース

このオプションを選択すると、ユーザにリソース権限が付与されます。リソース権限を持つユーザは、データベースオブジェクトを作成できます。

リモート DBA

このオプションを選択すると、ユーザに REMOTE DBA 権限が付与されます。Mobile Link クライアントユーティリティ (dbmlsync) には REMOTE DBA 権限が必要です。SQL Remote Message Agent (dbremote) を実行する際も、セキュリティホールを作らずにアクションを確実に実行できるように、REMOTE DBA 権限を持つユーザ ID を使用する必要があります。

バックアップ

このオプションを選択すると、ユーザにバックアップ権限が付与されます。

VALIDATE

このオプションを選択すると、ユーザに VALIDATE 権限が付与されます。VALIDATE 権限を持つユーザは、データベース、テーブル、インデックス、チェックサムの検証など、さまざまな VALIDATE 文を使用した操作を実行できます。

プロファイル

ユーザによるプロファイリングとデータベーストレーシングを許可します。

ファイル読み込み

SELECT 文の OPENSTRING 句を使用したクエリファイルの使用を許可します。

クライアントファイル読み込み

クライアントコンピュータにあるファイルの読み込みを許可します。

クライアントファイル書き込み

クライアントコンピュータにあるファイルへの書き込みを許可します。

1.9.188 ユーザ拡張ロールのプロパティウィンドウ: 一般タブ

ユーザ拡張ロールはロールに拡張されたユーザであり、ユーザ定義ロールの 1 つのタイプです。ユーザ拡張ロールのプロパティを表示し、そのパスワードをリセットするには、このタブを使用します。

名前

ユーザ拡張ロールの名前が表示されます。

このユーザ拡張ロールにパスワードを設定

このオプションを選択して、ユーザ拡張ロールにパスワードを割り当てます。パスワードが割り当てられていないユーザは接続できません。ただし、パスワードがあってもユーザが接続できない場合もあります。たとえば、ユーザアカウントがロックされている場合があります。このオプションをクリアすると、ユーザのパスワードが削除され、**パスワードフィールドとパスワードの確認フィールドが無効**になります。

i 注記

ユーザが自分のログインポリシーで change_password_dual_control オプションを有効にしている場合は、SQL Central を使用して自分のパスワードを変更することはできません。

パスワード

ユーザ拡張ロールのパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワードの確認

パスワードフィールドに入力したパスワードをもう一度入力して確認します。2つのフィールドの内容は、完全に一致している必要があります。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワード作成時刻

現在のパスワードが作成された日付と時刻を示します。

次回ログイン時にパスワードの変更を要求する

このオプションを選択すると、ユーザは次回ログインするときに新しいパスワードを作成する必要があります。

ログインポリシー

ユーザのログインポリシーを指定します。

最終ログイン時刻

ユーザが最後にログインした日付と時刻を示します。

失敗ログインの試行回数

ユーザがログインしようとして失敗した回数を示します。

ロック

ユーザのアカウントがロックされているかどうかを示します。ユーザがデータベースからロックされていない場合は、**いいえ**と表示されます。

すぐにロック解除

このボタンをクリックすると、ユーザのアカウントのロックがデータベースから解除されます。ユーザのログインポリシーで次のオプションが1つ以上設定されている場合、**すぐにロック解除**は無効になります。

- ロック= オン
- max_connections=0
- max_failed_login_attempts=0

識別名

ユーザが LDAP によって認証された場合、ユーザの識別名 (DN) を示します。

すぐにクリア

キャッシュされている DN をこのユーザのデータベースからクリアし、次回ユーザが LDAP サーバに認証されるときにデータベースサーバによって DN が再フェッチされます。

1.9.189 ユーザ拡張ロールのオプションウィンドウ

このタブには複数の項目があります。

i 注記

オプション設定を変更した場合、直ちに有効になる設定もあれば、データベースを再起動しなければ有効にならない設定もあります。

ユーザ拡張ロール

選択されているユーザ拡張ロールの名前が表示されます。

表示

オプションタイプのリストが表示されます。たとえば、**データベースオプション**を選択すると、データベースに関連するオプションのみが**オプション**リストに表示されます。

オプションリスト

表示リストで選択したオプションのタイプに基づいて、オプションの設定とデフォルト値が表示されます。

値

オプションリストからオプションを選択して、**値**フィールドで設定を入力または選択します。**恒久的な設定を行う**をクリックすると、恒久的な設定にできます。ただし、オプションに PUBLIC ロールの設定がされていないと、ユーザ定義ロールにそのオプション値を設定することはできません。

オプションの選択を終えたら、ウィンドウの横にあるボタンを使用できます。

新規

このボタンは、PUBLIC ロールのオプションを設定している場合のみ有効になります。PUBLIC ロールの**オプション**ウィンドウを開いて、新しいオプションを追加する必要があります。

すぐに削除

このボタンは、オプションが選択されている場合に PUBLIC ロールに対して有効になります。このボタンは、**設定**カラムに値が存在する場合に限り、非 PUBLIC のロールとユーザに対して有効になります。

恒久的な設定を行う

ユーザ拡張ロールの設定を恒久的に変更するには、オプションを選択し、設定を**値**フィールドに入力してから、**恒久的な設定を行う**をクリックします。

1.9.190 ビューのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

ビューの名前が表示されます。

所有者

オブジェクトを所有するデータベースユーザが表示されます。

ステータス

オブジェクトのステータスが表示されます。

ステータスが**有効**の場合、ビューは有効で、その定義と一貫していることが保証されています。データベースサーバは、追加の作業なくこのビューを利用できます。

ステータスが**無効**の場合は、ビューが無効です。ビューは、たとえば参照先オブジェクトのスキーマが変更された後にビューを有効にできなかった場合に無効になります。ビューが参照するテーブルやビューを削除した場合も、そのビューは無効になります。クエリなどによって無効なビューが参照されると、データベースサーバはそのビューの再コンパイルを試行します。コンパイルに成功すると、クエリが処理されます。ビューを明示的に有効にしないかぎり、ステータスは無効のままです。失敗した場合は、エラーが返されます。

ステータスが**無効**の場合は、ユーザが明示的にビューを無効にしています。無効にされたビューは、データベースサーバがクエリに応答するために使用できません。無効にされたビューを使用しようとするクエリは、エラーを返します。

再コンパイルして有効にする

このボタンをクリックすると、ビューが再コンパイルされて有効になり、データベースサーバで使用できるようになります。

ビューを有効にする前に、そのビューが参照しているその他のビューが無効であればもう一度有効にする必要があります。

すぐに無効にする

このボタンをクリックするとビューが無効になります。データベースサーバでは、ビューの定義はデータベース内に保持されますが、ビューは使用できなくなります。

ビューを無効にすると、そのビューを明示的に参照するクエリと、そのビューを直接的または間接的に参照するビューにも影響を与えます。

1.9.191 ビューのプロパティウィンドウ: カラムタブ

このタブには、ビューに含まれるカラムが表示されます。

選択したカラムの**カラムの詳細**ウィンドウを表示するには、**詳細**をクリックします。**カラムの詳細**ウィンドウには、選択したカラムの名前、タイプ、NULL の可否、コメントが表示されます。

1.9.192 変数のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには変数のプロパティが表示されます。

1.9.193 変数のプロパティウィンドウ: データ型タブ

このタブには、変数のデータ型の一覧が表示されます。

1.9.194 変数のプロパティウィンドウ: 値タブ

変数の初期値の表示と編集を行うには、このタブを使用します。

1.9.195 Web サービスのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

選択された Web サービスの名前が表示されます。

有効化

このオプションを選択すると、Web サービスが HTTP または HTTPS で要求を受信できるようになります。デフォルトでは、データベースサーバは Web サービス要求を受信しないため、クライアントはデータベースに定義されているサービスへアクセスする方法がありません。このオプションをオフにすると、データベースサーバでは Web サービスの定義がデータベース内に維持されますが、Web サービスは使用できなくなります。

サービスタイプ

選択された Web サービスが、Raw、XML、HTML、JSON、SOAP、DISH のいずれであるかが表示されます。サービスタイプを変更するには、ドロップダウンリストから別のタイプを選択します。

URL パス

URL パスを受け入れるかどうかを指定します。受け入れる場合はその処理方法も指定します。

オフ

URL パスの残りの部分を許可しない場合は、このオプションを選択します。サービスの名前が通常のスラッシュ (/) で終わる場合、オフを選択します。たとえば、オフを選択し、URL パスが `http://<host-name>/<service-name>/aaa/bbb/ccc` の場合、`http://<host-name>/<service-name>` のみが許可されます。URL パスの残りの部分 `/<aaa/bbb/ccc` は許可されません。

オン

URL パスの残りの部分が許可され、その部分が単一のパラメータとして設定される場合は、このオプションを選択します。たとえば、URL パス `http://<host-name>/<service-name>/aaa/bbb/ccc` では、URL パスの残りの部分は `/aaa/bbb/ccc` です。これは、単一のパラメータとして処理されます。

要素

URL パスの残りの部分が許可され、その部分が複数のパラメータとして設定される場合は、このオプションを選択します。たとえば、URL パス `http://<host-name>/<service-name>/aaa/bbb/ccc` では、パスの各要素は別個のパラメータとして処理されます。たとえば、`url1=aaa`、`url2=bbb`、`url3=ccc` のようになります。

フォーマット

このフィールドは、SOAP サービスと DISH サービスにのみ適用されます。

.NET、Java JAX-RPC などの各種 SOAP クライアントと互換性のある出力フォーマットが生成されます。SOAP サービスのフォーマットを指定しなければ、サービスの DISH サービス宣言からフォーマットが継承されます。DISH サービスがフォーマットを宣言していない場合は、.NET クライアントと互換性のある DNET がデフォルトになります。フォーマットタイプの異なる複数の DISH サービスを定義すると、フォーマットを宣言していない SOAP サービスをさまざまな種類の SOAP クライアントで使用できるようになります。

明示的な応答オブジェクトを公開

このオプションの影響を受けるのは、生成される WSDL ドキュメントだけです。このオプションを選択すると、DISH サービスから、結果セットを明示的に記述する XML スキーマが返されます。結果セットにはすべてのカラム名とそのデータ型が返されます。

このオプションを選択しなかった場合、DISH サービスは、汎用の SimpleDataset オブジェクトを記述する XML スキーマ (WSDL ドキュメント) を返します。SimpleDataset は、ローとカラムから構成されるローセットを記述します。カラム名やデータ型の情報は返されません。

データ型

このフィールドは、SOAP サービスにだけ適用されます。値は次のいずれかです。

OFF

入力と出力のデータ型指定はありません。これはデフォルトです。

ON

入力パラメータと結果セットの応答のデータ型指定をサポートします。

IN

入力パラメータだけのデータ型指定をサポートします。

OUT

すべての SOAP サービスフォーマットの結果セット応答のデータ型情報を指定します。

サービス名プレフィクス

このフィールドは、DISH サービスにだけ適用されます。名前がこのプレフィクスで始まる SOAP サービスだけが、DISH サービスによって処理されます。

メソッド

次の 1 つまたは複数の要求方法を選択します。HEAD、GET、POST、PUT、または DELETE

権限が必要

ユーザがこの Web サービスを使用するときに認証が必要かどうかを示します。

このオプションを選択すると、認証が必要になります。認証が必要な場合、このサービスに接続するユーザは必ず、ユーザ名とパスワードを入力する必要があります。ユーザフィールドの横にチェックマークが表示された場合は、指定されたユーザとして認証しないと、この Web サービスを使用できません。一方、ユーザフィールドの横にチェックマークが表示されず、かつ認証が必要な場合、任意のデータベースユーザを使って認証すれば、この Web サービスを使用できます。

認証が必要でない場合、以下のドロップダウンリストから特定のユーザを選択する必要があります。すべての要求は、ユーザフィールドに指定されたユーザのアカウントとパーミッションを使って実行されます。

ユーザ

サービス要求の実行に使用されるユーザのアカウントが表示されます。サービスで認証を必要としない場合、このドロップダウンリストから特定のユーザを選択する必要があります。

セキュリティが必要

非セキュアな接続を受け入れるかどうかが表示されます。このオプションを選択すると、Web サービスにセキュリティが必要になります。Web サービスでセキュリティが必要である場合、セキュア接続 (HTTPS) だけが受け入れられます。このオプションをクリアした場合、HTTP 接続と HTTPS 接続の両方が受け入れられます。

1.9.196 Web サービスのプロパティウィンドウ: SQL 文タブ

Web サービスの SQL 文が表示されます (特定の SQL 文が指定されている場合)。または、Web サービスの SQL 文を指定できます。

文とはコマンドのことであり、通常はストアードプロシージャです。文は、ユーザがサービスにアクセスしたときに呼び出されます。特定の文を定義した場合、それがこのサービスで実行可能な唯一の文となります。文を持たないサービスでは、深刻なセキュリティ上の問題が発生します。なぜなら、Web クライアントによる任意のコマンドの実行が可能となるからです。そのようなサービスを作成した場合、認証を有効にし、有効なユーザ名とパスワードの入力をすべてのクライアントに要求してください。その場合でも、運用システムでは、文が定義されたサービスだけが実行されるようにしてください。

SQL 文は、SOAP サービスでは必須です。Raw サービス、XML サービス、HTML サービスではオプションであり、DISH サービスでは利用できません。

1.9.197 Windows Mobile の SQL Remote 用メッセージタイプウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

Windows Mobile デバイスに次のメッセージタイプがあります

このウィンドウには、Windows Mobile デバイスで使用できるメッセージタイプがリストされます。SQL Remote レプリケーションのためのメッセージタイプを選択するには、リストからメッセージタイプを選択して、OK をクリックします。サポートされているメッセージタイプは、FILE、FTP、SMTP です。

選択したメッセージタイプには次のパラメータがあります

名前

選択したメッセージタイプのパラメータ名がリストされます。

値

選択したメッセージタイプのパラメータの値が表示されます。値を変更するには、フィールドをクリックして別の値を入力します。

次の表は、サポートされている各 SQL Remote メッセージタイプのパラメータを示します。

FILE メッセージ制御パラメータ

名前	値	デフォルト	説明
ディレクトリ	文字列	' '	メッセージが格納されるディレクトリを設定します。この設定は、SQLREMOTE 環境変数の代替となります。
Debug	YES、NO	NO	YES を設定すると、FILE リンクが行ったファイルシステム呼び出しがすべて表示されます。
Unlink_Delay	整数	初回の失敗時は 1 秒待機、2 回目の失敗時は 2 秒待機など	ファイル削除に失敗した後、次にファイルの削除を試みるまでの秒数を設定します。

FTP メッセージ制御パラメータ

名前	値	デフォルト	説明
ホスト	文字列	' '	メッセージが格納されるコンピュータのホスト名または IP アドレス。
User	文字列	' '	FTP ホストにアクセスするためのユーザ名。

名前	値	デフォルト	説明
パスワード	文字列	' '	FTP ホストにアクセスするためのパスワード。
Root_Directory	文字列	' '	メッセージが保存される、FTP ホストサイトのルートディレクトリ。
ポート	文字列	' '	FTP の接続に使用される IP ポート番号。通常は不要です。
Debug	YES、NO	NO	デバッグ出力の表示を制御するパラメータ。
Active_Mode	YES、NO	NO	<p>すべてのデータ転送接続をクライアントとデータベースサーバのどちらが開始するかを制御するパラメータ。</p> <p>このパラメータを NO (受動モード) に設定すると、クライアントがすべてのデータ転送接続 (この場合はメッセージリンク) を開始します。</p> <p>このパラメータを YES (アクティブモード) に設定すると、データベースサーバがすべてのデータ接続を開始します。</p> <p>FTP サーバが正しく設定されていないファイアウォールの保護を受けていると、デフォルトの受動転送モードを使用できない場合があります。</p>

SMTP メッセージ制御パラメータ

名前	値	デフォルト	説明
Local_Host	文字列	' '	ローカルコンピュータの名前。ローカルホスト名は、任意の SMTP サーバとのセッションを開始するのに必要です。ほとんどのネットワーク環境では、ローカルホスト名が自動的に判断されるため、この値を指定する必要はありません。

名前	値	デフォルト	説明
TOP_Supported	YES、NO	YES	受信メッセージを列挙するとき、SQL Remote は TOP という POP3 コマンドを使用します。TOP コマンドは、すべての POP サーバでサポートされているわけではありません。 この値を NO に設定すると、RETR コマンドを使用します。このコマンドは TOP よりも効率は落ちますが、すべての POP サーバで動作します。
Smtplib_Host	文字列	''	SMTP サーバが動作しているコンピュータの名前。SMTP/POP3 ログインウィンドウの SMTP ホストフィールドに対応しています。
Pop3_Host	文字列	''	POP ホストを実行しているコンピュータの名前。SMTP/POP3 ログインウィンドウの POP3 ホストフィールドに対応しています。
Pop3_Userid	文字列	''	POP ユーザ ID は、SMTP/POP3 ログインウィンドウのユーザ ID フィールドに対応しています。
Pop3_password	文字列	''	POP パスワードは SMTP/POP3 ログインウィンドウのパスワードフィールドに対応しています。
Debug	YES、NO	NO	デバッグ情報の表示を制御するパラメータ。YES を設定すると、SMTP と POP3 のコマンドと応答が表示されます。

1.9.198 デバッグのヘルプ

デバッグのヘルプを受け取るには複数の方法があります。

このセクションの内容:

[デバッグ - ウォッチの追加ウィンドウ \[174 ページ\]](#)

ウォッチ対象の SQL 式 (ストアプロシージャの場合) または Java 式 (Java クラスの場合) を入力します。

[デバッグ - ブ레이크ポイントウィンドウ \[174 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[デバッガ - ブレークポイントの編集または新規ブレークポイントの追加ウィンドウ \[175 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

[デバッガ - Java ソースコードパスウィンドウ \[175 ページ\]](#)

このウィンドウには複数の項目があります。

1.9.198.1 デバッガ - ウォッチの追加ウィンドウ

ウォッチ対象の SQL 式 (ストアードプロシージャの場合) または Java 式 (Java クラスの場合) を入力します。

入力した式は、SQL Central によってデバッグタスクが実行されるときにウォッチウィンドウに表示されます。

たとえば、ストアードプロシージャのデバッグ時に SQLSTATE 値を追跡するには、SQLSTATE とだけ入力します。

1.9.198.2 デバッガ - ブレークポイントウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

すべてのブレークポイント

現在のデータベース内のすべてのブレークポイントのリスト。次の各項目はカラムの説明を示します。

プロシージャ

このブレークポイントを適用するストアードプロシージャ。

コンテキスト

このブレークポイントを含むソースコードの行。

条件

このブレークポイントによって実行が中断されるために真になる必要がある条件。

カウント

このブレークポイントによって実行が中断されるまでのスキップ回数。0 を指定した場合、そのブレークポイントで常に実行が停止されます。

データベース

このブレークポイントを適用するデータベース。

サーバ

このブレークポイントを適用するデータベースサーバ。

閉じる

[ブレークポイントウィンドウを閉じます。](#)

編集

現在選択されているブレークポイントを編集します。たとえば、このブレークポイントによって実行が中断されるための条件を設定または変更できます。

コードの表示

[ブレークポイントウィンドウを閉じて、選択されたブレークポイントのコードを表示します。](#)

有効にする

選択されたブレークポイントが有効になり、実行が中断されるようになります。コードウィンドウ内で、ブレークポイントは赤色の円として表示されます。

無効にする

選択されたブレークポイントが無効になり、実行が中断されないようになります。コードウィンドウ内で、ブレークポイントは灰色の円として表示されます。

削除

選択されたブレークポイントをリストから削除します。

新規

新しいブレークポイントを作成します。

1.9.198.3 デバッガ - ブレークポイントの編集または新規ブレークポイントの追加ウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

サーバ

このブレークポイントを適用するデータベースサーバ。

データベース

このブレークポイントを適用するデータベース。

プロシージャ

SQL プロシージャの場合、このブレークポイントを適用するストアードプロシージャ。

条件

評価結果が真になるべき条件。これが真になった場合に、このブレークポイントによって実行が中断されます。

この条件は、プロシージャ内の変数に関するものでなくてもかまいません。たとえば、特定のユーザによって作成された接続に適用されるブレークポイントを設定できます。それには、次のような条件を入力します。

```
CURRENT USER = 'user-name'
```

カウント

このブレークポイントによって実行が中断されるまでのスキップ回数。0を指定した場合、そのブレークポイントで常に実行が停止されます。

このブレークポイントを有効にする

このオプションを選択すると、このブレークポイントによって実行が中断されるようになります。

1.9.198.4 デバッガ - Java ソースコードパスウィンドウ

このウィンドウには複数の項目があります。

フォルダのリスト

フォルダまたは個々のファイルのリスト。デバッガはこのリスト内で Java ソースを検索します。

フォルダの参照

リストに追加するフォルダを参照します。

ファイルの参照

リストに追加する個々のファイルを参照します。

1.9.199 インデックスコンサルタント

インデックスコンサルタントは、ユーザがデータベースのインデックスを適切に選択できるように支援します。

インデックスコンサルタントは、単一のクエリまたは一連のデータベース要求（負荷と呼ばれる）に対するインデックスの選択プロセスを支援します。インデックスコンサルタントは、さまざまな仮想インデックスセットを作成します。インデックスコンサルタントは、仮想インデックスセットごとに、インデックスが実際に存在するものと仮定してクエリや要求を最適化します。インデックスコンサルタントは、分析結果に基づいて一連の推奨案を作成します。

1.9.200 Ultra Light プロジェクト

9.0.2 以前のバージョンでは、リファレンスデータベース内の SQL 文を Ultra Light プロジェクトに割り当てることができます。

このように SQL 文をグループ分けすることで、同じリファレンスデータベースを使用する複数の静的 Ultra Light アプリケーションを開発できます。

リファレンスデータベースに対して Ultra Light ジェネレータが実行され、データベースのソースコードファイルが生成されると、ジェネレータはプロジェクト名を引数として取り、そのプロジェクトにおける SQL 文のコードを生成します。Embedded SQL を使用している場合、SQL プリプロセッサが Ultra Light プロジェクトを定義するため、ユーザが Ultra Light プロジェクトを明示的に作成する必要はありません。

1.9.201 Ultra Light 文

9.0.2 以前のバージョンでは、Ultra Light アプリケーションで使用できるデータアクセス要求を定義するには、リファレンスデータベースで、そのアプリケーションの Ultra Light プロジェクトに SQL 文のセットを追加します。

SQL 文が追加されると、Ultra Light ジェネレータによって SQL 文のセットを実行するデータベースエンジンのコードが作成されます。

静的型 C++ API では、パブリケーションを使用してデータアクセスメソッドを定義することもできます。Embedded SQL を使用している場合、SQL プリプロセッサが Embedded SQL のソースファイルにある SQL 文をリファレンスデータベースに追加します。

1.9.202 パブリケーション

パブリケーションとは、同期されるデータを識別するデータベースオブジェクトです。

パブリケーションは、テーブルのカラム、ロー、あるいはその両方のサブセットであるアーティクルで構成されています。各パブリケーションに、1つまたは複数のテーブル全体、または選択したローとカラムからなるテーブルの一部を含めることができます。1つのパブリケーションでは、1つのテーブルを複数のアーティクルに含めることはできません。

Mobile Link では、クライアント上にもみ存在します。1つのパブリケーションは複数のアーティクルから構成されています。Mobile Link ユーザは、パブリケーションに対して同期サブスクリプションを作成することによって、パブリケーションを同期できます。SQL Remote ユーザは、パブリケーションに対してサブスクリプションを作成することによって、パブリケーションを受信できます。

1.9.203 アーティクル

Mobile Link または SQL Remote では、アーティクルは、テーブル全体もしくはテーブル内のカラムとローのサブセットを表します。

アーティクルの集合がパブリケーションです。

1.9.204 サブスクリプション

Mobile Link では、同期サブスクリプションは、特定の Mobile Link ユーザをパブリケーションとリンクします。

また、同期に必要なその他の情報を含めることもできます。たとえば、Mobile Link サーバのアドレスや、同期サブスクリプションに他のオプションを指定できます。特定の同期サブスクリプションの値によって、Mobile Link ユーザに設定された値が上書きされます。同期サブスクリプションは、Mobile Link SQL Anywhere リモートデータベース内でのみ必要です。サーバ論理は、統合データベース内の Mobile Link システムテーブルに格納されている同期スクリプトによって実装されます。

SQL Remote では、データはレプリケート用にパブリケーション単位で編成されます。SQL Remote メッセージを受信するには、REMOTE パーミッションを持つユーザ ID に対してサブスクリプションを作成します。SQL Remote では、パブリケーションとサブスクリプションは双方向の関係です。統合データベース上のパブリケーションに対してリモートユーザ用のサブスクリプションを作成するときにはリモートデータベース上の統合データベースにもサブスクリプションを作成してください。この作業は、抽出ユーティリティ (dbxtract) が自動的に実行します。

1.9.205 インデックスフォルダ

インデックスフォルダを使用して、データベース内のすべてのインデックスを表示できます。

データベースに接続したら、[インデックスフォルダ](#)をクリックすると、すべてのインデックスが表示されます。

エントリごとに次の情報が表示され、これらの情報を使用してリストをソートできます。

名前

インデックスの名前が表示されます。

オブジェクト名

インデックスが関連付けられているオブジェクトの名前が表示されます。

オブジェクト所有者

インデックスが関連付けられているオブジェクトの所有者の名前が表示されます。

インデックスタイプ

インデックスのタイプが表示されます。タイプは、外部キーインデックス、プライマリキーインデックス、一意性制約インデックス、またはインデックスのいずれかです。

ユニーク

インデックスの値がユニークである必要があるかどうかを示されます。新しいインデックスを作成すると、ユニークな値が設定されます。

カラム

インデックスのすべてのカラムが表示されます。

関連情報

[インデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[88 ページ\]](#)

1.9.206 テーブルの編集の取り消し

SQL Central でテーブルを編集するときに、ローごとに変更を取り消すことができます。

編集したローは、左側に鉛筆のアイコンが表示されます。編集したローの変更を取り消すには、対象のローをクリックして選択し、**▶ 編集 ▶ 元に戻す** を選択します。選択したローの変更が取り消され、鉛筆のアイコンが表示されなくなります。引き続き鉛筆のアイコンが表示されているその他任意のローの変更を取り消すことができます。

関連情報

[テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[153 ページ\]](#)

1.9.207 QAnywhere

QAnywhere のサポートは、廃止され、削除されました。QAnywhere を管理するには、SQL Central の以前のバージョンに含まれる QAnywhere プラグインを使用する必要があります。

1.10 Mobile Link プラグインのヘルプ

SQL Central の Mobile Link 17 プラグインを使用すると、通常は、プログラムで、またはシステムプロシージャや SQL 文を使用して行う作業をグラフィカルインターフェースで行うことができます。SQL Central には、オブジェクトのプロパティを設定するためのプロパティウィンドウ、また段階を踏んで一般的な管理タスクを実行できるウィザードがあります。

このセクションの内容:

[Mobilink properties ウィンドウ \[180 ページ\]](#)

Mobile Link プラグインには、オブジェクトのプロパティを設定するためのプロパティウィンドウが各種用意されています。Mobile Link に接続している場合、各プロパティウィンドウは、SQL Central でオブジェクトを選択するとファイルメニューに表示されます。また、オブジェクトを右クリックしても表示されます。

[Mobile Link サーバログファイルビューアウィンドウ \[204 ページ\]](#)

Mobile Link サーバログファイルビューアは、Mobile Link サーバログファイルを読み取り、メッセージを同期ごとにまとめて表示します。

[Mobile Link 同期モデルウィザード \[208 ページ\]](#)

同期モデルに関連するウィザードを使用すると、同期モデルの作成、スキーマの更新、同期モデルの展開の各タスクを順を追って簡単に実行できます。

[新しいテーブルマッピングの作成ウィンドウ \[220 ページ\]](#)

新しいテーブルマッピングの作成ウィンドウでは、統合スキーマで同期されていないテーブルから選択することで、リモートスキーマに新しいテーブルマッピングを作成できます。

[マッピングタブ \[221 ページ\]](#)

マッピングタブには、テーブルマッピングおよび詳細という 2 つのウィンドウ枠があります。テーブルマッピングウィンドウ枠でテーブルマッピングのローを選択すると、詳細ウィンドウ枠にその情報が表示されます。

[イベントタブ \[229 ページ\]](#)

イベントタブでは、同期モデル作成ウィザードで生成されたスクリプトを表示または変更できます。また、新しいスクリプトを作成することもできます。

[通知タブ \[230 ページ\]](#)

通知タブには、同期モデルについて次の情報が表示されます。

関連情報

[Mobilink properties ウィンドウ \[180 ページ\]](#)

[統合スキーマの所有者 \[185 ページ\]](#)

1.10.1 MobiLink properties ウィンドウ

Mobile Link プラグインには、オブジェクトのプロパティを設定するためのプロパティウィンドウが各種用意されています。Mobile Link に接続している場合、各プロパティウィンドウは、SQL Central でオブジェクトを選択するとファイルメニューに表示されます。また、オブジェクトを右クリックしても表示されます。

このセクションの内容:

[エージェントのプロパティウィンドウ \[183 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[認証ポリシーのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[183 ページ\]](#)

このタブには認証ポリシーのプロパティが表示されます。

[Carrier のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[184 ページ\]](#)

このタブには Carrier に関する基本情報 (Carrier の名前、オブジェクトのタイプ、Carrier が有効かどうかなど) が表示されます。複数の Carrier マッピングを定義および使用できます。このタブのプロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

[Carrier のプロパティウィンドウ: その他タブ \[184 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[カラムのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[184 ページ\]](#)

テーブルのカラムに関する基本情報 (カラム名、オブジェクトのタイプ、カラムが属するテーブルの名前とそのテーブルの所有者、カラムのデータ型、NULL が許されるかどうか、カラムのデフォルト値など) が表示されます。

[接続スクリプトのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[184 ページ\]](#)

接続スクリプトのプロパティウィンドウでは、選択した接続スクリプトに関する情報を参照できます。接続スクリプトは、特定のテーブルに関連付けられていない高いレベルのイベントを制御します。これらのイベントは、各同期の処理中に必要な全般的なタスクを実行するときに使用します。

[統合スキーマの所有者 \[185 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[カスタムアップロード値ウィンドウ \[185 ページ\]](#)

カスタム SQL 式を指定します。この式は評価されて、統合カラムにアップロードされます。

[データベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[186 ページ\]](#)

データベースに関する基本情報 (オブジェクトのタイプ、製品名、例: SQL Anywhere、選択したデータベースのバージョン番号、Mobile Link ユーザの名前など) が表示されます。

[ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[186 ページ\]](#)

ゲートウェイに関する基本情報 (ゲートウェイの名前、オブジェクトのタイプ、ゲートウェイが有効かどうかなど) が表示されます。

[ゲートウェイのプロパティウィンドウ: ゲートウェイ \(Device Tracker\) タブ \[186 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[ゲートウェイのプロパティウィンドウ: サーバ \(SMTP\) タブ \[186 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[ゲートウェイのプロパティウィンドウ: ポート \(UDP\) タブ \[187 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 配信 \(デバイストラッカ\) タブ \[188 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 配信 \(SMTP\) タブ \[188 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 配信 \(SYNC\) タブ \[188 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 配信 \(UDP\) タブ \[189 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[グローバル通知のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[189 ページ\]](#)

次のプロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

[グループのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[190 ページ\]](#)

グループに関する基本情報 (グループ名、オブジェクトのタイプ、説明など) が表示されます。

[グループのプロパティ: メンバータブ \[190 ページ\]](#)

このタブにはグループに属するユーザ名の一覧が表示されます。ユーザを追加または削除するには、**編集**をクリックします。

[LDAP サーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[190 ページ\]](#)

このタブには LDAP サーバのプロパティが表示されます。

[Mobile Link プロジェクトのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[191 ページ\]](#)

Mobile Link プロジェクトに関する基本情報 (プロジェクト名、オブジェクトのタイプ、Mobile Link プロジェクトが存在するディレクトリ、プロジェクトで使用されるリモートデータベースのタイプなど) が表示されます。

[Mobile Link サーバのコマンドラインのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[191 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[Mobile Link サーバのコマンドラインのプロパティウィンドウ: 詳細タブ \[192 ページ\]](#)

Mobile Link サーバのコマンドラインのプロパティウィンドウの **詳細タブ**では、Mobile Link サーバのオプション (mlsrv17) を選択してコマンドラインに追加できます。

[Notifier のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[192 ページ\]](#)

次のプロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

[Notifier のプロパティウィンドウ: 接続タブ \[193 ページ\]](#)

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

[Notifier のプロパティウィンドウ: ポーリングタブ \[193 ページ\]](#)

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

[Notifier のプロパティウィンドウ: イベントタブ \[194 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[パススルースクリプトのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[194 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[パススルーダウンロードのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[195 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: 一般タブ \[195 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: テーブルデータタブ \[196 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: 自動更新タブ \[197 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[リモートデータベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[197 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[リモートスキーマ名のプロパティ: 一般タブ \[198 ページ\]](#)

リモートスキーマ名に関する基本情報が表示されます。

[リモートタスクのプロパティ: 一般タブ \[198 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[リモートタスクのプロパティ: 実行タブ \[198 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[リモートタスクのプロパティ: 開始時刻タブ \[199 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[リモートタスクのプロパティ: 繰り返しタブ \[200 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[リモートタスクのプロパティ: 条件タブ \[200 ページ\]](#)

タスクを実行するリモートデータベースにおいて満たす必要がある条件を指定します。

[リモートカラムの選択ウィンドウ \[201 ページ\]](#)

選択された統合カラムにマッピング可能な、マッピングされていないリモートカラムのリストが表示されます。

[リモートテーブルの選択ウィンドウ \[201 ページ\]](#)

選択された統合テーブルにマッピング可能な、マッピングされていないリモートテーブルのリストが表示されます。

[同期モデルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[202 ページ\]](#)

同期モデルに関する基本情報 (同期モデルファイルの名前と場所、オブジェクトのタイプ、パブリケーション名、同期に使用されるスクリプトバージョンの名称など) が表示されます。

[同期テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[202 ページ\]](#)

このタブには、同期テーブルの名前、オブジェクトのタイプ、テーブル ID (同期テーブルを一意に識別する整数) が表示されます。

[サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[202 ページ\]](#)

サブスクリプションに関する基本情報 (サブスクリプションの所有者名を括弧書きにしたパブリケーション名、オブジェクトのタイプなど) が表示されます。

[テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[203 ページ\]](#)

テーブルに関する基本情報 (テーブル名、オブジェクトのタイプ、テーブル所有者など) が表示されます。

[テーブルスクリプトのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[203 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[203 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[バージョンのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[204 ページ\]](#)

バージョンのプロパティウィンドウでは、選択されたスクリプトバージョンに関する情報を参照できます。スクリプトバージョンを使用すると、異なる環境で実行されるスクリプトセットにスクリプトを編成することができます。

1.10.1.1 エージェントのプロパティウィンドウ

このタブには次の項目があります。

同期間隔

エージェントが同期しないでの最大間隔 (秒、分、時間、または日数単位) を指定します。

管理ポーリング間隔

エージェントが管理要求によってサーバをポーリングするまでの最大間隔 (秒、分、時間、または日数単位) を指定します。

最終アップロード時刻

エージェントが最後にデータを統合データベースにアップロードした時間を表示します。

最終ダウンロード時刻

統合データベースからエージェントに最後にデータがダウンロードされた時間を表示します。

Mobile Link クライアントネットワークプロトコルオプション

エージェントが Mobile Link サーバに接続するときに使用される接続文字列を指定します。

エージェントデータベースリモート ID

リモートデバイス上のエージェントデータベースのリモート ID。

1.10.1.2 認証ポリシーのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには認証ポリシーのプロパティが表示されます。

プライマリ LDAP サーバ

現在選択されているプライマリ LDAP サーバが表示されます。プライマリ LDAP サーバは、認証に通常使用されるサーバです。プライマリサーバを変更するには、ドロップダウンリストから別のサーバを選択します。

セカンダリ LDAP サーバ

現在選択されているセカンダリ LDAP サーバが表示されます。セカンダリ LDAP サーバは、プライマリ LDAP サーバが利用できない場合に使用されます。セカンダリサーバを変更するには、ドロップダウンリストから別のサーバを選択します。セカンダリ LDAP サーバを指定しない場合は、ブランクの値を選択します。

認証スクリプトの呼び出し

LDAP 認証のために Mobile Link 認証スクリプトを呼び出すには、このオプションを選択します。**呼び出さない**、**LDAP サーバが利用できない場合**または**常に呼び出す**を選択できます。

フェイルバック期間

フェイルバック期間が秒単位で表示されます。フェイルバック期間とは、接続試行に失敗した後、Mobile Link サーバが LDAP サーバへの再接続を行うまでに待機する時間です。

1.10.1.3 Carrierのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには Carrier に関する基本情報 (Carrier の名前、オブジェクトのタイプ、Carrier が有効かどうかなど) が表示されません。複数の Carrier マッピングを定義および使用できます。このタブのプロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

1.10.1.4 Carrierのプロパティウィンドウ: その他タブ

このタブには次の項目があります。

ID

Carrier の ID 情報を指定します。

ネットワークプロバイダ ID

選択されているネットワークプロバイダの ID が表示されます。

SMTP

SMTP の追加情報を指定します。

ユーザプレフィクス

ユーザプレフィクスを入力します。

ドメイン

Carrier のドメイン名を入力します。

1.10.1.5 カラムのプロパティウィンドウ: 一般タブ

テーブルのカラムに関する基本情報 (カラム名、オブジェクトのタイプ、カラムが属するテーブルの名前とそのテーブルの所有者、カラムのデータ型、NULL が許されるかどうか、カラムのデフォルト値など) が表示されます。

1.10.1.6 接続スクリプトのプロパティウィンドウ: 一般タブ

接続スクリプトのプロパティウィンドウでは、選択した接続スクリプトに関する情報を参照できます。接続スクリプトは、特定のテーブルに関連付けられていない高いレベルのイベントを制御します。これらのイベントは、各同期の処理中に必要な全般的なタスクを実行するときに使用します。

このタブには次の項目があります。

名前

選択されているスクリプトバージョンの名前が表示されます。スクリプトバージョン名は、文字列です。

タイプ

選択されているオブジェクトのタイプを示します。この場合のオブジェクトタイプは接続スクリプトです。

スクリプト ID

選択されている接続スクリプトをユニークに識別する整数が表示されます。

バージョン

バージョン名を識別する文字列が表示されます。

バージョン ID

選択されているバージョンをユニークに識別する整数が表示されます。

言語

スクリプト言語が表示されます。

展開済み

スクリプトが展開されているかどうかが表示されます。

共有バージョン

共有バージョンがある場合は表示されます。

1.10.1.7 統合スキーマの所有者

このウィンドウには次の項目があります。

すべての所有者を対象にデータベーススキーマをロードする

このオプションを選択すると、すべての所有者を対象にして統合データベーススキーマをロードします。

選択した所有者のみを対象にデータベーススキーマをロードする

このオプションを選択すると、一部の所有者のみを対象にして統合データベーススキーマをロードします。また、**スキーマをロードする対象となる所有者を選択してください**リストが使用できるようになります。

スキーマをロードする対象となる所有者を選択するリスト

スキーマをロードする対象となる所有者をリストから選択します。

以下の所有者を選択します。

- 同期されるすべてのテーブルの所有者。
- 同期スクリプトによって使用されるすべてのテーブルの所有者。たとえば、download_cursor スクリプトによってジョインされるテーブルの所有者を含めます。

1.10.1.8 カスタムアップロード値ウィンドウ

カスタム SQL 式を指定します。この式は評価されて、統合カラムにアップロードされます。

SQL 式

カスタム SQL 式を入力します。これは、評価されて、統合カラムにアップロードされます。テキストフィールドは、統合カラムが以前マッピングされた値で初期化されます。

1.10.1.9 データベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ

データベースに関する基本情報 (オブジェクトのタイプ、製品名、例: SQL Anywhere、選択したデータベースのバージョン番号、Mobile Link ユーザの名前など) が表示されます。

1.10.1.10 ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 一般タブ

ゲートウェイに関する基本情報 (ゲートウェイの名前、オブジェクトのタイプ、ゲートウェイが有効かどうかなど) が表示されません。

1.10.1.11 ゲートウェイのプロパティウィンドウ: ゲートウェイ (Device Tracker) タブ

このタブには次の項目があります。

この Device Tracker ゲートウェイは、次のゲートウェイを使用

次のいずれかのオプションを選択することで、デバイスの追跡に使用するゲートウェイを指定します。

SYNC ゲートウェイ

SYNC ゲートウェイを選択し、Device Tracker で使用するゲートウェイをドロップダウンリストから選択します。デフォルトは *Default-SYNC* です。

UDP ゲートウェイ

UDP ゲートウェイを選択し、Device Tracker で使用するゲートウェイをドロップダウンリストから選択します。デフォルトは *Default-UDP* です。

SMTP ゲートウェイ

SMTP ゲートウェイを選択し、Device Tracker で使用するゲートウェイをドロップダウンリストから選択します。デフォルトは *Default-SMTP* です。

1.10.1.12 ゲートウェイのプロパティウィンドウ: サーバ (SMTP) タブ

このタブには次の項目があります。

サーバ

ゲートウェイの次のサーバ情報を指定します。

ホスト

SMTP サーバが動作しているコンピュータの名前を入力します。

このサーバは認証が必要

選択したサーバに認証が必要な場合はこのオプションを選択します。このオプションを選択すると、ユーザとパスワードの各オプションが有効になります。

ユーザ

SMTP 認証に使用するユーザ ID を入力します。

パスワード

SMTP 認証に使用するパスワードを入力します。

ヘッダ

次のヘッダ情報を指定します。

送信元

これは、電子メール (SMTP 要求) の送信元のアドレスです。デフォルトは *anonymous* です。

1.10.1.13 ゲートウェイのプロパティウィンドウ: ポート (UDP) タブ

このタブには次の項目があります。

宛先ポート

リモートデバイスの宛先 (リスナ) ポートを指定します。

デフォルトポート (5001) を使用

このオプションを選択すると、デフォルトのポートが使用されます。

次のポートを使用

このオプションを選択すると、使用するポートを指定できます。

オリジンポート

オリジン (送信元) ポートを指定します。

システムが割り当てるポートを使用

このオプションを選択すると、パケットの送信元のポートがシステムによって割り当てられます。

次のポートを使用

このオプションを選択すると、パケットの送信に使用するポートを指定できます。

ネットワークアドレス

送信者のネットワークアドレスを指定します。

デフォルトのネットワークアドレスを使用

このオプションを選択すると、デフォルトのネットワークアドレスが使用されます。

次のネットワークアドレスを使用

このオプションを選択すると、送信者の IP アドレスを指定できます。

1.10.1.14 ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 配信 (デバイストラッカ) タブ

このタブには次の項目があります。

メッセージ配信の確認

このオプションを選択すると、Mobile Link Listener は、メッセージを受信した旨の確認メッセージを統合データベースから受信した後で、同期を開始します。接続情報を提供するには、Mobile Link Listener の起動時に -x オプションを指定してください。このオプションはデフォルトでオンになっています。

1.10.1.15 ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 配信 (SMTP) タブ

このタブには次の項目があります。

クライアントバージョン

このゲートウェイを使用するクライアントのバージョンに関する情報を入力できます。

このゲートウェイは、9.0.1 以降のクライアントのみをサポートする

すべての Listener が SQL Anywhere バージョン 9.0.1 以降のクライアントである場合に、このオプションを選択します。これはデフォルト設定です。

メッセージ配信の確認

メッセージの配信を確認する場合に、このオプションを選択します。この設定が影響するのは、このゲートウェイ経由で直接送信する場合だけです。

このゲートウェイは、9.0.0 クライアントのみをサポートする

すべての Listener が SQL Anywhere バージョン 9.0.0 クライアントである場合に、このオプションを選択します。

確認のタイムアウト

確認のタイムアウト時間を入力してください。確認のタイムアウトのデフォルトは 10 分です。

次の時間経過後にタイムアウト

ドロップダウンリストから確認のタイムアウト間隔を選択します。

次のタイムアウト間隔を使用

確認のタイムアウト間隔を分と秒の単位で指定します。

1.10.1.16 ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 配信 (SYNC) タブ

このタブには次の項目があります。

メッセージ配信の確認

メッセージの配信を確認する場合に、このオプションを選択します。この設定が影響するのは、このゲートウェイ経由で直接送信する場合だけです。

アクションの確認

このオプションを選択すると、リモートデバイスでアクションが実行された後、Mobile Link Listener が確認を返すように設定されます。

確認のタイムアウト

確認のタイムアウト時間を入力してください。確認のタイムアウトのデフォルトは 1 分です。

次の時間経過後にタイムアウト

ドロップダウンリストから確認のタイムアウト間隔を選択します。

次のタイムアウト間隔を使用

確認のタイムアウト間隔を分と秒の単位で指定します。

1.10.1.17 ゲートウェイのプロパティウィンドウ: 配信 (UDP) タブ

このタブには次の項目があります。

クライアントバージョン

このゲートウェイを使用するクライアントのバージョンに関する情報を入力できます。

このゲートウェイは、9.0.1 以降のクライアントのみをサポートする

すべての Listener が SQL Anywhere バージョン 9.0.1 以降のクライアントである場合に、このオプションを選択します。これはデフォルト設定です。

メッセージ配信の確認

メッセージの配信を確認する場合に、このオプションを選択します。この設定が影響するのは、このゲートウェイ経由で直接送信する場合だけです。

このゲートウェイは、9.0.0 クライアントのみをサポートする

すべての Listener が SQL Anywhere バージョン 9.0.0 クライアントである場合に、このオプションを選択します。

確認のタイムアウト

確認のタイムアウト時間を入力してください。確認のタイムアウトのデフォルトは 1 分です。

次の時間経過後にタイムアウト

ドロップダウンリストから確認のタイムアウト間隔を選択します。

次のタイムアウト間隔を使用

確認のタイムアウト間隔を分と秒の単位で指定します。

1.10.1.18 グローバル通知のプロパティウィンドウ: 一般タブ

次のプロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

このタブには次の項目があります。

冗長性レベル

すべての Notifier、ゲートウェイ、Carrier に対する冗長レベルを指定します。次のいずれかのレベルを選択してください。

トレーシングなし (レベル 0)

トレースを使用しません。これはデフォルト設定です。

起動およびシャットダウントレーシング (レベル 1)

起動、停止、プロパティのトレースを使用します。

通知トレーシング (レベル 2)

通知メッセージを表示します。

完全トレーシング (レベル 3)

完全レベルのトレースを使用します。

1.10.1.19 グループのプロパティウィンドウ: 一般タブ

グループに関する基本情報 (グループ名、オブジェクトのタイプ、説明など) が表示されます。

1.10.1.20 グループのプロパティ: メンバータブ

このタブにはグループに属するユーザ名の一覧が表示されます。ユーザを追加または削除するには、[編集](#)をクリックします。

1.10.1.21 LDAP サーバのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには LDAP サーバのプロパティが表示されます。

検索 URL

指定した Mobile Link の LDAP 識別名 (DN) のルックアップに使用する URL が表示されます。URL には、ホスト (名前または IP アドレスによる)、ポート番号、および実行する検索が含まれます。検索 URL のフォーマットは、LDAP URL 標準に準拠している必要があります。

この文字列の最大サイズは 1024 バイトです。

識別名

Mobile Link サーバが LDAP サーバへの接続に使用する DN が表示されます。これは Mobile Link ユーザではなく、LDAP サーバへのログイン用に LDAP サーバで作成されたユーザです。

DN で指定されたユーザは、SEARCH DN URL 句で指定される場所にあるユーザ ID によって DN を検索するために、LDAP サーバ内でパーミッションを得る必要があります。

この文字列の最大サイズは 1024 バイトです。

パスワード

選択した場合、DN に関連付けられたパスワードが含まれます。

認証 URL

識別名およびパスワードの認証に使用する URL が表示されます。(名前または IP アドレスで) ホストを識別する URL と、ユーザを認証するための LDAP サーバのポート番号です。

検索 URL およびユーザパスワードを使用して取得したユーザの DN は、新しい接続を認証 URL にバインドするために使用されます。LDAP サーバへの正常な接続は、接続ユーザの ID の証明とみなされます。

TLS の使用

DN の検索と認証のため、LDAP サーバへの接続に TLS を使用するには、このチェックボックスをオンにします。

接続タイムアウト

DN の検索と認証における Mobile Link サーバから LDAP サーバへの接続タイムアウトを指定します。

接続リトライ

DN の検索と認証のために Mobile Link サーバが LDAP サーバへの接続を試みる回数を選択します。

信頼できる証明書ファイル

Mobile Link サーバと LDAP サーバ間の TLS 通信に使用する信頼できる証明書ファイルを指定します。

すべての定義済み LDAP サーバで同じ信頼できる証明書ファイルが使用されるため、この設定を変更すると、すべての定義済み LDAP サーバに影響を与えます。

関連情報

[LDAP 標準仕様](#) ➤

1.10.1.22 Mobile Link プロジェクトのプロパティウィンドウ: 一般タブ

Mobile Link プロジェクトに関する基本情報 (プロジェクト名、オブジェクトのタイプ、Mobile Link プロジェクトが存在するディレクトリ、プロジェクトで使用されるリモートデータベースのタイプなど) が表示されます。

1.10.1.23 Mobile Link サーバのコマンドラインのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

統合データベース

コマンドラインを使用して接続する統合データベースが表示されます。統合データベースを変更するには、リストから別の統合データベースを選択します。

ネットワークオプション

選択したネットワークオプションが表示されます。追加のネットワークオプションを指定するには **追加** を、既存のオプションを変更するには **編集** を、ネットワークオプションを削除するには **削除** をそれぞれ選択します。

冗長性

次の冗長性オプションから選択してください。

なし

Mobile Link サーバのメッセージログファイルに情報を記録したくない場合は、このオプションを選択します。

低

Mobile Link サーバで各同期に関する最小限の情報を提供する場合は、このオプションを選択します。

高

すべての小文字冗長性オプションをオンにするには、このオプションを選択します。

高、ローの値なし

rを除くすべての小文字冗長性オプションをオンにするには、このオプションを選択します。アップロードまたはダウンロードされた各ローのカラム値は表示されません。

カスタム

希望する冗長性オプションを選択するには、このオプションを選択します。

コマンドライン

Mobile Link サーバのコマンドラインを、選択したネットワークオプションや冗長性オプションを含めて示します。

1.10.1.24 Mobile Link サーバのコマンドラインのプロパティウィンドウ: 詳細タブ

Mobile Link サーバのコマンドラインのプロパティウィンドウの 詳細タブでは、Mobile Link サーバのオプション (mlsrv17) を選択してコマンドラインに追加できます。

このタブには次の項目があります。

検索

検索フィールドに文字列を入力し、指定した文字列がオプションまたは説明フィールドのどちらかに含まれるオプションのみが表示されるように制限します。

オプション

mlsrv17 オプションの名前が表示されます。

値

mlsrv17 オプションの値が表示されます。このフィールドには新しい値を入力できます。

その他のオプション

Mobile Link の追加のサーバオプションがある場合は入力します。

コマンドライン

Mobile Link サーバのコマンドラインを、選択したネットワークオプションや冗長性オプションを含めて示します。

1.10.1.25 Notifier のプロパティウィンドウ: 一般タブ

次のプロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

このタブには次の項目があります。

有効化

Notifier を有効にするには、このオプションを選択します。

実行時にコントロールウィンドウを表示する

Notifier が動作しているコンピュータ上で *Notifier* ウィンドウを表示するには、このオプションを選択します。このユーザーインターフェイスを使用すると、ポーリング間隔を一時的に変更したり、すぐにポーリングを実行したりできます。また、Mobile Link サーバを停止せずに Notifier を停止するために使用することも可能です (一度停止すると、Mobile Link サーバを停止して再度起動しないと、Notifier を再度起動できません)。このオプションはデフォルトで選択されています。

他の Notifier とデータベース接続を共有する

このオプションを選択すると、データベース接続が他の Notifier と共有されます。

1.10.1.26 Notifier のプロパティウィンドウ: 接続タブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

このタブには次の項目があります。

独立性レベル

接続の独立性レベルを指定します。デフォルトの独立性レベルは、**コミットされた読み出し (レベル 1)** です。次のいずれかを選択してください。

- **コミットされない読み出し (レベル 0)**
- **コミットされた読み出し (レベル 1)**
- **繰り返し可能読み出し (レベル 2)**
- **直列化可能 (レベル 3)**

接続文字列

デフォルトの接続動作を変更する場合に、JDBC 接続文字列を指定します。これはオプションの値です。

デフォルトでは、Notifier は `com.sap.ml.script.ServerContext` を使用して統合データベースに接続します。Notifier は現在の `mlsrv17` セッションのコマンドラインで指定された接続文字列を使用します。

統合データベースを含む任意のデータベースに接続する接続文字列を指定できます。別のデータベースに接続するときに通知ロジックとデータを同期データから分離するのに便利です。

1.10.1.27 Notifier のプロパティウィンドウ: ポーリングタブ

プロパティは起動時に読み込まれます。プロパティを変更した場合、Mobile Link サーバを停止して再起動しないと、その変更が有効になりません。

このタブには次の項目があります。

次の間隔でポーリング

ドロップダウンリストからポーリング間隔を選択します。デフォルトは 30 秒です。

次のポーリング間隔を使用

Notifier のポーリング間隔を指定します。

1.10.1.28 Notifier のプロパティウィンドウ: イベントタブ

このタブには次の項目があります。

イベント

各 Notifier イベントに関連付けられている名前と SQL 文が表示されます。イベントを選択すると、下のウィンドウ枠に SQL 文が表示されます。

選択したイベントが呼び出されたときに、次の SQL 文を実行する

選択されている SQL 文が表示されます。必要に応じて SQL 文を変更し、適用をクリックすると変更が保存されます。

1.10.1.29 パススルースクリプトのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

i 注記

SQL パススルー機能は推奨されなくなりました。SQL パススルー情報への変更が影響するのは、バージョン 11.x クライアントのみです。

名前

パススルースクリプトの名前が表示されます。

フラグ

設定されているフラグが表示されます。フラグは、スクリプトの実行方法をクライアントに示す指示です。この値は NULL であるか、次のキーワードの組み合わせが含まれます。

手動

このフラグは、スクリプトを手動実行モードで実行する必要があることを示します。デフォルトでは、スクリプトは自動実行モードで実行されます。

排他

このフラグは、同期対象のすべてのテーブルに対して排他ロックが取得された同期の終了時に、スクリプトを自動的に実行する必要があることを示します。パススルースクリプトに影響を受けるパブリケーションのリストがない場合、このフラグは無視されます。このフラグは、SQL Anywhere のリモートデータベースに対してのみ意味があります。

スキーマ diff

このフラグは、スクリプトをスキーマ diff モードで実行する必要があることを示します。このモードでは、スクリプトに記述されているスキーマに合わせてデータベーススキーマが変更されます。たとえば、既存のテーブルに対する CREATE TABLE 文は ALTER TABLE 文として処理されます。このフラグは、Ultra Light のリモートデータベースだけに適用されます。

影響を受けるパブリケーション

スクリプトを実行する前に完全に同期する必要があるパブリケーションがリストされます。空のパブリケーションは、同期の必要がないことを示します。

1.10.1.30 パススルーダウンロードのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

i 注記

SQL パススルー機能は推奨されなくなりました。SQL パススルー情報への変更が影響するのは、バージョン 11.x クライアントのみです。

実行順序

このスクリプトがリモートデータベースに適用される順序を示します。スクリプトは常に順番に適用されます。値は正の整数にします。

最終変更時刻

パススルーダウンロードが最後に変更された日付が表示されます。

リモート実行時刻

リモートデータベースが実行された時刻が表示されます。

ステータス

スクリプトのステータスが表示されます。

エラーコード

スクリプトによって生成された、リモートデータベースでの SQL コード。

エラーテキスト

TEXT。スクリプトによって生成された、リモートデータベースでのエラーテキスト。

1.10.1.31 プラグインの環境設定ウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

設定

次の 1 つまたは複数の設定を指定して、Mobile Link プラグインの設定を行います。

同期モデル作成ウィザードのプライマリキー要件ページを表示する

この設定を選択すると、同期モデル作成ウィザードを開いたときにウィザードのプライマリキー要件ページが表示されます。

操作完了後にメッセージダイアログを自動的に閉じる

この設定を選択すると、操作が完了したときにメッセージウィンドウが自動的に閉じます。

同期モデルの一部として展開したスクリプトを上書きするときに警告する

この設定を選択すると、同期モデルの一環として展開されたスクリプトが上書きされるときに警告が表示されます。

同期からリモートカラムを除外するときに警告する

この設定を選択すると、同期からリモートカラムが除外されたときに警告が表示されます。

上書きされたスクリプトを無視するときに警告する

この設定を選択すると、上書きされた Mobile Link スクリプトを無視することを選択したときに警告が表示されます。

アップロード値にプライマリキーを設定するときに警告する

この設定を選択すると、アップロード値にプライマリキーを設定するときに警告が表示されます。

削除のシャドウテーブルに大きなカラム (BLOB や CLOB など) を追加するときに警告する

この設定を選択すると、削除のシャドウテーブルに大きなカラムを追加するときに警告が表示されます。

IQ 統合テーブルマッピングをアップロードまたは双方向に設定するときに警告する

この設定を選択すると、SAP IQ 統合テーブルマッピングがアップロードまたは双方向に設定されるときに警告が表示されます。

リモートタスクの展開時にエージェントが未定義の場合は警告する

この設定を選択すると、エージェントが何も定義されていない場所に対してリモートタスクを展開するときに警告が表示されます。

テストウィンドウを使用する場合、テストによって統合データベースが修正されることを警告する

この設定を選択すると、接続のテストにより統合データベースが修正されることを警告します。

ダウンロードサブセットをリモート ID によるものにするように設定する場合に警告する

この設定を選択すると、リモート ID によるダウンロードサブセットを設定するときに警告が表示されます。

テーブルデータ編集時に削除を確認する

この設定を選択すると、テーブルデータを編集しているときに削除の確認を求めるメッセージが表示されます。

テーブルデータ編集時に更新を確認する

この設定を選択すると、テーブルデータを編集しているときに更新の確認を求めるメッセージが表示されます。

テーブルデータ編集時に暗黙的更新を確認する

この設定を選択すると、テーブルデータを編集しているときに暗黙的更新の確認を求めるメッセージが表示されます。

テーブルデータ編集時にキャンセルを確認する

この設定を選択すると、テーブルデータを編集しているときにキャンセルの確認を求めるメッセージが表示されます。

デフォルトに戻す

デフォルトに戻すをクリックすると、このタブのユーザ設定がデフォルト値 (選択または選択解除) に戻ります。デフォルトでは、操作完了後にメッセージダイアログを自動的に閉じるを除いて、このタブのすべてのユーザ設定が選択されています。

1.10.1.32 プラグインの環境設定ウィンドウ: テーブルデータタブ

このタブには次の項目があります。

このテーブルデータの表示に使用するフォントを指定してください。

次のオプションのいずれかを選択することにより、SQL Central でテーブルデータを表示するときにデータタブのテーブルデータに使用するフォントを指定します。

システム

コンピュータの標準のテキストフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。これはデフォルト設定です。

エディタ

コードエディタと同じフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。

カスタム

使用するフォント、フォントスタイル、ポイントサイズを指定する場合は、このオプションを選択します。参照をクリックして、フォントウィンドウで設定を選択します。

1.10.1.33 プラグインの環境設定ウィンドウ: 自動更新タブ

このタブには次の項目があります。

自動再表示を有効にする

選択すると、各 Windows サービスのステータスがプラグインによって定期的に再表示されます。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

更新間隔 X 秒

Windows サービスを再表示する間隔を指定します。設定した再表示間隔は、明示的に変更するまでそのまま使われます。デフォルトの間隔は 10 秒です。

1.10.1.34 リモートデータベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

管理エージェント

リモートデータベースを管理するために割り当てられたエージェントが表示されます。

接続文字列

リモートデータベースに接続するための接続文字列が表示されます。

スクリプトの最終ダウンロード時刻

ダウンロードフェーズの直前に、最後に成功した同期中に統合データベースから取得されたタイムスタンプを示します。現在の Mobile Link のユーザが同期を行ったことがない場合や同期に成功したことがない場合、この値は同期しないに設定されます。

同期キー

同期キーが表示されます。

1.10.1.35 リモートスキーマ名のプロパティ: 一般タブ

リモートスキーマ名に関する基本情報が表示されます。

1.10.1.36 リモートタスクのプロパティ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

タスクにリモートデータベースが必要、またはリモートデータベースを作成

タスクにリモートデータベースが必要な場合、またはリモートデータベースを作成する場合に選択します。

リモートスキーマ名

リモートスキーマ名を指定します。リモートスキーマ名によって、同じスキーマを共有するリモートデータベースが識別されます。

タスクがリモートデータベースのスキーマを更新

リモートタスクによってリモートデータベースのスキーマが更新される場合に選択します。

新しいリモートスキーマ名

リモートデータベースが更新された後に使用するリモートスキーマ名を指定します。

1.10.1.37 リモートタスクのプロパティ: 実行タブ

このタブには次の項目があります。

スケジュールに従ってタスクを実行

リモートタスクがスケジュールによってトリガされるように指定します。**優先度高**タスクには有効ではありません。

受信時にタスクを実行

リモートタスクがエージェントに受信されたときにトリガされるように指定します。

優先度高

他のリモートタスクをこのリモートタスクと並列に実行できないように指定します。優先度高タスクはスケジュールに従って実行できません。タスクがリモートデータベースのスキーマを変更する場合、そのタスクは自動的に**優先度高**として指定され、**スケジュールに従ってタスクを実行**、**受信時にタスクを実行**、または**優先度高**オプションは変更できません。

優先度高タスクのステータスは、常に、タスクの完了後すぐにレポートされます。

実行時間を制限

選択すると、タスクを実行できる時間が制限されます。

最大実行時間

タスクが終了するまでに実行できる最大時間 (秒、分、時間、または日数単位) を指定します。

再試行回数を制限

リモートタスクが失敗した場合に、リモートデータベースがタスクの再実行を指定した回数だけ試みるようにします。

最大再試行回数

リモートデータベースがリモートタスクの再実行を試みる最大回数を指定します。

再試行間隔

リモートタスクが次の再試行まで待機する時間 (秒、分、時間、または日数単位) を指定します。

結果とステータス

以下の設定によって、タスクの結果とステータスがエージェントから統合データベースに送信される方法とタイミングが制御されます。ステータス情報には、以下のものが含まれます。

- タスクが成功したか、失敗したか。
- タスクが正常に実行された回数、失敗した回数、試行された回数。

タスクが成功した場合

リモートタスクが正常に実行された場合にエージェントが実行するアクションを指定します。

すぐに結果とステータスを送信

タスクが正常に実行された場合、エージェントがタスクの結果とステータスを統合データベースにすぐに送信するように指定します。

後で結果およびステータスを送信

タスクが正常に実行された場合、エージェントがタスクの結果とステータスを統合データベースに後で送信するように指定します。

後でステータスのみ送信

タスクが正常に実行された場合、エージェントがステータスのみを統合データベースに後で送信するように指定します。

タスクが失敗した場合

リモートタスクが失敗した場合にエージェントが実行するアクションを指定します。

すぐに結果とステータスを送信

タスクが失敗した場合、エージェントがタスクの結果とステータスを統合データベースにすぐに送信するように指定します。

後で結果およびステータスを送信

タスクが失敗した場合、エージェントがタスクの結果とステータスを統合データベースに後で送信するように指定します。

後でステータスのみ送信

タスクが失敗した場合、エージェントがステータスのみを統合データベースに後で送信するように指定します。

1.10.1.38 リモートタスクのプロパティ: 開始時刻タブ

このタブには次の項目があります。

タスクの開始

リモートタスクを開始する時刻を指定します。

次の間でタスクを実行

リモートタスクを実行するタイムフレームを指定します。

特定の日付にタスクを開始

リモートタスクを開始する日付を指定します。

開始時刻にランダムな遅延を追加

実行の前にタスクが待機する最大時間を指定します。タスクの実行は、指定値の範囲内のランダムな秒数だけ遅延します。

タスクがスケジュールされたタスクである場合、ランダム遅延は、最初の実行時に 1 回選択され、タスク実行のスケジュール済みの回数すべてでオフセットに使用されます。

1.10.1.39 リモートタスクのプロパティ: 繰り返しタブ

このタブには次の項目があります。

次の間隔で繰り返し

リモートタスクを繰り返す間隔を指定します。

次の日にのみタスクを実行

リモートタスクを特定の日の実行するように指定します。

曜日

曜日の横のチェックボックスをオンにして、リモートタスクを実行する曜日を選択します。

日付

日付の横のチェックボックスをオンにして、リモートタスクを実行する日を選択します。

特定の日付にタスクを終了

リモートタスクを終了する日付を指定します。[カレンダー](#)をクリックして日付を選択します。

1.10.1.40 リモートタスクのプロパティ: 条件タブ

タスクを実行するリモートデータベースにおいて満たす必要がある条件を指定します。

このタブには次の項目があります。

コンピュータが AC 電源で稼働している

リモートタスクを実行させるには、コンピュータを交流電力で動作する必要があることを指定します。

バッテリー残量

タスクを実行するためにリモートデバイスに存在する必要があるバッテリー電力量を指定します。

条件

ドロップダウンリストからバッテリー電力量を選択します。

コンピュータがオンラインになっている

タスクを実行する Mobile Link サーバと同じネットワーク上にリモートコンピュータを接続する必要があることを指定します。

特定のネットワークが必要である

コンピュータがオンラインになっているが選択されている場合にのみ利用可能です。コンピュータを接続する必要のある特定のネットワークに名前を付けるときにこのオプションを選択します。

ネットワーク名

タスクを実行するためにリモートコンピュータを接続する必要のあるネットワークの名前を入力します。

アップロードを待っているロー (Ultra Light のみ)

このオプションは、Ultra Light のリモートデータベースにのみ適用されます。

ロー

リモートタスクが実行されるまでアップロードを待機する必要があるローの数を指定します。

SQL 条件

タスクを実行する前に満たす必要がある SQL 条件を指定します。

変数

変数ボタンをクリックして、SQL 条件に変数を追加します。

1.10.1.41 リモートカラムの選択ウィンドウ

選択された統合カラムにマッピング可能な、マッピングされていないリモートカラムのリストが表示されます。

マッピングするカラムをクリックし、OK をクリックします。

1.10.1.42 リモートテーブルの選択ウィンドウ

選択された統合テーブルにマッピング可能な、マッピングされていないリモートテーブルのリストが表示されます。

マッピングするテーブルをクリックし、OK をクリックします。

1.10.1.43 同期モデルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

同期モデルに関する基本情報 (同期モデルファイルの名前と場所、オブジェクトのタイプ、パブリケーション名、同期に使用されるスクリプトバージョンの名称など) が表示されます。

1.10.1.44 同期テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには、同期テーブルの名前、オブジェクトのタイプ、テーブル ID (同期テーブルを一意に識別する整数) が表示されません。

関連情報

[同期モデル作成ウィザード: テーブル同期マッピングページ \[213 ページ\]](#)

1.10.1.45 サブスクリプションのプロパティウィンドウ: 一般タブ

サブスクリプションに関する基本情報 (サブスクリプションの所有者名を括弧書きにしたパブリケーション名、オブジェクトのタイプなど) が表示されます。

リモート ID

データベースをユニークに識別するリモート ID が表示されます。このカラムは、ml_database テーブルの rid カラムを参照します。

ユーザ

リモートデータベースに関連付けられている Mobile Link ユーザの名前が表示されます。

サブスクリプション ID

ml_subscription テーブルの subscription_id カラムの値が表示されます。ml_subscription テーブルのプライマリキーは、この値とリモートデータベース ID から構成されます。

進行状況

サブスクリプションに対するすべての操作がアップロードされ確認された回数が表示されます。

最終アップロード時刻

リモートデータベースで正常な最終アップロードがコミットされた時点の統合データベースにおける時刻が表示されます。

最終ダウンロード時刻

Mobile Link ユーザが最後にデータをダウンロードしたときのタイムスタンプ値が表示されます。

1.10.1.46 テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

テーブルに関する基本情報 (テーブル名、オブジェクトのタイプ、テーブル所有者など) が表示されます。

1.10.1.47 テーブルスクリプトのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

スクリプト ID

選択されているテーブルスクリプトをユニークに識別する整数が表示されます。

バージョン

テーブルスクリプトが属するバージョンの名前が表示されます。

バージョン ID

テーブルスクリプトが属するバージョンをユニークに識別する整数が表示されます。

同期テーブル

テーブルスクリプトが属する同期テーブルの名前が表示されます。

言語

テーブルスクリプトの記述言語が表示されます。

展開済み

スクリプトが展開されているかどうかが表示されます。

共有バージョン

共有バージョンがある場合は表示されます。

1.10.1.48 ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

ID

ユーザをユニークに識別する整数が表示されます。

ユーザ認証ポリシー

ドロップダウンリストからユーザ認証ポリシーを選択します。

このユーザにパスワードを設定

このオプションを選択すると、ユーザのパスワードを設定できます。このオプションをクリアすると、[パスワードオプションとパスワードの確認オプションが無効になります](#)。

パスワード

ユーザのパスワードを入力します。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

パスワードの確認

パスワードテキストボックスに入力したパスワードを再度入力して確認します。2つのフィールドの内容は、完全に一致している必要があります。パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

1.10.1.49 バージョンのプロパティウィンドウ: 一般タブ

バージョンのプロパティウィンドウでは、選択されたスクリプトバージョンに関する情報を参照できます。スクリプトバージョンを使用すると、異なる環境で実行されるスクリプトセットにスクリプトを編成することができます。

特定のバージョンを指定することによって、アップロードストリームの処理やダウンロードストリームの準備に使用する同期スクリプトセットを Mobile Link クライアントで選択できます。

このタブには次の項目があります。

名前

選択されているスクリプトバージョンの名前が表示されます。スクリプトバージョン名は、文字列です。このフィールドは編集できます。

タイプ

選択されているオブジェクトのタイプを示します。この場合のオブジェクトタイプはバージョンです。

ID

選択されているバージョンをユニークに識別する整数が表示されます。

1.10.2 Mobile Link サーバログファイルビューアウィンドウ

Mobile Link サーバログファイルビューアは、Mobile Link サーバログファイルを読み取り、メッセージを同期ごとにまとめて表示します。

このセクションの内容:

Mobile Link サーバログファイルビューア: メッセージタブ [204 ページ]

このタブには次の項目があります。

Mobile Link サーバログファイルビューア: 概要タブ [206 ページ]

Mobile Link サーバログファイルビューアウィンドウの概要タブには、他のタブでフィルタが適用されているかどうかに関係なく、ログファイル全体の情報の概要が表示されます。

Mobile Link サーバログファイルビューア: 同期タブ [207 ページ]

Mobile Link サーバログファイルビューアの同期タブは、Mobile Link サーバログファイルを読み取り、メッセージを同期ごとにまとめて表示します。

1.10.2.1 Mobile Link サーバログファイルビューア: メッセージタブ

このタブには次の項目があります。

フィルタ

次のオプションを1つ以上指定して、下にあるメッセージウィンドウ枠に表示されるメッセージをフィルタします。たとえば、表示されるメッセージを特定のリモート ID が関連する同期に限定するには、**リモート ID** オプションを選択し、有効なリモート ID を入力して、**適用**をクリックします。

適用をクリックすると、メッセージタブの表示が更新されます。

エラーを表示

このオプションを選択すると、同期のエラーメッセージがメッセージウィンドウ枠に表示されます。

警告を表示

このオプションを選択すると、同期の警告メッセージがメッセージウィンドウ枠に表示されます。

情報を表示

このオプションを選択すると、同期の情報メッセージがメッセージウィンドウ枠に表示されます。

開始日時

日付と時刻を選択して指定します。日付と時刻の指定には次のフォーマットを使用します。

```
YYYY-MM-DD HH:NN:SS
```

このオプションにより、指定した時刻以降のメッセージのみが表示されます。

開始日時と**終了日時**の両方を選択すると、タイムスタンプがこの2つの時刻の間になっているメッセージが表示されます。

終了日時

日付と時刻を選択して指定します。日付と時刻の指定には次のフォーマットを使用します。

```
MM-DD HH:NN:SS
```

このオプションにより、指定した時刻以前のメッセージのみが含まれるようになります。

開始日時と**終了日時**の両方を選択すると、タイムスタンプがこの2つの時刻の間になっているメッセージを含む同期が表示されます。

ログの内容

このフィールドに文字列を入力すると、それを内容に含むものだけが表示されます。フィルタでは大文字と小文字は区別されます。ワイルドカードはサポートされていません。

リモート ID

指定されたリモート ID でメッセージをフィルタします。

ユーザ名

指定されたユーザ名でメッセージをフィルタします。

適用

クリックすると、指定したメッセージフィルタが適用されます。

メッセージ

フィルタされたメッセージが表示されます。このテーブルには次のメッセージ情報が表示されます。

フラグカラム

このカラムにタイトルはありません。警告またはエラーがあるメッセージにアイコンが表示されます。

タイムスタンプカラム

同期が開始された日付と時刻が表示されます。

ID カラム

リモートユーザ ID が表示されます。

メッセージカラム

メッセージが表示されます。

1.10.2.2 Mobile Link サーバログファイルビューア: 概要タブ

Mobile Link サーバログファイルビューアウィンドウの概要タブには、他のタブでフィルタが適用されているかどうかに関係なく、ログファイル全体の情報の概要が表示されます。

たとえば、このタブには同期の数、平均同期時間、ユーザごとのエラー数などが表示されます。

このタブには次の項目があります。

ファイルテーブル

名前

Mobile Link サーバログファイルの名前が表示されます。

日付

Mobile Link サーバログファイルが最後に変更された日付が表示されます。

概要テーブル

統計情報

同期の数、ユーザの数、同時同期の最大数など統計情報の概要が表示されます。

値

統計情報ごとのインスタンス数が表示されます。

ユーザ統計テーブル

ユーザ統計テーブルには、ユーザごとの同期情報の概要が表示されます。このテーブルには次のカラムがあります。

ユーザ名

ユーザの名前が表示されます。

同期

試行された同期の数が表示されます。

平均同期時間

平均同期時間が秒単位で表示されます。

エラー

エラーを含む同期の数が表示されます。

エラー (%)

エラーを含む同期の割合が表示されます。

1.10.2.3 Mobile Link サーバログファイルビューア: 同期タブ

Mobile Link サーバログファイルビューアの同期タブは、Mobile Link サーバログファイルを読み取り、メッセージを同期ごとにまとめて表示します。

このタブには次の項目があります。

フィルタ

次のオプションを1つ以上指定して、同期ウィンドウ枠や詳細ウィンドウ枠に表示される同期情報をフィルタします。たとえば、表示される同期を、特定のリモート ID またはユーザ名が関連しているものや、エラーメッセージを含むものに制限できます。

同期および詳細ウィンドウ枠の表示を更新するには、適用をクリックします。

エラーを表示

このオプションを選択すると、エラーメッセージが含まれる同期が表示されます。

警告を表示

このオプションを選択すると、警告メッセージが含まれる同期が表示されます。

情報を表示

このオプションを選択すると、同期に関連付けられている情報メッセージが表示されます。

開始日時

日付と時刻を選択して指定します。日付と時刻の指定には次のフォーマットを使用します。

```
YYYY-MM-DD HH:NN:SS
```

このオプションにより、指定した時刻以降のメッセージが含まれている同期が表示されます。

開始日時と終了日時の両方を選択すると、タイムスタンプがこの2つの時刻の間になっているメッセージを含む同期が表示されます。

終了日時

日付と時刻を選択して指定します。日付と時刻の指定には次のフォーマットを使用します。

```
YYYY-MM-DD HH:NN:SS
```

このオプションにより、指定した時刻以前のメッセージが含まれている同期のみが含まれるようになります。

開始日時と終了日時の両方を選択すると、タイムスタンプがこの2つの時刻の間になっているメッセージを含む同期が表示されます。

ログの内容

このフィールドに文字列を入力すると、それを内容に含むものだけが表示されます。フィルタでは大文字と小文字は区別されます。ワイルドカードはサポートされていません。

リモート ID

指定されたリモート ID でメッセージをフィルタします。

ユーザ名

指定されたユーザ名でメッセージをフィルタします。

適用

クリックすると、指定されたメッセージフィルタが適用されます。

同期ウィンドウ枠

フィルタされた同期が表示されます。

詳細ウィンドウ枠

選択されている同期の詳細が表示されます。

1.10.3 Mobile Link 同期モデルウィザード

同期モデルに関連するウィザードを使用すると、同期モデルの作成、スキーマの更新、同期モデルの展開の各タスクを順を追って簡単に実行できます。

このセクションの内容:

[同期モデル作成ウィザード: ようこそページ \[210 ページ\]](#)

このページには次の項目があります。

[同期モデル作成ウィザード: プライマリキー要件ページ \[210 ページ\]](#)

同期システムでは、プライマリキーは、異なるデータベース (リモートと統合) 内の同じローを識別する唯一の方法であり、競合を検出する唯一の方法です。

[同期モデル作成ウィザード: 統合データベーススキーマページ \[210 ページ\]](#)

同期モデルの統合データベーススキーマで使用するスキーマを含む統合データベースに接続する必要があります。これによって、ウィザードが更新されたスキーマ情報を取得できます。

[同期モデル作成ウィザード: リモートデータベーススキーマページ \[211 ページ\]](#)

同期モデル作成ウィザードのリモートデータベーススキーマページでは、リモートデータベーススキーマを指定できます。リモートスキーマを取得するために既存のリモートデータベースに接続することも、統合データベーススキーマに基づいて新しいリモートデータベーススキーマを作成することもできます。

[同期モデル作成ウィザード: 新しいリモートデータベーススキーマページ \[212 ページ\]](#)

このページでは、リモートデータベースのスキーマの作成に使用する統合データベースのテーブルを選択できます。統合データベースから選択したテーブルとカラムがリモートデータベースに作成され、対応する統合テーブルとリモートテーブルの間で同期が設定されます。

同期モデル作成ウィザード: 既存のリモートデータベースページ [212 ページ]

同期モデル作成ウィザードの既存のリモートデータベースページでは、同期するリモートデータベーステーブルとカラムを選択できます。これらのオプションは、同期モデル作成ウィザードの完了後に表示および変更できます。

同期モデル作成ウィザード: テーブル同期マッピングページ [213 ページ]

このページでは、モデルで選択した統合テーブルとリモートテーブル間のテーブルマッピングを指定できます。このページは、同期モデルのリモートデータベーススキーマが既存のリモートデータベースに基づいている場合に適用されます。

同期モデル作成ウィザード: 同期モデル作成ウィザードの完了ページ [213 ページ]

このページでは、指定した情報に基づいて、新しい同期モデルの名前とロケーションの概要が表示されます。また、モデルの展開前にさらに変更を加える必要があるかどうかとも示されます。

同期モデル展開ウィザード: ようこそページ [214 ページ]

このページには次の項目があります。

同期モデル展開ウィザード: 統合データベースと Mobile Link サーバのコマンドラインページ [214 ページ]

このページでは、同期モデルを展開する統合データベースを選択できます。また、Mobile Link サーバを起動するための Mobile Link コマンドラインを選択することもできます。

同期モデル展開ウィザード: クライアントネットワークオプションページ [215 ページ]

このページでは、クライアントが Mobile Link サーバへの接続に使用するネットワークオプションを選択できます。

同期モデル展開ウィザード: Mobile Link ユーザとパスワードページ [216 ページ]

このページを使用すると、Mobile Link サーバへの接続時に Mobile Link クライアントで使用される Mobile Link ユーザ名とパスワードを指定できます。ユーザ名とパスワードは、データベースアカウントと一致させる必要はありません。

同期モデル展開ウィザード: 同期プロファイルページ [216 ページ]

このページでは、クライアントが同期を行うときに使用するオプションを含む同期プロファイルを定義できます。

同期モデル展開ウィザード: データベースの同期を準備する方法を選択しますページ [217 ページ]

このページでは、ウィザードで生成された SQL スクリプトがどのようにデータベースに適用されるかについての情報を入力できます。

同期モデル展開ウィザード: 選択内容の確認ページ [217 ページ]

このページでは、同期モデルの展開に選択したオプションを確認できます。また、統合データベースとリモートデータベース両方の生成された SQL スクリプトも確認できます。

スキーマ更新ウィザード: ようこそページ [218 ページ]

このページでは、同期モデルのスキーマとデータベースのスキーマを比較することで、同期モデル内の統合データベースとリモートデータベースのスキーマを更新できます。

スキーマ更新ウィザード: 統合データベーススキーマページ [218 ページ]

Mobile Link アプリケーションの統合データベースにするデータベースに接続し、ウィザードでこのデータベースのスキーマ情報を取得できるようにします。

スキーマ更新ウィザード: リモートデータベーススキーマページ [219 ページ]

このページでは、リモートデータベースのスキーマを取得するロケーションを選択できます。

スキーマ更新ウィザード: 新しいリモートデータベーススキーマページ [219 ページ]

このページでは、リモートデータベースのスキーマの更新に使用する統合データベースのテーブルを選択できます。このウィザードの完了後に、マッピングタブを使用して、対応する統合テーブルとリモートテーブル間の同期を設定します。

スキーマ更新ウィザード: スキーマ更新ウィザードの完了ページ [220 ページ]

このページには、検出されたスキーマの変更概要が表示されます。

1.10.3.1 同期モデル作成ウィザード: ようこそページ

このページには次の項目があります。

新しい同期モデルの名前を指定してください。

同期モデルの識別に使用する名前を入力します。指定する名前は、ユニークにする必要があります。この名前は、モデルファイルに対して、および展開するファイルとディレクトリのデフォルト名として使用されます。

1.10.3.2 同期モデル作成ウィザード: プライマリキー要件ページ

同期システムでは、プライマリキーは、異なるデータベース (リモートと統合) 内の同じローを識別する唯一の方法であり、競合を検出する唯一の方法です。

Mobile Link アプリケーションは次の規則に従う必要があります。

- 同期される各リモートテーブルには、プライマリキーが存在する必要があります。
- プライマリキーの値は更新しない。
- プライマリキーは、同期されるすべてのデータベース間でユニークでなければなりません。

同期モデル作成ウィザードのプライマリキー要件ページでは、アプリケーションやデータベースが Mobile Link による同期のプライマリキーの要件を満たしている必要があることを確認します。同期モデル作成ウィザードの次のページに進むには、3つのプライマリキーの条件を選択する必要があります。

このページには次の項目があります。

すべてのテーブルにプライマリキーがある

すべてのリモートテーブルにプライマリキーがあることを確認した場合はこの条件を選択します。
アプリケーションはプライマリキーを更新しない

アプリケーションでプライマリキーを更新しないことを確認した場合はこの条件を選択します。
新しいローにユニークなプライマリキーがあることを確認した

新しいローにユニークなプライマリキーがあることを確認した場合はこの条件を選択します。
今後プライマリキー要件ページを表示しない

このオプションを選択すると、今後、**プライマリキー要件ページ**が表示されません。このオプションは、SQL Central の Mobile Link プラグインの**プラグインの環境設定ページ**からも変更できます。

1.10.3.3 同期モデル作成ウィザード: 統合データベーススキーマページ

同期モデルの統合データベーススキーマで使用するスキーマを含む統合データベースに接続する必要があります。これによって、ウィザードが更新されたスキーマ情報を取得できます。

このページには次の項目があります。

統合データベースのスキーマを取得するのに使用するデータベースを指定してください。

クリックして、同期モデルのスキーマ情報を取得する統合データベースを選択します。**次へ**をクリックすると、Mobile Link プロジェクトで指定された接続情報を使用して、指定された統合データベースへの接続が行われます。

1.10.3.4 同期モデル作成ウィザード: リモートデータベーススキーマページ

同期モデル作成ウィザードのリモートデータベーススキーマページでは、リモートデータベーススキーマを指定できます。リモートスキーマを取得するために既存のリモートデータベースに接続することも、統合データベーススキーマに基づいて新しいリモートデータベーススキーマを作成することもできます。

このページには次の項目があります。

既存のリモートデータベースがありますか

使用できる既存のリモートデータベースがあるかどうかを指定します。

いいえ、新しいリモートデータベーススキーマを作成します

リモートデータベースのスキーマを統合データベースで基本とする場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合は、統合データベース内で、リモートデータベースのスキーマの作成に使用するテーブルを後で指定する必要があります。

はい、既存のリモートデータベースを使用します

SQL Anywhere または Ultra Light の既存のリモートデータベースに接続してモデルのリモートデータベーススキーマを取得する場合はこのオプションを選択します。

たとえば、次の場合に、はいを選択します。

- すでにリモートデータベースがある場合、特にスキーマが統合データベーススキーマのサブセットではない場合。
- 統合カラムとリモートカラムのタイプが異なっている必要がある場合。たとえば、統合データベースの NCHAR カラムを Ultra Light リモートデータベースの CHAR カラムにマッピングする必要がある場合。
- リモートテーブルと統合データベースのテーブルの所有者が異なっている必要がある場合。新しい SQL Anywhere リモートデータベースでは、リモートテーブルの所有者は、統合データベース内の対応するテーブルの所有者と同じになります。別の所有者にするには、その所有者がテーブルを所有する既存の SQL Anywhere リモートデータベースを使用します。Ultra Light データベースは、所有者を持ちません。

i 注記

既存のリモートデータベースのスキーマを変更する必要がある場合は、モデル以外でデータベースを変更してから、[スキーマ更新ウィザード](#)を実行してモデルを更新します。

リモートデータベースの選択

このボタンをクリックして、リモートデータベースのスキーマ情報を取得する既存のリモートデータベースを選択します。

接続ウィンドウが表示されます。リモートデータベースの接続情報を指定します。

リモートデータベースを選択した後に、次の情報が表示されます。

名前

リモートデータベースの名前が表示されます。

ユーザ

リモートデータベースへの接続に使用するユーザ名が表示されます。

製品名

SQL Anywhere などの製品名が表示されます。

バージョン

選択されているデータベースのバージョン番号が表示されます。

1.10.3.5 同期モデル作成ウィザード: 新しいリモートデータベーススキーマ ページ

このページでは、リモートデータベースのスキーマの作成に使用する統合データベースのテーブルを選択できます。統合データベースから選択したテーブルとカラムがリモートデータベースに作成され、対応する統合テーブルとリモートテーブルの間で同期が設定されます。

ウィザードの完了後に、テーブルとカラムのマッピングを修正できます。

このページには次の項目があります。

リモートデータベースに含める統合データベースのテーブルとカラムを指定してください。

現在接続している統合データベース内のすべてのテーブルとカラムが、テーブル所有者ごとにグループ化して表示されます。テーブルマッピングから除外するテーブルのチェックボックスはオフにします。カラムマッピングから除外するカラムのチェックボックスはオフにします。システムテーブルと Mobile Link システムテーブルは除きます。

同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルを非表示にする

デフォルトでは、同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルは、同期させてはならないため非表示になります。同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルを表示する場合は、このオプションをオフにします。

1.10.3.6 同期モデル作成ウィザード: 既存のリモートデータベースページ

同期モデル作成ウィザードの既存のリモートデータベースページでは、同期するリモートデータベーステーブルとカラムを選択できます。これらのオプションは、同期モデル作成ウィザードの完了後に表示および変更できます。

このページには次の項目があります。

同期する統合データベーステーブルを指定してください。

現在接続している統合データベース内のすべてのテーブルとカラムが、テーブル所有者ごとにグループ化して表示されます。テーブルマッピングから除外するテーブルのチェックボックスはオフにします。カラムマッピングから除外するカラムのチェックボックスはオフにします。システムテーブルと Mobile Link システムテーブルは除きます。

同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルを非表示にする

デフォルトでは、同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルは、同期させてはならないため非表示になります。同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルを表示する場合は、このオプションをオフにします。

1.10.3.7 同期モデル作成ウィザード: テーブル同期マッピングページ

このページでは、モデルで選択した統合テーブルとリモートテーブル間のテーブルマッピングを指定できます。このページは、同期モデルのリモートデータベーススキーマが既存のリモートデータベースに基づいている場合に適用されます。

このページには、統合テーブルと、リモートデータベースで利用可能なテーブルの間のマッピングが表示されます。**マッピング方向**カラムには、マッピングを**双方向**、**リモートにのみダウンロード**、**統合にのみアップロード**のいずれにするかが表示されません。

このページには次の項目があります。

統合テーブルカラム

リモートテーブルカラムのテーブルに対するマッピングが試みられる統合データベーステーブルを示します。

i 注記

デフォルトのテーブルマッピングは完全ではありません。すべてのテーブルのマッピングが見つからなかったり、テーブルがマッピングされてもそのマッピングが意図したものではなかったりする可能性があるため、次に進む前にテーブルのマッピングをすべて確認してください。

処理を先に進めるには、すべてのテーブルがマッピングされる必要があります。

マッピング方向カラム

統合テーブルと選択したリモートテーブル間の同期の方向を表示します。方向は、**双方向**、**リモートにのみダウンロード**、**統合にのみアップロード**のいずれかです。デフォルトは、**双方向**です。ドロップダウンリストから新しい方向を選択すると、方向を変更できます。

リモートテーブルカラム

選択したリモートデータベーステーブルが表示されます。

1.10.3.8 同期モデル作成ウィザード: 同期モデル作成ウィザードの完了ページ

このページでは、指定した情報に基づいて、新しい同期モデルの名前とロケーションの概要が表示されます。また、モデルの展開前にさらに変更を加える必要があるかどうかを示されます。

ウィザードを完了し、新しい同期モデルを作成するには、情報を確認し、**完了**をクリックします。

完了をクリックすると、作成したモデルが開きます。これでオフラインで作業している状態になり、モデルに変更を加えることができます。モデルを展開するまで、モデル以外での変更は行われません。そのときまで統合データベースは変更されず、リモートデータベースは作成も変更もされません。

同期モデルを作成する前に変更を行うには、**戻る**をクリックします。

1.10.3.9 同期モデル展開ウィザード: ようこそページ

このページには次の項目があります。

ウィザードによって生成されたファイルを保管するフォルダを選択します

生成されたファイルを保管する場所を指定します。既存のディレクトリを指定した場合、[次へ](#)をクリックしてこのウィザードの次のページに移動すると、そのディレクトリのすべてのファイルが上書きされます。

この同期モデルの最後の展開と同じオプションを使用して、再度展開します

このモデルに最後に使用した展開設定で初期化された同期モデル展開ウィザードを実行するには、このオプションを選択します。このオプションは、同じ同期モデルを以前に展開したことがある場合にだけ利用できます。

1.10.3.10 同期モデル展開ウィザード: 統合データベースと Mobile Link サーバのコマンドラインページ

このページでは、同期モデルを展開する統合データベースを選択できます。また、Mobile Link サーバを起動するための Mobile Link コマンドラインを選択することもできます。

このページには次の項目があります。

統合データベースと Mobile Link サーバのコマンドラインを選択します

次のオプションから選択してください。

統合データベース

ドロップダウンリストから、同期モデルの展開先にする統合データベースを選択します。[次へ](#)をクリックすると、指定された統合データベースへの接続が行われます。

Mobile Link サーバのコマンドライン

ドロップダウンリストから、展開に使用する Mobile Link サーバのコマンドラインを選択します。選択した統合データベースに適した Mobile Link コマンドラインだけが表示されます。

Mobile Link サーバのオプション

選択した統合データベースの Mobile Link サーバオプションおよび Mobile Link サーバのコマンドラインを表示します。

i 注記

配備時にシャドウテーブルを作成した場合は、シャドウテーブルが作成されるベーステーブルの所有者として、または管理者として、統合データベースに接続する必要があります。

1.10.3.11 同期モデル展開ウィザード: クライアントネットワークオプション ページ

このページでは、クライアントが Mobile Link サーバへの接続に使用するネットワークオプションを選択できます。

リモート同期クライアントを **Mobile Link** サーバに接続する方法を選択します

次のオプションから選択してください。

プロトコル

次のオプションのうちの 1 つを選択してください。

TCP/IP

このオプションを選択し、Mobile Link のクライアントとサーバ間の通信に TCP/IP を使用するポートを指定します。これがデフォルトです。高いパフォーマンスを得るにはこのオプションをお奨めします。

TLS

このオプションを選択し、Mobile Link のクライアントとサーバ間の通信にトランスポートレイヤセキュリティと TCP/IP を使用するポートを指定します。

HTTP

このオプションを選択し、Mobile Link のクライアントとサーバ間の通信に標準の Web プロトコルを使用するポートを指定します。

HTTPS

このオプションを選択し、Mobile Link のクライアントとサーバ間の通信にトランスポートレイヤセキュリティと HTTPS を使用するポートを指定します。

Mobile Link コマンドラインで指定したプロトコルを選択すると、ウィザードではホスト、ポートおよびその他のオプションフィールドに適したデフォルト値が入力されます。必要に応じてこれらの値を変更できます。特に TLS または HTTPS プロトコルを選択した場合、追加の通信設定を入力する必要があります。

ホスト

Mobile Link サーバコンピュータのホスト名または IP アドレスを入力します。

ポート

Mobile Link サーバが受信を行うソケットポート番号を入力します。デフォルトポートは、TCP/IP および TLS の場合 2439、HTTP の場合 80、HTTPS の場合 443 です。

その他のオプション

Mobile Link クライアントの追加のネットワークプロトコルオプションをセミコロンで区切り、(option=value;...) という形式で指定します。

現在のネットワークオプション

現在選択しているクライアントネットワークオプションが表示されます。

1.10.3.12 同期モデル展開ウィザード: Mobile Link ユーザとパスワードページ

このページを使用すると、Mobile Link サーバへの接続時に Mobile Link クライアントで使用される Mobile Link ユーザ名とパスワードを指定できます。ユーザ名とパスワードは、データベースアカウントと一致させる必要はありません。

このページには次の項目があります。

どのような Mobile Link のユーザとパスワードを使用しますか

次のオプションから選択してください。

これらの使用

Mobile Link クライアントが Mobile Link サーバに接続するときに使用する Mobile Link ユーザおよびパスワードを指定するには、このオプションを選択します。

Mobile Link ユーザ

Mobile Link クライアントを Mobile Link サーバに接続するのに使用する Mobile Link ユーザ名を指定します。

Mobile Link パスワード

指定したユーザ名のパスワードを入力します。

このユーザを統合データベースに登録します

このオプションを選択すると、指定した Mobile Link ユーザが Mobile Link サーバ用として統合データベースに登録されます。

リモートタスクに適したマクロ値の使用

同期モデルを展開してリモートタスク用の SQL ファイルを作成するには、このオプションを選択します。SQL がリモートデバイス上で実行されると、マクロは、Mobile Link エージェントによって使用される Mobile Link ユーザおよびパスワードと置き換えられます。

1.10.3.13 同期モデル展開ウィザード: 同期プロファイルページ

このページでは、クライアントが同期を行うときに使用するオプションを含む同期プロファイルを定義できます。

同期プロファイル名

同期プロファイルの名前を入力します。

同期クライアントの追加オプション

同期クライアントに対する追加オプションを指定します。プロジェクトに SQL Anywhere または Ultra Light リモートデータベースがあるかどうかによって、利用できるオプションは異なります。

現在のオプション

現在選択している同期オプションが表示されます。

1.10.3.14 同期モデル展開ウィザード: データベースの同期を準備する方法を選択しますページ

このページでは、ウィザードで生成された SQL スクリプトがどのようにデータベースに適用されるかについての情報を入力できます。

統合データベースの同期を準備するために作成された SQL スクリプトの処理方法を指定してください

次のオプションのうちの 1 つを選択してください。

実行しません

SQL スクリプトを実行して同期モデルを展開したくない場合は、このオプションを選択します。後で使用するために SQL スクリプトを保存します。

統合データベースに対して実行します

このオプションを選択して、同期モデルを統合データベースに展開します。

Mobile Link ユーザとパスワードページでリモートタスクに適したマクロ値の使用を選択した場合、利用できるオプションは**実行しません**だけです。

リモートデータベースの同期を準備するために作成された SQL スクリプトの処理方法を指定してください

次のオプションのうちの 1 つを選択してください。

実行しません

SQL スクリプトを実行して同期モデルをリモートデータベースに展開したくない場合は、このオプションを選択します。後で使用するために SQL スクリプトを保存します。

新しいリモートデータベースに対して実行します

同期モデルのリモートスキーマを使用して新しいデータベースを作成するには、このオプションを選択します。

既存のリモートデータベースに対して実行します

このオプションを選択して、同期モデルを既存のリモートデータベースに展開します。このオプションを選択すると、リモートデータベースへの接続に必要なオプションを指定するための追加のオプションが表示されます。

1.10.3.15 同期モデル展開ウィザード: 選択内容の確認ページ

このページでは、同期モデルの展開に選択したオプションを確認できます。また、統合データベースとリモートデータベース両方の生成された SQL スクリプトも確認できます。

まとめ

概要ウィンドウ枠には、**同期モデル展開ウィザード**で選択した内容がすべて表示されます。

リモート SQL スクリプト

リモートデータベース用に生成された SQL スクリプトの名前とロケーションが表示されます。データベースの同期を準備する方法を選択しますページで**新しいリモートデータベースに対して実行します**または**既存のリモートデータベースに対して実行します**を選択した場合、これはウィザード完了時に実行されるスクリプトです。SQL スクリプトを確認するには、**表示**をクリックします。

統合 SQL スクリプト

統合データベース用に生成された SQL スクリプトの名前とロケーションが表示されます。データベースの同期を準備する方法を選択します。ページで統合データベースに対して実行しますを選択した場合、これはウィザード完了時に実行されるスクリプトです。SQL スクリプトを確認するには、表示をクリックします。

1.10.3.16 スキーマ更新ウィザード: ようこそページ

このページでは、同期モデルのスキーマとデータベースのスキーマを比較することで、同期モデル内の統合データベースとリモートデータベースのスキーマを更新できます。

更新するスキーマを指定してください。

スキーマを更新するデータベースを選択します。

統合データベーススキーマ

モデル内の統合データベースのスキーマを、統合データベースのスキーマで更新する場合は、このオプションを選択します。

リモートデータベーススキーマ

モデル内のリモートデータベースのスキーマを、既存のリモートデータベースのスキーマで更新する場合は、このオプションを選択します。

統合データベーススキーマとリモートデータベーススキーマ

モデル内の統合データベースとリモートデータベースの両方のスキーマを、統合データベースと既存のリモートデータベースのスキーマで更新する場合は、このオプションを選択します。

1.10.3.17 スキーマ更新ウィザード: 統合データベーススキーマページ

Mobile Link アプリケーションの統合データベースにするデータベースに接続し、ウィザードでこのデータベースのスキーマ情報を取得できるようにします。

同期モデルの統合データベーススキーマを更新するのに使用するデータベースを指定してください。

同期モデルの統合データベースのスキーマ情報を取得する統合データベースをクリックして選択します。

接続ウィンドウが表示されます。統合データベースの接続情報を指定します。

i 注記

指定されたデータベースが Mobile Link 統合データベースとして設定されていない場合は、Mobile Link システム設定のインストールを求めるプロンプトが表示されます。

- Mobile Link システム設定スクリプトを統合データベースにすぐにインストールするには、はいをクリックします。たとえば、指定された統合データベースに同期モデルを展開する場合は、はいをクリックします。
- いいえをクリックすると、Mobile Link 設定スクリプトは指定された統合データベースにインストールされません。たとえば、次の場合にいいえをクリックします。
 - スキーマを取得するためだけに指定した統合データベースを使用し、モデルを展開する予定がない場合。
 - 同期モデルを指定した統合データベースに展開するが、それには同期モデル展開ウィザードを使用する予定の場合。

- 展開後に設定スクリプトを自分で実行する場合。

Mobile Link システム設定のインストール以外の場合では、モデルを展開しないかぎり、統合データベースにその他の変更は加えられません。

1.10.3.18 スキーマ更新ウィザード: リモートデータベーススキーマページ

このページでは、リモートデータベースのスキーマを取得するロケーションを選択できます。

同期モデルでリモートスキーマを更新する方法を指定してください。

次のいずれかを選択して、リモートスキーマを更新する方法を指定します。

統合データベーススキーマから

リモートデータベーススキーマの更新に使用する統合データベースからテーブルを選択するには、このオプションを選択します。

既存のリモートデータベースから

SQL Anywhere または Ultra Light の既存のリモートデータベースに接続してリモートスキーマを更新する場合はこのオプションを選択します。

リモートデータベースの選択

このボタンをクリックして、同期モデルのスキーマ情報を取得するリモートデータベースを選択します。接続ウィンドウが表示されます。リモートデータベースの接続情報を指定します。

次の各フィールドは、最初はすべて空白ですが、リモートデータベースを指定すると、そのリモートデータベースに関する情報が表示されます。

名前

リモートデータベースの名前が表示されます。

ユーザ

リモートデータベースに接続しているユーザのユーザ ID が表示されます。

製品名

リモートデータベースの製品名が表示されます。たとえば、SQL Anywhere などです。

バージョン

使用している製品のバージョンが表示されます。

1.10.3.19 スキーマ更新ウィザード: 新しいリモートデータベーススキーマページ

このページでは、リモートデータベースのスキーマの更新に使用する統合データベースのテーブルを選択できます。このウィザードの完了後に、マッピングタブを使用して、対応する統合テーブルとリモートテーブル間の同期を設定します。

リモートデータベースに含める統合データベースのテーブルとカラムを指定してください。

現在接続している統合データベース内のすべてのテーブルが、テーブル所有者ごとにグループ分けして表示されます。テーブルマッピングから削除するテーブルのチェックボックスはオフにします。

テーブルのカラム情報を確認するためにテーブルを拡張します。カラムマッピングから除外するカラムのチェックボックスはオフにします。

同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルを非表示にする

デフォルトでは、同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルはコピーしてはいけませんので、非表示になります。同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルを表示する場合は、このオプションをオフにします。

1.10.3.20 スキーマ更新ウィザード: スキーマ更新ウィザードの完了ページ

このページには、検出されたスキーマの変更概要が表示されます。

スキーマ更新ウィザードは、同期モデル内に現在存在するスキーマと、指定されたデータベースを比較し、そのデータベースのスキーマに一致するように同期モデルを変更します。

ウィザードを完了し、同期モデルのスキーマを更新するには、**検出したスキーマの変更**の下にある情報を確認し（スキーマに変更があった場合）、**完了**をクリックします。

新しいリモートテーブルウィンドウではリモートテーブルをモデルに追加しますが、スキーマ更新ウィザードはこれと異なり、テーブルをマッピングしません。マッピングタブを使用して、テーブルマッピングを作成する必要があります。

1.10.4 新しいテーブルマッピングの作成ウィンドウ

新しいテーブルマッピングの作成ウィンドウでは、統合スキーマで同期されていないテーブルから選択することで、リモートスキーマに新しいテーブルマッピングを作成できます。

同期する追加の統合データベーステーブルを選択

統合データベース内のすべてのテーブルを所有者別にグループ化したツリービューがウィンドウに表示されます。これらのテーブルを1つ以上選択して、リモートスキーマに追加します。新しいリモートテーブルには、対応する統合テーブルと同じ名前と、同じカラムのセットができます。また、リモートテーブルと統合テーブル間のマッピングが自動的に作成されます。

選択したテーブルが存在しない場合はリモートスキーマに追加

このオプションを選択すると、選択したテーブルのコピーがリモートデータベースに作成されます。

新しいリモートテーブルのカラムを選択する

このオプションを選択すると、リモートテーブルのカラムを選択できます。このオプションが選択されると、ウィンドウ内でテーブルのビューを展開し、カラムを表示できます。テーブルを選択すると、デフォルトでテーブル内のすべてのカラムが選択されます。リモートテーブルに含めないカラムのチェックボックスをオフにします。

同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルを非表示にする

デフォルトでは、同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルは非表示になります。同期モデルのシャドウテーブルのような名前のテーブルを表示する場合は、このオプションをオフにします。

1.10.5 マッピングタブ

マッピングタブには、**テーブルマッピング**および**詳細**という2つのウィンドウ枠があります。**テーブルマッピング**ウィンドウ枠で**テーブルマッピング**のローを選択すると、**詳細**ウィンドウ枠にその情報が表示されます。

このセクションの内容:

マッピング: テーブルマッピング [221 ページ]

テーブルマッピングウィンドウ枠には、統合データベースのテーブルとリモートデータベースのテーブル間の各テーブルマッピングごとに1つのローがあります。**テーブルマッピング**は、変更、追加、または削除できます。

マッピング: 詳細 [222 ページ]

テーブルマッピングウィンドウ枠で**テーブルマッピング**のローを選択すると、**詳細**ウィンドウ枠にテーブルに関する情報が表示されます。**詳細**ウィンドウ枠には、次のタブがあります。

1.10.5.1 マッピング: テーブルマッピング

テーブルマッピングウィンドウ枠には、統合データベースのテーブルとリモートデータベースのテーブル間の各テーブルマッピングごとに1つのローがあります。**テーブルマッピング**は、変更、追加、または削除できます。

このテーブルを編集して、表示される値をテーブルごとに変更できます。

テーブルマッピングウィンドウ枠には、次のカラムがあります。

序数

このカラムにタイトルはありません。テーブル内のローに番号を付けます。カラムの見出しをクリックしてテーブルのソート順序を変更してもグリッド番号は変わりません。リモートテーブルが追加、削除するようマーク付け、または修正された場合は、このカラムにアイコンが表示されます。

ステータス

このカラムは、**テーブルマッピング**にエラーメッセージ、警告メッセージ、または情報メッセージがあるかどうかを示します。このカラムにアイコンが表示されている場合は、**テーブルマッピング**を選択し、**詳細**ウィンドウ枠の**ステータスタブ**を開くと、メッセージの内容を確認できます。

統合テーブル

統合データベースで同期するテーブルを示します。カッコ内にテーブルの所有者名が表示されます。同期される統合テーブルのみが表示されます。統合テーブルを同期する必要がなくなった場合に、**テーブルマッピング**を削除するには、**テーブルマッピング**ウィンドウ枠でローを右クリックし、**削除**を選択するか、**マッピング方向**を**同期しない**に変更してモデルを保存します。

詳細ウィンドウ枠の**カラムマッピング**タブには、選択した**テーブルマッピング**での統合カラムとリモートカラムのマッピングが表示されます。

マッピング方向

同期の方向を示します。方向は、**同期しない**、**双方向**、**リモートにのみダウンロード**、**統合にのみアップロード**のいずれかです。**同期しない**とマーク付けされている**テーブルマッピング**は、同期モデルが次回保存されるときに削除されます。

リモートテーブル

対応する統合テーブルと同期されるリモートテーブルを示します。カラムをクリックし、省略記号 (ピリオド3つ) ボタンをクリックして、リモートテーブルのリストから別のテーブルを選択すると、リモートテーブルを変更できます。

リモートテーブルが1つも選択されていない場合、テーブルマッピングは無効です。

1.10.5.2 マッピング: 詳細

テーブルマッピングウィンドウ枠でテーブルマッピングのローを選択すると、**詳細**ウィンドウ枠にテーブルに関する情報が表示されます。**詳細**ウィンドウ枠には、次のタブがあります。

このセクションの内容:

カラムマッピングタブ [222 ページ]

カラムマッピングタブでは、統合テーブルのカラムとリモートテーブルのカラムの間のマッピングを表示および変更できます。

ダウンロード方式タブ [223 ページ]

ダウンロード方式タブでは、リモートデータベースにダウンロードされたローを選択する方法を決定できます。このタブには、選択したテーブルについて次の情報が表示されます。

削除のダウンロードタブ [224 ページ]

削除のダウンロードタブは、**ダウンロード方式**で選択したダウンロードタイプが**カスタム**ではない場合に適用されません。

サブセットのダウンロードタブ [225 ページ]

サブセットのダウンロードタブでは、すべてのリモートデータベースについて同じローをダウンロードに含めるのか、または個々のリモートデータベースがローの別々のサブセットを受信するのかを指定できます。このタブは、**ダウンロード方式**タブでダウンロードタイプとして**カスタム**を選択した場合は適用されません。

ダウンロード削除サブセットタブ [227 ページ]

ダウンロード削除サブセットタブでは、各リモートデータベースに送信される統合データベースで発生する削除のサブセットを定義できます。

競合の処理タブ [228 ページ]

競合の処理タブでは、統合データベースとリモートデータベースの両方でローが変更されたときの動作を定義できます。

ステータスタブ [229 ページ]

ステータスタブには、テーブルマッピングウィンドウ枠で選択されているテーブルマッピングの情報メッセージ、警告メッセージ、またはエラーメッセージが表示されます。

1.10.5.2.1 カラムマッピングタブ

カラムマッピングタブでは、統合テーブルのカラムとリモートテーブルのカラムの間のマッピングを表示および変更できます。

カラムマッピングに削除対象のマークを付けるには、**カラムマッピング**タブでローを選択し、カラムを右クリックして、**なし**を選択します。このカラムマッピングは、モデルを保存するときに削除されます。

カラムマッピングタブには、統合テーブルの各カラムについて次の情報が表示されます。

統合カラム名

統合データベースで同期するカラムを示します。

統合カラム番号

このカラムは、統合データベースで実行された `SELECT * FROM tablename` 文で返されるカラムの順序を示します。

統合カラムデータ型

統合カラムのデータ型です。

マッピング方向

カラムのマッピング方向です。

リモートカラムにマッピングされた統合カラムの場合、マッピング方向は、テーブルのマッピング方向と同じか、同期しないのいずれかです。たとえば、テーブルに双方向のテーブルマッピングが設定されている場合、テーブルのカラムは双方向か同期しないのいずれかになります。式にマッピングされた統合カラムの場合、マッピング方向は常にアップロードのみです。

カラムマッピングの方向が同期しないである場合、カラムはリモートデータベーススキーマの一部です。モデルが展開されると、カラムはリモートデータベースに作成されますが、情報は同期されません。

リモートカラム名

統合カラムのマッピング先であるリモートカラムまたは式が表示されます。統合カラムが同期されていない場合、カラムは空です。

カラムを右クリックし、*Mobile Link ユーザ名*、*リモート ID* または *カスタム* を選択すると、カラムを式にマッピングできます。*カスタム* を選択するとウィンドウが開き、*Mobile Link 名前付きパラメータ* を含んだ SQL 式を入力できます。マッピング方向がダウンロードのみのテーブルのカラムは、式にマッピングできません。

式を含むカラムマッピングは、常にアップロードのみです。これらのマッピングに含まれるカラムはリモートデータベース内に存在しますが、同期はされません。統合プライマリキーカラムを式にマッピングした場合、適切なサブセットのダウンロードおよび削除サブセットのダウンロードを適用し、ダウンロードでのプライマリキーの一意性を確認する必要があります。

i 注記

同期モデルの作成前にリモートデータベースが存在していた場合、*リモートカラム名* カラムの情報は最も妥当な情報を表しており、それを確認する必要があります。

リモートカラム番号

このカラムは、リモートデータベースで実行された `SELECT * FROM tablename` 文で返されるカラムの順序を示します。

リモートカラムデータ型

リモートカラムのデータ型です。

1.10.5.2.2 ダウンロード方式タブ

ダウンロード方式タブでは、リモートデータベースにダウンロードされたローを選択する方法を決定できます。このタブには、選択したテーブルについて次の情報が表示されます。

方式

ドロップダウンリストから、次のダウンロード方式のいずれかを選択します。

タイムスタンプ

最後のダウンロードの後に変更された場合にのみデータをダウンロードします。タイムスタンプベースのダウンロードを使用するときは、ローの変更を追跡するために、統合テーブルにタイムスタンプカラムが必要です。使用にあたっては、カラムを統合データベーステーブルに追加するか、シャドウテーブルを作成します。

シャドウテーブルはベーステーブルと同じ所有者で作成されます。シャドウテーブルは、最後にローが変更されたときを示すタイムスタンプとともに、同期されるテーブルのプライマリキーカラムを含む別個のテーブルです。

タイムスタンプを選択すると、モデルの展開時に、必要なオブジェクトが自動的に生成されます。

スナップショット

統合データベース内のデータがすでにダウンロードされている場合も、同期のたびにすべてダウンロードします。

カスタム

独自のダウンロードロジックを記述し、ダウンロードするローを選択します。このオプションを選択した場合、download_cursor および download_delete_cursor スクリプトを記述する必要があります。スクリプトは**イベントタブ**で作成できます。

次のオプションは、ダウンロード方式として**タイムスタンプ**を選択した場合にのみ利用可能です。

タイムスタンプカラム名

各ローが最後に変更されたときを追跡するために使用するカラムの名前を指定します。

consolidated table name 内のストアタイムスタンプカラム

このオプションを選択すると、タイムスタンプカラムがない統合テーブルにタイムスタンプカラムが追加されます。

デフォルトカラム値

このオプションを選択すると、デフォルトカラム値が使用されます。

カラムデフォルトを使用できる場合は、トリガを使用するときよりもパフォーマンスが向上します。

トリガ

このオプションを選択すると、タイムスタンプカラムの値を更新するために、トリガの代わりにカラムデフォルトが使用されます。

トリガを使用すると、タイムスタンプカラムを誤って更新してしまう可能性は少なくなります。

シャドウテーブル内のストアタイムスタンプカラム

このオプションを選択すると、統合データベースの同期テーブル用にシャドウテーブルが作成されます。シャドウテーブルには、各ローが最後に変更されたときを継続して追跡するために使用するタイムスタンプカラムが含まれます。シャドウテーブルはベーステーブルと同じ所有者で作成されます。

1.10.5.2.3 削除のダウンロードタブ

削除のダウンロードタブは、**ダウンロード方式**で選択したダウンロードタイプが**カスタム**ではない場合に適用されます。

このタブでは、統合データベースでの削除をリモートにダウンロードするかどうか、およびこのような削除に関する情報を統合データベースにどのように保存するかを制御できます。**削除のダウンロードタブ**には、選択したテーブルについて次の情報が表示されます。

統合データベースからローを削除したときに、リモートデータベースからもローを削除する

このチェックボックスをオンにすると、統合データベースで削除されるデータは、リモートデータベースでも削除されます。

スナップショットダウンロードを使用し、このオプションを選択した場合、リモートデータベースの既存のローすべてが、ダウンロードされたローの追加前に削除されます。

タイムスタンプベースの同期を使用し、このオプションを選択した場合、統合データベースでの削除を記録する必要があります。この記録を行うには、シャドウテーブルの使用 (デフォルト)、または論理削除の使用の 2 通りの方法があります。

ダウンロードタイプが**カスタム**の場合は、このオプションを選択できません。この場合は、独自の `download_delete_cursor` スクリプトを作成する必要があります。スクリプトは**イベント**タブで作成できます。

削除されたローをシャドウテーブルにコピーする

統合データベースでの削除の追跡にシャドウテーブルを使用するには、このオプションを選択します。

シャドウテーブルは、ローが削除されたときを示すタイムスタンプとともに、同期されるテーブルのプライマリキーカラムを含む別個のテーブルです。ローが統合テーブルから削除されると、対応するローがシャドウテーブルに追加され、リモートデータベースにダウンロードできるように削除を記録します。シャドウテーブルは統合テーブルと同じ所有者で作成されます。

タイムスタンプカラム名

タイムスタンプカラムの名前を指定します。デフォルトの**タイムスタンプカラム名**は `last_modified` です。

削除された行を `table name` に残し、特殊なカラムを使用してそれらのローが削除されたものとする

統合データベースで論理削除を使用して統合データベースでの削除を追跡するには、このオプションを選択します。**論理削除**では、ローが有効であるかどうかを追跡するステータスカラムを使用します。次のオプションでは、ステータスカラムが削除を追跡する方法を指定します。

カラム名

ローが削除されたかどうかを示すカラムの名前を指定します。このカラムがない場合は追加されます。デフォルト名は `deleted` です。

削除されたローのカラム値

ローが削除されたときに生成される値を指定します。デフォルトは `Y` です。

他のローのカラム値

ローが削除されていないときに生成される値を指定します。デフォルトは `N` です。

1.10.5.2.4 サブセットのダウンロードタブ

サブセットのダウンロードタブでは、すべてのリモートデータベースについて同じローをダウンロードに含めるのか、または個々のリモートデータベースがローの別々のサブセットを受信するのかを指定できます。このタブは、**ダウンロード方式**タブでダウンロードタイプとして**カスタム**を選択した場合は適用されません。

サブセット方式

サブセットデータについて、ドロップダウンリストから次のいずれかのオプションを選択します。

なし

各リモートデータベースに同じデータをダウンロードします。

ユーザ

ダウンロードのローは、同期を行っている同期ユーザ (Mobile Link ユーザとも呼ばれる) に基づいて決定されます。

リモート

ダウンロードのローは、リモートデータベース同期のリモート ID に基づいて決定されます。リモート ID は、リモートコンピュータがリセットされるか、置き換えられたときに変更される場合があるため、通常、リモート ID 別ではなく、ユーザ別、または認証パラメータ別に分割することをお奨めします。

カスタム

ダウンロードのローは、記述した SQL WHERE 句によって決定されます。このオプションは、ダウンロードカーソルの WHERE 句に複数のジョインや特定のビジネスロジックが必要な場合に便利です。

ユーザごとのサブセットに対して、選択したテーブルマッピングに対する次の情報がサブセットのダウンロードタブで表示されます。

テーブル `table name`

ローを受信する必要がある Mobile Link ユーザ名を保持しているカラムがテーブルに含まれている場合に、このオプションを選択します。カラムの値が、同期中の Mobile Link ユーザの名前と一致する場合に、ローがダウンロードに含まれます。

カラム名

Mobile Link ユーザ名を格納するカラムの名前を指定します。

テーブル `table name` とジョインできる別のテーブル

テーブルを別のテーブルにジョインでき、その別のテーブルに、ローを受信する必要がある Mobile Link ユーザを識別する ID などのカラムが含まれている場合に、このオプションを選択します。ID が同期しているクライアントのリモート ID の名前に一致する、T1 のローが T2 にジョインしている場合、ローはダウンロードに含まれます。

次を指定できます。

他のテーブル

ジョインするテーブルを選択します。

Mobile Link ユーザを含むカラム

リモート ID を含むジョインされたテーブル (ジョインするテーブルフィールドで指定) からカラムを選択します。

ジョイン条件

ジョイン条件を作成するには、テーブルマッピングウィンドウ枠で選択したテーブルからカラムを選択し、上のジョインするテーブルフィールドで指定したテーブルからカラムを選択します。

リモート ID ごとのサブセットに対して、選択したテーブルマッピングに対する次の情報がサブセットのダウンロードタブで表示されます。

テーブル `table name`

ローを受信する必要がある Mobile Link ユーザ名を保持しているカラムがテーブルに含まれている場合に、このオプションを選択します。カラムの値が、同期中の Mobile Link ユーザの名前と一致する場合に、ローがダウンロードに含まれます。

カラム名

Mobile Link ユーザ名を格納するカラムの名前を指定します。

テーブル `table name` とジョインできる別のテーブル

テーブルを別のテーブルにジョインでき、その別のテーブルに、ローを受信する必要がある Mobile Link ユーザを識別する ID などのカラムが含まれている場合に、このオプションを選択します。同期している ML ユーザの名前に ID が一致する、T1 のローが T2 にジョインしている場合、ローはダウンロードに含まれます。

次を指定できます。

他のテーブル

ジョインするテーブルを選択します。

リモート ID を含むカラム

Mobile Link リモート ID を含むジョインされたテーブル (ジョインするテーブルフィールドで指定) からカラムを選択します。

ジョイン条件

ジョイン条件を作成するには、**テーブルマッピング**ウィンドウ枠で選択したテーブルからカラムを選択し、上の**ジョインするテーブル**フィールドで指定したテーブルからカラムを選択します。

カスタム

カスタムダウンロードサブセットに対して、次の情報が**サブセットのダウンロード**タブに表示されます。

ダウンロードカーソルの WHERE 句で使用する SQL 式

SQL 式を入力します。Mobile Link 名前付きパラメータを式で使用することもできます。たとえば、`col1 = {mls.username}` のように記述します。

デフォルトでは、これと同じ式と、ジョインされたテーブルがダウンロード削除サブセット用に使用されます。削除用にシャドウテーブルを使用しており、同じ式を使用する場合、式にベーステーブル名は使用しないようにします。それができない場合は、カスタムダウンロード削除サブセットを使用します。

追加のテーブル

download_cursor で別のテーブルへのジョインが必要な場合に、テーブル名を入力します。ジョインで複数のテーブルが必要な場合は、カンマで区切ります。

1.10.5.2.5 ダウンロード削除サブセットタブ

ダウンロード削除サブセットタブでは、各リモートデータベースに送信される統合データベースで発生する削除のサブセットを定義できます。

ダウンロード削除サブセットタブは、**ダウンロード方式**タブの**ダウンロードタイプ**が**タイムスタンプ**に設定され、**統合データベース**からローを削除したときに、リモートデータベースからもローを削除するが**削除のダウンロード**タブでオンになっていて、**サブセットのダウンロード**が**サブセットのダウンロード**タブでなしに設定されていない場合に適用されます。

ダウンロード削除サブセットタブには、選択したテーブルマッピングについて次の情報が表示されます。

ダウンロード削除サブセットの方式

ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。

すべて

すべての削除をすべてのリモートデータベースにダウンロードします。

ダウンロード

サブセットのダウンロードタブで定義されたダウンロード削除サブセットを決定するために、同じ論理を使用します。

カスタム

各リモートが受信する削除のサブセットを決定する SQL WHERE 句を記述します。

カスタムを選択すると、次の追加フィールドが利用可能になります。

SQL 式

生成されたダウンロード削除カーソルの WHERE 句に追加する SQL 式を入力します。Mobile Link 名前付きパラメータを式で使用することもできます。

完全な download_delete_cursor を記述しないでください。ダウンロード削除サブセットのジョインやその他の制限を指定するための追加情報を指定する必要があるだけです。ダウンロード削除サブセットが同じに設定されている場合、これはダウンロードサブセット SQL 式を表示し、編集可能ではありません。

追加のテーブル

download_delete_cursor で別のテーブルへのジョインが必要な場合に、テーブル名を入力します。ジョインで複数のテーブルが必要な場合は、カンマで区切ります。ダウンロード削除サブセットが同じに設定されている場合、これはダウンロードサブセットテーブルを表示し、編集可能ではありません。

シャドウテーブルのカラムを削除

これは、削除の追跡にシャドウテーブルを使用している場合に表示されます。ローが削除されたときに削除シャドウテーブルに配置する必要がある SQL 式でさらにカラムが必要な場合は選択します。

1.10.5.2.6 競合の処理タブ

競合の処理タブでは、統合データベースとリモートデータベースの両方でローが変更されたときの動作を定義できます。

競合を検出する方式を選択します。

このオプションは、競合が検出される条件を決定します。競合の解決メカニズムは、競合が検出されたときにだけアクティブ化されます。

ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。

ローベース

最後の同期後に、リモートデータベースと統合データベースの両方でローが更新されていた場合に競合が検出されます。

カラムベース

リモートデータベースと統合データベースの両方で、ローの同じカラムが更新されていた場合にのみ競合が検出されます。それ以外の場合は、アップロードされたカラムの更新だけが適用されます。テーブルに BLOB のカラムがある場合は、ローベースの競合の検出を使用する必要があります。

検出された競合を解決する方式を選択します。

ドロップダウンリストから、次の競合解決オプションのいずれかを選択します。

先入れ勝ち

アップロードされた更新が競合する場合は拒否されます。

後入れ勝ち

アップロードされた更新が常に適用されます。

タイムスタンプ

維持しているタイムスタンプカラムを使用して、新しい変更の勝ちです。タイムスタンプカラムに、ローが最後に変更された時刻が記録されます。このカラムは、リモートテーブルと統合テーブルの両方に存在し、また同期に含まれる必要があります。これを機能させるには、リモートデータベースと統合データベースで同じタイムゾーン (UTC を推奨) を使用し、かつクロックが同期されている必要があります。

タイムスタンプカラム

タイムスタンプカラムを入力します。

カスタム

resolve_conflict スクリプトを自動的に生成しないで独自に作成します。スクリプトは**イベント**タブで作成できます。

1.10.5.2.7 ステータスタブ

ステータスタブには、**テーブルマッピング**ウィンドウ枠で選択されているテーブルマッピングの情報メッセージ、警告メッセージ、またはエラーメッセージが表示されます。

1.10.6 イベントタブ

イベントタブでは、**同期モデル作成ウィザード**で生成されたスクリプトを表示または変更できます。また、新しいスクリプトを作成することもできます。

イベントタブには、同期モデルのすべてのイベントスクリプトが表示されます。イベントのリストを操作するには、次のオプションを使用します。

グループ

表示されたイベントに関連付けられているグループの名前が表示されます。ドロップダウンリストからグループを選択すると、エディタがそのグループのイベントまでスクロールします。ドロップダウンリストには、すべての接続イベントに対するイベントグループ 1 つと、リモートテーブルのイベントごとにイベントグループ 1 つずつが含まれています。

イベント

イベントの名前が表示されます。ドロップダウンリストからイベント名を選択すると、エディタが指定されたイベントまでスクロールします。太字は、そのイベントに関連付けられたスクリプトがあることを示します。太字ではないイベントを選択すると、新しいスクリプトがエディタに追加されます。

タイプ

スクリプトが生成されたか、上書きされたか、ユーザ定義であるかが表示されます。

生成済みスクリプト

生成済みスクリプトは、**同期モデル作成ウィザード**での選択内容に従って、自動的に生成され維持されます。

生成済みスクリプトの内容は編集することも削除することもできます。生成済みスクリプトに変更を加えると、そのタイプが**上書き済み**に変わります。

上書き済みスクリプト

上書き済みスクリプトとは、手動で変更されたスクリプトです。

生成済みスクリプトを変更すると、スクリプトは完全にそのユーザの制御下に置かれるため、**モデル**モードで変更が加えられても、自動的に変更されません。たとえば、テーブルの download_delete_cursor スクリプトを変更した後**にモデル**モードで**削除のダウンロード**をクリアしても、カスタマイズした download_delete_cursor スクリプトに影響はありません。ただし、タイプは**ユーザ定義**に変わります。

上書き済みスクリプトを生成済みスクリプトの状態にリストアするには、カーソルをスクリプト内に移動し、**ファイル** > **Scriptname スクリプトのリストア** を選択します。複数の上書き済みスクリプトを一度にリストアするには、エディタでスクリプトを選択し、**ファイル** > **選択したスクリプトのリストア** を選択します。

無視されたスクリプト

無視されたスクリプトは、手動で無視するように設定されたスクリプトです。

スクリプトを無視するよう設定するには、カーソルをスクリプト内に移動し、**ファイル** > **Scriptname スクリプトを無視** を選択します。複数のスクリプトを一度に無視するよう設定するには、エディタでスクリプトを選択し、**ファイル** > **選択したスクリプトを無視** を選択します。

無視されたスクリプトを生成済みスクリプトの状態にリストアするには、カーソルをスクリプト内に移動し、**ファイル** > **Scriptname スクリプトのリストア** を選択します。複数の無視されたスクリプトを一度にリストアするには、エディタでスクリプトを選択し、**ファイル** > **選択したスクリプトのリストア** を選択します。

ユーザ定義スクリプト

ユーザ定義スクリプトは、生成済みスクリプトのないイベント用に作成するスクリプトです。

ユーザ定義スクリプトは、モデルモードで変更が加えられても、自動的に変更されません。たとえば、テーブルの download_delete_cursor スクリプトを作成した後にモデルモードで**削除のダウンロード**を選択しても、カスタマイズした download_delete_cursor スクリプトに影響はありません。ただし、タイプは**上書き済み**に変わります。

ユーザ定義スクリプトを削除するには、カーソルをスクリプト内に移動し、**ファイル** > **Scriptname スクリプトの削除** を選択します。ユーザ定義のスクリプトをリストアするには、イベント名を選択し、**ファイル** > **選択したスクリプトのリストア** を選択します。

言語

イベントスクリプトの記述言語が表示されます。サポートされる言語は、**SQL**、**JAVA**、**.NET** です。生成済みスクリプトはすべて SQL スクリプトです。

1.10.7 通知タブ

通知タブには、同期モデルについて次の情報が表示されます。

サーバ起動同期を有効にする

このオプションを選択すると、テーブルのダウンロードカーソルに基づいて統合データベースをポーリングして同期を起動します。

ダウンロードカーソル

テーブルを選択します。

ポーリング間隔

サーバをポーリングする頻度を指定します。

次の間隔でポーリング

事前に定義されたポーリング間隔を選択します。デフォルトは 30 秒です。

次のポーリング間隔を使用

ポーリング間隔を指定します。

独立性レベル

次のいずれかの独立性レベルを選択します (デフォルトはコミットされた読み出し)。

- コミットされない読み出し (レベル 0)
- コミットされた読み出し (レベル 1)
- 繰り返し可能読み出し (レベル 2)
- 直列化可能 (レベル 3)

このセクションの内容:

[ウィンドウ設定のテストウィンドウ \[231 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

1.10.7.1 ウィンドウ設定のテストウィンドウ

このウィンドウには次の項目があります。

Mobile Link ユーザ

Mobile Link サーバに接続するときに Mobile Link クライアントで使用する Mobile Link ユーザ名を入力します。

Mobile Link パスワード

指定した Mobile Link ユーザ名のパスワードを入力します。

認証パラメータ

カンマで区切られたリストを使用して、認証パラメータを入力します。例: p1,p2,p3 これらの値は Mobile Link クライアントから Mobile Link サーバに送信され、サーバ側の同期スクリプトからアクセスすることができます。

Mobile Link サーバのコマンドライン

Mobile Link サーバをテスト用に起動するときに使用する Mobile Link サーバのコマンドラインを選択します。Mobile Link サーバのコマンドラインに指定されたオプションを確認するには、[表示](#)をクリックします。[Mobile Link サーバのコマンドラインのプロパティウィンドウ](#)が表示されます。

クライアントネットワークプロトコル

Mobile Link サーバに接続するときに Mobile Link クライアントで使用するネットワーク通信プロトコルを選択します。Mobile Link サーバのコマンドラインで定義されたプロトコルのみを選択できます。

クライアントネットワークオプション

Mobile Link サーバに接続するときに Mobile Link クライアントで使用するネットワークプロトコルオプションを選択します。オプションを直接編集するか、[編集](#)をクリックして[クライアントネットワークオプション](#)ページからオプションを編集します。

クライアントネットワークプロトコルを選択すると、Mobile Link サーバのコマンドラインに基づいて、このフィールドにデフォルトオプションが生成されます。常にデフォルトオプションを確認し、それらのオプションが同期に適していることを確認してください。

同期タイプ

ドロップダウンリストから、次の同期タイプのいずれかを選択します。

双方向

データベース操作は、リモートデータベースから統合データベースの方向へ、および統合データベースからリモートデータベースの方向へ同期されます。

ダウンロード専用

変更は統合データベースからリモートデータベースの方向へのみ同期されます。

アップロード専用

変更はリモートデータベースから統合データベースの方向へのみ同期されます。

この統合データベースでこの同期モデルをテストするときに、常にこれらの設定を使用する

この同期モデルをテストするときに常にこの設定を使用する場合は、このオプションを選択します。指定されたオプションは、設定が変更されるまで使用されます。

1.11 Ultra Light プラグインのプロパティウィンドウ

Ultra Light プラグインには、オブジェクトのプロパティを設定するためのウィンドウが各種用意されています。

Ultra Light プラグインで変更可能な設定のほとんどは、ウィンドウ上に表示されます。それらのウィンドウには、**ファイルメニュー**または**ツールメニュー**からアクセスできます。さまざまな SQL Central プラグインがあるため、それぞれのメニュー項目は異なる場合があります。

ファイルメニューには、SQL Central のメインウィンドウ内に表示されるオブジェクトに関するコマンドがあります。これらのメニュー項目は、選択するオブジェクトによって変わります。たとえば、テーブルを選択すると、**ファイルメニュー**にはテーブルに関するコマンドやオプションが表示されます。同様に、カラムを選択すると、**ファイルメニュー**が変わり、カラムに関するオプションが表示されます。これらのメニュー項目はすべて、オブジェクトを右クリックしてアクセスすることもできます。

ツールメニューには、接続、切断、プラグイン、SQL Central のオプションに関連するコマンドがあります。これらのメニュー項目は、メインウィンドウ内で選択するオブジェクトに関係なく、常に表示されます。

また、プロパティウィンドウを使って Ultra Light の設定を変更することもできます。プロパティウィンドウは、**ファイルメニュー**に表示されます。また、設定可能なプロパティがあるオブジェクトを右クリックしても表示されます。

このセクションの内容:

[アーティクルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[234 ページ\]](#)

アーティクルのプロパティウィンドウには、アーティクルに関する情報が表示されます。

[アーティクルのプロパティウィンドウ: WHERE 句タブ \[234 ページ\]](#)

Ultra Light アプリケーションでは、WHERE 句を指定することによってローのサブセットを使用できます。

[カラムのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[234 ページ\]](#)

カラムのプロパティウィンドウにはテーブルのカラムに関する情報が表示され、カラム名を変更することができます。

[カラムのプロパティウィンドウ: データ型タブ \[234 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[カラムのプロパティウィンドウ: 値タブ \[235 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[データベースオプションウィンドウ \[235 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[データベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[236 ページ\]](#)

一般タブには、データベースに関する情報とデータベースへの接続方式が表示されます。

[データベースのプロパティウィンドウ: 同期情報タブ \(Ultra Light\) \[236 ページ\]](#)

同期情報タブには、Ultra Light データベースの最新の同期情報を示す項目があります。

[外部キーのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[237 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[外部キーのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[238 ページ\]](#)

このタブには、外部テーブルとプライマリテーブルのカラムの一覧と、カラムのプロパティの概要が表示されます。

[インデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[238 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[インデックスのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[238 ページ\]](#)

このタブには、選択したカラムに関する詳細 (名前やタイプなど) が表示されます。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: 一般タブ \[238 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: ユーティリティタブ \[239 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[プラグインの環境設定ウィンドウ: テーブルデータタブ \[240 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[プライマリキーのプロパティウィンドウまたは一意性制約のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[240 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[プライマリキーのプロパティウィンドウ: カラムタブまたは一意性制約のプロパティウィンドウ: カラムタブ \[241 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[241 ページ\]](#)

このタブにはパブリケーションに関する情報が表示されます。

[パブリケーションのプロパティウィンドウ: アーティクルタブ \[241 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[242 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 接続タブ \[243 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[246 ページ\]](#)

このタブには複数の項目があります。

[テーブルのプロパティウィンドウ: カラムタブ \[247 ページ\]](#)

このタブには、選択したカラムに関する詳細 (名前やタイプなど) が表示されます。

[ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[247 ページ\]](#)

このタブには、名前、タイプ、パスワード、パスワードの確認などの項目があります。

1.11.1 アーティクルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

アーティクルのプロパティウィンドウには、アーティクルに関する情報が表示されます。

1.11.2 アーティクルのプロパティウィンドウ: WHERE 句タブ

Ultra Light アプリケーションでは、WHERE 句を指定することによってローのサブセットを使用できます。

このタブには次の項目があります。

このアーティクルには次の WHERE 句があります

テキストボックスで WHERE 句を編集して、アーティクルに含まれるテーブルローを制限できます。WHERE キーワードを含める必要はありません。

たとえば、次のように入力すると、給与が \$50000 を上回るローのみが含まれます。

```
Salary > 50000
```

1.11.3 カラムのプロパティウィンドウ: 一般タブ

カラムのプロパティウィンドウにはテーブルのカラムに関する情報が表示され、カラム名を変更することができます。

1.11.4 カラムのプロパティウィンドウ: データ型タブ

このタブには複数の項目があります。

組み込みタイプ

常に選択されているこのオプションによって、カラムの定義済みデータ型をドロップダウンリストから選択できます。定義済みデータ型の例には、整数、文字列、日付などがあります。これらのデータ型の中には、サイズが位取りまたはその両方を指定できるものもあります。

Ultra Light の組み込みのデータ型 VARCHAR は、SQL Anywhere の CHAR と VARCHAR の両方と同じです。

サイズ

文字列カラムの場合は長さ、または数値カラムの場合は 10 進法計算の結果における小数点の左右の合計桁数を指定します。数値カラムのサイズは precision 値とも呼ばれます。

位取り

計算結果が最大 precision 値にトランケートされる場合の、小数点以下の最小桁数を指定します。

1.11.5 カラムのプロパティウィンドウ: 値タブ

このタブには複数の項目があります。

デフォルト値なし

カラムにデフォルト値が必要ない場合は、このオプションを選択します。

デフォルト値

カラムにデフォルト値が必要である場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、**ユーザ定義オプション**と**システム定義オプション**が有効になります。

ユーザ定義

デフォルト値にユーザ定義の値 (文字列、数字、またはその他の式) を入力します。

リテラル文字列

カラムのデフォルト値をリテラル文字列として扱うかどうかを指定します。このオプションは、文字カラムと文字ベースタイプのドメインの場合はデフォルトで選択されています。このオプションを選択すると、デフォルトのテキストを一重引用符で囲んだり、文字列に埋め込んだ引用符や円記号をエスケープする必要はありません。

このオプションをクリアすると、引用符やエスケープの自動処理がオフになり、指定したデフォルト値のテキストがそのまま渡されます。

システム定義

デフォルト値に定義済みの値 (オートインクリメントなど) を選択できます。値はドロップダウンリストから選択します。カラムがドメインに基づいている場合、ドメインのデフォルト値 (存在する場合) を維持するか、またはカラムの値を優先させることができます。

分割サイズ

システム定義値としてグローバルオートインクリメントを選択した場合は、分割サイズも指定できます。

グローバルオートインクリメントでは、新しく作成されたローに、それまでのカラムの最大値に 1 を加えた値を割り当てます。分割サイズを指定すると、グローバルオートインクリメントで使用できる最大値が制限されます。分割サイズには任意の正の整数を入力できます。通常、増分が十分に行えるような値を選択してください。

1.11.6 データベースオプションウィンドウ

このタブには複数の項目があります。

データベース

選択されているデータベースの名前が表示されます。

オプションリスト

データベースのオプション設定を示します。オプションの選択が済んだら、ウィンドウの横にあるボタンが使用可能になります。

すぐに設定

データベースのオプション設定を変更するには、**オプションリスト**からオプションを選択して、設定を**値**フィールドに入力し、**すぐに設定**をクリックします。

すぐにリセット

変更した値をリセットするには、**オプション**リストからオプションを選択し、**すぐにリセット**をクリックします。値はデフォルト値にリセットされます。

再表示

クリックすると、リストが再表示されます。

値

オプションリストからオプションを選択して、設定を**値**フィールドに入力します。

1.11.7 データベースのプロパティウィンドウ: 一般タブ

一般タブには、データベースに関する情報とデータベースへの接続方式が表示されます。

i 注記

このタブに表示されるデータベースのプロパティは、データベースを再作成しないかぎり変更できません。

1.11.8 データベースのプロパティウィンドウ: 同期情報タブ (Ultra Light)

同期情報タブには、Ultra Light データベースの最新の同期情報を示す項目があります。

次のような情報が示されます。

プロパティ	説明
最後のエラーコード	最後の同期で返された最新のエラーコードが表示されます。値が 0 の場合、エラーはありません。
最後の同期	最後の同期の時刻と日付が表示されます。
無視されたロー	このフィールドは同期によって設定され、同期中にスクリプトがないために Mobile Link サーバによってローが無視されたことを示します。
認証	このフィールドは同期によって設定され、Mobile Link のユーザ認証のステータスをレポートします。
認証値	Mobile Link でカスタム認証スクリプトから返された値が表示されます。
部分ダウンロードの保持	このフィールドは同期によって設定され、同期時の通信エラーが原因でダウンロードが失敗したときに、変更をロールバックしないで、ダウンロードされたこの変更が適用されたかどうかを示します。
送信されたバイト数	これまでにアップロードされたバイト数。
送信された挿入	これまでにアップロードされた挿入済みローの数。
送信された更新	最後の同期で Mobile Link に送信された、更新されたローの数。
送信された削除	これまでにアップロードされた削除済みローの数。

プロパティ	説明
受信されたバイト数	これまでにダウンロードされたバイト数。
受信された挿入	これまでにダウンロードされた挿入済みローの数。
受信された更新	これまでにダウンロードされた更新済みローの数。
受信された削除	これまでにダウンロードされた削除済みローの数。
同期対象テーブル	同期中のテーブルの数を返します。
同期対象外テーブル	同期されないテーブルの数を返します。

1.11.9 外部キーのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

外部キーの名前が表示されます。このフィールドは編集できます。

タイプ

オブジェクトのタイプを示します。

外部テーブル

外部キーが適用されるテーブルの名前が表示されます。

プライマリ制約

外部キーが参照するプライマリキーまたは一意性制約の名前が表示されます。

プライマリ制約タイプ

外部キーが参照する制約のタイプが表示されます。これはプライマリキーまたは一意性制約のいずれかです。

プライマリテーブル

この外部キーに関連付けられたプライマリキーまたは一意性制約を含むテーブルが表示されます。

NULL 入力可

外部キーカラムに NULL 値を入力できるかどうかを決定します。このオプションを使用するには、すべての外部キーカラムの NULL 入力可を、はいに設定してください。

コミット時にチェック

データベースの COMMIT が完了するまで待機してからこの外部キーの整合性をチェックし、wait_for_commit データベースオプションの設定を上書きするようにします。

最大ハッシュサイズ

最大ハッシュサイズとして 0 ~ 32 の範囲の整数値が表示されます。デフォルトの最大ハッシュサイズは、データベース作成時のデータベースプロパティの最大ハッシュサイズの値 (デフォルト値は 4) です。

1.11.10 外部キーのプロパティウィンドウ: カラムタブ

このタブには、外部テーブルとプライマリテーブルのカラムの一覧と、カラムのプロパティの概要が表示されます。

1.11.11 インデックスのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

インデックスの名前が表示されます。このフィールドは編集できます。

タイプ

オブジェクトのタイプを示します。オブジェクトのタイプは、外部キーインデックス、プライマリキーインデックス、一意性制約インデックス、またはインデックスのいずれかです。

ユニーク

インデックスの値がユニークである必要があるかどうかを示されます。新しいインデックスを作成すると、ユニークな値が設定されます。

テーブル

インデックスが関連付けられているテーブルの名前と所有者が表示されます。これはテーブルにインデックスがある場合にのみ表示されます。

最大ハッシュサイズ

最大ハッシュサイズとして 0 ~ 32 の範囲の整数値が表示されます。デフォルトの最大ハッシュサイズは、データベース作成時のデータベースプロパティの最大ハッシュサイズの値 (デフォルト値は 4) です。

1.11.12 インデックスのプロパティウィンドウ: カラムタブ

このタブには、選択したカラムに関する詳細 (名前やタイプなど) が表示されます。

1.11.13 プラグインの環境設定ウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

設定

一般タブでのユーザ設定によって、SQL Central 内でユーザが特定のタスクを実行したときの Ultra Light の応答方法が決定されます。次の 1 つまたは複数の設定を選択します。

テーブルデータ編集時に削除を確認する

この設定を選択すると、SQL Central のデータタブでテーブルデータを削除する前に Ultra Light から確認プロンプトが表示されます。

テーブルデータ編集時に更新を確認する

この設定を選択すると、SQL Central の **データタブ** でテーブルデータを更新する前に Ultra Light から確認プロンプトが表示されます。

テーブルデータ編集時に暗黙的更新を確認する

この設定を選択すると、SQL Central で暗黙的な更新が実行される前に Ultra Light から確認プロンプトが表示されます。暗黙的な更新が実行されるのは、**データタブ** で特定のローを編集しているときに、SQL Central 内のそのロー以外の場所をクリックした場合です。

テーブルデータ編集時にキャンセルを確認する

この設定を選択すると、SQL Central の **データタブ** でテーブルデータの変更をキャンセルする前に SQL Central から確認プロンプトが表示されます。

デフォルトに戻す

デフォルトに戻す をクリックすると、このタブのユーザ設定がデフォルト値 (選択または選択解除) に戻ります。デフォルトでは、このタブのすべてのユーザ設定が選択されています。

1.11.14 プラグインの環境設定ウィンドウ: ユーティリティタブ

このタブには複数の項目があります。

設定

ユーティリティタブ のユーザ設定によって、ウィザードの概要ページを表示するかどうかと、ウィザード完了時にウィザードのメッセージウィンドウを閉じるかどうかを制御されます。次の 1 つまたは複数の設定を選択します。

データベース作成ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、**データベース作成ウィザード** を開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

データベース消去ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、**データベース消去ウィザード** を開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

データベース抽出ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、**データベース抽出ウィザード** を開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

データベースロードウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、**データベースロードウィザード** を開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

データベース同期ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、**データベース同期ウィザード** を開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

データベースアンロードウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、**データベースアンロードウィザード** を開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

データベース検証ウィザードの概要ページを表示する

この設定を選択すると、**データベース検証ウィザード** を開いたときにウィザードの概要ページが表示されます。

完了後にウィザードのメッセージウィンドウを閉じる

この設定を選択すると、ウィザードを完了した後にメッセージウィンドウを閉じます。デフォルトでは、この設定は選択されていません。

デフォルトに戻す

デフォルトに戻すをクリックすると、このタブのユーザ設定がデフォルト値（選択または選択解除）に戻ります。デフォルトでは、完了後にウィザードのメッセージウィンドウを閉じるを除いて、このタブのすべてのユーザ設定が選択されています。

1.11.15 プラグインの環境設定ウィンドウ: テーブルデータタブ

このタブには複数の項目があります。

テーブルデータの表示に使用するフォントを指定してください

次のオプションのいずれかを選択することにより、SQL Central でテーブルデータを表示するときにデータタブのテーブルデータに使用するフォントを指定します。

システム

コンピュータの標準のテキストフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。これはデフォルト設定です。

エディタ

コードエディタと同じフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。

カスタム

使用するフォント、フォントスタイル、ポイントサイズを指定する場合は、このオプションを選択します。[参照](#)をクリックして、[フォントウィンドウ](#)で設定を選択します。

1.11.16 プライマリキーのプロパティウィンドウまたは一意性制約のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

プライマリキーまたは一意性制約の名前が表示されます。このフィールドで、一意性制約の名前を編集できます（プライマリキーの名前は編集できません）。

タイプ

オブジェクトのタイプを示します。

ユニーク

プライマリキーがユニークかどうかを示します。

テーブル

プライマリキーまたは一意性制約が適用されるテーブルの名前が表示されます。

最大ハッシュサイズ

最大ハッシュサイズとして 0 ~ 32 の範囲の整数値が表示されます。デフォルトの最大ハッシュサイズは、データベース作成時のデータベースプロパティの最大ハッシュサイズの値（デフォルト値は 4）です。

1.11.17 プライマリキーのプロパティウィンドウ: カラムタブまたは一意性制約のプロパティウィンドウ: カラムタブ

このタブには複数の項目があります。

カラムリスト

プライマリキーまたは一意性制約のすべてのカラムと、そのデータ型、シーケンス、順序 (昇順または降順) が表示されます。順序は、新しいインデックスを作成するときに設定します。

カラムは、0 から始まるユニークな数値の順にソートされます。数値の順序によってインデックス内のカラムの相対的な位置が決まります。

詳細

カラムの詳細ウィンドウが表示され、選択されたカラムのプロパティの概要が示されます。

1.11.18 パブリケーションのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブにはパブリケーションに関する情報が表示されます。

1.11.19 パブリケーションのプロパティウィンドウ: アーティクルタブ

このタブには複数の項目があります。

テーブルタブ

テーブルタブでは、同期するテーブルを選択できます。

WHERE 句タブ

WHERE 句タブでは、WHERE 句を入力することで、選択したテーブルに入れるローを制限できます。

各タブについては、以下で詳しく説明します。

テーブルタブ

テーブルタブでは、テーブルを選択して、クライアントデータベースに入るアーティクルのリストにテーブルを追加できます。

使用可能なテーブルリスト

現在接続しているデータベース内のすべてのユーザテーブルがリストされます。

選択したテーブルリスト

パブリケーションの同期に入れるすべてのテーブルがリストされます。

追加

使用可能なテーブルリストの選択したテーブルを選択したテーブルリストに追加すると、そのテーブルがパブリケーションに入ります。

削除

選択したテーブルリストから選択したテーブルを削除すると、そのテーブルはパブリケーションから除外されます。

WHERE 句タブ

Ultra Light アプリケーションでは、WHERE 句を指定することによってローのサブセットを使用できます。

WHERE 句タブでは、WHERE 句を指定して、クライアントデータベースに入れるローを制限できます。

アーティクルリスト

パブリケーションに入っているテーブルのリストからテーブルを選択します。

選択したアーティクルには次の WHERE 句があります

アーティクルに入れるローを制限するために、そのテーブルの WHERE 句をテキストボックスに入力します。

1.11.20 同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

同期プロファイルの名前が表示されます。

タイプ

オブジェクトのタイプを示します。

テーブル

次の同期設定が表示されます。

MobiLinkUid

Mobile Link 認証用のユーザ名を指定します。このオプションは必須です。

MobiLinkPwd

Mobile Link 認証用のパスワードを指定します。

ScriptVersion

Mobile Link サーバで使用するスクリプトのバージョンを指定します。スクリプトバージョン文字列を入力します。このオプションは必須です。

Publications

同期するパブリケーションを指定します (カンマで区切ったパブリケーションの文字列を同期に含めます)。

SendDownloadACK

Ultra Light クライアントから Mobile Link サーバにダウンロード確認が送信されるように指定します。

Ping

Mobile Link サーバを ping します。このオプションでは、Ultra Light クライアントと Mobile Link サーバの間の通信が確認されるだけで、データは同期されません。このオプションは、*UploadOnly* オプションまたは *DownloadOnly* オプションと同時に使用できません。

DownloadOnly

ダウンロード専用同期を実行します。このオプションを選択すると、Mobile Link サーバから変更が受信されるだけです。ローカルの変更は送信されません。このオプションは、*Ping* オプションまたは *UploadOnly* オプションと同時に使用できません。

UploadOnly

アップロード専用同期を実行します。このオプションを選択すると、ローカルの変更が Mobile Link サーバに送信されるだけです。Mobile Link サーバに変更を要求したり、Mobile Link サーバから変更が受信されたりしません。このオプションは、*Ping* オプションまたは *DownloadOnly* オプションと同時に使用できません。

NewMobiLinkPwd

同期する Mobile Link ユーザの新しいパスワードを指定します。新しいパスワードを入力します。Mobile Link ユーザは次の同期時にこの新しいパスワードを使用する必要があります。

AuthParms

Mobile Link イベントの認証パラメータにパラメータを渡します。

KeepPartialDownload

同期時の通信エラーが原因でダウンロードが失敗したときに、変更をロールバックしないで部分的なダウンロードを保持するかどうかを制御します。

ContinueDownload

次の同期時に、Mobile Link サーバで以前に失敗したダウンロードを再開することを指定します。

その他

このリストにないオプションについて、"オプション=値" のペアをセミコロンで区切ったリストです。

1.11.21 同期プロファイルのプロパティウィンドウ: 接続タブ

このタブには複数の項目があります。

ストリーム

ドロップダウンリストからネットワークプロトコルを選択します。下の表で、プロトコルのオプションを指定します。

テーブル

指定した接続プロトコルのプロトコルオプションを設定します。

TCPIP

TCPIP を指定する場合は、次のプロトコルオプションを任意で指定できます。

- *client_port*=nnnnn[-mmmmm]
- *compression*={zlib|none}
- *e2ee_public_key*=file
- *host*=hostname
- *network_adapter_name*=name

- `network_leave_open={off|on}`
- `network_name=name`
- `port=portnumber`
- `timeout=seconds`
- `zlib_download_window_size=window-bits`
- `zlib_upload_window_size=window-bits`

HTTP

HTTP を指定する場合は、次のプロトコルオプションを任意で指定できます。

- `buffer_size=number`
- `client_port=nnnnn[-mmmmm]`
- `compression={zlib|none}`
- `custom_header=header`
- `e2ee_public_key=file`
- `http_buffer_responses={on|off}`
- `http_password=password`
- `http_proxy_password=password`
- `http_proxy_userid=userid`
- `http_userid=userid`
- `host=hostname`
- `network_adapter_name=name`
- `network_leave_open={off|on}`
- `network_name=name`
- `persistent={off|on}`
- `port=portnumber`
- `proxy_host=proxy-hostname-or-ip`
- `proxy_port=proxy-portnumber`
- `set_cookie=cookie-name=cookie-value`
- `timeout=seconds`
- `url_suffix=suffix`
- `version=HTTP-version-number`
- `zlib_download_window_size=window-bits`
- `zlib_upload_window_size=window-bits`

TLS

TLS (TLS セキュリティを使用する TCP/IP) を指定すると、次のプロトコルオプションを任意で指定できます。

- `certificate_company=company_name`
- `certificate_name=name`
- `certificate_unit=company_unit`
- `client_port=nnnnn[-mmmmm]`
- `compression={zlib|none}`
- `e2ee_public_key=file`
- `fips={y|n}`
- `host=hostname`

- `identity=filename`
- `identity_name=name`
- `identity_password=password`
- `network_adapter_name=name`
- `network_leave_open={off|on}`
- `network_name=name`
- `port=portnumber`
- `timeout=seconds`
- `trusted_certificates=filename`
- `trusted_certificate_name=name`
- `zlib_download_window_size=window-bits`
- `zlib_upload_window_size=window-bits`

HTTPS

HTTPS (RSA 暗号化を使用する HTTP) を指定すると、次のプロトコルオプションを任意で指定できます。

- `buffer_size=number`
- `certificate_company=company_name`
- `certificate_name=name`
- `certificate_unit=company_unit`
- `client_port=nnnnn[-mmmmmm]`
- `compression={zlib|none}`
- `custom_header=header`
- `e2ee_public_key=file`
- `fips={y|n}`
- `host=hostname`
- `http_buffer_responses{off |on }`
- `http_password=password`
- `http_proxy_password=password`
- `http_proxy_userid=userid`
- `http_userid=userid`
- `identity=filename`
- `identity_name=name`
- `identity_password=password`
- `network_adapter_name=name`
- `network_leave_open={off|on}`
- `network_name=name`
- `persistent={off|on}`
- `port=portnumber`
- `proxy_host=proxy-hostname-or-ip`
- `proxy_port=proxy-portnumber`
- `set_cookie=cookie-name=cookie-value`
- `timeout=seconds`
- `trusted_certificates=filename`
- `trusted_certificate_name=name`

- `url_suffix=suffix`
- `version=HTTP-version-number`
- `zlib_download_window_size=window-size`
- `zlib_upload_window_size=window-bits`

1.11.22 テーブルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには複数の項目があります。

名前

テーブルの名前が表示されます。このテキストボックスでテーブルの名前を変更できます。

タイプ

オブジェクトのタイプを示します。

同期タイプ

次のオプションがサポートされています。

標準

標準の同期を使用する場合は、このオプションを選択します。変更されたローだけが同期されます。

常時

同期を継続して実行する場合は、このオプションを選択します。すべてのローが同期されます。または、`allsync` サフィックスを追加してテーブルに名前を付けることもできます。これによってすべてのローが同期で更新されることが示されます。

ダウンロード専用

このオプションを選択すると、同期をダウンロード専用にすることができます。ローカルテーブルに対して行われた変更は、統合データベースにアップロードされません。または、`download_only` サフィックスを追加してテーブルに名前を付けることもできます。これによって同期でアップロードされるローはないことが示されます。

しない

同期を実行しない場合は、このオプションを選択します。または、`nosync` サフィックスを追加してテーブルに名前を付けることもできます。これによって同期で更新されるローはないことが示されます。

プライマリキー

このウィンドウ枠には次の項目があります。

名前

選択されたテーブルのプライマリキーの名前が表示されます。

すぐにプライマリキーを設定

[プライマリキー設定ウィザード](#)が開きます。このウィザードでは、選択されたテーブルのプライマリキーを指定または変更できます。

カラム

このテーブルのプライマリキーカラムが表示されます。

1.11.23 テーブルのプロパティウィンドウ: カラムタブ

このタブには、選択したカラムに関する詳細 (名前やタイプなど) が表示されます。

1.11.24 ユーザのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには、名前、タイプ、パスワード、パスワードの確認などの項目があります。

1.12 Mobile Link プロファイラのヘルプ

Mobile Link プロファイラは、同期のパフォーマンスに関する詳細情報を提供する Mobile Link 管理ツールです。このツールを使用することにより、ボトルネックを分析し、パフォーマンスを最大限に高めることができます。

このセクションの内容:

[Mobile Link サーバへの接続ウィンドウ \[249 ページ\]](#)

このウィンドウでは、実行中の Mobile Link サーバに接続することでプロファイリングセッションを開始できます。Mobile Link プロファイラの接続は Mobile Link サーバへの同期接続と似ており、ほとんどのパラメータは同じです。Mobile Link サーバの設定と互換性のあるパラメータを使用してください。

[ウォッチの編集ウィンドウ \[251 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[移動ウィンドウ \[252 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[新しいウォッチウィンドウ \[252 ページ\]](#)

このウィンドウには次の項目があります。

[Mobile Link プロファイラセッションを開くウィンドウ \[253 ページ\]](#)

Mobile Link プロファイラセッションを開くウィンドウには、プロファイリングデータベースの以前の Mobile Link セッションのリストが表示されます。セッションを選択し、OK をクリックして開くか、削除をクリックしてプロファイリングデータベースからセッションを削除します。

[オプションウィンドウ: 一般タブ \[253 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[オプションウィンドウ: テーブルタブ \[254 ページ\]](#)

このタブでは、詳細テーブルウィンドウ枠に表示されるカラムを設定できます。このタブでの設定は、Mobile Link プロファイラの呼び出し間にも持続します。

[オプションウィンドウ: グラフタブ \[254 ページ\]](#)

使用率グラフウィンドウ枠には、各フェーズの同期数がグラフィック形式で表示されます。

[オプションウィンドウ: チャートのレイアウトタブ \[255 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[オプションウィンドウ: チャートの色タブ \[256 ページ\]](#)

このタブでは、チャートウィンドウ枠の同期フェーズおよびその他のチャートコンポーネントに使用する色を指定できません。

[オプションウィンドウ: 概要タブ \[257 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[サンプルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[258 ページ\]](#)

サンプルのプロパティウィンドウの一般タブには、高レベルのカテゴリを使用し、サンプル時間に同期で行われた内容の概要が表示されます。これは、ネットワーク、統合データベース、またはリモートデータベースがパフォーマンスの問題を引き起こしているかどうかを特定する際に役立ちます。

[サンプルのプロパティウィンドウ: フェーズタブ \[259 ページ\]](#)

サンプルのプロパティウィンドウのフェーズタブには、サンプルの取得時に同期があったフェーズに関する情報が表示されます。

[サンプルのプロパティウィンドウ: イベントタブ \[259 ページ\]](#)

サンプルのプロパティウィンドウのイベントタブには、サンプルの取得時に実行されているイベントスクリプトに関する情報が表示されます。

[サンプル範囲のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[260 ページ\]](#)

サンプル範囲のプロパティウィンドウの一般タブには、高レベルのカテゴリを使用し、選択したサンプル範囲に同期で行われた内容の概要が表示されます。

[サンプル範囲のプロパティウィンドウ: フェーズタブ \[261 ページ\]](#)

サンプル範囲のプロパティウィンドウのフェーズタブには、選択したサンプル範囲に同期があったフェーズに関する情報が表示されます。

[サンプル範囲のプロパティウィンドウ: イベントタブ \[261 ページ\]](#)

サンプル範囲のプロパティウィンドウのイベントタブには、選択したサンプルの取得時に実行されているイベントスクリプトに関する情報が表示されます。

[セッションのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[262 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[同期のプロパティウィンドウ: 一般タブ \[263 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[同期のプロパティウィンドウ: アップロードタブ \[264 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[同期のプロパティウィンドウ: ダウンロードタブ \[265 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[同期のプロパティウィンドウ: 同期タブ \[265 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[同期のプロパティウィンドウ: イベントタブ \[266 ページ\]](#)

イベントタブには、同期に対して定義されたスクリプトに関する情報が表示されます。次の項目があります。

[同期のプロパティウィンドウ: ブロックタブ \[266 ページ\]](#)

このタブは、ブロックが検出された場合にだけ使用できます。次の項目があります。

[ウォッチマネージャウィンドウ \[267 ページ\]](#)

ウォッチマネージャでは、警告を受信した同期や長時間を要する同期など、指定した基準を満たす同期を視覚的に区別できます。

1.12.1 Mobile Link サーバへの接続ウィンドウ

このウィンドウでは、実行中の Mobile Link サーバに接続することでプロファイリングセッションを開始できます。Mobile Link プロファイラの接続は Mobile Link サーバへの同期接続と似ており、ほとんどのパラメータは同じです。Mobile Link サーバの設定と互換性のあるパラメータを使用してください。

すべての Mobile Link プロファイラセッションに対して、スクリプトバージョンが *for_ML_Monitor_only* に設定されます。

このウィンドウには次の項目があります。

ユーザ

接続用の Mobile Link ユーザ名を入力します。名前を入力する必要がありますが、Mobile Link サーバを *-zu+* で起動した場合は、認識されない Mobile Link ユーザ名が同期時に *ml_user* テーブルに自動的に追加されるため、どのような Mobile Link ユーザを指定してもかまいません。

パスワード

接続用のパスワードを入力します。Mobile Link ユーザに対する正しいパスワードを指定してください。Mobile Link ユーザにパスワードがない場合、このフィールドは空白のままとします。

Host

Mobile Link サーバを実行するコンピュータのネットワーク名または IP アドレス。デフォルトでは、Mobile Link プロファイラが稼働しているコンピュータです。Mobile Link サーバが Mobile Link プロファイラと同じコンピュータで稼働している場合は、*localhost* を使用できます。

プロトコル

接続に使用する通信ストリームのプロトコルを選択します。このプロトコルとポートは、Mobile Link サーバで同期要求に使用しているのと同じプロトコルとポートに設定してください。

HTTP

このオプションを選択すると、HTTP 経由で接続します。

ポート

Mobile Link サーバは特定のポートを介して通信します。デフォルトの HTTP ポート番号は、80 です。デフォルト以外の値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link サーバを設定してください。

HTTPS

このオプションを選択すると、HTTPS 経由で接続します。

ポート

Mobile Link サーバは特定のポートを介して通信します。デフォルトの HTTPS ポート番号は、443 です。デフォルト以外の値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link サーバを設定してください。

暗号化

Mobile Link サーバと同じ種類の暗号化を選択します。デフォルトでは、HTTPS 通信ストリームは RSA セキュリティを使用します。

暗号化には次のオプションがサポートされています。

RSA

RSA 暗号化は SQL Anywhere に無料で付属しています。

RSA (FIPS 140-2 準拠)

米国連邦情報処理規格 (FIPS) 140-2 では、セキュリティアルゴリズムの要件が定められています。FIPS 140-2 認定プログラムは、米国商務省標準技術局 (NIST: National Institute of Standards and Technology) とカナダ Communications Security Establishment (CSE) の間の共同の取り組みです。カナダとアメリカの連邦当局は、FIPS 104-2 認定製品を受け付けます。FIPS 認定の暗号化には別途ライセンスが必要です。

HTTPS または TLS を使用するには、Mobile Link プロファイラが稼働しているコンピュータに Mobile Link クライアント側データストリーム暗号化をインストールする必要があります。

信頼できる証明書ファイル

Mobile Link サーバへのセキュア接続に使用する、信頼できる証明書ファイルの名前を入力します。Windows プラットフォームの場合、信頼できる証明書ファイルを指定しないと、信頼できる証明書ストアが使用されます。Windows 以外のプラットフォームの場合、セキュア接続には信頼できる証明書ファイルが必要です。

TCP/IP

このオプションを選択すると、TCP/IP 経由で接続します。

ポート

Mobile Link サーバは特定のポートを介して通信します。デフォルトの TCP/IP ポート番号は、2439 です。デフォルト以外の値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link サーバを設定してください。

TLS (TCP/IP とトランスポートレイヤセキュリティ)

このオプションを選択すると、トランスポートレイヤセキュリティを使用して TCP/IP 経由で接続します。

ポート

Mobile Link サーバは特定のポートを介して通信します。デフォルトの TLS (TCP/IP とトランスポートレイヤセキュリティ) ポート番号は、2439 です。デフォルト以外の値を選択する場合、指定したポートで受信を行うように Mobile Link サーバを設定してください。

暗号化

Mobile Link サーバと同じ種類の暗号化を選択します。

暗号化には次のオプションがサポートされています。

RSA

RSA 暗号化は SQL Anywhere に無料で付属しています。

RSA (FIPS 140-2 準拠)

米国連邦情報処理規格 (FIPS) 140-2 では、セキュリティアルゴリズムの要件が定められています。FIPS 140-2 認定プログラムは、米国商務省標準技術局 (NIST: National Institute of Standards and Technology) とカナダ Communications Security Establishment (CSE) の間の共同の取り組みです。カナダとアメリカの連邦当局は、FIPS 104-2 認定製品を受け付けます。FIPS 認定の暗号化には別途ライセンスが必要です。

TLS を使用するには、Mobile Link プロファイラが稼働しているコンピュータに Mobile Link クライアント側データストリーム暗号化をインストールする必要があります。

信頼できる証明書ファイル

Mobile Link サーバへのセキュア接続に使用する、信頼できる証明書ファイルの名前を入力します。Windows プラットフォームの場合、信頼できる証明書ファイルを指定しないと、信頼できる証明書ストアが使用されます。Windows 以外のプラットフォームの場合、セキュア接続には信頼できる証明書ファイルが指定されていることが必要です。

追加のプロトコルオプション

このフィールドにはオプションのネットワークパラメータを指定します。指定できる値は、接続ストリームのタイプによって異なります。複数のパラメータは、セミコロンで区切る必要があります。

Mobile Link クライアントネットワークプロトコルのすべての有効なオプションがサポートされています。ただし、このウィンドウですでに設定されているホスト、ポート、信頼できる証明書などのオプションは除きます。

1.12.2 ウォッチの編集ウィンドウ

このウィンドウには次の項目があります。

名前

ウォッチの名前。事前定義ウォッチ (アクティブ、ブロック、完了、または失敗) の名前は変更できません。

条件リスト

Mobile Link プロファイラが追跡する同期を識別するためのプロパティ、比較演算子、値を指定します。必要な数の条件をいくつでも指定できます。プロパティ、演算子、値を選択したら、**追加**をクリックしてウォッチに条件を追加します。

条件リストに表示される値は編集できません。ウォッチの条件を変更するには、**条件**リストから条件を選択し、**削除**をクリックします。その後、新しい条件を追加します。

プロパティ

Mobile Link プロファイラで追跡するプロパティをドロップダウンリストから選択します。

演算子

比較演算子を選択します。使用可能な演算子のリストは、選択するプロパティによって異なります。

値

プロパティと比較される値を入力します。

追加

クリックすると、プロパティ、演算子、値の各フィールドで設定した条件がウォッチに追加されます。システムウォッチの場合は無効です。

削除

クリックすると、選択した条件がウォッチから削除されます。システムウォッチの場合は無効です。

同期の表示

これらのオプションでは、**チャート**ウィンドウ枠と**概要**ウィンドウ枠でウォッチと一致する同期を識別するためのパターンと色を選択します。

チャートパターン

チャートウィンドウ枠のウォッチと一致する同期用のパターンを選択します。

概要の色

概要ウィンドウ枠のウォッチと一致する同期用の色を選択します。

1.12.3 移動ウィンドウ

このウィンドウには次の項目があります。

開始日時

移動ウィンドウを使用すると、指定した日付と時刻を Mobile Link プロファイラの **チャート** ウィンドウ枠および **使用率グラフ** ウィンドウ枠に表示できます。表示する開始日と時刻を入力します。この設定を変更する場合は、年、月、日付を指定します。

チャートの範囲

チャート ウィンドウ枠および **使用率グラフ** ウィンドウ枠に表示する期間を指定します。ドロップダウンリストからいずれかのオプションを選択して、チャート範囲をミリ秒、秒、分、時間、または日の単位で指定できます。チャートの範囲によってデータの詳細度が決まります。期間を短くするほど、より詳細なデータが表示されます。

1.12.4 新しいウォッチウィンドウ

このウィンドウには次の項目があります。

名前

ウォッチの名前を入力します。

条件

Mobile Link プロファイラが追跡する同期を識別するためのプロパティ、比較演算子、値を指定する必要があります。必要な数の条件をいくつでも指定できます。プロパティ、演算子、値を選択したら、**追加** をクリックして新しいウォッチに条件を追加します。

条件 リストに表示される値は編集できません。ウォッチの条件を変更するには、**条件** リストから条件を選択し、**削除** をクリックします。その後、新しい条件を追加します。

プロパティ

Mobile Link プロファイラで追跡するプロパティをドロップダウンリストから選択します。

演算子

比較演算子を選択します。使用可能な演算子のリストは、選択するプロパティによって異なります。

値

プロパティを比較する値を入力します。

追加

クリックすると、プロパティ、演算子、値の各フィールドで設定した条件がウォッチに追加されます。

削除

クリックすると、選択した条件がウォッチから削除されます。

同期の表示

これらのオプションでは、**チャート** ウィンドウ枠および **概要** ウィンドウ枠のウォッチと一致する同期を識別するためのパターンと色を選択します。

チャートパターン

チャート ウィンドウ枠のウォッチと一致する同期用のパターンを選択します。

概要の色

概要ウィンドウ枠のウォッチと一致する同期用の色を選択します。

1.12.5 Mobile Link プロファイラセッションを開くウィンドウ

Mobile Link プロファイラセッションを開くウィンドウには、プロファイリングデータベースの以前の Mobile Link セッションのリストが表示されます。セッションを選択し、OK をクリックして開くか、削除をクリックしてプロファイリングデータベースからセッションを削除します。

このウィンドウには次の項目があります。

セッション

プロファイリングセッション番号。

サーバ

セッションで使用された Mobile Link サーバを識別します。サーバに名前が付いていない場合、host:port が表示されます。

開始時刻

セッションが開始された時刻を表示します。

終了時刻

セッションが終了された時刻を表示します。

同期数

セッション中に発生した同期数を表示します。

接続

Mobile Link サーバに接続するための接続パラメータが表示されます。

1.12.6 オプションウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

起動時に新しいプロファイリングセッションの開始を要求

このオプションでは、Mobile Link プロファイラの起動時に Mobile Link サーバへの接続ウィンドウを表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。選択された場合、Mobile Link プロファイラがコマンドラインオプションなしで起動されたとき、Mobile Link サーバへの接続ウィンドウが表示されます。コマンドラインオプションを指定せずに Mobile Link プロファイラを起動したときに Mobile Link サーバへの接続ウィンドウが表示されないようにするには、このオプションをオフにします。

プロファイリングセッションデータのデータベースファイル

デフォルトのプロファイリングデータベース以外のデータベースを使用するには、プロファイリングセッションデータを保存するデータベースファイルのロケーションを入力します。

プロファイリングデータベースの再作成

プロファイリングデータベースのスキーマを再作成するには、このオプションを選択します。このオプションは、次回 Mobile Link プロファイラを実行したときに有効になります。プロファイリングデータベースを再作成すると、以前のプロフ

アイリングセッションがすべて削除されます。デフォルトのプロファイリングデータベースは `mlprofiler.db` と呼ばれ、Documents フォルダ内の `MLProfiler17` というフォルダ内にあります。

1.12.7 オプションウィンドウ: テーブルタブ

このタブでは、**詳細テーブル**ウィンドウ枠に表示されるカラムを設定できます。このタブでの設定は、Mobile Link プロファイラの呼び出し間にも持続します。

このタブには次の項目があります。

可視カラムリスト

詳細テーブルウィンドウ枠に現在表示されているすべてのカラムがリストされます。特定のカラムが**詳細テーブル**ウィンドウ枠に表示されないように、**可視カラム**リストからそのカラムを削除するには、カラムを選択して左矢印をクリックし、カラムをドラッグするか、そのカラムをダブルクリックします。**可視カラム**リストに追加されるカラムは、リストの末尾に追加されます。

可視カラムリスト内でのカラムの順序によって、**詳細テーブル**ウィンドウ枠内でのカラムの表示順が決まります。特定のカラムをリスト内の上方へ移動するには、そのカラムを選択してから上矢印をクリックします。特定のカラムをリスト内の下方へ移動するには、そのカラムを選択してから下矢印をクリックします。また、**可視カラム**リスト内でドラッグして順序を変更することもできます。

i 注記

詳細テーブルウィンドウ枠でカラムの見出しをドラッグしてもカラムの順序を変更できますが、この変更は Mobile Link プロファイラの呼び出し間で維持されません。

非表示のカラムリスト

詳細テーブルウィンドウ枠に表示可能なカラムのうち、現在表示されていないカラムがすべてリストされます。**詳細テーブル**ウィンドウ枠に特定のカラム (複数可) を表示するには、**非表示のカラム**リストから目的のカラムを選択し、右矢印をクリックするか、カラムをダブルクリックします。選択した 1 つまたは複数のカラムは、**可視カラム**リストの末尾に表示されます。

リセット

リセットをクリックすると、**詳細テーブル**ウィンドウ枠に表示されるカラムのリストが、そのデフォルトのリストに戻ります。

1.12.8 オプションウィンドウ: グラフタブ

使用率グラフウィンドウ枠には、各フェーズの同期数がグラフィック形式で表示されます。

このタブには次の項目があります。

フェーズカウンタリスト

リストされたフェーズを選択またはクリアして、使用率グラフに表示するフェーズカウンタを指定します。

表示

使用率グラフにフェーズカウンタを表示するには、このオプションを選択します。チェックマークがオフになっているフェーズは表示されません。

プロパティ

使用率グラフに表示できる利用可能なフェーズカウンタが表示されます。チェックマークがオンになっているフェーズカウンタだけがグラフに表示されます。

各プロパティでは、現在、そのフェーズにある同期の数が示されます。

色

フェーズカウンタごとに、色をクリックし、使用率グラフで各フェーズカウンタを表す色をドロップダウンリストから選択します。デフォルトの色は、**チャートの色**タブと同じです。

選択枠

使用率グラフの枠線の色をドロップダウンリストから選択します。デフォルトでは、枠線は黒です。

グリッド線

グリッド線の色をドロップダウンリストから選択します。デフォルトでは、グリッド線は明るいグレーです。

グラフの背景

グラフの背景の色をドロップダウンリストから選択します。デフォルトでは、グラフの背景は白です。

アンチエイリアス処理でグラフを滑らかにする

アンチエイリアス処理は、グラフィックを滑らかにする方法です。このオプションを選択すると、グラフの見栄えがよくなりますが、描画に時間がかかる可能性があります。

1.12.9 オプションウィンドウ: チャートのレイアウトタブ

このタブには次の項目があります。

同期バーの最小の高さ

同期バーの表示高さの最小値をピクセル単位で指定します。**同期バー間の高さのギャップ**オプションとともに、このオプションは**チャート**ウィンドウ枠の垂直スクロールバーのしきい値を設定します。

チャートウィンドウ枠の同期バーの高さのデフォルトの最小値は、5ピクセルです。

同期バー間の高さのギャップ

チャートウィンドウ枠の同期バー間に表示される相対的な縦方向間隔を指定します。

チャートウィンドウ枠の同期バー間の間隔のデフォルトサイズは 150% です。

横方向のチャート目盛りの表示

同期時間を示すチャート目盛りを表示するには、このオプションを選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。

縦方向のチャート目盛りの表示

縦方向のチャート目盛りを表示するには、このオプションを選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。

接続時にチャートを自動スクロール

Mobile Link サーバへの接続時にチャートを自動的にスクロールする場合は、このオプションを選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。

1.12.10 オプションウィンドウ: チャートの色タブ

このタブでは、**チャート**ウィンドウ枠の同期フェーズおよびその他のチャートコンポーネントに使用する色を指定できます。

チャートウィンドウ枠の各フェーズには、アップロードフェーズに緑、ダウンロードフェーズに赤、同期の開始と終了フェーズに青、データベースワークスレッドの待機とデータベースへの接続フェーズに紫の色スキームがデフォルトで使用されます。暗い影は、前半フェーズを示します。

このタブには次の項目があります。

同期要求

デフォルトでは、同期要求フェーズは**濃い緑**です。

アップロードの受信

デフォルトでは、アップロードの受信フェーズは**シーグリーン**です。

DB ワーカーの取得

デフォルトでは、DB ワーカーの取得フェーズは**ラベンダー**です。

接続

デフォルトでは、接続フェーズは**明るい紫青**です。

ユーザを認証

デフォルトでは、ユーザ認証フェーズは**金**です。

同期の開始

デフォルトでは、同期の開始フェーズは**オーシャンブルー**です。

アップロードの適用

デフォルトでは、アップロードの適用フェーズは**緑**です。

ダウンロードの準備

デフォルトでは、ダウンロードの準備フェーズは**濃い赤**です。

ダウンロードのフェッチ

デフォルトでは、ダウンロードのフェッチフェーズは**赤**です。

同期の終了

デフォルトでは、同期の終了フェーズは**淡い青**です。

ダウンロードの送信

デフォルトでは、ダウンロードの送信フェーズは**コーラル**です。

ダウンロード確認の待機

デフォルトでは、ダウンロード確認の待機フェーズは**プラム**です。

ダウンロード確認の DB ワーカーの取得

デフォルトでは、ダウンロード確認の DB ワーカーの取得フェーズは**ラベンダー**です。

ダウンロード確認の接続

デフォルトでは、ダウンロード確認の接続フェーズは**明るい紫青**です。

非ブロッキングダウンロード確認

デフォルトでは、非ブロッキングダウンロード確認フェーズは**マゼンタ**です。

選択された同期アウトライン

デフォルトでは、選択された同期のアウトラインは黒です。

同期アウトライン

デフォルトでは、同期のアウトラインはグレーです。

チャートの背景

デフォルトでは、チャートウィンドウ枠の背景は白です。

1.12.11 オプションウィンドウ: 概要タブ

このタブには次の項目があります。

概要のウィンドウをメインウィンドウに組み込む

概要ウィンドウ枠をチャートウィンドウ枠から切り離す場合は、このオプションをオフにします。このオプションはデフォルトで選択されています。

同期バー間の高さのギャップ

概要ウィンドウ枠の同期バー間に表示される縦方向間隔の相対サイズを指定します。デフォルトのサイズは 25% です。組み込みウォッチの色

ドロップダウンリストを使用して、事前に定義されたウォッチのコンポーネントの識別に使用する色を選択します。

アクティブな同期

アクティブな同期を識別するための色を選択します。デフォルトでは、アクティブな同期は明るいグレーです。アクティブな同期の色は、ウォッチの編集ウィンドウでも設定できます。

ブロック同期

ブロックが検出された同期を識別するための色を選択します。デフォルトでは、ブロックされた同期はマゼンタです。ブロックされた同期の色は、ウォッチの編集ウィンドウでも設定できます。

完了した同期

完了した同期を識別するための色を選択します。デフォルトでは、完了した同期は明るいグレーです。完了した同期の色は、ウォッチの編集ウィンドウでも設定できます。

失敗した同期

失敗した同期を識別するための色を選択します。デフォルトでは、失敗した同期は赤です。失敗した同期の色は、ウォッチの編集ウィンドウでも設定できます。

マーキー

マーキーツールの枠線の色を選択します。デフォルトでは、枠線は黒です。マーキーツールとは、概要ウィンドウ枠に表示される小さなボックスです。マーキーツールを使用することで、チャートおよび使用率グラフウィンドウ枠に表示されるデータを選択できます。

概要の背景

概要ウィンドウ枠の背景色を選択します。デフォルトでは、背景は白です。

1.12.12 サンプルのプロパティウィンドウ: 一般タブ

サンプルのプロパティウィンドウの一般タブには、高レベルのカテゴリを使用し、サンプル時間に同期で行われた内容の概要が表示されます。これは、ネットワーク、統合データベース、またはリモートデータベースがパフォーマンスの問題を引き起こしているかどうかを特定する際に役立ちます。

このタブには次の項目があります。

サンプル

サンプルの数。スピナを使用して、表示するサンプルを変更します。

時刻

選択したサンプルが取得された時刻を示します。

インデックス

インデックスは、各カテゴリに割り当てられた番号です。

カテゴリ

使用されるリソースと実行されるアクションに基づくカテゴリ名が表示されます。カテゴリは次のとおりです。

network-uploading

sync_request または receive_upload フェーズでの同期。

network-downloading

sending_download フェーズでの同期。

idle-queued_for_database

get_db_worker または get_db_worker_for_download_ack フェーズでの同期。

database-running_event_scripts

イベントスクリプトが統合データベースで実行されているフェーズでの同期。

remote-waiting_for_ack

wait_for_download_ack フェーズでの同期。

カウント

サンプルの取得時に各カテゴリにあった同期の数が表示されます。

パーセント

サンプルの取得時に各カテゴリにあった同期のパーセンテージが表示されます。

関連情報

[サンプルのプロパティウィンドウ: フェーズタブ \[259 ページ\]](#)

[サンプルのプロパティウィンドウ: イベントタブ \[259 ページ\]](#)

1.12.13 サンプルのプロパティウィンドウ: フェーズタブ

サンプルのプロパティウィンドウのフェーズタブには、サンプルの取得時に同期があったフェーズに関する情報が表示されません。

このタブには次の項目があります。

サンプル

サンプルの数。スピナを使用して、表示するサンプルを変更します。

時刻

選択したサンプルが取得された時刻を示します。

インデックス

インデックスは、各フェーズに割り当てられた番号であり、同期内の順序に対応しています。

色

各フェーズに割り当てられた色を示します。割り当てられた色は、オプションウィンドウのグラフタブから変更できます。

フェーズ

フェーズ名を示します。

カウント

サンプルの取得時に各フェーズにあった同期の数が表示されます。

パーセント

サンプルの取得時に各フェーズにあった同期のパーセンテージが表示されます。

関連情報

[サンプルのプロパティウィンドウ: イベントタブ \[259 ページ\]](#)

1.12.14 サンプルのプロパティウィンドウ: イベントタブ

サンプルのプロパティウィンドウのイベントタブには、サンプルの取得時に実行されているイベントスクリプトに関する情報が表示されます。

このタブには次の項目があります。

サンプル

サンプルの数。スピナを使用して、表示するサンプルを変更します。

時刻

選択したサンプルが取得された時刻を示します。

スクリプトバージョン

イベントスクリプトのスクリプトバージョンの名前。

イベント名

同期イベントの名前 (イベントスクリプト名)。

テーブル

テーブルイベントの場合、テーブルの名前を示します。

カウント

サンプルの取得時に各イベントにあった同期の数が表示されます。

関連情報

[サンプルのプロパティウィンドウ: 一般タブ \[258 ページ\]](#)

[サンプルのプロパティウィンドウ: フェーズタブ \[259 ページ\]](#)

1.12.15 サンプル範囲のプロパティウィンドウ: 一般タブ

サンプル範囲のプロパティウィンドウの一般タブには、高レベルのカテゴリを使用し、選択したサンプル範囲に同期で行われた内容の概要が表示されます。

このタブには次の項目があります。

サンプル

選択したサンプルの範囲をサンプル番号別に示します。

開始時刻

範囲内の最初のサンプルの時刻を示します。

終了時刻

範囲内の最後のサンプルの時刻を示します。

インデックス

インデックスは、各カテゴリに割り当てられた番号です。

プロパティ

使用されるリソースと実行されるアクションに基づくカテゴリ名が表示されます。カテゴリは次のとおりです。

network-uploading

sync_request または receive_upload フェーズでの同期。

network-downloading

sending_download フェーズでの同期。

idle-queued_for_database

get_db_worker または get_db_worker_for_download_ack フェーズでの同期。

database-running_event_scripts

イベントスクリプトが統合データベースで実行されているフェーズでの同期。

remote-waiting_for_ack

wait_for_download_ack フェーズでの同期。

平均

選択した範囲の各カテゴリにある同期の平均数が表示されます。

パーセント

選択したサンプル範囲の各カテゴリにある同期のパーセントが表示されます。

最大

選択したサンプル範囲の各カテゴリにある同期の最大数が表示されます。

1.12.16 サンプル範囲のプロパティウィンドウ: フェーズタブ

サンプル範囲のプロパティウィンドウのフェーズタブには、選択したサンプル範囲に同期があったフェーズに関する情報が表示されます。

このタブには次の項目があります。

サンプル

選択したサンプルの範囲をサンプル番号別に示します。

開始時刻

範囲内の最初のサンプルの時刻を示します。

終了時刻

範囲内の最後のサンプルの時刻を示します。

インデックス

インデックスは、各フェーズに割り当てられた番号であり、同期内の順序に対応しています。

色

各フェーズに割り当てられた色を示します。割り当てられた色は、オプションウィンドウのグラフタブから変更できます。

フェーズ

フェーズ名を示します。

平均

選択した範囲の各フェーズにある同期の平均数が表示されます。

パーセント

選択したサンプル範囲の各フェーズにある同期のパーセントが表示されます。

最大

選択したサンプル範囲の各フェーズにある同期の最大数が表示されます。

1.12.17 サンプル範囲のプロパティウィンドウ: イベントタブ

サンプル範囲のプロパティウィンドウのイベントタブには、選択したサンプルの取得時に実行されているイベントスクリプトに関する情報が表示されます。

このタブには次の項目があります。

サンプル

選択したサンプルの範囲をサンプル番号別に示します。

開始時刻

範囲内の最初のサンプルの時刻を示します。

終了時刻

範囲内の最後のサンプルの時刻を示します。

スクリプトバージョン

イベントスクリプトのスクリプトバージョンの名前。

イベント名

同期イベントの名前 (イベントスクリプト名)。

テーブル

テーブルイベントの場合、テーブルの名前を示します。

平均

選択したサンプル範囲の各イベントで実行されている同期の平均数が表示されます。

最大

選択したサンプル範囲の各イベントにある同期の最大数が表示されます。

1.12.18 セッションのプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

セッション

プロファイリングセッション番号。プロファイリングデータベースの各プロファイリングセッションに割り当てられたユニークな番号。

サーバ

指定されている場合は Mobile Link サーバで、指定されていない場合はホスト名とポート。

サーバのバージョン

Mobile Link サーバのバージョン。

サーバの言語

サーバの言語。

同期の数

セッションの同期の合計数。

プロファイラセッションの開始日時

Mobile Link プロファイラセッションが開始した日付と時刻。

プロファイラセッションの終了日時

セッションが終了した日付と時刻。

プロファイラセッションの期間

Mobile Link プロファイラセッションの合計長。

1.12.19 同期のプロパティウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

全体的な同期統計情報

これらの統計は、選択した同期に関する一般情報を提供します。

同期

Mobile Link サーバによるセッション内の各同期に割り当てられたユニークな番号。警告、エラーメッセージ、および冗長サーバログに表示される番号と同じです。

クライアント

同期しているクライアントのタイプとそのクライアントのバージョン番号。

リモート ID

リモートデータベースをユニークに識別する Mobile Link リモート ID。

ユーザ

Mobile Link ユーザの名前。

バージョン

スクリプトバージョンの名前。

開始時刻

サーバがクライアントから接続要求を受信した日時。この時刻は、クライアントが同期を要求した時点よりもわずかに遅い場合があります。

終了時刻

Mobile Link サーバで同期が終了した日時。

期間

同期の期間がミリ秒単位で表示されます。

アクティブ

同期が進行中の場合ははい、進行中でない場合はいいえです。

ブロック済み

Mobile Link サーバが同期のブロックを検出したかどうかを示します。

ダウンロード確認

ダウンロード確認タイプ。値には、なしまたは**非ブロッキング**があります。

完了

同期が正常に完了した場合ははい、正常に完了しなかった場合はいいえです。

接続 ID

統合データベースが同期に使用するデータベース接続 ID。

ダウンロード確認の接続 ID

統合データベースがダウンロード確認に使用するデータベース接続 ID。

進行中

プロファイリングセッションが開始したときに、同期が進行中であったかどうかが表示されます。進行中であった場合、一部の情報が同期に使用できないことがあります。

同期フェーズ統計情報

これらの統計情報は、各同期フェーズに関する情報を表示します。同期フェーズの詳細については、[詳細テーブルウィンドウ枠のマニュアル](#)を参照してください。

1.12.20 同期のプロパティウィンドウ: アップロードタブ

このタブには次の項目があります。

統計情報の対象

同期されたすべてのテーブルまたは個々のテーブルに関するアップロード統計の表示を選択できます。

警告の数

アップロードに対して発生した警告の総数。

エラーの数

アップロードに対して発生したエラーの総数。

挿入されたロー

同期クライアントからアップロードされたロー挿入の数。

削除されたロー

同期クライアントからアップロードされたロー削除の数。

更新されたロー

同期クライアントからアップロードされたロー更新の数。

競合した更新

競合が検出されたアップロード済み更新の数。

無視された挿入

無視されたアップロード済み挿入の数。

無視された削除

無視されたアップロード済み削除の数。

無視された更新

無視されたアップロード済み更新の数。

合計バイト数

同期クライアントからアップロードされた総バイト数。

デッドロック

アップロード中に検出された統合データベース内のデッドロック数。

合計ロー数

同期クライアントからアップロードされたローの総数。

1.12.21 同期のプロパティウィンドウ: ダウンロードタブ

このタブには次の項目があります。

統計情報の対象

同期されたすべてのテーブル、または個々のテーブルに関するダウンロード統計の表示を選択できます。

警告の数

ダウンロード中に発生した警告の数。

エラーの数

ダウンロード中に発生したエラーの数。

フェッチされたロー

Mobile Link サーバによって (download_cursor スクリプトを使用して) 統合データベースからフェッチされたローの数。

削除対象のロー

Mobile Link サーバによって (download_delete_cursor スクリプトを使用して) 統合データベースからフェッチされたロー削除の数。

フィルタされたロー

クライアントがアップロードしたローと一致したため、Mobile Link クライアントにダウンロードされなかったフェッチ済みローの数。

合計バイト数

同期クライアントにダウンロードされたバイト数。

合計ロー数

同期クライアントにダウンロードされたローの総数。

1.12.22 同期のプロパティウィンドウ: 同期タブ

このタブには次の項目があります。

統計情報の対象

同期されたすべてのテーブルまたは個々のテーブルに関する同期統計の表示を選択できます。

警告の数

同期スクリプトで発生した警告の合計数。

エラーの数

同期スクリプトで発生したエラーの合計数。

デッドロック

同期スクリプトで発生したデッドロックの合計数。

テーブルの数

同期に関係したクライアントテーブルの数。

接続リトライ

Mobile Link サーバが統合データベースへの接続をリトライした回数。

警告とエラー

同期の警告またはエラーメッセージのリストを表示します。

1.12.23 同期のプロパティウィンドウ: イベントタブ

イベントタブには、同期に対して定義されたスクリプトに関する情報が表示されます。次の項目があります。

イベントの対象

同期されたすべてのテーブルまたは個々のテーブルのイベントを表示できます。接続イベントだけがすべてのテーブルで表示されます。

イベント名

同期イベントの名前が表示されます。

テーブル

テーブルイベントの場合、テーブルの名前を示します。

期間

イベントの継続時間 (ミリ秒) が表示されます。

呼び出し

イベントスクリプトが呼び出された回数が表示されます。カウント 0 は、スクリプトが定義されているものの、呼び出されてはいないことを示します。

1 秒あたりのロー数

データ処理イベントの場合、1 秒あたりに処理されたロー数が表示されます。

1.12.24 同期のプロパティウィンドウ: ブロックタブ

このタブは、ブロックが検出された場合にだけ使用できます。次の項目があります。

ブロックされた時刻

Mobile Link サーバがブロックを検出した日時が表示されます。

秒

ブロックが検出される前のブロック期間 (秒) が表示されます。

対象

どのタイプのデータベースオブジェクトがブロックされたのかが表示されます。

情報

ブロックに関する情報が表示されます。

ブロックされたイベント

ブロックされた同期イベントが表示されます。

ブロックされたイベントテーブル

ブロックされたテーブルイベントの場合、ブロックされたイベントテーブルの名前が表示されます。

ブロックの接続 ID

ブロックを引き起こしている接続 ID が表示されます。

ブロック同期

表示された場合、Mobile Link サーバログに表示される、ブロックを引き起こしている同期の番号、または同じ Mobile Link サーバを使用した同時同期によってブロックが引き起こされたかどうかを示します。同期の番号をクリックすると、ブロックしている同期のプロパティが表示されます。

1.12.25 ウォッチマネージャウィンドウ

ウォッチマネージャでは、警告を受信した同期や長時間を要する同期など、指定した基準を満たす同期を視覚的に区別できます。

このタブには次の項目があります。

使用可能なウォッチリスト

このウィンドウ枠には、使用可能なすべてのウォッチがリストされます。事前に定義されたウォッチが 4 種類 (**アクティブ**、**ブロック**、**完了**、**失敗**) あります。新しいウォッチを作成すると、このウォッチリストに追加されます。

新規

新しいウォッチウィンドウを開き、新規ウォッチを作成できます。

編集

ウォッチの編集ウィンドウを開き、ウォッチ条件の追加または削除、選択したウォッチの同期画面の設定ができます。使用可能なウォッチリストにある任意のウォッチを編集できます。事前に定義されたウォッチ (**アクティブ**、**ブロック**、**完了**、**失敗**) の場合は、**チャートパターン**と**概要の色**だけを変更できます。

削除

選択したウォッチを使用可能なウォッチウィンドウ枠から削除します。事前に定義されたウォッチは削除できません。現在のウォッチリスト

アクティブなウォッチを優先順位に基づいてリストします。これらのウォッチを編集して、表示方法を変更できます。また、現在のウォッチウィンドウ枠から削除すると、これらのウォッチを非アクティブにできます。

現在のウォッチウィンドウ枠でのウォッチの順序は重要です。リストの上にあるウォッチから先に処理されます。**上へ移動**ボタンと**下へ移動**ボタンを使用して、現在のウォッチウィンドウ枠でのウォッチの順序を編成できます。

上へ移動

現在のウォッチウィンドウ枠のリスト内で、選択したウォッチを 1 つ上の位置に移動します。

下へ移動

現在のウォッチウィンドウ枠のリスト内で、選択したウォッチを 1 つ下の位置に移動します。

追加

使用可能なウォッチウィンドウ枠で選択したウォッチを現在のウォッチのリストに追加します。

削除

選択したウォッチを現在のウォッチのリストから削除します。

すべて追加

使用可能なすべてのウォッチを現在のウォッチウィンドウ枠に追加します。

すべて削除

現在のウォッチウィンドウ枠からすべてのウォッチを削除します。

1.13 Interactive SQL のヘルプ

Interactive SQL は、SQL 文の実行、SQL スクリプトファイルの実行のためのツールです。

このセクションの内容:

[プロシージャ名のルックアップウィンドウ \[269 ページ\]](#)

プロシージャ名のルックアップウィンドウを使用すると、データベースに格納されているプロシージャの名前を検索できます。目的のプロシージャが見つかったら、SQL 文ウィンドウ枠の現在のカーソル位置に挿入できます。

[テーブル名のルックアップウィンドウ \[270 ページ\]](#)

テーブル名のルックアップウィンドウを使用すると、現在接続しているデータベースに格納されているテーブルやカラムの名前を検索できます。

[オプションウィンドウ: 一般タブ \[271 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[オプションウィンドウ: 履歴タブ \[272 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[オプションウィンドウ: インポート/エクスポートタブ \[273 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[オプションウィンドウ: メッセージタブ \[274 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[オプションウィンドウ: ソース制御タブ \[274 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[オプションウィンドウ: ツールバータブ \[275 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[オプションウィンドウ: 互換性タブ \[275 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[オプションウィンドウ: エディタタブ \[275 ページ\]](#)

このタブでは、SQL 文ウィンドウ枠に入力されたテキストの外観を設定できます。このタブで指定した設定は、SQL Central で使用する SQL 文ウィンドウ枠にも適用されます。

[オプションウィンドウ: データベースタブ \[279 ページ\]](#)

このウィンドウでは、プランビューアウィンドウでのグラフィカルなプランの外観を設定できます。

[オプションウィンドウ: サポートタブ \[282 ページ\]](#)

ソフトウェアによってソフトウェアの更新をチェックするかどうかと、そのチェック頻度を設定します。

[お気に入りに追加ウィンドウ \[283 ページ\]](#)

現在のデータベース接続や現在開いている SQL ファイルをお気に入りとして追加できます。

[お気に入りの整理ウィンドウ \[283 ページ\]](#)

このウィンドウを使用して、お気に入りリストを整理します。

SQL 文の編集ウィンドウ [284 ページ]

SQL 文を編集して、保存をクリックすると、変更した文がお気に入り保存されます。

お気に入りの移動ウィンドウ [284 ページ]

指定したお気に入りの移動先となるフォルダをクリックして、OK をクリックします。

Folder 'foldername' がすでに存在します/お気に入り 'favoritename' がすでに存在しますウィンドウ [284 ページ]

このウィンドウには次の項目があります。

プランビューアウィンドウ [285 ページ]

プランビューアのウィンドウは、次のウィンドウ枠に分かれています。

空間ビューアウィンドウ [285 ページ]

空間ビューアのウィンドウは、次のウィンドウ枠に分かれています。

1.13.1 プロシージャ名のルックアップウィンドウ

プロシージャ名のルックアップウィンドウを使用すると、データベースに格納されているプロシージャの名前を検索できます。目的のプロシージャが見つかったら、SQL 文ウィンドウ枠の現在のカーソル位置に挿入できます。

検索するプロシージャ名の最初の何文字かを入力してください

テキストボックスにプロシージャ名の最初の数文字を入力すると、入力したテキストで始まるプロシージャのみのリストが表示されます。

必要なプロシージャをクリックしてから、OK をクリックしてください

リストからプロシージャを選択します。OK をクリックすると、プロシージャ名が SQL 文ウィンドウ枠の現在のカーソル位置に挿入されます。

所有者名を表示

プロシージャの所有者であるデータベースユーザの名前の付いたリストで各プロシージャ名にプレフィクスを付加するには、このオプションを選択します。

システムオブジェクトを表示

システムに用意されているストアドプロシージャをリストに表示する場合は、このオプションを選択します。

➡ ヒント

SQL のワイルドカード文字 % (パーセント記号) と _ (アンダースコア) を使用して、検索対象を絞り込むことができます。% は、0 文字以上の任意の文字列を表し、_ は、任意の 1 文字を表します。

たとえば、profile という語を含むすべてのプロシージャをリストするには、%profile% と入力します。

プロシージャ名の中のパーセント記号またはアンダースコアを検索するには、パーセント記号またはアンダースコアの前に ~ (チルダ) を付ける必要があります。

1.13.2 テーブル名のルックアップウィンドウ

テーブル名のルックアップウィンドウを使用すると、現在接続しているデータベースに格納されているテーブルやカラムの名前を検索できます。

目的のテーブルやカラムの名前が見つかったら、SQL 文ウィンドウ枠の現在のカーソル位置に挿入できます。

このウィンドウには次の項目があります。

検索するテーブル名の最初の何文字かを入力してください

テキストボックスにテーブル名の最初の数文字を入力すると、入力したテキストで始まるテーブルだけがリストされます。対象テーブルをクリックしてから、OK またはカラムを表示をクリックしてください

リストからテーブルを選択し、OK をクリックすると、テーブル名が SQL 文ウィンドウ枠に挿入されます。

次のオプションを使用すると、リストに表示されるテーブルを制限できます。検索するテーブルのタイプがわかっている場合は、そのタイプだけを選択することでリストを制限します。以下に列挙されたテーブルタイプの一部またはすべてを選択できます。また、テーブルの所有者の名前をリスト内に表示することもできます。

テーブルを表示

任意の所有者が所有する、システムテーブルでないすべての永久テーブル。テンポラリテーブルはテーブルのリストに表示されません。

システムテーブルを表示

すべてのシステムテーブル。

ビューを表示

すべてのビュー。

所有者名を表示

このオプションを選択すると、テーブルの所有者がリストに入ります。

カラムを表示

リストからテーブルを選択してから、カラムを表示をクリックすると、選択したテーブルのすべてのカラムのリストが表示されます。カラムの選択ウィンドウで OK をクリックすると、選択したカラム名が SQL 文ウィンドウ枠に挿入されます。

➔ ヒント

SQL のワイルドカード文字 % (パーセント記号) と _ (アンダースコア) を使用して、検索対象を絞り込むことができます。% は、0 文字以上の任意の文字列を表し、_ は、任意の 1 文字を表します。

たとえば、profile という語を含むすべてのプロシージャをリストするには、%profile% と入力します。

プロシージャ名の中のパーセント記号またはアンダースコアを検索するには、パーセント記号またはアンダースコアの前に ~ (チルダ) を付ける必要があります。

1.13.3 オプションウィンドウ: 一般タブ

このタブには次の項目があります。

SQL スクリプトファイル

次のオプションは、SQL スクリプトファイル実行時の Interactive SQL の動作を制御します。

エラー発生時

次のいずれかのオプション (on_error オプションの設定に対応) を選択して、Interactive SQL が文を実行しているときにエラーを検出した場合の対処を制御します。

継続

エラーは無視され、Interactive SQL は文の実行を継続します。

終了

Interactive SQL が停止します。

通知して続行

エラーがレポートされ、ユーザは続行するために Enter を押すか、OK をクリックするよう要求されます。

通知して終了

エラーがレポートされ、ユーザは Interactive SQL を停止するために Enter キーを押すか、OK をクリックするよう要求されます。

通知して停止

エラーがレポートされ、ユーザは実行を停止するために Enter キーを押すか、OK をクリックするよう要求されます。

プロンプト

Interactive SQL は、ユーザに続行するかどうかを確認するプロンプトを表示します。これはデフォルトです。

停止

Interactive SQL が文の実行を停止します。

i 注記

.sql ファイルを実行している場合、値、停止と終了は同じです。これらの値のどちらかを指定しても、Interactive SQL は停止します。

SQL スクリプトファイルをログにエコー

このオプションを選択すると、Interactive SQL は、実行した SQL 文を SQL 文ログファイルに記録します。このオプションは、READ 文を使用して Interactive SQL スクリプトファイルを実行する場合、または Interactive SQL で **ファイル ▶ スクリプトの実行 ▶** を選択してスクリプトファイルを実行する場合に最適です。このオプションを有効にするには、ロギングをオンにする必要があります。

デフォルトではスクリプトファイルがログにコピーされます。

フォルダ

次のオプションのいずれかを選択することで、ファイル参照時に Interactive SQL が最初に使用するディレクトリを指定します。

最後に使用したフォルダ

このオプションを選択した場合、ファイルブラウザを最後に使用したときのディレクトリが、ブラウザの初期ディレクトリになります。これはデフォルトです。

現在のフォルダ

このオプションを選択した場合、ブラウザが使用する初期ディレクトリは、オペレーティングシステムによって定義されている現在のフォルダになります。

ファイルの関連付け

Windows では、Interactive SQL を `.sql` ファイルのデフォルトエディタにすることができます。

Interactive SQL を `.SQL` ファイルとプランファイルのデフォルトエディタにする

このオプションを選択すると、Windows 上で Interactive SQL が `.sql` ファイルとグラフィカルなプランファイルのデフォルトエディタになります。SQL Anywhere のグラフィカルなプランファイルの拡張子は `.saplan` です。

このオプションを選択すると、ユーザがファイルをダブルクリックしたときに、Windows はそのファイルを Interactive SQL を使用して自動的に開きます。Interactive SQL ではファイルが自動的に実行されません。

タブ

タブのバーを自動的に非表示にします。

1つのタブだけが開いているときにタブのバーを非表示にするには、このオプションを選択します。

1.13.4 オプションウィンドウ: 履歴タブ

このタブには次の項目があります。

履歴サイズ

保持する文の最大数。

履歴タブに表示される SQL 文の最大数。

Interactive SQL のデフォルトでは、最大 50 の文の記録が保持され、最新の文がリストの最下部に表示されます。ただし、この設定は最大 1000 の文を表示するように変更できます。履歴は複数の Interactive SQL セッション間で保持されます。

文を保持する週数

特定のデータベースで実行された文の記録を保持する週数。デフォルト値は 2 です。上限はありません。

現在の履歴ファイルサイズ

履歴ファイルによって使用されている領域量。

削除

保存された履歴を削除するには、このオプションを選択します。

表示オプション

表示する最大の SQL 行数。

履歴タブの各文について表示する SQL 行の最大数。デフォルト値は 2 です。上限はありません。

ダブルクリックのアクション

メッセージをダブルクリックしたときに実行されるアクションを選択します。

SQL の挿入 エディタに文を挿入します。

SQL に移動 文がすでにエディタで開かれている場合、その文を強調表示します。

選択したタブのみからの履歴

選択したタブのみから履歴を呼び出します。

選択したタブの現在のセッションからの SQL 文のみを表示するには、このオプションを選択します。このオプションがデフォルトです。

1.13.5 オプションウィンドウ: インポート/エクスポートタブ

このタブには次の項目があります。

デフォルトのエクスポートフォーマット

ファイルをエクスポートするフォーマットを選択するには、ドロップダウンリストからファイルフォーマットを選択します。デフォルトのエクスポートフォーマットはテキストです。このフォーマットは、OUTPUT 文で FORMAT 句を指定しなかった場合にのみ使用されます。

NULL 値のエクスポート方法

NULL 値をどのようにエクスポートするかを制御します。結果セットで NULL 値が見つかった場合、このオプションで設定された文字列がエクスポートされます。

デフォルトのインポートフォーマット

ファイルをインポートするフォーマットを選択するには、ドロップダウンリストからファイルフォーマットを選択します。デフォルトのインポートフォーマットはテキストです。このフォーマットは、INPUT 文で FORMAT 句を指定しなかった場合にのみ使用されます。

テキストオプション

テキストフォーマットのデータをインポートまたはエクスポートするとき、フィールドのセパレータ、引用符文字列、エスケープ文字として使用するデフォルトのシンボルを指定します。

デフォルトのフィールドセパレータ

テキストファイルで値を区切るために使用されるシンボル。デフォルト値はカンマ (,) です。

デフォルトの引用符

テキストファイルで文字列を囲むために使用されるシンボル。デフォルト値は一重引用符 (') です。

デフォルトのエスケープ文字

テキストファイルで印刷不能な文字の代わりに使用されるシンボル。エスケープ文字には 1 バイト文字を 1 つ指定してください。デフォルト値は円記号 (¥) です。

デフォルトエンコード

ファイルのインポート時、エクスポート時に使用されるエンコード。この値を変更した場合、その変更が適用されるのは、現在の Interactive SQL セッションに対してだけです。新しい Interactive SQL セッションを開始すると、デフォルト値に戻ります。デフォルト値は、(デフォルト) です。(デフォルト) を選択した場合、次の順番でエンコードが決定されます。

- INPUT 文、OUTPUT 文、または READ 文の ENCODING 句に指定されたコードページ
- Interactive SQL が動作しているコンピュータのデフォルトのコードページ

1.13.6 オプションウィンドウ: メッセージタブ

このタブには次の項目があります。

オプションのメッセージ

非表示にできるオプションのメッセージをリストします。

1.13.7 オプションウィンドウ: ソース制御タブ

このタブには次の項目があります。

ソース制御の統合を有効にする

このオプションを選択すると、ファイルを操作するときに Interactive SQL とソース制御システムが統合されます。

現在のソース制御システム

このオプションを選択すると、現在のソース制御システムが使用されます。このオプションは、Windows プラットフォームで、SCC に準拠するソース制御システムをインストールしている場合にのみ使用できます。

カスタムのソース制御システム

このオプションを選択すると、コマンドラインのプログラムをソース制御に使用できます。[設定](#)をクリックすると、コマンドラインのアクションを表示、編集できます。

設定

[カスタムソース制御オプション](#)ウィンドウが表示され、コマンドラインのアクションを表示、編集できます。エディタの内容が変更されたら自動的にファイルをチェックアウト

このオプションを選択すると、エディタの内容が変更されたときにソースファイルをソース制御プログラムから自動的にチェックアウトできます。

1.13.8 オプションウィンドウ: ツールバータブ

このタブには次の項目があります。

次のいずれかのオプションを選択して、ツールバーの**実行**ボタンの動作を設定します。

実行

選択範囲を無視して、**SQL 文**ウィンドウ枠にあるすべての文を実行します。これはデフォルトです。

F5 キーを押すか、**SQL > 実行**を選択して、この操作を実行することもできます。

選択の実行

SQL 文ウィンドウ枠で選択されている文だけを実行します。テキストが選択されていない場合は、すべての文が実行されます。

F9 キーを押すか、**SQL > 選択の実行**を選択して、この操作を実行することもできます。

1.13.9 オプションウィンドウ: 互換性タブ

このタブには次の項目があります。

Esc キーを押すと、SQL 文がクリアされて結果セットが閉じる

このオプションが選択されている場合に Esc キーを押すと、**SQL 文**ウィンドウ枠がクリアされ、**結果**ウィンドウ枠にある開いている結果セットが閉じられます。このオプションが選択されていない場合に Esc キーを押しても、何も起こりません。

1.13.10 オプションウィンドウ: エディタタブ

このタブでは、**SQL 文**ウィンドウ枠に入力されたテキストの外観を設定できます。このタブで指定した設定は、SQL Central で使用する **SQL 文**ウィンドウ枠にも適用されます。

このセクションの内容:

[エディタタブ: タブタブ \[276 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[エディタタブ: フォーマットタブ \[276 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[エディタタブ: 印刷タブ \[277 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[エディタタブ: テキスト補完タブ \[278 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

1.13.10.1 エディタタブ: タブタブ

このタブには次の項目があります。

タブストップとインデントストップ

インデントストップ間のカラム

インデントストップのサイズを (カラム数で) 設定できます。

タブストップ間のカラム

タブストップのサイズを (カラム数で) 設定できます。

タブポリシー

スペースのみ

Tab キーを押したときに n 個のスペースを挿入します。 n の値は、次のインデントストップにカーソルを進めるために必要なスペース数によって、1 からインデントサイズカラム数の間になります。

インデントストップがタブストップでもある場合にはタブ、そうでない場合にはスペース

タブキーを押したときにタブ文字を挿入します。次のタブストップまでの距離がタブ文字のサイズより少ない場合、 n 個のスペースが追加されます。 n の値は、次のタブストップにカーソルを進めるために必要なスペース数によって、1 からタブサイズカラム数の間になります。

自動インデント

自動インデント機能を設定します。次のオプションがあります。

なし

機能を無効にします。

ブロック内のインデント

表示されるとおり、ブロック内のインデントコードです。

ブロック全体をインデント

表示されるとおり、コードのブロック全体をインデントします。

1.13.10.2 エディタタブ: フォーマットタブ

このタブには次の項目があります。

言語の要素

メイン編集ウィンドウにあるさまざまな種類のテキストの色とスタイルを指定します。特定のテキストタイプを選択し、そのテキストタイプのフォアグラウンド、バックグラウンド、スタイルを設定します。

フォアグラウンド

フォアグラウンドとはテキストの色を指します。

バックグラウンド

バックグラウンドとはテキストの背景画面の色を指します。

スタイル

テキストタイプの外観を指定できます。

フォント

SQL 文ウィンドウ枠に表示されるフォントを指定します。

フォントサイズ

SQL 文ウィンドウ枠内に表示されるテキストのフォントサイズ (ポイント) を指定します。

脱字記号の色

画面上で点滅するカーソルインジケータの色を指定します。

サンプル

新しく行った設定に基づき、テキストのサンプルを更新して表示します。

すべてリセット

すべての設定をデフォルト値に戻します。

1.13.10.3 エディタタブ: 印刷タブ

このタブには次の項目があります。

ヘッダ

SQL 文ウィンドウ枠の内容を印刷するときにヘッダに出力する情報とフォーマットを指定します。デフォルトでは、ヘッダのテキストは左揃えです。使用可能なオプションのリストを表示するには、> ボタンをクリックします。

フッタ

SQL 文ウィンドウ枠の内容を印刷するときにフッタに出力する情報とフォーマットを指定します。デフォルトでは、フッタのテキストは左揃えです。使用可能なオプションのリストを表示するには、> ボタンをクリックします。

> ボタン

> ボタンをクリックすると、ヘッダまたはフッタのオプションを次の中から選択できます。

- ファイル名
- ファイルの時刻
- ファイルの日付
- ページ番号
- ページ数
- 現在の時刻
- 現在の日付

- 左揃え
- 中央揃え
- 右揃え

選択する項目ごとに異なる揃え方を指定できます。たとえば、ヘッダでファイル名を左揃えにし、日付を右揃えにできます。デフォルトでは、ヘッダとフッタのテキストはすべて左揃えです。揃え方を指定してから、テキストの種類を選択してください。たとえば、ファイル名をヘッダの中央に出力する場合は、**ヘッダ**フィールドに **&C&F** と入力するか、> ボタンをクリックして**中央揃え**オプションを選択してから再び > ボタンをクリックして、**ファイル名**オプションを選択します。

これらのオプションの指定に加えて、ヘッダとフッタに出力するテキストを入力できます。たとえば、**フッタ**フィールドに **Page &P of &p** と入力すると、印刷されるドキュメントのフッタに Page 1 of 1 と表示されます。

フォントサイズ

印刷テキストのフォントポイントサイズを選択します。

1.13.10.4 エディタタブ: テキスト補完タブ

このタブには次の項目があります。

自動的に開く

入力するときにテキスト補完ウィンドウが自動的に開くようにするには、このオプションを選択します。このオプションをオフにしても、Ctrl + Space を押すと、テキスト補完ウィンドウを引き続き開くことができます。

自動的に補完する

一致する項目が 1 つだけの場合に、テキスト補完機能がテキストを自動的に補完するときにこのオプションを選択します。このオプションは、Ctrl + Space を押してテキスト補完ウィンドウを開くときにのみ有効になります。

その他のオプション

システムオブジェクトを表示

このオプションを選択すると、テキスト補完ウィンドウにシステムテーブルとビューが表示されます。このオプションを選択しない場合、システムテーブルとビューは構文に基づいて許可されるときにのみ表示されます。

所有者名を表示

このオプションは、オブジェクトの所有者がテキスト補完ウィンドウにオブジェクト名とともに表示されるかどうかを制御します。所有者名を補完後のテキストに表示するかどうかは制御しません。

ツールヒントを表示

ツールヒントをテキスト補完ウィンドウに表示するには、このオプションを選択します。ツールヒントには、プロシージャ、関数、入力時の空間方式のパラメータリストが表示されます。パラメータリストを閉じるには、Esc キーを押します。

引用符付きの識別子

このオプションを選択すると、識別子が二重引用符で囲まれます。次のいずれかの条件と一致した場合に、識別子を二重引用符で囲みます。

- 識別子にスペースが含まれる
- 識別子の最初の文字がアルファベット文字ではない
- 識別子に予約語が含まれる

- 識別子に英数字以外の文字が含まれる

Enter キーでテキストを補完する

このオプションを選択すると、Enter キーを押すことでテキスト補完ウィンドウに選択した項目でテキストが補完されます。このオプションをクリアした場合、Enter キーを押すことで新しい行がテキストエディタに挿入されますが、テキストは補完されません。

右角カッコと引用符を追加

このオプションを選択した場合、開きカッコ、角カッコ、大カッコ、アポストロフィ、または引用符を入力すると、閉じの句読表記が自動的に挿入されます。

1.13.11 オプションウィンドウ: データベースタブ

このウィンドウでは、プランビューアウィンドウでのグラフィカルなプランの外観を設定できます。

このセクションの内容:

[結果タブ \[279 ページ\]](#)

このタブには次の項目があります。

[実行タブ \[281 ページ\]](#)

変更内容をデータベースにいつコミットするかを次のオプションから選択できます。また、適切なときに手動で明示的に COMMIT 文を入力しても変更のコミットを実行できます。

[クエリエディタタブ \[281 ページ\]](#)

このタブは、SQL Anywhere プラグインと SAP IQ プラグインのみに適用されます。

1.13.11.1 結果タブ

このタブには次の項目があります。

表示

NULL 値の代替文字

テーブルカラムでの NULL 値の代替文字を指定します。この値には任意の文字列を使用できます。デフォルト値は (NULL) です。このフィールドを空白にしておくと、NULL 値は空文字列として表示されます。

表示できるローの最大数

結果ウィンドウ枠に表示できるローの最大数を指定します。デフォルトは 500 です。

トランケーションの長さ

結果ウィンドウ枠の各カラムに表示できる文字数を指定します。0 を指定すると、カラムはトランケートされません。デフォルト値は 256 です。

日付と時刻の書式

このオプションは、SQL Anywhere データベースにのみ適用されます。

日付と時刻の書式を選択します。

ローカル

オペレーティングシステムの現在のロケールに従って、日付と時刻の書式が設定されます。これは、デフォルトのオプションです。

データベースサーバ

date_format、time_format、timestamp_format の各オプションに従って、日付と時刻の書式が設定されます。

スタイル

スクロール可能なテーブル

結果セットをスクロール可能なテーブルに表示する場合は、このオプションを選択します。このフォーマットの結果セットは編集できます。このオプションはデフォルトです。また、**データ** > **結果をスクロール可能なテーブルとして表示** を選択することによって、結果をスクロール可能なテーブルとして表示することもできます。

スクロール可能なテーブルを選択すると、次のオプションが有効になります。

結果の自動再フェッチ

INSERT、UPDATE、または DELETE 文の実行後に結果セットを自動的に再生成するには、このオプションを選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。

ロー番号の表示

結果ウィンドウ枠の結果セットの隣にロー番号を表示するには、このオプションを選択します。このオプションはデフォルトで選択されています。

編集の無効化

このオプションを選択すると、結果セットが読み込み専用になります。このオプションは、このオプションの選択後に実行するクエリの結果セットに適用されます。

データベースロックの自動解放

このオプションを選択すると、Interactive SQL はトランザクション中に作成したロックの解放を試行します。

このオプションを選択すると、結果セットを返す文を実行した後、データベースにコミットされていない変更が接続にあるかどうか Interactive SQL によって確認されます。データベースにコミットされていない変更が存在しない場合、Interactive SQL はスキーマロックの解放のみを行います。

フォント

次のいずれかのオプションを選択して、**結果**ウィンドウ枠でテーブルデータに対して使用するフォントを指定します。

システムフォント

コンピュータの標準のテキストフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。これはデフォルトです。

エディタフォント

SQL 文ウィンドウ枠と同じフォントを使用する場合は、このオプションを選択します。

カスタムフォント

フォント、フォントスタイル、ポイントサイズを指定するには、このオプションを選択します。

テキスト

結果セットを等幅フォントのテキストで表示する場合は、このオプションを選択します。このフォーマットの結果セットは編集できません。

また、**データ** > **結果をテキストとして表示** を選択することによって、結果をテキストとして表示することもできます。

警告

表示できるローの最大数オプションがすべてのローに設定されていると、Interactive SQL がメモリ不足になる可能性があります。

その場合、Interactive SQL から問題がレポートされますが、結果セットは表示されません。

1.13.11.2 実行タブ

変更内容をデータベースにいつコミットするかを次のオプションから選択できます。また、適切なときに手動で明示的に COMMIT 文を入力しても変更のコミットを実行できます。

各文の後にコミット

SQL 文を実行するたびに変更内容をデータベースにコミットするには、このオプションを選択します。

終了時または切断時にコミット

Interactive SQL セッションを終了するときに変更内容をデータベースにコミットするには、このオプションを選択します。これはデフォルトです。

進行メッセージを表示

このオプションは、SQL Anywhere および SAP HANA データベースのみに適用され、デフォルトで設定されています。このオプションを選択すると、データベースの進行メッセージが履歴ウィンドウ枠に表示されます。このオプションを選択することは、SQL Anywhere の progress_messages データベースオプションを Formatted に設定することと同じです。このオプションを選択しないことは、progress_messages データベースオプションを Off に設定することと同じです。

1.13.11.3 クエリエディタタブ

このタブは、SQL Anywhere プラグインと SAP IQ プラグインのみに適用されます。

完全修飾テーブル名と完全修飾カラム名

このオプションを選択すると、クエリエディタでクエリを作成するときに、テーブル名とカラム名が所有者名で完全修飾されます。

引用符名

このオプションを選択すると、クエリエディタでクエリを作成するときに、識別子の名前が二重引用符で囲まれます。

起動時にテーブルのリストを取得

クエリエディタを開いたときにそのテーブルのリストを設定する場合は、このオプションを選択します。これはデフォルトです。テーブルが多数あるデータベースに接続している場合や、通信リンクが低速の場合は、このオプションをオフにすると、クエリエディタが速く開きます。

1.13.12 オプションウィンドウ: サポートタブ

ソフトウェアによってソフトウェアの更新をチェックするかどうかと、そのチェック頻度を設定します。

更新を常時チェックするには、▶ スタート ▶ プログラム ▶ SQL Anywhere 17 ▶ 更新のチェック ▶ を選択します。

このページには次の項目があります。

ソフトウェアの更新と通知

ソフトウェアの更新と通知のチェック

選択すると、ソフトウェアは更新および通知を検索します。

頻度

ソフトウェアが更新をチェックする頻度を指定します。

毎日

ソフトウェアが毎日更新をチェックするようにするには、このオプションを選択します。これはデフォルトです。

週 1 回

ソフトウェアが週に 1 回更新をチェックするようにするには、このオプションを選択します。

月 1 回

ソフトウェアが月に 1 回更新をチェックするようにするには、このオプションを選択します。

アプリケーションの起動時

起動時ごとにソフトウェアが更新をチェックするようにするには、このオプションを選択します。

チェック

ソフトウェアのチェック対象とする更新のタイプを指定するには、次のオプションの任意の組み合わせを選択します。デフォルトでは、すべてのオプションが選択されます。

バグフィックス

このオプションを選択すると、ソフトウェアによって Express Bug Fix がチェックされます。

Express Bug Fix は、1 つまたは複数のバグフィックスを含むソフトウェアのサブセットです。

マイナーリリース

このオプションを選択すると、ソフトウェアによってソフトウェアのマイナーリリースがチェックされます。

マイナーリリースとは、インストールされたソフトウェアを、同じ主要バージョン番号を持つ古いバージョン (バージョン番号形式は、`major.minor.build`) から更新するソフトウェアの完全セットです。

その他の情報 (製品やその他のお知らせなど)

このオプションを選択すると、その他の情報 (新製品のリリースや予定されているイベントなど) がチェックされません。

パフォーマンスデータ

パフォーマンスデータの送信

パフォーマンスデータをソフトウェア開発チームに自動的に送信するには、このオプションを選択します。このオプションは、サポートユーティリティ (dbsupport) -cc 自動送信オプションと同等です。

1.13.13 お気に入り追加ウィンドウ

現在のデータベース接続や現在開いている SQL ファイルをお気に入りとして追加できます。

このウィンドウは、データベースに接続しているか、SQL ファイルを開いているかによって若干異なります。

現在の接続の追加

現在接続しているデータベースの接続情報を含むお気に入りを追加するには、このオプションを選択します。

接続パスワードの保存

パスワードをお気に入りに含めるには、このオプションを選択します。このオプションを選択しなかった場合、このお気に入りを実行するときに、パスワードを入力するプロンプトが表示されます。

開いているファイル filename.sql を追加

現在開いている SQL ファイルの内容を含むお気に入りを追加するには、このオプションを選択します。このオプションは、Interactive SQL で SQL ファイルが現在開かれている場合にのみ表示されます。

SQL 文の追加

SQL 文ウィンドウ枠の内容を含むお気に入りを追加するには、このオプションを選択します。この内容は 16384 文字以内にする必要があります。

名前

名前を入力します。

作成場所

お気に入りの保存先として既存のディレクトリを選択するか、**新しいフォルダ**をクリックして新しいディレクトリを作成します。

お気に入りは、特定のコンピュータの特定のユーザに固有であり、共有はできません。

1.13.14 お気に入りの整理ウィンドウ

このウィンドウを使用して、お気に入りリストを整理します。

このウィンドウには次の項目があります。

お気に入り

整理するお気に入りをリストから選択します。

編集

指定したお気に入りを編集するには、このボタンをクリックします。

削除

指定したお気に入りを入力を削除するには、このボタンをクリックします。

名前を変更

指定したお気に入りの名前を変更するには、このボタンをクリックします。

上へ移動

指定したお気に入りを入力をリスト内で上へ移動するには、このボタンをクリックします。

下へ移動

指定したお気に入りを入力をリスト内で下へ移動するには、このボタンをクリックします。

新しいフォルダ

お気に入りを入力を保存するために新しいディレクトリを作成するには、このボタンをクリックします。

1.13.15 SQL 文の編集ウィンドウ

SQL 文を編集して、保存をクリックすると、変更した文がお気に入りに入りに保存されます。

1.13.16 お気に入りの移動ウィンドウ

指定したお気に入りの移動先となるフォルダをクリックして、OK をクリックします。

1.13.17 Folder 'foldername' がすでに存在します/お気に入り 'favoritename' がすでに存在しますウィンドウ

このウィンドウには次の項目があります。

'foldername' と現在のフォルダの内容をマージ

このオプションは、既存のお気に入りフォルダと同じ名前のお気に入りフォルダをインポートしようとする则表示されます。

このオプションを選択すると、既存のフォルダの内容とインポートするフォルダの内容がマージされます。

インポートした項目の名前を変更

このオプションを選択して、お気に入りに入りに付ける新しい名前を入力します。

現在の既存項目を置き換える

このオプションを選択すると、現在のお気に入りが入りが、インポートするお気に入りに入りに置き換わります。

インポートしない

お気に入りのインポートを中止するには、このオプションを選択します。

1.13.18 プランビューアウィンドウ

プランビューアのウィンドウは、次のウィンドウ枠に分かれています。

SQL ウィンドウ枠

このウィンドウ枠には、プランを生成する SQL 文を入力します。SQL ウィンドウ枠を非表示にするかどうかを制御するには、SQL の非表示/表示ボタンをクリックします。

結果ウィンドウ枠

このウィンドウ枠は、プランのグラフィカルな図を示し、プランの取得ボタンをクリックしたときにのみ表示されます。グラフィカルなプランの各ノードのコンテキスト別ヘルプを表示するには、ノードを右クリックして、ヘルプを選択します。結果ウィンドウ枠は SQL Anywhere データベース専用です。

詳細ウィンドウ枠

このウィンドウ枠には、SQL Anywhere データベースの生成済みのプランに関する詳細テキストが表示されます。結果ウィンドウ枠で代替ノードをクリックすることで、詳細ウィンドウ枠にどのようなテキストが表示されるかが決まります。

高度な詳細

高度な詳細ウィンドウ枠に表示される情報は、各演算子によって異なります。ルートノードの場合、高度な詳細ウィンドウ枠に、クエリが最適化されたときに有効になっていた接続オプションの設定が表示されます。他の種類のノードでは、高度な詳細ウィンドウ枠に、特定のノードの処理で検討されたインデックスまたはマテリアライズドビューに関する情報が表示される場合があります。

次のオプションを使用すると、結果ウィンドウ枠の出力をカスタマイズできます。

統計レベル

クエリを実行するときに、データベースサーバがモニタするクエリ実行のタイプを指定します。

カーソルタイプ

プランで使用されるカーソルのタイプを指定します。選択するカーソルのタイプはオプティマイザのパフォーマンスに影響します。

更新のステータス

オプティマイザが指定のカーソルを取り扱う方法を指定します。

1.13.19 空間ビューアウィンドウ

空間ビューアのウィンドウは、次のウィンドウ枠に分かれています。

SQL ウィンドウ枠

このウィンドウ枠には、イメージを表示する SQL 文を入力します。SQL の非表示ボタンをクリックすることで、SQL ウィンドウ枠を非表示にすることができます。このボタンは、保存、ズーム、パンのコントロールの近くにあるイメージの下にあります。

結果ウィンドウ枠

このウィンドウ枠では、結果のすべてのジオメトリが 1 つのイメージに結合されます。

結果領域に表示されるイメージには、結果セットのすべてのジオメトリが含まれます。イメージ内のシェイプは、クエリ内のローが処理される順序と同じ順序で描画されます。そのため、後で描画されるシェイプは、それよりも前に描画されるシェイプを隠すことができます。

デフォルトで、ポリゴンにはランダムに生成された色が出力に塗られます。使用される色の順序は、明確に定義された順序には従わず、通常、SVG 出力を生成するたびに変わります。

塗りつぶしなしでポリゴンの描画ボタンを使用すると、ポリゴンから色彩を削除して、すべてのシェイプのアウトラインを表示できます。このボタンは、保存、ズーム、パンのコントロールの近くにあるイメージの下にあります。

次のオプションを使用すると、結果ウィンドウ枠の出力をカスタマイズできます。

カラム

空間データを表示するために使用するカラムを指定します。

射影

空間データを表示するために使用する射影を指定します。

グリッドの表示

空間データに対して使用するグリッドを表示するかどうかを指定します。

概算

表示するイメージの簡略バージョンを生成するかどうかを指定します。概算を選択すると、画質は細かい詳細を失うこととなりますが、複雑なイメージのレンダリング時間は大幅に向上できます。

実行

SQL クエリを実行してイメージを再描画するには、**実行**をクリックします。

1.14 クエリエディタのヘルプ

クエリエディタは、SELECT 文の構築を支援する Interactive SQL のツールです。クエリエディタで SQL クエリを作成したり、それらの SQL クエリをインポートして編集したりできます。

このセクションの内容:

テーブルタブ [287 ページ]

テーブルタブを使用して、クエリに含めるテーブル、派生テーブル、ビューを選択します。

ジョインタブ [288 ページ]

クエリに複数のテーブルがある場合は、このタブを使用します。

カラムタブ [289 ページ]

このタブを使用して、結果セットに表示されるカラムを制限します。カラム、カラムエイリアス、計算カラム、またはサブクエリを指定できます。サブクエリは式エディタを使用して指定します。

INTO タブ [290 ページ]

結果を変数に割り当てるには、このタブを使用します。

WHERE タブ [291 ページ]

このタブを使用して、結果セットのローを制限します。

GROUP BY タブ [292 ページ]

結果セットのローをグループ化するには、このタブを使用します。

HAVING タブ [293 ページ]

グループの値に基づいて結果セットのローを制限するには、このタブを使用します。

[ORDER BY タブ \[293 ページ\]](#)

このタブを使用して、結果セットのローをソートします。

1.14.1 テーブルタブ

テーブルタブを使用して、クエリに含めるテーブル、派生テーブル、ビューを選択します。

派生テーブルは派生テーブルの作成ボタンを使用して作成します。クエリエディタではビューは作成できませんが、Interactive SQL で作成したビューをクエリエディタで参照することはできます。

データが必要なテーブルおよびジョインに使用するテーブルを指定します。クエリに複数のテーブルまたはビューを含める場合は、ジョインタブを使用してテーブルをジョインする方法を指定します。

警告

クエリに複数のテーブルを含めるときに、大規模なテーブルの場合は、テーブルを追加するたびにジョインタブでジョイン方式を定義します。クエリエディタはデフォルトで直積を使用することがあり、ユーザの操作に対応してクエリを処理するため、ジョイン方式を変更しないと、処理速度が非常に遅くなる可能性があります。

項目

テーブルパターン

一致するテーブルボックスでテーブルを制限するには、テーブルの名前または名前の一部を入力します。

所有者のパターン

一致するテーブルボックスでテーブルを制限するには、所有者の名前または名前の一部を入力します。

テーブルのタイプ

一致するテーブルボックスでテーブルを制限するには、ドロップダウンリストからテーブルのタイプを選択します。たとえば、システムテーブルのみを表示するように選択できます。

一致するテーブル

上の条件と一致するデータベース内のすべてのテーブルがリストされます。デフォルトはすべてのテーブルです。

選択したテーブル

テーブルをクエリに追加するには、一致するテーブルボックスでテーブルを選択して右矢印をクリックします。選択したテーブルが選択したテーブルボックスに表示されます。クエリに対して派生テーブルを作成するには、中央のアイコン (2つの矢印の間) をクリックします。複数のテーブルを追加する場合は、ジョインタブを使用してジョイン方式を指定します。選択したテーブルボックスでテーブルを指定してクエリに追加する場合、デフォルトではテーブルが直積でジョインされます。

結果

ウィンドウの下部の結果タブをクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラーメッセージが表示されます。

SQL

ウィンドウの下部の SQL をクリックすると、クエリの完全にフォーマットされた SQL 文が表示されます。この SQL は、ユーザが通常作成する SQL とは少し異なります。

ビューと派生テーブルについて

クエリには、テーブルの他にビューや派生テーブルを追加できます。

ビューは、データベースにオブジェクトとして格納されている SELECT 文です。ビューはクエリエディタでは作成できませんが、Interactive SQL で作成してから、クエリエディタでテーブルとして入力することができます。

派生テーブルはクエリエディタで作成できます。派生テーブルでは FROM 句内にクエリをネストできます。抽出テーブルを使用すると、ビューを作成せずに、グループのグループ化を実行したり、グループとのジョインを組み立てたりできます。

1.14.2 ジョインタブ

クエリに複数のテーブルがある場合は、このタブを使用します。

クエリに複数のテーブルを含める場合は、何らかの方法でテーブルをジョインする必要があります。このタブを使用するとジョインを定義できます。

デフォルトのジョイン

テーブルタブでテーブルを指定すると、クエリエディタは、デフォルトのジョイン条件を生成しようとします。これには 2 つの理由があります。1 つめの理由は、ユーザがクエリを作成したとおりにクエリエディタがクエリを処理するためです。デフォルトのジョインがなければ、テーブルから直積が作成され、処理速度が遅くなることがあります。通常、直積は望ましくありません。2 つめの理由は、クエリエディタからユーザの操作に応じたジョイン方式が提案されるためです。

テーブルタブでテーブルを追加すると、クエリエディタは、テーブル間に外部キー関係が作成されたかどうかを調べます。外部キーが 1 つある場合は、これを使用して ON 条件が生成されます。複数の外部キー関係がある場合は、最初に検出されたものが使用されます。外部キーがない場合は、ON 句は生成されずに、テーブルが直積になります。

クエリエディタウィンドウの下部にある **SQL** タブをクリックすると、いつでもクエリを確認できます。**SQL** タブでジョイン方式を直接編集するか、**ジョイン** タブのユーザインターフェイスを使用してジョイン方式を変更することができます。

→ ヒント

ジョインタブのすべてのフィールドはサイズを変更できます。クエリエディタも周囲をドラッグしてサイズを拡大できます。場合によっては、テーブル名を読み取るためにフィールドやウィンドウのサイズを変更する必要があります。

項目

左テーブル式

ドロップダウンリストからテーブルを選択します。使用できるのは、**テーブルタブ**で入力したテーブルだけです。外部ジョインでは、テーブルを左右のどちらに配置するかが重要です。

ジョインタイプ

ドロップダウンリストからジョインタイプを選択します。

右テーブル式

ドロップダウンリストからテーブルを選択します。使用できるのは、**テーブルタブ**で入力したテーブルだけです。外部ジョインでは、テーブルを左右のどちらに配置するかが重要です。

条件

ON 条件を作成する場合にダブルクリックします。クエリエディタによってキーワード ON が挿入されます。キージョインとナチュラルジョインでは、ON 条件が SQL Anywhere によって生成されます。

追加

行を追加するために使用します。行を選択するには、その行の左側にあるグレーの円をクリックします。

削除

行を削除するために使用します。行を選択するには、その行の左側にあるグレーの円をクリックします。

空白の行は削除してください。この処理はクエリのテーブルには影響ありません。テーブルの追加または削除には、**テーブルタブ**を使用してください。

結果

このウィンドウ枠には、クエリの結果、またはクエリにエラーがあった場合にはエラーメッセージが表示されます。

SQL

ウィンドウの下部の **SQL** をクリックすると、クエリの SQL 文が表示されます。

トラブルシューティング

ジョインが正しくないことを示すエラーメッセージを受け取ったら、ウィンドウの下部の **SQL** タブをクリックして SQL 文を調べます。特に、**ジョイン**タブで行の追加や削除を行った場合は、空の引用符や余分なカンマがコードに残っていることがあります。たとえば、次のクエリではエラーメッセージが生成されます。SalesOrders の後に表示される空の引用符を削除します。

```
FROM ("Customers"  
      JOIN "SalesOrders") ""  
      JOIN "SalesOrderItems"
```

1.14.3 カラムタブ

このタブを使用して、結果セットに表示されるカラムを制限します。カラム、カラムエイリアス、計算カラム、またはサブクエリを指定できます。サブクエリは式エディタを使用して指定します。

項目

使用可能なカラム

このボックスには、クエリに対して選択したすべてのテーブルと各テーブルのすべてのカラムがリストされます。

選択したカラム

デフォルトではすべてのカラムがクエリに対して選択されます。カラムを削除するには、**選択したカラム**ボックスでそのカラムを選択して左矢印をクリックします。カラムを結果セットに表示するには、**使用可能なカラム**ボックスで1つまたは一連のカラムを選択して右矢印をクリックします。**選択したカラム**ボックス内のカラムを並べ替えるには、上矢印と下矢印を使用します。

同じカラムを2回以上選択すると、エイリアスが適用されます。エイリアス名は編集できます。

DISTINCT

結果セットに重複したローが含まれないようにする場合は、*DISTINCT* を選択します。

i 注記

多くの文では、DISTINCT を指定すると、実行時間が非常に長くなります。そのため、DISTINCT を使用するのが必要な場合だけにしてください。また、DISTINCT では NULL が重複として処理されるため、DISTINCT を選択すると、結果に返される NULL 値は1つのみになります。

取得するローを制限

取得するローを制限を選択した場合、**最初のロー**を選択して結果セットの最初のローだけを取り出すか、**先頭**を選択して取り出すローの数を指定することができます。選択内容に関係なく、クエリエディタに表示されるローの最大数は25です。

結果

ウィンドウの下部の**結果**タブをクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラーメッセージが表示されます。

SQL

ウィンドウの下部の *SQL* をクリックすると、クエリの SQL 文が表示されます。

サブクエリの追加

クエリエディタでサブクエリを追加するには、**計算カラムの追加**ボタンをクリックします。これは、**使用可能なカラム**ボックスと**選択したカラム**ボックスの間にあります。式エディタが表示されます。式エディタで、**NOT** ボタンの横にある**サブクエリを編集**、**エディタに結果を挿入**ボタンをクリックします。

1.14.4 INTO タブ

結果を変数に割り当てるには、このタブを使用します。

項目

INTO 変数のインクルード

INTO 変数カラムで変数名を編集する場合は、このオプションを選択します。

選択したカラム

このボックスには、クエリに対して選択したすべてのカラムがリストされます。

INTO 変数

各 SELECT リスト項目の値を受け取る変数のリストです。このフィールドに変数名を直接入力できます。

結果

ウィンドウの下部の **結果** タブをクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラーメッセージが表示されます。

SQL

ウィンドウの下部の **SQL** をクリックすると、クエリの SQL 文が表示されます。

INTO について

INTO が使用されるのはプロシージャとトリガのみです。これは結果セットの宛先を指定します。カラムごとに 1 つの変数を指定してください。

1.14.5 WHERE タブ

このタブを使用して、結果セットのローを制限します。

項目

基準

基準 ウィンドウ枠を使用して WHERE 条件を入力します。このウィンドウ枠に直接入力するか、式エディタを使用します。既存の式を編集する場合は、その式を強調表示してから式エディタを開いてください。強調表示しないと、式エディタで作成する式が既存の式の後に追加されます。

WHERE 式の構築

基準 ウィンドウ枠の右下にある **WHERE 式の構築** ボタンをクリックし、**式エディタ** を開いて、WHERE 条件を構築します。

結果

ウィンドウの下部の **結果** タブをクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラーメッセージが表示されます。

SQL

ウィンドウの下部の **SQL** をクリックすると、クエリの SQL 文が表示されます。

1.14.6 GROUP BY タブ

結果セットのローをグループ化するには、このタブを使用します。

項目

使用可能なカラム

このボックスには、クエリに対して選択したすべてのテーブルと各テーブルのすべてのカラムがリストされます。

GROUP BY カラム

カラムをグループ化するには、**使用可能なカラム**ボックスで1つまたは一連のカラムを選択して、右矢印ボタンをクリックします。カラムを削除するには、**GROUP BY カラム**ボックスでそのカラムを選択して左矢印ボタンをクリックします。

GROUP BY カラムボックスでカラムをスクロール表示するには、上矢印と下矢印を使用します。

計算カラムの追加

右矢印と左矢印の間にある**計算カラムの追加**ボタンをクリックして式エディタを開き、GROUP BY 条件を構築します。

CUBE ボタン

CUBE 演算クエリを作成するには、このボタンをクリックします。CUBE を使用すると、GROUP BY 句を含むクエリの結果セットに小計ローが追加され、指定された変数で取り得るすべての組み合わせがクエリに提供されます。

ROLLUP ボタン

ROLLUP 演算クエリを作成するには、このボタンをクリックします。ROLLUP は、GROUP BY 句を持つクエリの結果セットに小計ローを追加します。

セットボタン

連結された GROUPING SETS 演算クエリを作成するには、このボタンをクリックします。ROLLUP、CUBE と同じく、この演算を使用すると、GROUP BY 句を含むクエリの結果セットに、小計ローが追加されます。

GROUPING SETS

このオプションを選択すると、クエリに GROUPING SETS が追加されます。

結果

ウィンドウの下部の**結果**タブをクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラーメッセージが表示されます。

SQL

ウィンドウの下部の **SQL** タブをクリックすると、クエリの SQL 文が表示されます。

GROUP BY 条件について

カラム、エイリアス名、または関数によってグループ分けできます。クエリの結果には、指定したカラム、エイリアス、または関数の中の個別の値の各セットに対し1つのローが入ります。NULL を含むローはすべて1つのセットとして処理されます。テーブルリストのローの各グループに対する結果にはローが1つずつ含まれるため、結果ローはグループとして頻繁に参照されます。集合関数をこれらのグループに適用して、意味のある結果を取得することができます。

GROUP BY を使う場合、[カラムタブ](#)、[HAVING タブ](#)、[ORDER BY タブ](#)で参照できるのは、[GROUP BY タブ](#)で指定されている識別子だけです。[カラムタブ](#)と [HAVING タブ](#)に集合関数が含まれる場合は例外です。

1.14.7 HAVING タブ

グループの値に基づいて結果セットのローを制限するには、このタブを使用します。

項目

基準

[基準](#)ウィンドウ枠を使用して HAVING 条件を入力します。このウィンドウ枠に直接入力するか、式エディタを使用します。既存の式を編集する場合は、その式を強調表示してから式エディタを開いてください。強調表示しないと、式エディタで作成する式が既存の式の後に追加されます。

HAVING 式の構築

[基準](#)ウィンドウ枠の右下にある [HAVING 式の構築](#) ボタンをクリックし、式エディタを開いて、HAVING 条件を構築します。

結果

ウィンドウの下部の [結果](#) タブをクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラーメッセージが表示されます。

SQL

ウィンドウの下部の [SQL](#) をクリックすると、クエリの SQL 文が表示されます。

HAVING 条件について

HAVING 条件を使用できるのは、文に GROUP BY 句があるか、[カラムタブ](#)で選択されたカラムが集合関数のみである場合です。HAVING 句の中で参照されるカラム名は、GROUP BY 句の中に入れるか、または HAVING 句の中の集合関数に対するパラメータとして使用する必要があります。

1.14.8 ORDER BY タブ

このタブを使用して、結果セットのローをソートします。

項目

使用可能なカラム

このボックスには、クエリに対して選択したすべてのテーブルと各テーブルのすべてのカラムがリストされます。**カラム**タブで定義した計算カラムもすべてリストされます。

ORDER BY カラム

このボックスには、ソート基準として選択したカラムがリストされます。あるカラムを基準にソートするには、**使用可能なカラム**ボックスで1つまたは一連のカラムを選択して、右矢印をクリックします。カラムを削除するには、**ORDER BY カラム**ボックスでそのカラムを選択して左矢印をクリックします。カラムの評価順序を指定するには上矢印と下矢印を使用します。カラムのエイリアスによってもソートできます。

計算カラムの追加

右矢印と左矢印の間にある**計算カラムの追加**アイコンをクリックして式エディタを開き、ORDER BY 条件を構築します。
結果

ウィンドウの下部の**結果**タブをクリックすると、クエリの結果が表示されます。クエリにエラーがあった場合には、エラーメッセージが表示されます。

SQL

ウィンドウの下部の **SQL** をクリックすると、クエリの SQL 文が表示されます。

ORDER BY 条件について

ORDER BY カラムボックスの各項目には、昇順の場合（デフォルト）は上矢印、降順の場合は下矢印のラベルを付けることができます。昇順から降順に並べ替えるには、項目の左側にある矢印ボタンをクリックします。

特定の順序でローが返されるようにする唯一の方法は ORDER BY を使用することです。ORDER BY 句がない場合は、SQL Anywhere が最も効率のよい順序でローを返します。結果セットの内容は、最後にアクセスしたローやその他の要因によって変わることがあります。

1.15 このマニュアルの印刷、再生、および再配布

次の条件に従うかぎり、このマニュアルの全部または一部を使用、印刷、再生、配布することができます。

1. ここに示したものとそれ以外のすべての著作権と商標の表示をすべてのコピーに含めること。
2. マニュアルに変更を加えないこと。
3. SAP 以外の人間がマニュアルの著者または情報源であるかのように示す一切の行為をしないこと。

ここに記載された情報は事前の通知なしに変更されることがあります。

重要免責事項および法的情報

コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼動システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものです。ただし、この免責事項は、SAP の意図的な違法行為または重大な過失による場合は、適用されません。さらに、この文書により SAP の直接的または間接的な契約上の義務が発生することは一切ありません。

ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例:「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見い出すヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証は行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。すべてのリンクは、透明性を目的に分類されています (<http://help.sap.com/disclaimer> を参照)。

[go.sap.com/registration/
contact.html](http://go.sap.com/registration/contact.html)

© 2016 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的な保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他のすべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する詳細の情報や通知については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。